

IBM

@server

iSeries

WebSphere Development Studio コマンド

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

WebSphere Development Studio コマンド

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、387ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、WebSphere Development Studio (プロダクト番号 5722-WDS) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
WebSphere Development Studio Commands
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

PDM省略時値の変更 (CHGPDMDFT)	1	COBOLデバッグ終了 (ENDCBLDBG)	297
物理ファイル・メンバーの比較 (CMPPFM)	7	ISDBの終了 (ENDISDB)	299
DBCSマスター分類テーブルのコピー (CPYIGCSRT)	15	PDMを使用したストリングの検索 (FNDSTRPDM)	301
結合Cプログラム作成 (CRTBNDC)	17	C/C++ソースの生成 (GENCSRC)	309
バインドCOBOL PGMの作成 (CRTBNDCBL)	41	用紙記述組み合わせ (MRGFORMD)	315
結合C++プログラム作成 (CRTBNDCPP)	67	ソースの組み合わせ (MRGSRC)	323
バインドRPG PGMの作成 (CRTBNDRPG)	91	CODEバッチ・ジョブの投入 (SBMCODEJOB)	327
COBOLモジュールの作成 (CRTCBLMOD)	111	拡張印刷機能 (STRAPF)	331
COBOLプログラム作成 (CRTCBLPGM)	135	COBOLデバッグ開始 (STRCBLDBG)	333
Cモジュール作成 (CRTCMOD)	153	CGU開始 (STRCGU)	335
C++モジュール作成 (CRTCPMOD)	179	CODEの開始 (STRCODE)	337
DFU表示装置ファイルの作成 (CRTDFUDSPF)	205	CODE開始コマンド (STRCODECMD)	341
RPGモジュールの作成 (CRTRPGMOD)	209	ISDBの開始 (STRISDB)	343
RPG/400プログラムの作成 (CRTRPGPGM)	227	PDM開始 (STRPDM)	349
AUTO REPORT RPG プログラム作成 (CRTRPTPGM)	239	報告書設計ユーティリティー開始 (STRRLU)	351
S/36 COBOLプログラム作成 (CRTS36CBL)	251	SDAの開始 (STRSDA)	355
RPG IIプログラムの作成 (CRTS36RPG)	263	S E U開始 (STRSEU)	361
コンソール表示装置ファイル作成 (CRTS36RPGR)	273	PDM使用のライブラリーの処理 (WRKLIBPDM)	365
S/36 RPG II報告書簡易作成 (CRTS36RPT)	279	PDM使用のメンバーの処理 (WRKMBRPDM)	369
RPGソースの変換 (CVTRPGSRC)	291	PDM使用のオブジェクトの処理 (WRKOBJPDM)	377
		付録. 特記事項	387

PDM省略時値の変更 (CHGPDMDFT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PDM省略時値の変更 (CHGPDMDFT)コマンドによって特定ユーザーのためのプログラム開発管理機能 (PDM)の省略時の値を割り当てることができます。PDMの使用時にF18を押すと表示される省略時の値変更パネルに類似します。ただし、このコマンドは他のユーザーのPDM省略時の値の変更には使用でき、バッチで実行できます。

制約事項

- PDMの省略時の値が変更されたユーザーのユーザー・プロファイルにはオブジェクト管理(*OBJMGT)および使用 (*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	単純名	必須, 定位置 1
OBJLIB	オブジェクト・ライブラリー	名前, <u>*SAME</u> , *SRCLIB, *CURLIB	オプション
RPLOBJ	置換オブジェクト	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
CRTBCH	バッチで作成/コンパイル	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
RUNBCH	バッチで実行	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
SAVRSTOPT	保管/復元オプション	<u>*SAME</u> , *SINGLE, *ALL	オプション
JOBDD	ジョブ記述	単一値: <u>*SAME</u> , *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
CHGTYPTXT	タイプおよびテキストの変更	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
FILE	オプション・ファイル	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: オプション・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MBR	オプション・ファイル・メンバー	名前, <u>*SAME</u>	オプション
FULLSCN	フルスクリーン・モード	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
DSPINFMSG	通知メッセージの表示	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション

[トップ](#)

ユーザー (USER)

PDM省略時の値を変更するユーザーを指定します。

これは必須パラメーターです。

単純名 省略時の値を変更するユーザーの名前を指定します。指定した名前のユーザー・プロファイルがシステム上に存在する必要があります。

[トップ](#)

オブジェクト・ライブラリー (OBJLIB)

ソース・ファイル・メンバーのコンパイル(PDMを使用したメンバー処理画面から)で作成されたオブジェクトを保管するライブラリーを指定します。

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合には*SRCLIBが使用されます。

***SRCLIB**

ソース・メンバーを含むライブラリーをオブジェクト・ライブラリーとして使用する。

***CURLIB**

現行ライブラリーをオブジェクト・ライブラリーとして使用する。現行ライブラリーが定義されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイル・メンバーのコンパイル後のオブジェクトを保管するライブラリー名を指定します。

[トップ](#)

置換オブジェクト (RPLOBJ)

既存オブジェクトが、メンバーのコンパイルまたはモジュール作成時に新規オブジェクトに置き換えられるかどうかを指定します。

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合には*NOが使用されます。

***NO**

既存のオブジェクトはメンバーのコンパイル開始またはモジュール作成の前には削除されません。オブジェクトが存在している場合には、メンバー・コンパイル確認画面が表示されます。

***YES**

既存のオブジェクトはメンバーのコンパイル開始またはモジュール作成の前には削除されます。コンパイルが正常に実行されなかった場合には、オブジェクトは復元されません。

[トップ](#)

バッチで作成／コンパイル (CRTBCH)

メンバーのコンパイルまたはモジュールの作成時にジョブをバッチに投入するかどうかを選択します。

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合には*YESが使用されます。

***YES** バッチでメンバーのコンパイルまたはモジュールの作成を行います。

***NO** 対話式でメンバーのコンパイルまたはモジュールの作成を行います。

トップ

バッチで実行 (RUNBCH)

オブジェクトの実行時にジョブをバッチに投入するかどうかを指定します。

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合には*NOが使用されます。

***NO** オブジェクトはバッチで実行できません。

***YES** オブジェクトはバッチで実行します。

トップ

保管／復元オプション (SAVRSTOPT)

オブジェクトおよびメンバーを保管または復元するのに個別に行なうかそれとも1つのコマンドで行なうかを選択します。

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合には*SINGLEが使用されます。

***SINGLE**

選択したオブジェクトまたはメンバーを個別に（各オブジェクトまたはメンバーごとに別々のコマンドを使用する）保管または復元します。

***ALL** 選択したオブジェクトまたはメンバーを1つのコマンドで同時にすべて保管または復元します。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

ジョブをバッチ・モードで投入するためのジョブ記述の名前を指定します。

単一値

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合には*LIBL/QBATCHが使用されます。

***USRPRF**

ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザーのユーザー・プロファイルに定義されたジョブ記述が使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 使用するジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ・ライブラリー・リストにあるすべてのライブラリーから指定ジョブ記述を検索します。

***CURLIB**

指定ジョブ記述のためにジョブの現行ライブラリーを検索します。現行ライブラリーが定義されていない場合には、現行ライブラリーにQGPLが使用されます。

名前 指定ジョブ記述を検索するために使用するライブラリー名を指定します。

トップ

タイプおよびテキストの変更 (CHGTYPTXT)

PDMを使用したメンバー処理画面で**タイプ**および**テキスト**プロンプトの上に重ねて入力することによってこれらのプロンプトを変更することができるかどうかを指定します。

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合には*YESが使用されます。

***YES** PDMを使用したメンバー処理画面で**タイプ**および**テキスト**プロンプトの上に重ねて入力することによってこれらのプロンプトを変更することができます。

***NO** PDMを使用したメンバー処理画面で**タイプ**および**テキスト**プロンプトの上に重ねて入力することによってこれらのプロンプトを変更することはできません。

トップ

オプション・ファイル (FILE)

ユーザー定義のオプションつきメンバーを持つファイルを指定します。このファイルのユーザー定義オプションは活動ユーザー定義オプションです。ユーザー定義オプション・ファイルは特別の形式をもっています。この形式およびユーザー定義オプション・ファイルのコピー方法の詳細については、AS/400プログラム開発管理機能 使用者の手引きと参照を参照してください。

単一値

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合にはFILE(*LIBL/QAUOOPT)が使用されます。

修飾子1: オプション・ファイル

名前 アクティブなユーザー定義のオプション・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ・ライブラリー・リストにあるすべてのライブラリーからアクティブなユーザー定義オプション・ファイルを検索します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーからアクティブなユーザー定義オプション・ファイルを検索します。現行ライブラリーが定義されていない場合には、現行ライブラリーにQGPLが使用されます。

名前 アクティブなユーザー定義オプション・ファイルを検索するために使用するライブラリー名を指定します。

トップ

オプション・ファイル・メンバー (MBR)

ユーザー定義オプションを含むメンバーを指定します。このメンバーに入っているユーザー定義オプションは活動ユーザー定義オプションです。

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合にはQAUOOPTが使用されます。

名前 ユーザー定義オプションを含むメンバーの名前を指定します。

トップ

フルスクリーン・モード (FULLSCN)

処理画面にオプションおよび機能キーを表示するかどうかを指定します。このオプションはユーザー定義オプションの処理画面には適用されません。

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合には*NOが使用されます。

***NO** 処理画面にオプションおよび機能キーを表示します。

***YES** 処理画面にオプションおよび機能キーを表示しません。

トップ

通知メッセージの表示 (DSPINFMSG)

新規ツール(RSEおよびCODE)に関する通知メッセージを表示するかどうかを指定します。

***SAME**

このパラメーターが以前に設定されていた場合、値は変わりません。そうでない場合には*YESが使用されます。

***YES** 通知メッセージが表示されます。

***NO** 通知メッセージが表示されません。

トップ

例

Example 1:新規PDMユーザーに省略時の値を設定

```
CHGPDMDFT USER(USER2)
```

このコマンドはUSER2が新規PDMユーザーの場合にPDM省略時の値を設定します。省略時の値がすでに設定されている場合にはそれらは変更されません。

例 2:既存PDMユーザーの省略時の値を変更

```
CHGPDMDFT USER(USER2) CRTBCH(*NO)  
RUNBCH(*YES)
```

このコマンドでは既存PDMユーザー、USER2のPDM省略時の値を変更します。これにより、プログラム・コンパイルおよびモジュール作成が対話的に行われオブジェクトの実行はバッチで行われます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PDM0004

ライブラリー&1が見つからない。

PDM0010

ライブラリー名&1が間違っている。

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2228

ユーザー・プロファイル変更は認可されていない。

[トップ](#)

物理ファイル・メンバーの比較 (CMPPFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

このコマンドによって、ソース物理ファイル・メンバーを比較することができます。

エラー・メッセージ: CMPPFM

なし

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NEWFILE	新ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 新ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
NEWMBR	新メンバー	単一値: *FIRST, *ALL その他の値 (最大 25 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 2
OLDFILE	旧ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 旧ファイル	名前, *NEWFILE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OLDMBR	旧メンバー	単一値: *NEWMBR, *FIRST その他の値 (最大 25 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 4
CMPTYPE	比較タイプ	*LINE, *FILE, *WORD	オプション, 定位置 5
RPTTYPE	報告書タイプ	*DIFF, *SUMMARY, *CHANGE, *DETAIL	オプション, 定位置 6
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 7
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 8
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション, 定位置 9
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
SRCTYPE	ソース・タイプの選択	名前, *ALL	オプション, 定位置 10

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	処理オプション	値 (最大 10 回の繰り返し): *IGNORECASE, *COUNT, *CBLSRCCOL, *RPGSRCCOL, *RPGLESRCCOL, *OMTDUP, *OMTREFMT, *OMTBASCMT, *OMTBLANK, *OMTCCMT, *OMTCBLCMT, *OMTCLCMT, *OMTCMDCMT, *OMTDDSCMT, *OMTPASCMT, *OMTPLICMT, *OMTRPGCMT, *OMTRPGLECMT, *FLGMOVLIN, *CHGFLGS, *CHANGES, *LONGLINES, *NARROW, *CMPSEQDAT, *COUNTREFMT, *WIDE	オプション, 位置 11
STMTFILE	ステートメント・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 12
	修飾子 1: ステートメント・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
STMTMBR	ステートメント・メンバー	名前, *FIRST	オプション, 位置 13

トップ

新ファイル (NEWFILE)

比較されるメンバーが入っている新物理ファイルを識別します。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用します。

ライブラリー名

指定されたライブラリーを使用します。

新ファイル名

指定された新ファイルを使用します。

トップ

新メンバー (NEWMBR)

新ファイル中の比較されるメンバーを識別します。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーを使用します。

新ファイル・メンバー名

指定されたメンバーまたはメンバーのリストを使用します。

このパラメーターに複数の値を入力するためには、値の続きは+ プロンプトにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

総称* 指定されたパターンと一致するメンバーを使用します。

***ALL** ファイル中のすべてのメンバーを使用します。

トップ

旧ファイル (OLDFILE)

比較されるメンバーが入っている旧物理ファイルを識別します。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用します。

ライブラリー名

指定されたライブラリーを使用します。

***NEWFILE**

NEWFILEキーワードに指定されたものと同じ名前の旧ファイルを使用します。

旧ファイル名

指定された旧ファイルを使用します。

[トップ](#)

旧メンバー (OLDMBR)

旧ファイル中の比較されるメンバーを識別します。

***NEWMBR**

NEWMBRキーワードに指定されたものと同じメンバーまたはメンバー・リストを使用します。

旧ファイル・メンバー名

指定されたメンバーまたはメンバーのリストを使用します。

このパラメーターに複数の値を入力するためには、値の続きは+ プロンプトにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーを使用します。

[トップ](#)

比較タイプ (CMPTYPE)

実行する比較のタイプを指定します。

***LINE** 行レベルの相違点を比較し、挿入された行および削除された行を識別します。

***FILE** ファイル・レベルの相違点を比較し、相違点がどこにあるかは報告しません。このタイプの比較の結果には、比較されたメンバーが異なるかまたは同じかが指示され、非対のすべてのメンバーの名前が示されます。この方式は要約情報を作成するだけですが、最高速タイプの比較です。

***WORD**

語句レベルの相違点を比較します。この比較は、隣接した行の語句を突き合わせることができる点を除き、*LINE比較と類似しています。語句は、空白または行の終わりで区切られます。メンバーは、行の境界またはレコード長のない長い一連の語句として処理されます。この比較の出力では、必ずしも語句の元のスペーシングが維持されるわけではありません。相違点をはっきり見分けることができるように、出力リストに空白が追加されることがあります。

[トップ](#)

報告書タイプ (RPTTYPE)

結果報告書のリスト・タイプを指定します。

***DIFF** 比較中のメンバーの相違点のみをリストし、続いて要約をリストします。リスト中で、相違点にはフラグが付けられます。

***SUMMARY**

比較の結果の要約をリストし、詳細な相違点は表示しません。グループ比較では、処理オプションのリストとともに、グループ中の各メンバーごとに個別の要約行が生成されます。

***CHANGE**

相違点の前後10行ずつ、*DIFF報告書タイプと同じ情報を提供します。この余分な行によって、周囲のデータの文脈内の相違点を参照することができます。

***DETAIL**

新ファイル・メンバー全体（および旧ファイル・メンバーからの削除分）をリストし、相違点を指示して、結果の要約を提供します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

比較の結果を表示、印刷、あるいは物理ファイルに記憶するかどうかを指定します。

* 結果を表示します。

***PRINT**

結果をスプール・ファイルに印刷します。

***OUTFILE**

結果を物理ファイルに記憶します。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力結果の宛先となるファイルを指定します。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用します。

ライブラリー名

指定されたライブラリーを使用します。

出力物理ファイル名

指定された物理ファイルを使用します。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力の宛先となるメンバーを指定します。OUTFILEキーワードに印刷装置ファイルを指定した場合には、このパラメーターの値は指定しないでください。

*FIRST

ファイルの最初のメンバーを使用します。

出力ファイル・メンバー名

指定されたメンバーを使用します。

*REPLACE

メンバーが存在していた場合には、それを置き換えます。

*ADD このメンバーをファイルに追加します。

トップ

ソース・タイプの選択 (SRCTYPE)

比較するソース・メンバー・タイプを指定します。1つのタイプまたはすべてのタイプを選択することができます。

*ALL すべてのソース・メンバーを比較します。

ソース・メンバー・タイプ

指定されたソース仕様タイプのメンバーだけを比較します。

トップ

処理オプション (OPTION)

比較をカスタマイズするための処理オプションのリストを指定します。リストに10以内の処理オプションを指定することができます。

このパラメーターに複数の値を入力するためには、値の続きは+ プロンプトにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

注: 注記を省略するためのOMTXXXオプションを使用した場合には、ユーティリティは注記でない一部のストリングを注記として認識することがあります。

たとえば、ストリング/* */がプログラムの実行可能コードに組み込まれていた場合で、*OMTCCMT処理オプションを使用した場合には、そのストリングは処理時に無視されることもあれば、無視されないこともあります。

*CBLSRCCOL

COBOLのソース桁(7-72桁)のみを比較します。このオプションでは、比較の有効範囲がソース・コード桁の区域に限定されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

*CHANGES

変更された項目のみを要約にリストします。グループ比較では、通常、対になったすべてのメンバ

ーがリストされます。グループ比較で*CHANGESを指定した場合には、変更されたメンバー対のみが要約セクションにリストされます。このオプションは、行、ファイル、および語句比較の場合に使用することができます。

***CHGFLGS**

新ファイルの該当する行の1桁目に変更フラグ(>)を入れることによって、変更を指示するリストを生成します。削除された行は、削除された行の次の行にフラグを付けることによって指示されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***CMPSEQDAT**

ソース順序の起点を1に設定します。ソース物理ファイル・メンバーの順序および日付フィールドを比較します。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***COUNT**

グループ(行)比較で、非対のメンバーからの行をカウントし、結果を要約に組み込みます。このオプションを使用しない場合には、対になったメンバーからの行に関する統計しか得られません。

***COUNTREFMT**

再形式設定された行にフラグは付けられませんが、全体的な要約統計用にはカウントされます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***FLGMOVLIN**

移動した行にフラグを付けます。新ファイルに挿入された行で、旧ファイルの削除された行と一致するものを識別します。このオプションを使用できるのは、行比較の場合だけです。

***IGNORECASE**

文字(大文字, 小文字, 混合)による相違点は無視します。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***LONGLINES**

ファイルからの最高176桁を反映する198桁のリストを作成します。このオプションは、行比較の場合に使用することができます。

***NARROW**

横方向に55桁ずつ132桁のリスト・ファイルを作成します。挿入および削除された行にはフラグが付けられ、リスト出力に横並びで表示されます。このオプションは、行比較の場合に使用することができます。

***OMTBASCMT**

BASICの注記を省略します。BASICの注記はブランクとされ、除外されます。

***OMTBLANK**

比較されている桁がブランクである行を省略します。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***OMTCBLCMT**

COBOLの注記を省略します。COBOLの注記およびブランク行は、すべての注記が除去またはブランクとされたリストを生成するために、比較セットから除外されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***OMTCCMT**

Cの注記を省略します。Cの注記およびブランク行は、すべての注記が除去またはブランクとされたリストを生成するために、比較セットから除外されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***OMTCLCMT**

CLの注記を省略します。CLプログラムの注記およびブランク行は、すべての注記が除去またはブランクとされたリストを生成するために、比較セットから除外されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***OMTCMDCMT**

CMDの注記を省略します。CLコマンドの注記およびブランク行は、すべての注記が除去またはブランクとされたリストを生成するために、比較セットから除外されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***OMTDDSCMT**

DDSの注記を省略します。DDSの注記およびブランク行は、すべての注記が除去またはブランクとされたリストを生成するために、比較セットから除外されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***OMTDUP**

重複行を省略します。新ファイルのソース行と一致する旧ファイルのソース行が横並びのリストから省略されます。このオプションは、行比較の場合に使用することができます。

***OMTPASCMT**

PASCALの注記を省略します。PASCALの注記およびブランク行は、すべての注記が除去またはブランクとされたリストを生成するために、比較セットから除外されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***OMTPLICMT**

PLIの注記を省略します。PLIの注記およびブランク行は、すべての注記が除去またはブランクとされたリストを生成するために、比較セットから除外されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***OMTREFMT**

再形式設定された行を省略します。旧ファイル・メンバーの再形式設定された行がリストから省略されます。新ファイル・メンバーの再形式設定された行はリストに含まれます。通常は、この両方がリストされます。このオプションは、行比較の場合に使用することができます。

***OMTRPGCMT**

RPGの注記を省略します。RPGの注記およびブランク行は、すべての注記が除去またはブランクとされたリストを生成するために、比較セットから除外されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***OMTRPGLECMT**

ILE RPGの注記を省略します。ILE RPGの注記およびブランク行は、すべての注記が除去またはブランクとされたリストを生成するために、比較セットから除外されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***RPGLESRCOL**

ILE RPGのソース桁(6-100桁)のみを比較します。比較の有効範囲がソース・コード桁の区域に限定されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***RPGSRCOL**

RPGのソース桁(6-74桁)のみを比較します。比較の有効範囲がソース・コード桁の区域に限定されます。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

***WIDE** (横方向に80桁ずつ) 198桁の幅の横並びのリストを作成します。このオプションは、行および語句比較の場合に使用することができます。

ステートメント・ファイル (STMTFILE)

処理ステートメントを保留するユーザー定義のソース物理ファイルを指定します。このファイルのレコードは、任意の長さとすることができますが、読み取られるのは最初の80バイトだけです。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用します。

ライブラリー名

指定されたライブラリーを使用します。

ステートメント・ファイル名

指定されたファイルをステートメント・ファイルとして使用します。

トップ

ステートメント・メンバー (STMTMBR)

比較で使用する処理ステートメントが入っているファイル・メンバーを指定します。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーを使用します。

ステートメント・ファイル・メンバー名

指定されたメンバーを使用します。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

DBCSマスター分類テーブルのコピー (CPYIGCSRT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CPYIGCSRT (DBCSマスター分類テーブルのコピー) コマンドは、データ・ファイルからDBCSマスター分類テーブルのオブジェクトに、あるいはDBCSマスター分類テーブルのオブジェクトからデータ・ファイルに、日本語DBCS文字のDBCSマスター分類テーブルをコピーします。システム/36システムに移動中、あるいはシステム/36システムから移動したマスター・ファイルとの間で文字をコピーするためには、CPYIGCSRTコマンドを使用してください。

エラー・メッセージ: CPYIGCSRT

なし

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	コピー方向	*OUT, *IN	必須, 定位置 1
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前, <u>#KAMAST</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u> , *LIBL	
MBR	メンバー	名前, <u>*FIRST</u> , *FILE	オプション, 定位置 3

トップ

コピー方向 (OPTION)

DBCSマスター分類テーブルの複写の方法を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***IN** DBCSマスター分類テーブルはファイルからコピーされます。

***OUT** DBCSマスター分類テーブルはファイルへコピーされます。

ファイル (FILE)

複写に使用するファイルの名前を指定します。

指定できる値は次のとおりです。

#KAMAST

別のファイル名を指定しない場合には、このファイルが使用されます。#KAMAST はシステム/36のマスター・ファイルの名前です。

ファイル名

レコード長が20桁の物理ファイルの名前。このファイルから分類テーブルをコピーしている場合には、このファイル名は前もって存在していなければなりません。

トップ

メンバー (MEMBER)

複写に使用する物理ファイル・メンバーを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが使用されます。

***FILE** ファイル名は使用されるファイル・メンバーを識別します。

メンバー名

複写に使用する物理ファイル・メンバーの名前。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

結合Cプログラム作成 (CRTBNDC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

結合Cプログラム作成(CRTBNDC)コマンドは、ILE Cコンパイラーを開始します。このコマンドは、バッチか対話式のどちらかのモードか、あるいはCLプログラムから使用することができます。コンパイラーは、ソース・コード中のILE Cステートメントに基づいてプログラム・オブジェクトを作成しようとします。完全なコンパイル順序が常に実行されます。

注: CRTBNDCコマンドが起動されると、一時*MODULEオブジェクトがQTEMPライブラリーに作成されます。この一時モジュール・オブジェクトの名前は、CRTBNDCコマンドのPGMパラメーターに指定した名前と同じです。その名前の*MODULEオブジェクトがすでにQTEMPに存在している場合には、エラー・メッセージが生成されて、コンパイルは停止します。CRTBNDCコマンドで使用された一時モジュール・オブジェクトは、コンパイルが正常に行われたかどうかにかかわらず、コンパイルが停止した後に削除されます。

エラー・メッセージ: CRTBNDC

*ESCAPE メッセージ

CZM1613

コンパイルに失敗しました。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 3
SRCSTMF	ソース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力オプション	単一値: *NONE, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 出力ファイル名	パス名, *PRINT, *PRINT	
	要素 2: タイトル	文字値, *BLANK	
	要素 3: サブタイトル	文字値, *BLANK	

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	コンパイラー・オプション	値 (最大 35 回の繰り返し): *NOAGR, *AGR, *DIGRAPH, *NODIGRAPH, *NOEVENTF, *EVENTF, *NOEXPMAC, *EXPMAC, *NOFULL, *FULL, *GEN, *NOGEN, *NOINCDIRFIRST, *INCDIRFIRST, *LOGMSG, *NOLOGMSG, *NOSECLVL, *SECLVL, *NOSHOWINC, *SHOWINC, *NOSHOWSKP, *SHOWSKP, *SHOWSRC, *NOSHOWSRC, *NOSHOWSYS, *SHOWSYS, *NOSHOWUSR, *SHOWUSR, *STDINC, *NOSTDINC, *NOSTDLOGMSG, *STDLOGMSG, *NOSTRUCREF, *STRUCREF, *NOSYSINCPATH, *SYSINCPATH, *NOXREF, *XREF, *NOXREFREF, *XREFREF	オプション
CHECKOUT	チェックアウト・オプション	値 (最大 39 回の繰り返し): * NONE , *USAGE, *ALL, *NOCOND, *COND, *NOCONST, *CONST, *NOEFFECT, *EFFECT, *NOENUM, *ENUM, *NOEXTERN, *EXTERN, *NOGENERAL, *GENERAL, *NOGOTO, *GOTO, *NOINIT, *INIT, *NOPARM, *PARM, *NOPORT, *PORT, *NOPPCHECK, *PPCHECK, *NOPPTRACE, *PPTRACE, *NOREACH, *REACH, *NOTRUNC, *TRUNC, *NOUNUSED, *UNUSED	オプション
OPTIMIZE	最適化	10 , 20, 30, 40	オプション
INLINE	インライン・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: インライナー	* OFF , *ON	
	要素 2: モード	* NOAUTO , *AUTO	
	要素 3: しきい値	1-65535, 250 , *NOLIMIT	
	要素 4: 限界	1-65535, 2000 , *NOLIMIT	
	要素 5: 報告書	* NO , *YES	
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	* NONE , *ALL, *STMT, *SOURCE, *LIST	オプション
DEFINE	名前の定義	単一値: * NONE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 文字値	オプション
LANGLVL	言語レベル	* EXTENDED , *ANSI	オプション
ALIAS	別名	値 (最大 3 回の繰り返し): * ANSI , *NOANSI, *ADDRTAKEN, *NOADDRTAKEN, *ALLPTRS, *NOALLPTRS, *TYPEPTR, *NOTYPEPTR	オプション
SYSIFCOPT	SYSTEMインターフェース OPT	値 (最大 2 回の繰り返し): *NOIFSIO, *IFSIO, *IFS64IO, *NOASYNCSIGNAL, *ASYNCSIGNAL	オプション
LOCALETYPE	LOCALEオブジェクト・タイプ	* LOCALE , *LOCALEUCS2, *LOCALEUTF, *CLD	オプション
FLAG	メッセージのフラグ・レベル	0 , 10, 20, 30	オプション
MSGLMT	コンパイラー・メッセージ	要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ限界	0-32767, * NOMAX	
	要素 2: メッセージ限界の重大度	0, 10, 20, 30	
REPLACE	PGMオブジェクトの置き換え	* YES , *NO	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	* USER , *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, * LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, * CURRENT , *PRV	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ENBPFCOL	パフォーマンス収集の使用可能	要素リスト	オプション
	要素 1: 収集レベル	<u>*PEP</u> , *ENTRYEXIT, *FULL	
	要素 2: プロシージャ	*NONLEAF, *ALLPRC	
PFROPT	パフォーマンス・オプション	値 (最大 2 回の繰り返し): *SETFPCA, *NOSETFPCA, *NOSTRDONLY, *STRDONLY	オプション
PRFDTA	プロファイル作成データ	<u>*NOCOL</u> , *COL	オプション
TERASPACE	テラスペース・オプション	単一値: <u>*NO</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: テラスペース使用可能	<u>*YES</u>	
	要素 2: TERASPACE INTERFACESの使用	<u>*NOTSIFC</u> , *TSIFC	
STGMDL	ストレージ・モデル	<u>*SINGLVL</u> , *TERASPACE	オプション
DTAMD	データ・モデル	<u>*P128</u> , *LLP64	オプション
PACKSTRUCT	バック構造	<u>*NATURAL</u> , 1, 2, 4, 8, 16	オプション
ENUM	Enumサイズ	<u>*SMALL</u> , 1, 2, 4, *INT	オプション
MAKEDEP	依存関係情報	パス名, <u>*NONE</u>	オプション
INCDIR	組み込みディレクトリー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 32 回の繰り返し): パス名	オプション
CSOPT	コンパイラー・サービスOPT	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
LICOPT	ライセンス内部コードOPT	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
DFTCHAR	省略時の文字タイプ	<u>*UNSIGNED</u> , *SIGNED	オプション
TGTCCSID	ターゲットCCSID	1-65535, <u>*SOURCE</u> , *JOB, *HEX	オプション

トップ

プログラム (PGM)

作成されるILE Cプログラムのプログラム名およびライブラリーを指定します。

プログラム名

プログラム・オブジェクトの名前を入力します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

プログラム・オブジェクトは現行ライブラリーに保管されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、プログラム・オブジェクトはQGPLライブラリーに作成されます。

ライブラリー名

作成されるプログラム・オブジェクトが保管されるライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルしたいILE Cソース・コードが入っているファイルのソース・ファイル名およびライブラリーを指定します。

QCSRC

QCSRCという名前のソース・ファイルに、コンパイルしたいILE Cソース・コードを含むメンバーが入っています。

ソース・ファイル名

ILE Cソース・コードを含むメンバーが入っているソース・ファイルの名前を入力します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ソース・ファイルがあるライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルは現行ライブラリーから検索されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、ソース・ファイルはQGPLライブラリーから検索されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力します。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルするソース・コードが入っているメンバーの名前を指定します。

***PGM** PGMパラメーターで提供されたプログラム名がソース・メンバー名として使用されます。

メンバー名

ソース・コードが入っているメンバーの名前を入力します。

[トップ](#)

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)

コンパイルしたいソース・コードが入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。

パス名は絶対修飾パス名か相対修飾パス名のどちらかにすることができます。絶対パス名は/で始まり、相対パス名は/以外の文字で始まります。絶対修飾の場合には、そのパス名で完全です。相対修飾の場合には、ジョブの現行作業ディレクトリーをパス名に対して事前に入手することによって、そのパス名は完全なものとなります。

SRCMBRおよびSRCFILEパラメーターをSRCSTMFパラメーターと一緒に指定することはできません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

プログラム・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

*SRCMBRTXT

ソース・ファイル・メンバーに関連したテキスト記述がプログラム・オブジェクトに使用されます。ソース・ファイルがインライン・ファイル、ストリーム・ファイル、または装置ファイルである場合には、テキストはブランクとなります。

*BLANK

テキストは現れないことを指定します。

'記述' 50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定します。

[トップ](#)

出力オプション (OUTPUT)

コンパイラー・リストが生成されるかどうかを指定します。

単一の値

*NONE

コンパイラー・リストは生成しません。リストが必要でない場合であっても、このパラメーター値を使用してコンパイル時のパフォーマンスを改善することが必要です。*NONEが指定されると、OPTIONパラメーターに指定された、リストと関連するすべてのパラメーター値が無視されます。

要素 1 : 出力ファイル名

*PRINT

リストを含むスプール・ファイルを生成します。

'パス名'

リストを保持するストリーム・ファイルのパス名を指定します。

要素 2 : タイトル

*BLANK

テキストは現れないことを指定します。

'タイトル'

リスト・ファイルのタイトル・ストリング（最大80文字）を指定します。

要素 3 : サブタイトル

*BLANK

テキストは現れないことを指定します。

'サブタイトル'

リスト・ファイルのサブタイトル・ストリング（最大80文字）を指定します。

[トップ](#)

コンパイラー・オプション (OPTION)

ILE Cソース・コードのコンパイル時に使用するオプションを指定します。それらは、1つ以上のブランクで区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

可能なオプションは次の通りです。

***NOAGR**

リストに集合マップは生成しません。

***AGR** リストにすべての集合のマップを生成します。マップには構造および共用体が含まれます。構造マップはメンバーの埋め込みを示します。このオプションは*STRUCREFオプションを指定変更します。

***DIGRAPH**

ソース・コード中の連字を使用することができます。

***NODIGRAPH**

ソース・コード中の連字を使用することはできません。

***NOEVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)によって使用するためのイベント・ファイルは作成しません。

***EVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)によって使用するためのイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、作成されたモジュールまたはプログラム・オブジェクトが保管されるライブラリーにファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。EVFEVENTが存在しない場合には、それが自動的に作成されます。イベント・ファイル・メンバー名は、作成中のオブジェクトの名前と同じです。CODE/400は、このファイルを使用して、CODE/400編集機能によって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、イベント・ファイルはCODE/400内からモジュールまたはプログラム・オブジェクトを作成するときに作成されます。

***NOEXPMAC**

マクロの中に構文エラーが見つからなければ、リスト中のマクロは展開されません。

***EXPMAC**

リスト中のすべてのマクロを展開します。このパラメーターはDBGVIEW(*ALL)およびDBGVIEW(*LIST)と矛盾しています。OPTION(*EXPMAC)がDBGVIEW(*ALL)またはDBGVIEW(*LIST)と一緒に使用されている場合には、コンパイルが停止してエラー・メッセージが出されます。

***NOFULL**

すべてのリスト・オプションはオンにしません。

***FULL** すべてのリスト・オプションをオンにします。

***NOINCDIRFIRST**

INCDIRパラメーターとして指定された組み込みディレクトリーは、標準見出しファイルの組み込みパスの前には組み込まれません。

***INCDIRFIRST**

INCDIRパラメーターとして指定された組み込みディレクトリーが、標準見出しファイルの組み込みパスの前に組み込まれます。

***LOGMSG**

コンパイル・メッセージをジョブ・ログに書き込みます。

このオプションおよびFLAGパラメーターを指定した場合には、FLAGパラメーターに指定された（およびそれより高い）重大度のメッセージがジョブ・ログに入れられます。

このオプション、およびメッセージの最大数をMSGLMTパラメーターに指定した場合には、指定された重大度のその数のメッセージがジョブ・ログに入れられた時に、コンパイルは停止します。

***NOLOGMSG**

コンパイル・メッセージをジョブ・ログに書き込みません。

***NOSECLVL**

リストに第2レベル・メッセージ・テキストは生成しません。

***SECLVL**

リストに第2レベル・メッセージ・テキストを生成します。このオプションを有効にするには、OUTPUTオプションを指定しなければなりません。

***NOSHOWINC**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルまたはシステム組み込みファイルを拡張しません。

***SHOWINC**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルとシステム組み込みファイルの両方を拡張します。OUTPUTオプション、あるいは*ALL、*SOURCE、または*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。

***NOSHOWSKP**

リストのソース部分またはデバッグ・リスト・ビューのプリプロセッサが無視したステートメントを組み込みません。プリプロセッサは、プリプロセッサ・ディレクティブが偽（ゼロ）と評価した結果としてステートメントを無視します。

***SHOWSKP**

プリプロセッサがスキップしたかどうかに関係なく、リストのソース部分またはデバッグ・リスト・ビューのすべてのステートメントを組み込みます。OUTPUTオプション、あるいは*ALLまたは*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。

***SHOWSRC**

リストにソース・コードを表示します。このオプションは、*SHOWINC、*SHOWSYS、または*SHOWUSRオプションによって変更することができます。

***NOSHOWSRC**

リストにソース・コードは表示しません。このオプションは、*SHOWINC、*SHOWSYS、または*SHOWUSRオプションによって変更することができます。

***NOSHOWSYS**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#INCLUDEディレクティブのシステム組み込みファイルを拡張しません。システム組み込みファイルは、#INCLUDEディレクティブに続いて不等号括弧(< >)で囲まれます。

***SHOWSYS**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#INCLUDEディレクティブのシステム組み込みファイルを拡張します。OUTPUTオプション、あるいは*ALL、*SOURCE、または*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。システム組み込みファイルは、#INCLUDEディレクティブに続いて不等号括弧(< >)で囲まれます。

***NOSHOWUSR**

リストまたはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルは拡張しません。ユーザー組み込みファイルは、`#INCLUDE`ディレクティブに続いて二重引用符(" ")で囲まれます。

***SHOWUSR**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの`#INCLUDE`ディレクティブのユーザー組み込みファイルを拡張します。OUTPUTオプション、あるいは`*ALL`、`*SOURCE`、または`*LIST`の`DBGVIEW`パラメーター値を指定しなければなりません。ユーザー組み込みファイルは、`#INCLUDE`ディレクティブに続いて二重引用符(" ")で囲まれます。

***STDINC**

システム提供の見出しファイルがコンパイルのための検索パスに組み込まれます。

***NOSTDINC**

システム提供の見出しファイルはコンパイルのための検索パスに組み込まれません。

***NOSTDLOGMSG**

コンパイル・メッセージは`STDOUT`ストリームへ送られません。

***STDLOGMSG**

コンパイル・メッセージが`STDOUT`ストリームへ送られます。

***NOSTRUCREF**

参照されるすべての`STRUCT`または`UNION`変数のマップはリスト・ファイルに生成しません。

***STRUCREF**

参照されるすべての`STRUCT`または`UNION`変数のマップをリスト・ファイルに生成します。

***NOSYINCPATH**

ユーザー組み込みの検索パスは影響を与えません。

***SYSINCPATH**

ユーザー組み込みの検索パスをシステム組み込みの検索パスに変更します。関数では、このオプションはユーザー`#INCLUDE`ディレクティブ(`#INCLUDE "FILE_NAME"`)の二重引用符を不等号括弧(`#INCLUDE <FILE_NAME>`)に変更するのと同じです。

***NOXREF**

リストに相互参照テーブルは生成しません。

***XREF**

ソース・コード中の識別コードのリストとともにそれらが表示される行の番号を含む相互参照テーブルを生成します。OUTPUTオプションを指定しなければなりません。

***NOXREFREF**

参照される識別コードの相互参照テーブルをリストの中に生成しません。

***XREFREF**

参照される変数、構造、および関数名の相互参照テーブルをリスト・ファイルの中に生成します。このテーブルには、識別コードが宣言されている行番号が表示されます。

トップ

チェックアウト・オプション (CHECKOUT)

考えられるプログラミング・エラーを示す通知メッセージの生成を選択することができるオプションを指定します。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

注: CHECKOUTは多くのメッセージを生成することがあります。これらのメッセージがジョブ・ログへ送られないようにするには、OUTPUTパラメーターとともにOPTION(*NOLOGMSG *NOSTDLOGMSG)を指定して、チェックアウト・メッセージをリスト・ファイルに入れてください。

***NONE**

CHECKOUTのすべてのオプションを使用不可にします。

***USAGE**

これは、*ENUM、*EXTERN、*INIT、*PARM、*PORT、*GENERAL,および*TRUNCを指定することと同等です。

***ALL** CHECKOUTのすべてのオプションを使用可能にします。

***NOCOND**

条件式での考えられる冗長度または問題について警告はしません。

***COND**

条件式での考えられる冗長度または問題について警告をします。

***NOCONST**

定数に関係した操作について警告はしません。

***CONST**

定数に関係した操作について警告をします。

***NOEFFECT**

無効なステートメントについて警告はしません。

***EFFECT**

無効なステートメントについて警告をします。

***NOENUM**

列挙型の使用はリストしません。

***ENUM**

列挙型の使用をリストします。

***NOEXTERN**

外部宣言がある未使用の変数はリストしません。

***EXTERN**

外部宣言がある未使用の変数をリストします。

***NOGENERAL**

一般チェックアウト・メッセージはリストしません。

***GENERAL**

一般チェックアウト・メッセージをリストします。

***NOGOTO**

GOTOステートメントのオカレンスおよび使用はリストしません。

***GOTO**

GOTOステートメントのオカレンスおよび使用をリストします。

***NOINIT**

明示的に初期設定されない自動変数はリストしません。

***INIT** 明示的に初期設定されない自動変数をリストします。

***NOPARM**

使用されない関数パラメーターはリストしません。

***PARM**

使用されない関数パラメーターをリストします。

***NOPORT**

C言語の非可搬使用はリストしません。

***PORT**

C言語の非可搬使用をリストします。

***NOPPCHECK**

プリプロセッサ・ディレクティブはリストしません。

***PPCHECK**

プリプロセッサ・ディレクティブをリストします。

***NOPPTRACE**

プリプロセッサによる組み込みファイルのトレースはリストしません。

***PPTRACE**

プリプロセッサによる組み込みファイルのトレースをリストします。

***NOREACH**

到達不能ステートメントについて警告はしません。

***REACH**

到達不能ステートメントについて警告をします。

***NOTRUNC**

データの考えられる切り捨てまたは喪失について警告はしません。

***TRUNC**

データの考えられる切り捨てまたは喪失について警告をします。

***NOUNUSED**

未使用の自動または静的変数は検査しません。

***UNUSED**

未使用の自動または静的変数を検査します。

[トップ](#)

最適化 (OPTIMIZE)

生成されたオブジェクトの最適化のレベルを指定します。

10 生成されたコードは最適化されません。このレベルではコンパイル時間は最短となります。このレベルでは、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。

- 20 コードについてある程度の最適化が実行されます。このレベルでは、デバッグ中にユーザー変数を表示することができますが、変更することはできません。
- 30 生成されたコードについて完全な最適化が実行されます。デバッグ・セッション中に、ユーザー変数を変更することはできませんが、表示することはできます。表示される値は、変数の現行値ではない場合があります。
- 40 生成されたコードには、レベル30で行われたすべての最適化が実行されます。さらに、命令トレースおよび呼び出しトレース・システム機能を使用可能にするコードが、プロシージャーのプロローグおよびエピローグ・ルーチンから除去されます。このコードを除去することによって、リーフ・プロシージャーの作成が可能になります。リーフ・プロシージャーは、他のプロシージャーに対する呼び出しを含まないプロシージャーです。リーフ・プロシージャーに対するプロシージャー呼び出しのパフォーマンスは、通常のプロシージャーに対する呼び出しより大幅に高速となります。

トップ

インライン・オプション (INLINE)

コンパイラーでは関数呼び出しの呼び出し先関数の命令による置き換えを考慮する必要があるかどうかを指定します。関数をインライン化することによって、呼び出しのオーバーヘッドが除去されるので、より良好な最適化の結果を得ることができます。何度も呼び出される小さい関数は、インライン化に適した候補です。

要素 1 : インライン化機能

インライン化を使用するかどうかを指定します。

***OFF** コンパイル単位についてインライン化は実行されないことを指定します。

***ON** コンパイル単位についてインライン化が実行されることを指定します。デバッグ・ビューが指定された場合には、インライン化機能はオフにされます。

要素 2 : モード

インライン化機能は、その限界値および限界の値に従って関数の自動的なインライン化を試みる必要があるかどうかを指定します。

***NOAUTO**

#PRAGMA INLINEディレクティブによって指定された関数だけをインライン化の候補と見なす必要があることを指定します。

***AUTO**

インライン化機能は、関数をインライン化できるかどうかを指定された限界値および限界の値に基づいて決定する必要があることを指定します。*AUTOは#PRAGMA NOINLINEディレクティブによって指定変更されます。

要素 3 : 限界値

自動インライン化の候補とすることができる関数の最大サイズを指定します。このサイズは抽象コード単位 (ACU) で測定されます。ACUのサイズは関数内の実行可能コードと比例します。ソース・コードは、コンパイラーによって自動的にACUに変換されます。

250 250の限界値を指定します。

ACUの数

1-65535のACUの限界値を指定します。

*NOLIMIT

しきい値をプログラム・オブジェクトの最大サイズとして定義します。

要素 4 : 限界

自動インライン化が停止するまで拡張できる関数の最大相対サイズを指定します。

2000 2000のACUの限界を指定します。

*NOLIMIT

限界がプログラム・オブジェクトの最大サイズとして定義されます。システム限界が見つかることがあります。

ACUの数

1-65535のACUの限界を指定することができます。

要素 5 : 報告書

コンパイラー・リストとともにインライン化機能報告書を生成するかどうかを指定します。

***NO** インライン化報告書は生成されません。

***YES** インライン化報告書がコンパイラー・リストの一部として生成されます。インライン化報告書を生成するには、**OUTPUT**オプションを指定しなければなりません。

トップ

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

作成されたプログラム・オブジェクトのモジュールに使用可能なデバッグのレベルを指定します。これは、また、ソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューも指定します。デバッグ・ビューを要求すると、インライン化はオフになります。

*NONE

デバッグ機能はプログラム・オブジェクトに挿入されません。

***ALL** すべてのデバッグ・オプション(*STMT, *SOURCE,および*LIST)が使用可能になります。

*STMT

プログラム・ステートメント番号および記号識別コードを使用してプログラム・オブジェクトをデバッグすることができます。

注: *STMTオプションを使用してモジュール・オブジェクトをデバッグするには、リストが必要です。

*SOURCE

プログラム・オブジェクトをデバッグするためのソース・ビューを生成します。作成されるソース・ビューの内容は、**OPTION**パラメーターの値***NOSHOWINC**, ***SHOWINC**, ***SHOWSYS**,および***SHOWUSR**によって決まります。

注: このビューをデバッグ用に使用するためには、プログラム・オブジェクトの作成後にルート・ソース・ファイルが変更、名前変更、または移動されてはいけません。

***LIST** プログラム・オブジェクトをデバッグするためのリスト・ビューを生成します。OPTIONパラメータの値*SHOWINC, *SHOWUSR, *SHOWSYS,および*NOSHOWINC は、作成されるリスト・ビューの内容を決定します。

トップ

名前の定義 (DEFINE)

ファイルがコンパイラによって処理される前に有効となるプリプロセッサ・マクロを指定します。様式 DEFINE(MACRO)はDEFINE('MACRO=1')と同等です。

*NONE

マクロは定義されません。

'名前'または'名前=値'

最大32個のマクロを定義することができます。それぞれのマクロ名はアポストロフィで囲まれます。マクロ名の最大長は80文字です。アポストロフィは、この80文字のストリングの一部ではありません。アポストロフィは大文字小文字の区別があるマクロ名の場合に必要です。

注: コマンドで定義されたマクロにより、ソース内の同じ名前のすべてのマクロ定義は指定変更されますが、コンパイラによって警告メッセージが生成されます。#DEFINE MAX(A,B) ((A)>(B):(A)?(B))のように関数に似たマクロは、コマンド入力行で定義することはできません。

トップ

言語レベル (LANGLVL)

コンパイラの機能、およびソースの作成時に宣言されるプロトタイプを指定します。

*EXTENDED

プリプロセッサ変数__EXTENDED__を定義し、その他の言語レベル変数は未定義とします。このパラメータは、ILE Cのすべての機能が必要な場合に使用する必要があります。

***ANSI** プリプロセッサ変数__ANSI__および__STDC__を定義し、その他の言語レベル変数は未定義とします。ANSI規格のCのみが使用可能になります。

注: ILE Cコンパイラでは、常に__ILEC400__マクロが事前定義されます。

トップ

別名 (ALIAS)

作成されるプログラム・オブジェクトに適用する別名割り当ての表明を指定します。

***ANSI** プログラム・オブジェクトは、ポインターが同じタイプのオブジェクトをポイントするのを許可するだけです。

***NOANSI**

プログラム・オブジェクトは*ANSI別名割り当て規則を使用しません。

***ADDRTAKEN**

プログラム・オブジェクトは、変数のアドレスが取られない限り、その変数クラスをポインターから切り離します。

***NOADDRTAKEN**

プログラム・オブジェクトは*ADDRTAKEN別名割り当て規則を使用しません。

***ALLPTRS**

プログラム・オブジェクトは2つのポインタの別名割り当てを許可しません。

***NOALLPTRS**

プログラム・オブジェクトは*ALLPTRS別名割り当て規則を使用しません。

***TYPEPTR**

プログラム・オブジェクトは、別のタイプの2つのポインタの別名割り当てを許可しません。

***NOTYPEPTR**

プログラム・オブジェクトは*TYPEPTR別名割り当て規則を使用しません。

トップ

SYSTEMインターフェースOPT (SYSIFCOPT)

作成されるモジュール・オブジェクトに使用されるシステム・インターフェース・オプションを指定します。それらは、1つ以上の空白で区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

***NOIFSIO**

モジュール・オブジェクトは、Cストリーム入出力操作にISERIESデータ管理ファイル・システムを使用します。

***IFSIO** モジュール・オブジェクトは、Cストリーム入出力操作に統合ファイル・システムを使用します。

***IFS64IO**

モジュール・オブジェクトは、64ビットCストリーム入出力操作に統合ファイル・システムを使用します。

***NOASYNC SIGNAL**

非同期信号機能に対する同期信号機能の実行時マッピングは使用可能にしません。

***ASYNC SIGNAL**

非同期信号機能に対する同期信号機能の実行時マッピングを使用可能にします。このオプションを指定すると、C実行時によって同期SIGNAL()およびRAISE()関数がそれぞれ非同期SIGACTION()およびKILL()関数にマップされます。

トップ

LOCALEオブジェクト・タイプ (LOCALETYPE)

作成されるプログラム・オブジェクトで使用するロケール・サポートのタイプを指定します。

***LOCALE**

このオプションで作成されたプログラム・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。

*LOCALEUCS2

このオプションで作成されたプログラム・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。幅広文字タイプには、2バイト汎用文字セットの値が含まれます。

*CLD このオプションで作成されたプログラム・オブジェクトは、*CLDオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。

*LOCALEUTF

このオプションで作成されたプログラム・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。広幅文字タイプには4バイトのUTF-32の値が入ります。狭幅文字タイプにはUTF-8の値が入ります。

[トップ](#)

メッセージのフラグ・レベル (FLAG)

リストに表示するメッセージのレベルを指定します。

- 0** 通知レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 10** 警告レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 20** エラー・レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 30** 重大エラー・レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。

[トップ](#)

コンパイラー・メッセージ (MSGLMT)

コンパイルが停止される前に表示できる、一定のメッセージ重大度のメッセージの最大数を指定します。

要素 1 : メッセージ限界

指定のメッセージ重大度レベル以上で表示できるメッセージの最大数を指定します。

*NOMAX

指定のメッセージ重大度レベルで表示されたメッセージの数とは無関係に、コンパイルは続行されます。

メッセージ限界

表示できるメッセージの数を指定します。有効な範囲は0-32767です。

要素 2 : メッセージ重大度

その指定の重大度以上のメッセージがメッセージ限界数を超過して起こった場合にコンパイルを停止するメッセージ重大度を指定します。

- 30** 重大度が30のメッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 0** 重大度が0以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。

- 10 重大度が10以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 20 重大度が20以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。

[トップ](#)

PGMオブジェクトの置き換え (REPLACE)

オブジェクトの既存のバージョンを現行バージョンで置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のオブジェクトが新規バージョンで置き換えられます。旧バージョンは、QRPLOBJライブラリーに移され、システム日付および時刻に基づいて名前変更されます。置き換えられたオブジェクトのテキスト記述は、元のオブジェクトの名前に変更されます。旧オブジェクトが明示的に削除されていない場合には、次のIPL時にそれが削除されます。

***NO** 既存のオブジェクトは置き換えられません。指定されたライブラリーに同じ名前のオブジェクトが見つかった場合には、メッセージが表示されて、コンパイルは停止します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

各オブジェクトに対してプログラム・オブジェクトが持つ権限を含めて、作成されたプログラム・オブジェクトが実行時に使用するユーザー・プロファイルを指定します。プログラム・オブジェクトが使用できるオブジェクトは、プログラム所有者かプログラム・ユーザーのいずれかのプロファイルを使用して制御されます。

***USER**

プログラム・オブジェクトを実行中のユーザーのプロファイルが使用されます。

***OWNER**

プログラム・オブジェクトの処理時には、プログラムの所有者とプログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの処理時に、オブジェクトを見つけてアクセスするために、両方のユーザー・プロファイルにおけるオブジェクト権限の集合的なセットが使用されます。所有ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は、実行中のプログラム・オブジェクトの権限には含まれません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

オブジェクトに対する特定権限がないユーザー、権限リスト上にないユーザー、またはそのグループに特定のオブジェクトに対する権限がないユーザーに認可される権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する共通権限は、ターゲット・ライブラリー（作成されたオブジェクトを含むライブラリー）のCRTAUTキーワードからとられます。この値は、オブジェクトの作成時に決定されます。ライブラリーに対するCRTAUTの値がオブジェクトの作成後に変更された場合には、新しい値はそのライブラリー中の既存のどのオブジェクトにも影響しません。

***ALL** 所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される権限を除き、オブジェクトについてすべての操作の権限を提供します。すべてのユーザーが、オブジェクトの存在を制御し、その機密保護を指定し、それを変更し、また、その所有権の変更も含めた基本機能を実行することができます。

***CHANGE**

すべてのデータ権限、および所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される権限を除き、オブジェクトについてすべての操作を実行する権限を提供します。オブジェクトを変更し、それについて基本機能を実行することができます。

***USE** オブジェクト操作権、読み取り権限、およびモジュール・オブジェクトの結合などの基本読み取り専用操作のための権限を提供します。特定権限のないユーザーは、オブジェクトを変更することができません。

***EXCLUDE**

特殊権限のないユーザーはオブジェクトにアクセスできません。

権限リスト名

ユーザーの権限リストの名前、およびオブジェクトが追加される先の権限を入力します。オブジェクトは、この権限リストによって保護され、オブジェクトに対する共通権限は*AUTLに設定されます。コマンドを出す時には、システムに権限リストが存在していなければなりません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

ユーザーが作成中のオブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*CURRENTおよび*PRVの値について示される例において、また、リリース・レベルの値を指定する場合には、リリースの指定にVXRXXMXの様式が使用されます。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V4R5M0はバージョン4、リリース5、モディフィケーション・レベル0です。

***CURRENT**

オブジェクトは、ユーザーのシステムで現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、V4R5M5がシステムで実行中である場合に、*CURRENTは、ユーザーがV4R5M5の導入されたシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。ユーザーは、また、これ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもオブジェクトを使用することができます。

注: システムでV4R5M5が実行されていて、オブジェクトがV4R5M0を導入したシステムで使用される場合には、TGTRLS(*CURRENT)でなくTGTRLS(V4R5M0)を指定してください。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムの前のモディフィケーション0のリリースで使用されます。たとえば、ユーザーのシステムでV4R5M5が実行中である場合に、*PRVは、ユーザーがV4R4M0の導入されたシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。ユーザーは、また、これ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもオブジェクトを使用することができます。

リリース・レベル

リリースをVXRXXMXの様式で指定します。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は、現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なります。それらは、それぞれの新規リリースで変更されます。このコマンドによってサポートされる最初期のリリース・レベルより前のリリースを指定した場合には、エラー・メッセージが送られません。

トップ

パフォーマンス収集の使用可能化 (ENBPFRCOL)

オブジェクトにパフォーマンス測定コードを生成する必要があるかどうかを指定します。収集されたデータをシステム・パフォーマンス・ツールで使用し、アプリケーションのパフォーマンスのプロファイルを作成することができます。作成されたオブジェクトにコードを生成すると、オブジェクトがわずかに大きくなるとパフォーマンスに影響する場合があります。

***PEP** パフォーマンス統計は、プログラム入り口プロシージャーの入り口と出口でのみ収集されます。この値は、アプリケーションに関する全般的なパフォーマンス情報を収集したい時に選択します。

***ENTRYEXIT *NONLEAF**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャー以外の、プログラム・オブジェクトのすべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。これにはプログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、アプリケーション内の他のルーチンを起動するルーチンに関する情報のみをキャプチャーしたい場合に有用です。

***ENTRYEXIT *ALLPRC**

パフォーマンス統計は、プログラム・オブジェクトの（リーフ・プロシージャーを含む）すべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。これにはプログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、すべてのルーチンに関する情報をキャプチャーしたい場合に有用です。このオプションは、アプリケーションによって呼び出されるすべてのプログラムが***PEP**、***ENTRYEXIT**、または***FULL**オプションのいずれかによって作成されたことが分かっている場合に使用してください。そうでない場合には、アプリケーションがパフォーマンス測定に使用できない他のプログラム・オブジェクトを呼び出した場合に、パフォーマンス・ツールがユーザー・アプリケーションにその資源の使用を課すこととなります。このため、資源が実際にはどこで使用されているかを判別するのは困難となります。

***FULL *NONLEAF**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャーではないすべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。また、外部プロシージャーに対する各呼び出しの前後でも統計が収集されます。

***FULL *ALLPRC**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャーを含むすべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。また、外部プロシージャーに対する各呼び出しの前後でも統計が収集されます。

このオプションは、アプリケーションが***PEP**、***ENTRYEXIT**、または***FULL**のいずれかで作成されていない他のプログラム・オブジェクトを呼び出すと考えられる場合に使用してください。このオプションによって、パフォーマンス・ツールは、ユーザーのアプリケーションが使用している資源と、それが呼び出したプログラム・オブジェクトによって使用されている資源を（それらのプログラム・オブジェクトがパフォーマンス測定に使用できない場合であっても）区別することができます。このオプションは経済的ではありませんが、アプリケーション内の各種のプログラム・オブジェクトを選択的に分析することができます。

トップ

パフォーマンス・オプション (PFROPT)

パフォーマンスを高めるために使用可能な各種のオプションを指定します。それらは、1つ以上の空白で区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

可能なオプションは次の通りです。

***SETFPCA**

コンパイラーに、浮動小数点計算に対するANSIのセマンティクスを達成するために浮動小数点の計算属性を設定させます。

***NOSETFPCA**

計算属性は設定されません。このオプションは、作成されるオブジェクトに浮動小数点計算が含まれていない場合にのみ使用してください。

***NOSTRDONLY**

コンパイラーは書き込み可能メモリーの中にストリングを入れる必要があることを指定します。

***STRDONLY**

コンパイラーは読み取り専用メモリーの中にストリングを入れることができることを指定します。

[トップ](#)

プロファイル作成データ (PRFDTA)

プログラム・オブジェクトのプログラム・プロファイル・データ属性を指定します。プログラムのプロファイル作成は、プロシージャーおよびプロシージャー内のコードを統計データ（プロファイル作成データ）に基づいて再配列するために使用される拡張最適化手法です。

***NOCOL**

プログラム・オブジェクトはプロファイル・データの収集に使用できません。

COL** プログラム・オブジェクトはプロファイル・データの収集に使用できます。COL**は、最適化レベルが30以上である場合にのみ指定することができます。

[トップ](#)

テラスペース・オプション (TERASPACE)

プログラム・オブジェクトがテラスペース記憶域を処理できるかどうかを指定します。これには、プログラム・オブジェクトによって割り振られたテラスペース記憶域と他のテラスペース使用可能プログラムおよびサービス・プログラム・オブジェクトから渡されたパラメーターが含まれます。

要素 1 : テラスペース使用可能

***NO** プログラム・オブジェクトは、テラスペースから割り振られた記憶域のアドレッシングを処理することはできません。

***YES** プログラム・オブジェクトは、他のテラスペース使用可能プログラムおよびサービス・プログラム・オブジェクトから渡されたパラメーターを含む、テラスペースから割り振られた記憶域のアドレッシングを処理することができます。

要素 2 : テラスペース・インターフェースの使用

***NOTSIFC**

プログラム・オブジェクトは、省略時の値で記憶域機能の非テラスペース・バージョンを使用します。

***TSIFC**

プログラム・オブジェクトは、省略時の値で記憶域機能のテラスペース・バージョンを使用します。コンパイラーがマクロ変数 `__TERASPACE__` を定義します。

[トップ](#)

ストレージ・モデル (STGMDL)

作成されたオブジェクトで使用する記憶域のタイプを指定します。

***SNGLVL**

作成されたオブジェクトは単一レベルの記憶域を使用します。

***TERASPACE**

作成されたオブジェクトはテラスペース記憶域を使用します。

[トップ](#)

データ・モデル (DTAMD)

INT, LONG, POINTERとして宣言される変数のサイズ (バイト数) を指定します。

***P128** INT, LONG, POINTERのサイズはそれぞれ4, 4, 16となります。

***LLP64**

INT, LONG, POINTERのサイズはそれぞれ4, 4, 8となります。コンパイラーがマクロ変数 `__LLP64_IFC__` を定義します。

[トップ](#)

パック構造 (PACKSTRUCT)

構造のメンバーに使用する位置合わせ境界を指定します。

***NATURAL**

構造メンバーはその自然境界で位置合わせされます。たとえば、短整数は2バイトで位置合わせされることになります。16バイト・ポインターは、常に16バイト境界で位置合わせされます。

- 1 構造メンバーを1バイトの位置合わせでパックします。
- 2 構造メンバーを2バイトの位置合わせでパックします。
- 4 構造メンバーを4バイトの位置合わせでパックします。
- 8 構造メンバーを8バイトの位置合わせでパックします。
- 16 構造メンバーを16バイトの位置合わせでパックします。

[トップ](#)

Enumサイズ (ENUM)

コンパイラーが列挙型を表すために使用するバイト数を指定します。

*SMALL

すべてのENUM変数を、値の範囲を表すことができる最小サイズにします。

- 1 すべてのENUM変数を1バイトにします。
- 2 すべてのENUM変数を2バイトにします。
- 4 すべてのENUM変数を4バイトにします。

***INT** ANSI規格のENUMサイズである4バイトを使用します。

[トップ](#)

依存関係情報 (MAKEDEP)

依存関係情報をファイルの中に生成するかどうかを指定します。この情報は作成ツールで使用することができます。

*NONE

依存関係情報は生成しません。

'パス名'

依存関係情報を保管するストリーム・ファイルのパス名を指定します。

[トップ](#)

組み込みディレクトリー (INCDIR)

コンパイラーが組み込みファイルを検出するために使用する検索パスに追加する1つまたは複数のディレクトリーを指定します。INCDIRを使用すると、INCLUDE環境変数が指定変更されます。

検索パスは、OPTIONキーワードで次のパラメーターを使用し、さらに変更することができます。

- *INCDIRFIRSTまたは*NOINCDIRFIRST
- *SYSINCPATHまたは*NOSYSINCPATH
- *STDINCまたは*NOSTDINC

*NONE

変更されていなければ、省略時のシステム組み込みディレクトリーおよびソース・ディレクトリーからユーザー組み込みファイルが検索されます。

'ディレクトリー'

組み込みファイルを検索する32個までのディレクトリーを指定します。指定したディレクトリーに加えて、ソース・ディレクトリーからもユーザー組み込みファイルが検索されます。

[トップ](#)

コンパイラー・サービスOPT (CSOPT)

1つまたは複数のコンパイラー・サービス・オプションを指定します。このパラメーターによって、リリースの間で切り替え可能なコンパイラー機能を弊社から得ることができます。

***NONE**

コンパイラー・サービス・オプションは選択されません。

'コンパイラー・サービス・オプション・ストリング'

選択したコンパイラー・サービス・オプションが、モジュール・オブジェクトの作成時に使用されます。有効なストリングは、PTFカバー・レターまたはリリース情報に記述されています。

[トップ](#)

ライセンス内部コードOPT (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターによって、個々のコンパイル時オプションを選択することができますが、これは、選択したそれぞれのタイプのコンパイラー・オプションの潜在的な利点と欠点を理解している経験の豊かなプログラマーを対象としています。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

コンパイル時オプションは選択されません。

'ライセンス内部コード・オプション・ストリング'

選択したライセンス内部コード・コンパイル時オプションが、モジュール・オブジェクトの作成時に使用されます。ある種のオプションでは、作成されたモジュール・オブジェクトをデバッグする機能が損なわれることがあります。

[トップ](#)

省略時の文字タイプ (DFTCHAR)

CHARデータ・タイプのための省略時の符号を指定します。

***UNSIGNED**

省略時のCHARタイプを符号なしとします。

***SIGNED**

省略時のCHARタイプを符号付きとします。

[トップ](#)

ターゲットCCSID (TGCCSID)

結果のプログラム・オブジェクトに保管されるデータを記述するために使用されるターゲット・コード化文字セット識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SOURCE**

ルート・ソース・ファイルのCCSIDが使用されます。

***JOB** 現行ジョブのCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、文字データが2進数データとして扱われ、変換されないことを示します。

コード化文字セット識別コード

使用するCCSIDを指定します。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CZM1613

コンパイルに失敗しました。

トップ

バインドCOBOL PGMの作成 (CRTBNDCBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CRTBNDCBLコマンドはILE COBOLソース・プログラムを1ステップで実行可能プログラムにコンパイルします。このコマンドは、対話式、バッチ・モード、またはCLプログラムで使用することができます。

CRTBNDCBLコマンドに指定されたすべてのオブジェクト名はAS/400命名規則に従っていなければなりません。

CRTBNDCBLコマンドのパラメーターの説明は、次の通りです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前, *PGMID	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCBLLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 位置 3
SRCSTMF	ソース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 30	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT, *NONE	オプション, 位置 4
OPTION	コンパイラー・オプション	値 (最大 50 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *NOXREF, *XREF, *GEN, *NOGEN, *NOSEQUENCE, *SEQUENCE, *NOVBSUM, *VBSUM, *NONUMBER, *NUMBER, *LINENUMBER, *NOMAP, *MAP, *NOOPTIONS, *OPTIONS, *QUOTE, *APOST, *NOSECLVL, *SECLVL, *PRTCORR, *NOPRTCORR, *MONOPRC, *NOMONOPRC, *RANGE, *NORANGE, *NOUNREF, *UNREF, *NOSYNC, *SYNC, *NOCRTF, *CRTF, *NODUPKEYCHK, *DUPKEYCHK, *NOINZDLT, *INZDLT, *NOBLK, *BLK, *STDINZ, *NOSTDINZ, *STDINZHEX00, *NODDSFILLER, *DDSFILLER, *NOIMBEDERR, *IMBEDERR, *STDTRUNC, *NOSTDTRUNC, *NOCHGPOSSGN, *CHGPOSSGN, *NOEVENTF, *EVENTF, *MONOPIC, *NOMONOPIC, *NOCRTARKIDX, *CRTARKIDX	オプション, 位置 5

キーワード	記述	選択項目	注
CVTOPT	変換オプション	値 (最大 8 回の繰り返し): *NOVARCHAR, *VARCHAR, *NODATETIME, *DATETIME, *NOPICXGRAPHIC, *PICXGRAPHIC, *NOPICGGRAPHIC, *PICGGRAPHIC, *NOFLOAT, *FLOAT, *NODATE, *DATE, *NOTIME, *TIME, *NOTIMESTAMP, *TIMESTAMP, *NOCVTTODATE, *CVTTODATE, *NOPICNGRAPHIC, *PICNGRAPHIC	オプション
MSGLMT	メッセージ限界	要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージの数	0-9999, *NOMAX	
	要素 2: メッセージ限界重大度	0-30, 30	
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	*STMT , *SOURCE, *LIST, *ALL, *NONE	オプション
OPTIMIZE	最適化レベル	*NONE , *BASIC, *FULL	オプション
FLAGSTD	FIPSフラグ付け	値 (最大 2 回の繰り返し): *NOFIPS, *MINIMUM, *INTERMEDIATE, *HIGH, *NOOBSOLETE, *OBSOLETE	オプション
EXTDSPOPT	拡張表示オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *DFRWRT, *NODFRWRT, *UNDSPCHR, *NOUNDSPCHR, *ACCUPDALL, *ACCUPDNE	オプション
FLAG	フラグ重大度	0-99, 0	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES , *NO	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER , *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
LINKLIT	リンク・リテラル	*PGM , *PRC	オプション
SIMPLEPGM	単純プログラム	*YES , *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT , *PRV	オプション
SRTSEQ	ソート順序	単一値: *HEX , *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語ID	文字値, *JOBRUN , *JOB	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集の活動化	単一値: *PEP その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 収集レベル	*FULL , *ENTRYEXIT	
BNDDIR	バインディング・ディレクトリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: バインディング・ディレクトリー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *USRLIBL	
ACTGRP	活動化グループ	名前, QILE , *NEW, *CALLER	オプション
PRFDTA	プロファイル・データ	*NOCOL , *COL	オプション
CCSID	コード化文字セットID	整数, *JOBRUN , *HEX, *JOB	オプション
ARITHMETIC	演算モード	*NOEXTEND , *EXTEND31, *EXTEND63	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
NTLPADCHAR	PADDING CHARACTER	要素リスト	オプション
	要素 1: SINGLE BYTE TO NATIONAL	文字値, <u>*DEFAULT</u>	
	要素 2: DOUBLE BYTE TO NATIONAL	文字値, <u>*DEFAULT</u>	
	要素 3: NATIONAL TO NATIONAL	文字値, <u>*DEFAULT</u>	
LICOPT	LICENSED INTERNAL CODE OPTIONS	文字値	オプション
INCDIR	ディレクトリー組み込み	値 (最大 32 回の繰り返し): パス名, <u>*NONE</u>	オプション
PGMINFO	プログラム・インターフェース生成	<u>*NO</u> , *PCML	オプション
INFOTMF	プログラム・インターフェース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション

トップ

プログラム (PGM)

作成中のプログラム・オブジェクトのプログラム名およびライブラリー名を指定します。プログラム名およびライブラリー名はAS/400命名規則に従ってなければなりません。指定できる値は次の通りです。

*PGMID

コンパイルされたプログラムの名前は、ILE COBOLソース・プログラムのPROGRAM-ID段落から取り出されます。SIMPLEPGM(*NO)が指定されている場合には、コンパイルされたプログラム・オブジェクトの名前は 一連のソース・プログラム (単一のソース・ファイル・メンバーの複数のコンパイル単位) の最初のILE COBOLソース・プログラムのPROGRAM-ID段落から取り出されます。

プログラム名

コンパイルされたILE COBOLプログラムを識別する名前を入力してください。このパラメーターにプログラム名を指定して 一連のソース・プログラム をコンパイルし、SIMPLEPGM(*YES)が指定されている場合には、一連の最初のプログラムがこの名前を使用します。他のプログラムは対応するILE COBOLソース・プログラムのPROGRAM-ID段落で指定された名前を使用します。

指定可能なライブラリー値は、次の通りです。

*CURLIB

作成されたプログラム・オブジェクトは現行ライブラリーの中に記憶されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

作成されたプログラム・オブジェクトを記憶するライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルするILE COBOLソース・コードが入っているソース・ファイルおよびライブラリーの名前を指定します。このソース・ファイルのレコード長は92でなければなりません。指定できる値は次の通りです。

QCBLLSRC

ソース・ファイルQCBLLSRCにコンパイルするILE COBOLのソースが入っていることを指定します。

ソース・ファイル名

コンパイルするILE COBOLのソースが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。

指定可能なライブラリー値は、次の通りです。

***LIBL** ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるためにライブラリー・リストが探索されます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルするILE COBOLソース・コードが入っているメンバーの名前を指定します。SRCFILEパラメーターで参照しているソース・ファイルがデータベース・ファイルである場合にだけ、このパラメーターを指定することができます。指定できる値は次の通りです。

***PGM** PGMパラメーターで指定されたプログラム名と同じ名前をもつソース・ファイル・メンバーが使用されます。

PGMパラメーターにプログラム名を指定しない場合には、コンパイラーはデータベース・ソース・ファイルの最初のソース・メンバーを使用します。

ソース・ファイル・メンバー名

ILE COBOLソース・コードが入っているメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)

コンパイルするILE COBOLソース・コードが入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対的または相対的に修飾することができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合には、パス名は完全です。相対修飾の場合には、パス名は、パス名にジョブの現行作業ディレクトリーを付加することによって完了します。

SRCMBRおよびSRCFILEパラメーターをSRCSTMFパラメーターと一緒に指定することはできません。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

モジュール・オブジェクトを作成するかどうかを決定する重大度レベルを指定します。重大度レベルはコンパイル時に生成されるメッセージの重大度レベルと対応しています。このパラメーターは、ソース・ファイル・メンバーの各コンパイル単位に個別に適用されます。前のコンパイル単位が正常に実行されない場合でも、ソース・ファイル・メンバー中のその他のコンパイル単位はコンパイルされることになります。

指定できる値は次の通りです。

30 30以上の重大度レベルのエラーが起こった場合には、プログラム・オブジェクトは作成されません。

重大度レベル

プログラム・オブジェクトを作成するかどうかを決定するために使用したい重大度レベルを、0-30の範囲の1桁または2桁の数字で指定します。この重大度レベル以上の重大度レベルのエラーが起こった場合には、プログラム・オブジェクトは作成されません。

[トップ](#)

テキスト記述 (TEXT)

プログラムおよびその機能を簡単に説明するテキストを入力することができます。

*SRCMBRTXT

プログラム・オブジェクトの記述には、ILE COBOLソース・コードが入っているデータベース・ファイル・メンバーを記述するのと同じテキストが使用されます。情報源が装置ファイルまたはインライン・ファイルからの場合には、*SRCMBRTXTの指定は*BLANKの指定と同じ効果となります。

*BLANK

テキストは指定されません。

テキスト記述

プログラムおよびその機能を簡単に説明するテキストを入力してください。テキストは最大50桁の長さのSBCS文字にすることができ、単一引用符で囲む必要があります。単一引用符は50桁の文字ストリングの一部にはなりません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストを生成するかどうかを指定します。指定できる値は次の通りです。

*PRINT

コンパイル・リストが生成されます。メンバーがコンパイルされる場合には、出力ファイルはメンバーと同じ名前になります。ストリーム・ファイルがコンパイルされて、PGMパラメーターに*PGMIDが指定されている場合には、出力ファイルはCOBOLPGM00という名前になります。そうでない場合には、プログラムと同じ名前になります。

*NONE

コンパイル・リストは生成されません。

[トップ](#)

コンパイラー・オプション (OPTION)

ILE COBOLソース・コードのコンパイル時に使用するオプションを指定します。

ILE COBOLソース・プログラムのPROCESSステートメントで指定されたオプションによって、OPTIONパラメーターの対応するオプションが指定変更されます。

OPTIONパラメーターに指定できる値は、次の通りです。

SOURCE**またはSRC**

コンパイラーは、ILE COBOLソース・プログラムとすべてのコンパイル時エラー・メッセージから構成されるソース・リストを作成します。

NOSOURCE**またはNOSRC**

コンパイラーはリストのソース・パートを作成しません。ソース・リストが不要である場合には、コンパイル時間を短くすることができるので、このオプションを使用してください。

***NOXREF**

コンパイラーはILE COBOLソース・プログラムの相互参照表を作成しません。

***XREF**

コンパイラーはILE COBOLソース・プログラムの相互参照表を作成します。

***GEN** コンパイラーは、ILE COBOLソースのコンパイル後に、プログラム・オブジェクトを作成します。

***NOGEN**

コンパイラーは、ILE COBOLソース・プログラムのコンパイル後に、プログラム・オブジェクトを作成しません。エラー・メッセージまたはリストだけがが必要な場合には、このオプションを指定することができます。

***NOSEQUENCE**

参照番号の順序エラーは検査されません。

***SEQUENCE**

参照番号の順序エラーが検査されます。*LINENUMBERオプションを指定した場合には、順序エラーは起こりません。

***NOVBSUM**

動詞使用カウントは印刷されません。

***VBSUM**

動詞使用カウントが印刷されます。

***NONUMBER**

ソース・ファイルの順序番号が参照番号に使用されます。

***NUMBER**

ユーザー提供の順序番号（1-6桁目）が参照番号に使用されます。

***LINENUMBER**

コンパイラーによって作成された順序番号が参照番号に使用されます。このオプションはILE COBOLプログラムのソース・コードとCOPYステートメントで導入されたソース・コードを結合して、1つの連続番号順にします。FIPS（米国情報処理規格）フラグ付けまたはSAAフラグ付けを指定する場合には、このオプションを使用してください。

***NOMAP**

コンパイラーはデータ部マップをリストしません。

***MAP** コンパイラーはデータ部マップをリストします。

***NOOPTIONS**

このコンパイルに有効となっているオプションがリストされません。

***OPTIONS**

このコンパイルに有効となっているオプションがリストされます。

***QUOTE**

区切り文字引用符(")が非数値リテラル、16進リテラル、およびブール・リテラルに使用されることを指定します。また、このオプションは、表意定数QUOTEの値が引用符のEBCDIC値をもつことも指定します。

***APOST**

区切り文字アポストロフィ(')が非数値リテラル、16進リテラル、およびブール・リテラルに使用されることを指定します。また、このオプションは、表意定数QUOTEの値が引用符のEBCDIC値をもつことも指定します。

***NOSECLVL**

このコンパイルで第2レベル・メッセージ・テキストはリストされません。

***SECLVL**

このコンパイルで、コンパイル・リストのメッセージ・セクションに、第1レベル・エラー・テキストと一緒に第2レベル・メッセージ・テキストがリストされます。

***PRTCORR**

CORRESPONDING句の使用の結果として基本項目が含まれることを示すコメント行がコンパイル・リストの中に挿入されます。

***NOPRTCORR**

CORRESPONDING句が使用された時に、コメント行はコンパイル・リストの中に挿入されません。

***MONOPRC**

PROGRAM-ID段落、CALL、CANCEL、またはSET ENTRYステートメント、およびEND PROGRAMヘッダーで見つかったプログラム名（リテラルまたは語句）は、すべて大文字（単一シフト）に変換され、プログラム名作成規則が強制的に適用されます。

***NOMONOPRC**

PROGRAM-ID段落、CALL、CANCEL、またはSET ENTRYステートメント、およびEND PROGRAMヘッダーで見つかったプログラム名（リテラルまたは語句）は、すべて大文字（非単一シフト）に変換されず、プログラム名作成規則は強制されません。このオプションによって、標準COBOLでは使用できない特殊文字を、CALL行き先に使用することができます。

***RANGE**

実行時に、添え字は正しい範囲内にあることを確認するために検査されますが、指標の範囲は検査されません。参照変更およびコンパイラー生成のサブストリング命令も検査されます。

形式が正しいこと、さらに正しい日付、時刻、またはタイム・スタンプが表示されていることを確認するために、日付-時刻項目の内容を検査します。

***NORANGE**

実行時に範囲は検査されません。

注: *RANGEオプションによって添え字範囲を検査するコードが生成されます。たとえば、20 要素の配列の21番目の要素をアクセスしようとしていないことが確認されます。

*NORANGEオプションは添え字の範囲を検査するコードを生成しません。結果として、
*NORANGEオプションによって高速の実行コードが作成されます。

***NOUNREF**

参照されていないデータ項目はコンパイル済みモジュールの中に含まれません。これによって、使用記憶域の量が減少し、より大きなプログラムをコンパイルすることができます。*NOUNREFオプションを選択している時には、デバッグ中に、参照されていないデータ項目を表示したり割り当てたりすることはできません。参照されていないデータ項目は、OPTION (*XREF)を指定して生成された相互参照表にはまだ表示されます。

***UNREF**

参照されていないデータ項目は、コンパイル済みプログラムに含まれます。

***NOSYNC**

SYNCHRONIZED文節は構文検査のみが行なわれます。

***SYNC**

SYNCHRONIZED文節がコンパイラーによってコンパイルされます。SYNCHRONIZED文節によって、データ項目の位置は、右端（最小有効文字）が自然の記憶域境界になるように位置合わせされます。自然の記憶域境界は、記憶するデータの長さおよびタイプによって、記憶域の中で次に最も近い4バイト境界、8バイト境界、または16バイト境界となります。この位置合わせを達成するために位置合わせされた項目に隣接する特別の記憶域が予約されます。SYNCHRONIZEDと記述された各基本データ項目は、そのデータ記憶域割り当てに対応する自然の記憶域境界に位置合わせされます。

***NOCRTF**

OPEN命令の実行時に使用できないディスク・ファイルは、動的には作成されません。

***CRTF**

OPEN命令の実行時に使用できないディスク・ファイルが、動的に作成されます。

注：動的に作成されるファイルの最大レコード長は32766です。*CRTFオプションが指定された場合でも、索引付きファイルは動的に作成されません。

***NODUPKEYCHK**

INDEXEDファイルの重複した基本レコード・キーと代替レコード・キーを検査しません。

***DUPKEYCHK**

INDEXEDファイルの重複した基本レコード・キーと代替レコード・キーを検査します。

***NOINZDLT**

順次アクセスによる相対ファイルは、ファイルがOUTPUT用にオープンされた場合には、CLOSE命令時に削除済みレコードを初期設定しません。レコード境界はOPEN OUTPUT時に書き出されたレコード数によって決まります。次のOPEN命令によって、レコード境界までに限ってアクセスすることができます。

***INZDLT**

順次アクセスによる相対ファイルは、ファイルがOUTPUT用にオープンされた場合には、CLOSE命令時に削除済みレコードを初期設定します。ファイルの活動レコードは影響を受けません。レコード境界は、次のOPEN命令のファイル・サイズとして定義されます。

***NOBLK**

コンパイラーは、STARTステートメントによらないSEQUENTIALアクセス・ファイルのブロック化だけを許します。BLOCK CONTAINS文節は、指定された場合には、テープ・ファイルの場合を除いて無視されます。

***BLK** *BLKが使用されて、BLOCK CONTAINS文節が指定された時には、コンパイラーは、STARTステートメントによるDYNAMICアクセス・ファイルおよびSEQUENTIALアクセス・ファイルのブロック化を許します。出力操作でオープンされたRELATIVEファイルのブロック化は許されません。BLOCK CONTAINS文節はブロック化するレコードの数を制御します。

*BLKが使用され、BLOCK CONTAINS文節が指定されていない時には、コンパイラーはSTARTステートメントによらないSEQUENTIALアクセス・ファイルのブロック化だけを許します。オペレーティング・システムがブロック化するレコード数を決定します。

***STDINZ**

VALUE文節をもたないこれらの項目の場合に、コンパイラーはデータ項目をシステムの省略時の値に初期設定します。

***NOSTDINZ**

VALUE文節をもたないこれらの項目の場合に、コンパイラーはデータ項目をシステムの省略時の値に初期設定しません。

***STDINZHEX00**

VALUE文節をもたないこれらの項目の場合に、コンパイラーはデータ項目を16進数のゼロに初期設定します。

***NODDSFILLER**

COPY DDSステートメントによって突き合わせフィールドが見つからない場合には、フィールド記述は生成されません。

***DDSFILLER**

COPY DDSステートメントによって突き合わせフィールドが見つからない場合には、単一文字のFILLERフィールド記述"07 FILLER PIC X"が常に作成されます。

***NOIMBEDERR**

エラー・メッセージはコンパイル・リストのソース・リスト・セクションに含まれません。エラー・メッセージは、コンパイル・リストのエラー・メッセージ・セクションにだけ表示されます。

***IMBEDERR**

第1レベル・エラー・メッセージは、コンパイル・リストのソース・リスト・セクションに含まれ、エラーが起こった行の直後に表示されます。エラー・メッセージは、コンパイル・リストのエラー・メッセージ・セクションにも表示されます。

***STDTRUNC**

このオプションはUSAGE BINARYデータにだけ適用されます。*STDTRUNCを選択した時には、USAGE BINARYデータはBINARY受け取りフィールドのPICTURE文節の桁数まで切り捨てられます。

***NOSTDTRUNC**

このオプションはUSAGE BINARYデータにだけ適用されます。*NOSTDTRUNCを選択した時には、BINARY受け取りフィールドはハーフ・ワード、フル・ワード、またはダブル・ワード境界までのみ切り捨てられます。また、BINARY送り出しフィールドもハーフ・ワード、フル・ワード、またはダブル・ワードとして処理されます。したがって、フィールドの全2進数の内容が有効です。また、DISPLAYステートメントはBINARYフィールドの内容全体が切り捨てなしで変換されます。

***NOCHGPOSSGN**

ゾーンおよびパック数字データの省略時の正符号として16進数のFが使用されます。16進数のFは、OS/400オペレーティング・システムのシステム省略時の値です。

***CHGPOSSGN**

ゾーンおよびパック数字データの省略時の正符号として16進数のCが使用されます。これは、VALUE文節の結果の他にMOVE, ADD, SUBTRACT, MULTIPLY, DIVIDE, COMPUTE,およびINITIALIZEステートメントのすべての結果に適用されます。

***NOEVENTF**

連携開発環境/400 (CODE/400)で使用するイベント・ファイルを作成しません。CODE/400は、このファイルを使用して、エラーのフィードバックをCODE/400エディターに組み込みます。モジュールまたはプログラムをCODE/400内から作成した時には、通常、イベント・ファイルが作成されません。

***EVENTF**

連携開発環境/400 (CODE/400)で使用するイベント・ファイルが作成されます。イベント・ファイルは、作成されるモジュールまたはプログラム・オブジェクトが記憶されるライブラリー中のファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。ファイルEVFEVENTが存在していない場合には、自動的にこれが作成されます。イベント・ファイルのメンバー名は、作成されるオブジェクトの名前と同じです。

CODE/400は、このファイルを使用して、エラーのフィードバックをCODE/400エディターに組み込みます。モジュールまたはプログラムをCODE/400内から作成した時には、通常、イベント・ファイルが作成されます。

***MONOPIC**

PICTURE文字ストリングは、すべて大文字（単一シフト）に変換されます。

***NOMONOPIC**

PICTURE文字ストリングに使用される通貨記号は大文字・小文字が区別されます。すなわち、PICTURE記号A, B, E, G, N, P, S, V, X, Z, CR,およびDBの大文字に対応する小文字は、PICTURE文字ストリングの中のそれらの大文字表記と同じです。他の小文字はすべて対応するそれらの大文字表記と同じではありません。

***NOCRTARKIDX**

永続索引が見つからない場合には、一時代替レコード・キー(ARK)索引は作成されません。

***CRTARKIDX**

永続索引が見つからない場合に、一時代替レコード・キー(ARK)索引が作成されます。

トップ

変換オプション (CVTOPT)

コンパイラーが、COPY DDSを介して外部記述ファイルからプログラムに渡された日付、時刻、およびタイム・スタンプ・フィールド・タイプ、DBCSフィールド・タイプ、可変長文字フィールド・タイプ、および浮動小数点フィールド・タイプを処理する方法を指定します。指定できる値は次の通りです。

***NOVARCHAR**

可変長フィールドはFILLERフィールドとして定義されます。

***VARCHAR**

可変長フィールドは、グループ項目として宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

***NODATETIME**

日付、時刻、およびタイム・スタンプ・データ・タイプがFILLERフィールドとして定義されます。

***DATETIME**

日付、時刻、およびタイム・スタンプのDDSデータ・タイプは、DDS名に基づいて指定されたCOBOLデータ項目名です。CVTOPTパラメーター値*DATE、*TIME、または*TIMESTAMPの1つが指定されない限り、COBOLデータ項目のカテゴリーは英数字です。この場合には、COBOLデータ項目のカテゴリーは、それぞれ日付、時刻、またはタイム・スタンプです。

***NOPIXGRAPHIC**

DBCSグラフィック・データ・タイプがFILLERフィールドとして定義されます。

***PICXGRAPHIC**

固定長DBCSグラフィックデータ・タイプは固定長英数字フィールドとして宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

*VARCHARオプションも使用されている場合には、可変長DBCSグラフィック・データ・タイプは固定長グループ項目として宣言されて、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

***PICGGRAPHIC**

固定長DBCSグラフィック・データ・タイプは固定長Gタイプ・フィールドとして宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

*VARCHARオプションも使用されている場合には、可変長DBCSグラフィック・データ・タイプは固定長グループ項目（後にGタイプ・フィールドが続く数値フィールドから構成される）として宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

***NOPIXGGRAPHIC**

DBCSグラフィック・データ・タイプがFILLERフィールドとして定義されます。

***NOFLOAT**

浮動小数点データ・タイプは2進数のUSAGEが指定されたFILLERフィールドとして宣言されます。

***FLOAT**

浮動小数点データ・タイプが、そのDDS名およびCOMP-1（単精度）またはCOMP-2（倍精度）のUSAGEが指定されてプログラムに組み込まれます。これらのフィールドはILE COBOLソース・プログラムにアクセスできるようになります。

***NODATE**

DDS日付データ・タイプが、カテゴリー英数字COBOL日付項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

```
06 FILLER PIC X(10).
```

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***DATE**

DDS日付データ・タイプは、カテゴリー日付COBOLデータ項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

```
06 FILLER FORMAT DATE '@Y-%M-%D'.
```

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***NOTIME**

DDS時刻データ・タイプは、カテゴリー英数字COBOLデータ項目として宣言されます。たとえば次のようになります。

06 FILLER PIC X(10).

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***TIME** DDS時刻データ・タイプが、カテゴリ時刻COBOLデータ項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

06 FILLER FORMAT TIME '%H:%M:%S'.

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***NOTIMESTAMP**

DDSタイム・スタンプ・データ・タイプが、カテゴリ英数字COBOLデータ項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

06 FILLER PIC X(10).

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***TIMESTAMP**

DDSタイム・スタンプ・データ・タイプが、カテゴリのタイム・スタンプCOBOLデータ項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

06 FILLER FORMAT TIMESTAMP '%H:%M:%S'.

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***NOCVTTODATE**

DATFMTキーワードを指定したDDSデータ・タイプ(DDS日付データ・タイプを除く)は、元のDDSタイプに基づいてILE COBOLで宣言されます。

***CVTTODATE**

DATFMTキーワードを指定したDDSデータ・タイプ(DDS日付データ・タイプを除く)は、日付データ・タイプとしてILE COBOLで宣言されます。

***NOPICNGRAPHIC**

DBCSグラフィック・データ・タイプがFILLERフィールドとして定義されます。

***PICNGRAPHIC**

固定長DBCSグラフィック・データ・タイプは固定長各国語データ・フィールドとして宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

[トップ](#)

メッセージ限界 (MSGLIMIT)

各コンパイル単位について、その数だけのエラーが発生するとコンパイルが停止する特定のエラー重大度レベルのメッセージの最大数を指定します。1つのコンパイル単位がこの最大数に達すると、ソース・メンバー全体のコンパイルが停止されます。

たとえば、メッセージの最大数に3を指定し、エラー重大度レベルに20を指定した場合には、20以上の重大度レベルのエラーが3つまたはそれ以上起こった場合に、コンパイルが停止します。指定のエラー重大度レベルと等しいかまたは超えているメッセージがない場合には、見つかったエラーの数に関係なくコンパイルは続行されます。

メッセージの数

メッセージの最大数を指定してください。指定できる値は次の通りです。

***NOMAX**

見つかったエラーの数に関係なく正常完了までコンパイルは続行されます。

最大数 コンパイルが停止する前に指定のエラー重大度レベルでまたはそれ以上で発生可能なメッセージの最大数を指定します。有効な範囲は0-9999です。

メッセージ限界重大度

コンパイルを停止するかどうかを判別するのに使用されるエラー重大度レベルを指定します。指定できる値は次の通りです。

30 重大度レベル30以上のエラーの数が指定されたメッセージの最大数を超えている場合に、コンパイルが停止します。

エラー重大度レベル

コンパイルを停止するかどうかを判別するのに使用したいエラー重大度レベルを、0-30の1桁または2桁の数字で入力してください。この重大度レベル以上のエラーの数が指定されたメッセージの最大数を超えている場合に、コンパイルが停止します。

トップ

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

ソース・プログラムまたは生成されたリストのビューがコンパイル済みプログラムのデバッグ用に使用可能かどうかを制御するオプションを指定します。指定できる値は次の通りです。

***STMT**

記号名およびステートメント番号を使用してコンパイル済みプログラムをデバッグすることができます。

***SOURCE**

COPYステートメントを介して含まれたコピーされたメンバーの他に、1次ソース・メンバーには、コンパイル済みプログラムのデバッグ用に使用可能なソース・ビューがあります。これらのビューは、1次ソース・メンバーおよびコピーされたソース・メンバーがローカル・データベース・ソース・ファイルから参照される場合だけ使用可能です。コンパイルおよびデバッグ中にメンバーを変更または削除しないでください。

***LIST** COPYおよびREPLACEステートメントの処理後にソース・コードを表示するリストは、コンパイル済みモジュールのデバッグに使用することができます。このオプションはコンパイル済みモジュールのサイズが増えますが、コンパイル済みプログラムの実行時パフォーマンスには影響しません。

リスト・ビューは、対応するコンパイラ・オプションが要求されたときに、相互参照表、データ部のマップ、および動詞の使用カウントを含めます。たとえば、OPTION(*XREF)が指定されると、相互参照表が含まれます。

1次ソース・メンバーおよびコピーされたソース・メンバーがどこにあっても、リスト・ビューを生成することができます。リスト・ビューはコンパイル後のソース・メンバーの変更または削除の影響を受けません。

***ALL** *STMT, *SOURCE,および*LISTを組み合わせて指定することと等価です。

***NONE**

コンパイル済みプログラムをデバッグすることはできません。これはコンパイル済みプログラムのサイズを減少しますが、その実行時パフォーマンスに影響しません。このオプションを指定した時には、定様式ダンプをとることはできません。

[トップ](#)

最適化レベル (OPTIMIZE)

プログラムの最適化のレベルを指定します。指定できる値は次の通りです。

***NONE**

コンパイル済みプログラムで最適化は実行されません。このオプションを使用した時には、コンパイル時間は最小化されます。このオプションによって、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。

***BASIC**

コンパイル済みプログラムで一部の最適化（ローカル・ブロック・レベルでのみ）が実行されます。このオプションによって、デバッグ中にユーザー変数を表示できますが、変更することはできません。

***FULL** コンパイル済みモジュールで完全な最適化（グローバル・レベルで）が実行されます。この最適化によって、コンパイル時間は増えますが、最も効率的なコードが生成されます。このオプションによって、デバッグ中にユーザー変数を表示できますが、変更することはできません。表示された変数の値は最新の値でない場合があります。一部の変数は、表示されない場合があります。

注: 選択した最適化レベルに関係なく、全面的な最適化を可能にするすべての情報が生成されません。ユーザーは、ソース・プログラムを再コンパイルすることなく、CHGMOD コマンドを使用して、プログラム・オブジェクトの*NONEから*FULLまで最適化レベルを変更することができます。

[トップ](#)

FIPSフラグ付け (FLAGSTD)

FIPSフラグ付けのオプションを指定します。（FIPSメッセージで使用された参照番号が固有であることを確認するためには、*LINENUMBERオプションを選択してください。）指定できる値は次の通りです。

***NOFIPS**

ILE COBOLソース・プログラムにはFIPSフラグ付きではありません。

***MINIMUM**

最低サブセット以上のFIPSフラグ。

***INTERMEDIATE**

中間サブセット以上のFIPSフラグ。

***HIGH** 高サブセットのFIPSフラグ。

***NOBSOLETE**

使用しない言語要素にフラグが付けられません。

***OBSOLETE**

使用されなくなった言語要素にフラグが付けられます。

トップ

拡張表示オプション (EXTDSPOPT)

ワークステーション入出力用に拡張ACCEPTおよび拡張DISPLAYステートメントを使用するためのオプションを指定します。指定できる値は次の通りです。

***DFRWR**

拡張DISPLAYステートメントは、拡張ACCEPTステートメントが見つかるか、あるいはバッファーが満たされるまで、バッファーの中に保留されます。

バッファーの内容は、拡張ACCEPTステートメントが見つかるか、あるいはバッファーが満たされた時に表示装置に書き出されます。

***NODFRWR**

各拡張DISPLAYステートメントはそれが出てきた時に実行されます。

***UNDSPCHR**

表示可能および表示不能文字は、拡張ACCEPTおよび拡張DISPLAYステートメントによって処理されます。

***NOUNDSPCHR**

表示可能文字だけが、拡張ACCEPTおよび拡張DISPLAYステートメントによって処理されます。

リモート3174および3274制御装置に接続された表示装置にこのオプションを使用しなければなりません。ローカル・ワークステーションにもこのオプションを使用することができます。このオプションを使用する場合には、データに表示可能文字だけが入っていなければなりません。データに16進数20より小さい値が入っている場合には、予期しない画面様式から重大エラーに至る結果を予測することはできません。

***ACCUPDALL**

UPDATE句の存在に関係なく、拡張ACCEPTステートメントですべてのタイプのデータが事前表示されます。

***ACCUPDNE**

UPDATE句が含まれていない拡張ACCEPTステートメントで数字編集されたデータだけが事前表示されます。

トップ

フラグ重大度 (FLAG)

コンパイル・リストに表示するメッセージの最小重大度レベルを指定します。指定できる値は次の通りです。

0 すべてのメッセージがコンパイル・リストに表示されます。

重大度レベル

コンパイル・リストに表示したいメッセージの最小重大度レベルを指定する1桁または2桁の数字を入力してください。指定されたこの値以上の重大度レベルをもつメッセージがコンパイル・リストに表示されます。

トップ

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定されたライブラリーまたは暗黙のライブラリーに同じ名前のプログラムがすでに存在している時に、新しいプログラムを作成するかどうかを指定します。CRTBNDCBL コマンドの処理中に作成される中間モジュール・オブジェクトはREPLACE指定の対象ではなく、QTEMPライブラリーに対してはREPLACE(*NO)が暗黙に指定されたものと見なされます。中間モジュール・オブジェクトは、CRTBNDCBLコマンドが処理を完了すると削除されます。REPLACEパラメーターに指定できる値は、次の通りです。

- *YES** 新しいプログラムが作成され、指定されたライブラリーまたは暗黙のライブラリーの同じ名前のすべてのプログラムを置き換えます。指定されたライブラリーまたは暗黙のライブラリーの同じ名前の既存のプログラムはライブラリーQRPLOBJに移動されます。
- *NO** 指定されたライブラリーまたは暗黙のライブラリーに同じ名前のプログラムがすでに存在している場合には、新しいプログラムは作成されません。既存のプログラムは置き換えられず、メッセージが表示され、コンパイルは停止します。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

作成されたプログラム・オブジェクトを実行するユーザー・プロファイルを指定します。プログラムを実行し、プログラム（各プログラムに対してオブジェクトが持っている権限を含む）によってオブジェクトを使用可能にすることを制御するために、プログラム所有者またはプログラム・ユーザーのプロファイルが使用されます。プログラムがすでに存在している場合には、このパラメーターは更新されません。USRPRFの値を変更するためには、プログラムを削除し、正しい値を使用してコンパイルし直してください（あるいは、矛盾しない*MODULEオブジェクト（1つまたは複数）が存在する場合には、CRTPGMコマンドを呼び出すことを選択することができます）。

指定できる値は次の通りです。

***USER**

プログラムが実行される時に、プログラムの使用者のユーザー・プロファイルが使用されます。

***OWNER**

プログラムが実行される時に、プログラムの所有者と使用者の両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラム・オブジェクトの実行時に、オブジェクトを見つけてアクセスするために、所有者とユーザーの両方のプロファイルのオブジェクト権限の集合セットが使用されます。プログラムの実行時に作成されるオブジェクトは、すべてプログラムのユーザーによって所有されます。

トップ

権限 (AUT)

プログラム・オブジェクトに対する特定権限を持っていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、またはグループがプログラム・オブジェクトに対する特定権限を持っていないユーザーに与える権限を指定します。プログラム・オブジェクトを作成した後で、GRTOBJAUT (オブジェクト権限認可) または RVKOBJAUT (オブジェクト権限取り消し) コマンドを使用してすべてのユーザーまたは特定のユーザーの権限を変更することができます。

指定できる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

オブジェクトの共通認可は、宛先ライブラリー (作成されたプログラム・オブジェクトを入れるライブラリー) のCRTAUTキーワードから引用されます。この値はプログラム・オブジェクトが作成される時に決定されます。プログラム・オブジェクトが作成された後で、CRTAUTの値が変更された場合には、新しい値は既存のすべてのオブジェクトに影響しません。

***ALL** 所有者に限定されているか、または権限リスト管理権限によって管理されている以外のプログラム・オブジェクトにすべての操作を実行する権限を提供します。ユーザーはプログラム・オブジェクトの存在を制御し、それを機密保護し、それを変更し、それに対して基本機能を実行することができますが、その所有権を転送することはできません。

*CHANGE

所有者に限定されているか、または権限リスト管理権限によって管理されている以外のプログラム・オブジェクトにすべてのデータ権限およびプログラム・オブジェクトに対してすべての操作を実行する権限を提供します。ユーザーはオブジェクトを変更し、それに対して基本機能を実行することができます。

***USE** プログラム・オブジェクトに対する基本操作の権限である、オブジェクト操作権および読み取り権限を提供します。ユーザーはオブジェクトに対して基本的な操作を実行することができますが、オブジェクトを変更することはできません。

*EXCLUDE

ユーザーはプログラム・オブジェクトにアクセスすることができません。

権限リスト名

ユーザーの権限リストの名前およびプログラムを追加する権限。この権限リストによってプログラム・オブジェクトが保護され、プログラム・オブジェクトに対する共通認可が*AUTLにセットされます。CRTBNDCBLコマンドが出された時に、この権限リストはシステム上に存在していなければなりません。権限リスト作成(CRTAUTL)コマンドを使用してユーザー専用の権限リストを作成してください。

トップ

リンク・リテラル (LINKLIT)

外部CALL/CANCEL 'リテラル' 行き先およびSET ENTRY行き先の関係タイプを指定します。SPECIAL-NAMES段落に次の文を指定することによって、特定の外部CALL/CANCEL 'リテラル' 行き先およびSET ENTRY行き先リストに対するこのオプションを一時変更することができます。

LINKAGE TYPE IS プログラム内ファイル名 FOR 行き先リスト。

LINKLITに指定できる値は、次の通りです。

***PGM** CALL/CANCELまたはSET ENTRYの行き先はプログラム・オブジェクトです。

***PRC** CALL/CANCELまたはSET ENTRYの行き先はILEプロシージャです。

トップ

単純プログラム (SIMPLEPGM)

ソース・プログラムの順序にしたがってコンパイル単位ごとにプログラム・オブジェクトを作成するかどうかを指定します。このオプションは、このコマンドに対する入力ソース・メンバーに複数のモジュールを生成する一連のソース・プログラムが入っている場合にだけ意味があります。このオプションが指定され、入力ソース・メンバーに一連のソース・プログラムが入っていない場合には、このオプションは無視されません。指定できる値は次の通りです。

- *YES** 一連のソース・プログラム中の各コンパイル単位ごとにプログラム・オブジェクトが作成されます。REPLACE(*NO)を指定し、一連のソース・プログラムのコンパイル単位に同じ名前のプログラム・オブジェクトが存在している場合には、そのプログラム・オブジェクトは置き換えられず、次のコンパイル単位からコンパイルが続行されます。
- *NO** 一連のコンパイル単位すべてから、単一のプログラム・オブジェクトが作成され、最初のコンパイル単位がプログラムの入り口を表します。SIMPLEPGM(*NO)を指定し、一連のソース・プログラムの中の1つのソース・プログラムがモジュールを正常に生成できなかった場合には、後続の一連のソース・プログラムはすべて、モジュールを正常に生成しないことになります。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成されるプログラム・オブジェクトを使用する予定であるオペレーティング・システムのリリースを指定します。***CURRENT**および***PRV**値の説明で示した例および ターゲット・リリース 値を指定するときのリリースの指定方法はVXR_{MX}の形式です。ここで、VXはバージョンで、RXはリリースで、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V2R3M0はバージョン2,リリース3,モディフィケーション・レベル0です。

このパラメーターに有効な値はリリースごとに変わります。指定できる値は次の通りです。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在システムで実行されているオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、システムでV2R3M5が実行されている場合には、***CURRENT**はV2R3M5が導入されているシステムでオブジェクトを使用する予定であることを意味します。また、このオブジェクトは、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することもできます。

注: システム上でV2R3M5が実行されている場合で、オブジェクトをV2R3M0が導入されているシステムで使用したい場合には、TGTRLS(*CURRENT)ではなくTGTRLS(V2R3M0)を指定してください。

- *PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベルが0のオペレーティング・システムの前のリリースで使用されます。たとえば、ユーザーのシステムでV2R3M5が実行されている場合には、***PRV**はV2R2M0が導入されているシステムでオブジェクトを使用する予定であることを意味します。また、このオブジェクトは、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は、現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりも前の ターゲット・リリース を指定した場合には、エラー・メッセージが出され、サポートされる最も古いリリースが表示されます。

注: コマンドの現行バージョンは、前のコマンドのリリースでは使用できないオプションをサポートすることもあります。コマンドが前のリリースで使用するオブジェクトを作成するために使用された場合には、そのリリースに適したコンパイラーで処理されて、サポートされないオプションは認識されません。コンパイラーは、必ずしも処理できないオプションに関しての警告を出すとは限りません。

トップ

ソート順序 (SRTSEQ)

ALPHABET文節の中でNLSSORTが英字名と関連している時に使用されるソート順序を指定します。SRTSEQパラメーターは、プログラム・オブジェクトが使用するシステム定義またはユーザー定義のソート順序テーブルを決定するために、LANGIDパラメーターと一緒に使用されます。指定できる値は次の通りです。

***HEX** ソート順序テーブルは使用されず、ソート順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

***JOB** ソート順序は、コンパイル時にコンパイル・ジョブのソート順序を使用して分析解決され、プログラム・オブジェクトと関連づけられます。ソート順序テーブルはコンパイル時にシステムに存在していなければなりません。実行時に、実行時ジョブのCCSIDのソート順序がコンパイル時ジョブのCCSIDと異なっている場合には、コンパイル時にロードされたソート順序テーブルが、実行時ジョブのCCSIDと一致するように変換されます。

*JOB RUN

プログラムのソート順序は、実行時に分析解決され、プログラムと関連づけられます。コンパイル時に、コンパイラーはコンパイル・ジョブのソート順序をプログラムと関連づけます。実行時に、このソート順序は実行時にジョブと関連づけるソート順序に置き換えられます。この値によって、プログラムはいったんコンパイルされて、実行時に別のソート順序と一緒に使用されます。

*LANGID UNQ

使用中のソート順序テーブルにはコード・ページ中の各文字に対する固有の重みが入っていないことを指定します。使用されるソート順序テーブルは、LANGIDパラメーターで指定された言語と対応した、固有の重みづけされたテーブルでなければなりません。

*LANGID SHR

使用中のソート順序テーブルにはコード・ページ中の複数の文字に同じ重みを入れることができることを指定します。使用されるソート順序テーブルは、LANGIDパラメーターで指定された言語と対応した、共用の重みづけされたテーブルです。

テーブル名

使用するソート順序テーブルの名前を指定してください。テーブルには指定されたコード・ページ中のすべての文字に対する重みが入っています。重みは、コード・ポイントで定義された文字と関

連づけられています。ソート順序テーブル名を使用する時に、オブジェクトが存在するライブラリーを指定することができます。有効なライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ソート順序テーブルが入っているライブラリーを見つけるためにライブラリー・リストが探索されます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソート順序テーブルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

言語ID (LANGID)

ソート順序との組み合わせで使用される言語IDを指定します。LANGIDパラメーターは、有効なSRTSEQ値が*LANGIDUNQまたは*LANGIDSHRの時にだけ使用されます。指定できる値は次の通りです。

***JOBRUN**

プログラムの言語IDは実行時に分析解決されます。コンパイル済みプログラムを実行する時に、ジョブの言語IDが使用されます。この値によって、プログラムはいったんコンパイルされて、実行時に別の言語IDと一緒に使用されます。

***JOB** プログラムの言語IDはコンパイル時に分析解決されます。

言語ID名

有効な3文字の言語IDを入力してください。

トップ

パフォーマンス収集の活動化 (ENBPFRCOL)

モジュールまたはプログラムの中でパフォーマンス測定コードを生成するかどうかを指定します。収集されたデータを使用して、システム・パフォーマンス・ツールでアプリケーションのパフォーマンスのプロファイルを作成することができます。コンパイル済みのモジュールまたはプログラムにパフォーマンス測定コードの追加を生成することにより、オブジェクトがわずかに大きくなり、パフォーマンスに影響することがあります。

***PEP** パフォーマンス統計は、プログラム入りロブローチャーの入り口および出口にのみ収集されます。アプリケーションの全体的なパフォーマンス情報を収集したい場合には、この値を選択してください。このサポートは、前にTPSTツールが提供されたサポートと同等です。これは省略時の値です。

***ENTRYEXIT**

パフォーマンス統計は、プログラムのすべてのプロローチャーの入り口および出口に収集されます。これには、プログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、すべてのルーチンについての情報を収集したい場合に便利です。ユーザー・アプリケーションによって呼び出されるすべてのプログラムが*PEP、*ENTRYEXITまたは*FULLオプションを使用してコンパイルされたことが分かっている場合には、このオプションを使用してください。

い。そうでない場合には、ユーザー・アプリケーションがパフォーマンス測定が不能な他のプログラムを呼び出した場合には、パフォーマンス測定ツールは、それらのプログラムが資源を使用することはユーザー・アプリケーションに責任があるものと見なします。これにより、実際に資源がどこで使用されるのかを判別することが困難となります。

***FULL** パフォーマンス統計はすべてのプロシーチャーの入り口および出口に収集されます。また、統計は外部プロシーチャーに対する各呼び出しの前後に収集されます。

ユーザー・アプリケーションが、*PEP、*ENTRYEXITまたは*FULLのいずれかを使用してコンパイルされたものではない他のプログラムを呼び出すと思われる場合には、このオプションを使用してください。このオプションを使用することにより、パフォーマンス・ツールは、ユーザー・アプリケーションによって使用される資源と、ユーザー・アプリケーションが呼び出すプログラムによって使用される資源を区別することができます（呼び出されるプログラムがパフォーマンス測定不能であっても）。このオプションは最も不経済ですが、アプリケーション中のいろいろなプログラムを選択的に分析することができます。

トップ

バインドイング・ディレクトリー (BNDDIR)

記号解析で使用されるバインドイング・ディレクトリーのリストを指定します。

***NONE**

バインドイング・ディレクトリーは指定されません。

バインドイング・ディレクトリー名

記号解析で使用されるバインドイング・ディレクトリーの名前を指定してください。ディレクトリー名は次のライブラリー値の1つで修飾することができます：

***LIBL** システムは、バインドイング・ディレクトリーが記憶されているライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストを検索します。これは省略時の値です。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分の中のライブラリーだけが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

活動化グループ (ACTGRP)

このプログラムが呼び出された時にこのプログラムに関連する活動化グループを指定します。

QILE このプログラムが呼び出されると、プログラムは指定の活動化グループQILEに活動化されます。これは省略時の値です。

***NEW** このプログラムが呼び出されると、プログラムは新しい活動化グループに活動化されます。

***CALLER**

このプログラムが呼び出されると、プログラムは呼び出し側の活動化グループに活動化されます。

活動化グループ名

このプログラムが呼び出された時に使用する活動化グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

プロフィール・データ (PRFDTA)

プログラムにプログラム・プロフィール・データ属性を指定します。プログラム・プロフィールは、統計データ（プロフィール・データ）に基づいてプロシージャおよびプロシージャ内のコードを再順序づけるために使用される拡張最適化手法です。

***NOCOL**

このプログラムはプロフィール・データを収集できません。これは省略時の値です。

COL** プログラムはプロフィール・データを収集できます。COL**を指定できるのは、モジュールの最適化レベルが***FULL**の時だけです。

注: BNDDIRパラメーターを使用して追加のモジュールおよびサービス・プログラムをバインドする場合に、***COL**または***NOCOL**がプログラムに指定されている時にはこれら追加のオブジェクトは影響を受けません。モジュールのプログラム・プロフィール・データ属性は、モジュール作成時に設定されます。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

実行時にファイル中のレコードとLOCALEと関連したデータが変換されるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

***JOBRUN**

プログラムのCCSIDが実行時に解決されます。コンパイル済みプログラムを実行すると、現行ジョブの省略時値CCSIDが使用されます。

***JOB** コンパイル時の現行ジョブの省略時値CCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、フィールドのデータがビット・データとして扱われ、変換されないことを示します。

コード化文字セットID

使用するCCSIDを指定します。

[トップ](#)

演算モード (ARITHMETIC)

数字データに演算モードを指定します。指定できる値は次の通りです。

***NOEXTEND**

このオプションは、数字データの省略時の演算モードを指定します。固定小数点演算式の間接結果は最大30桁までで、数値リテラルの最大長は18桁だけです。

***EXTEND31**

固定小数点演算の中間結果の精度を増すには、このオプションを使用してください。固定小数点演算式の中間結果は最大31桁までで、数値リテラルの最大長は31桁の場合があります。

***EXTEND63**

固定小数点演算の中間結果の精度を増すには、このオプションを使用してください。固定小数点演算式の中間結果は最大63桁までで、数値リテラルの最大長は63桁とすることができます。

[トップ](#)

PADDING CHARACTER (NTLPADCHAR)

以下のような変換状態で埋め込みが行われる時に使用される各国語埋め込み文字(NTLPADCHAR)を指定します。

- 1.単一バイト文字を国別文字へ。
- 2.2バイト文字を国別文字へ。
- 3.国別文字を国別文字へ。

***DEFAULT**

このオプションは、以下のような省略時の埋め込み文字を指定します。

- 1.単一バイト文字を国別文字へ(NX"0020")
- 2.2バイト文字を国別文字へ(NX"3000")
- 3.国別文字を国別文字へ(NX"3000")

各国語16進リテラル

長さが1の有効な任意の各国語16進リテラルをNX" "またはNX' 'の形式で指定します。

[トップ](#)

LICENSED INTERNAL CODE OPTIONS (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターを使用すれば個別のコンパイル時オプションを選択できますが、これは、選択した個々のコンパイラ・オプションのタイプの潜在的な利点と欠点を理解している上級プログラマーを対象としています。

[トップ](#)

ディレクトリー組み込み (INCDIR)

コピー・ファイルを探すためにコンパイラが使用する検索パスに追加する1つまたは複数のディレクトリーを指定します。コンパイラは、ソース・プログラムのコピー・ファイルを解決できない場合には、ここで指定したディレクトリーを検索します。

***NONE**

ユーザー・ディレクトリーでコピー・ファイルは検索されません。省略時値では、現行ディレクトリーが検索されます。

'ディレクトリー'

コピー・ファイルを検索する最大32のディレクトリーを指定してください。指定されたディレクトリーに加えて、現行ディレクトリーでもコピー・ファイルが検索されます。

[トップ](#)

プログラム・インターフェース生成 (PGMINFO)

プログラム・インターフェース情報をストリーム・ファイルに生成するかどうかを指定します。指定できる値は次の通りです。

***NO** このオプションは、プログラム・インターフェース情報を生成しない省略時値を指定します。

***PCML**

PCML（プログラム呼び出しマークアップ言語）をストリーム・ファイルに生成するように指定します。生成されたPCMLは、JAVAメソッドによるこのCOBOLプログラムの呼び出しを容易にするので、JAVAコードは少なく済みます。生成されたPCMLを入れるストリーム・ファイルの名前は、INFOSTMFオプションで指定しなければなりません。

[トップ](#)

プログラム・インターフェース・ストリーム・ファイル (INFOSTMF)

PGMINFOオプションで指定された生成されたプログラム・インターフェース情報を入れるストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対的または相対的に修飾することができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合には、パス名は完全です。相対修飾の場合には、パス名は、パス名にジョブの現行作業ディレクトリーを付加することによって完了します。

このパラメーターを指定できるのは、PGMINFOパラメーターに*NO以外の値がある場合だけです。

[トップ](#)

例

例1:ソース・プログラムをプログラム・オブジェクトにコンパイル

```
CRTBNDCBL  PGM(MYLIB/XMPLE1) SRCFILE(MYLIB/QCBLLESRC)
           SRCMBR(XMPLE1)  OUTPUT(*PRINT)
           TEXT('MY ILE COBOLプログラム')
```

このコマンドは、ILE COBOLコンパイラーを呼び出し、XMPLE1という名前のプログラムを作成します。ソース・プログラムは、ライブラリーMYLIBのソース・ファイルQCBLLESRCのメンバーXMPLE1に入っています。コンパイル・リストが作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

LNC9001

コンパイルは正常に行なわれません。&1は作成されていません。

LNC9006

TGTRLS(&1)が指定されましたが、コンパイラーが導入されていません。

LNC9007

プロダクト・ライブラリーに損傷があるか、あるいはユーザーにはその使用が認可されていない。

LNC9015

TGTRLS(&1)が正しくない。

[トップ](#)

結合C++プログラム作成 (CRTBNDCPP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

結合C++プログラム作成(CRTBNDCPP)コマンドは、ILE C++コンパイラーを開始します。このコマンドは、バッチか対話式のどちらかのモードか、あるいはCLプログラムから使用することができます。コンパイラーは、ソース・コード中のILE C++ステートメントに基づいてプログラム・オブジェクトを作成しようとします。

注: CRTBNDCPPコマンドが起動されると、一時モジュール・オブジェクトがQTEMPライブラリーに作成されます。この一時モジュール・オブジェクトの名前は、CRTBNDCPPコマンドのPGMパラメーターに指定した名前と同じです。その名前のモジュール・オブジェクトがすでにQTEMPに存在している場合には、エラー・メッセージが生成されて、コンパイルは停止します。CRTBNDCPP コマンドで使用された一時モジュール・オブジェクトは、コンパイルが正常に行われたかどうかにかかわらず、コンパイルが停止した後に削除されます。

エラー・メッセージ: CRTBNDCPP

*ESCAPE メッセージ

CZS1613

コンパイルに失敗しました。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCPPSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 3
SRCSTMF	ソース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力オプション	単一値: *NONE, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 出力ファイル名	パス名, *PRINT, *PRINT	
	要素 2: タイトル	文字値, *BLANK	
	要素 3: サブタイトル	文字値, *BLANK	

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	コンパイラー・オプション	値 (最大 35 回の繰り返し): *NOBITSIGN, *BITSIGN, *NOEVENTF, *EVENTF, *NOEXPMAC, *EXPMAC, *NOLOGMSG, *LOGMSG, *NOLONGLONG, *LONGLONG, *NORTTI, *RTTIAL, *RTTITYPE, *RTTICAST, *NOSHOWINC, *SHOWINC, *NOSHOWSRC, *SHOWSRC, *NOSHOWSYS, *SHOWSYS, *NOSHOWUSR, *SHOWUSR, *NOSYSINCPATH, *SYSINCPATH, *NOSTDINC, *STDINC, *NOINCDIRFIRST, *INCDIRFIRST, *NOXREF, *XREF, *NOXREFREF, *XREFREF, *NOFULL, *FULL, *NOSTDLOGMSG, *STDLOGMSG	オプション
CHECKOUT	チェックアウト・オプション	値 (最大 45 回の繰り返し): * NONE , *USAGE, *ALL, *NOCLASS, *CLASS, *NOCOND, *COND, *NOEFFECT, *EFFECT, *NOGENERAL, *GENERAL, *NOLANG, *LANG, *NOPARM, *PARM, *NOPORT, *PORT, *NOREACH, *REACH, *NOTEMP, *TEMP, *NOTRUNC, *TRUNC, *NOUNUSED, *UNUSED	オプション
OPTIMIZE	最適化	10 , 20, 30, 40	オプション
INLINE	インライン・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: インライナー	* OFF , *ON	
	要素 2: モード	* NOAUTO , *AUTO	
	要素 3: しきい値	1-65535, 250 , *NOLIMIT	
	要素 4: 限界	1-65535, 2000 , *NOLIMIT	
	要素 5: 報告書	* NO , *YES	
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	* NONE , *ALL, *STMT, *SOURCE, *LIST	オプション
DEFINE	名前の定義	単一値: * NONE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 文字値	オプション
LANGLVL	言語レベル	* EXTENDED , *ANSI, *LEGACY	オプション
ALIAS	別名	値 (最大 3 回の繰り返し): * ANSI , *NOANSI, *ADDRTAKEN, *NOADDRTAKEN, *ALLPTRS, *NOALLPTRS, *TYPEPTR, *NOTYPEPTR	オプション
SYSIFCOPT	SYSTEMインターフェース OPT	* IFS64IO , *IFSIO, *NOIFSIO	オプション
LOCALETYPE	LOCALEオブジェクト・タイプ	* LOCALE , *LOCALEUCS2, *LOCALEUTF	オプション
FLAG	メッセージのフラグ・レベル	0 , 10, 20, 30	オプション
MSGLMT	コンパイラー・メッセージ	要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ限界	0-32767, * NOMAX	
	要素 2: メッセージ限界の重大度	0, 10, 20, 30	
REPLACE	PGMオブジェクトの置き換え	* YES , *NO	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	* USER , *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, * LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, * CURRENT , *PRV	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集の使用可能	要素リスト	オプション
	要素 1: 収集レベル	* PEP , *ENTRYEXIT, *FULL	
	要素 2: プロシージャ	*NONLEAF, *ALLPRC	

キーワード	記述	選択項目	注
PFROPT	パフォーマンス・オプション	値 (最大 2 回の繰り返し): *SETFPCA, *NOSETFPCA, *NOSTRDONLY, *STRDONLY	オプション
PRFDTA	プロファイル作成データ	* NOCOL , *COL	オプション
TERASPACE	テラスペース・オプション	単一値: * NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: テラスペース使用可能	* YES	
	要素 2: TERASPACE INTERFACESの使用	* NOTSIFC , *TSIFC	
STGMDL	ストレージ・モデル	* SNGLVL , *TERASPACE	オプション
DTAMD	データ・モデル	* P128 , *LLP64	オプション
RTBND	実行時バインド	* DEFAULT , *LLP64	オプション
PACKSTRUCT	パック構造	* NATURAL , 1, 2, 4, 8, 16	オプション
ENUM	Enumサイズ	* SMALL , 1, 2, 4, *INT	オプション
MAKEDEP	依存関係情報	パス名, * NONE	オプション
INCDIR	組み込みディレクトリー	単一値: * NONE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): パス名	オプション
CSOPT	コンパイラー・サービスOPT	文字値, * NONE	オプション
LICOPT	ライセンス内部コードOPT	文字値, * NONE	オプション
DFTCHAR	省略時の文字タイプ	* UNSIGNED , *SIGNED	オプション
TGTCCSID	ターゲットCCSID	1-65535, * SOURCE , *JOB, *HEX	オプション
TEMPLATE	テンプレート・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 一時組み込みディレクトリー	パス名, * NONE , *TEMPINC	
	要素 2: 生成済み最大見出し数	1-99999, 1	
	要素 3: テンプレートの妥当性検査	* NO , *WARN, *ERROR	

トップ

プログラム (PGM)

作成されたプログラム・オブジェクトの名前およびライブラリーを指定します。

プログラム名

プログラム・オブジェクトの名前を入力します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

プログラム・オブジェクトは現行ライブラリーに保管されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、プログラム・オブジェクトはQGPLライブラリーに作成されます。

ライブラリー名

作成されるプログラム・オブジェクトが保管されるライブラリーの名前を指定してください。

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルしたいILE C++ソース・コードが入っているファイルのソース・ファイル名およびライブラリーを指定します。

QCPPSRC

QCPPSRCという名前のソース・ファイルに、コンパイルしたいILE C++ソース・コードを含むメンバーが入っています。

ソース・ファイル名

ILE C++ソース・コードを含むメンバーが入っているソース・ファイルの名前を入力します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ソース・ファイルがあるライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルは現行ライブラリーから検索されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、ソース・ファイルはQGPLライブラリーから検索されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力します。

トップ

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルするソース・コードが入っているメンバーの名前を指定します。

***PGM** PGMパラメーターで提供されたプログラム名がソース・メンバー名として使用されます。

メンバー名

ソース・コードが入っているメンバーの名前を入力します。

トップ

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)

コンパイルしたいソース・コードが入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。

パス名は絶対修飾パス名か相対修飾パス名のどちらかにすることができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。絶対修飾の場合には、そのパス名で完全です。相対修飾の場合には、ジョブの現行作業ディレクトリーをパス名に対して事前に入手することによって、そのパス名は完全なものとなります。

SRCMBRおよびSRCFILEパラメーターをSRCSTMFパラメーターと一緒に指定することはできません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

プログラム・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

*SRCMBRTXT

ソース・ファイル・メンバーに関連したテキスト記述がプログラム・オブジェクトに使用されます。ソース・ファイルがインライン・ファイル、ストリーム・ファイル、または装置ファイルである場合には、テキストはブランクとなります。

*BLANK

テキストは現れないことを指定します。

'記述' 50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定します。

[トップ](#)

出力オプション (OUTPUT)

コンパイラー・リストが生成されるかどうかを指定します。

単一の値

*NONE

コンパイラー・リストは生成しません。リストが必要でない場合であっても、このパラメーター値を使用してコンパイル時のパフォーマンスを改善することが必要です。*NONEが指定されると、OPTIONパラメーターに指定された、リストと関連するすべてのパラメーター値が無視されます。

要素 1 : 出力ファイル名

*PRINT

リストを含むスプール・ファイルを生成します。

'パス名'

リストを保持するストリーム・ファイルのパス名を指定します。

要素 2 : タイトル

*BLANK

テキストは現れないことを指定します。

'タイトル'

リスト・ファイルのタイトル・ストリング（最大80文字）を指定します。

要素 3 : サブタイトル

*BLANK

テキストは現れないことを指定します。

'サブタイトル'

リスト・ファイルのサブタイトル・ストリング（最大80文字）を指定します。

[トップ](#)

コンパイラー・オプション (OPTION)

ILE C++ソース・コードのコンパイル時に使用するオプションを指定します。それらは、1つ以上のブランクで区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

可能なオプションは次の通りです。

***NOBITSIGN**

ビット・フィールドを符号なしとして指定します。

***BITSIGN**

ビット・フィールドを符号付きとして指定します。

***NOEVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)によって使用するためのイベント・ファイルは作成しません。

***EVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)によって使用するためのイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、作成されたモジュールまたはプログラム・オブジェクトが保管されるライブラリーにファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。EVFEVENTが存在しない場合には、それが自動的に作成されます。イベント・ファイル・メンバー名は、作成中のオブジェクトの名前と同じです。CODE/400は、このファイルを使用して、CODE/400編集機能によって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、イベント・ファイルは、CODE/400内からモジュールまたはプログラム・オブジェクトを作成するときに作成されます。

***NOEXPMAC**

マクロの中に構文エラーが見つからなければ、リスト中のマクロは展開されません。

***EXPMAC**

リスト中のすべてのマクロを展開します。

***NOFULL**

すべてのリスト・オプションはオンにしません。

***FULL** すべてのリスト・オプションをオンにします。

***NOINCDIRFIRST**

INCDIRパラメーターとして指定された組み込みディレクトリーは、標準見出しファイルの組み込みパスの前には組み込まれません。

***INCDIRFIRST**

INCDIRパラメーターとして指定された組み込みディレクトリーが、標準見出しファイルの組み込みパスの前に組み込まれます。

***LOGMSG**

コンパイル・メッセージをジョブ・ログに書き込みます。

このオプションおよびFLAGパラメーターを指定した場合には、FLAGパラメーターに指定された（およびそれより高い）重大度のメッセージがジョブ・ログに入れられます。

このオプション、およびメッセージの最大数をMSGLMTパラメーターに指定した場合には、指定された重大度のその数のメッセージがジョブ・ログに入れられた時に、コンパイルは停止します。

***NOLOGMSG**

コンパイル・メッセージをジョブ・ログに書き込みません。

***LONGLONG**

LONG LONGデータ・タイプの使用を許可します。

***NOLONGLONG**

LONG LONGデータ・タイプの使用は許可しません。

***NORTTI**

実行時タイプ識別コード(RTTI)情報を生成しません。

***RTTIALL**

RTTI TYPEIDおよびDYNAMIC_CAST演算子に必要な情報を生成します。

***RTTITYPE**

RTTI TYPEID演算子のみに必要な情報を生成します。

***RTTICAST**

DYNAMIC_CAST演算子のみに必要な情報を生成します。

***NOSHOWINC**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルまたはシステム組み込みファイルを拡張しません。

***SHOWINC**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルとシステム組み込みファイルの両方を拡張します。OUTPUTオプション,あるいは*ALL, *SOURCE,または*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。

***SHOWSRC**

リストにソース・コードを表示します。このオプションは, *SHOWINC, *SHOWSYS,または*SHOWUSRオプションによって変更することができます。

***NOSHOWSRC**

リストにソース・コードは表示しません。このオプションは, *SHOWINC, *SHOWSYS,または*SHOWUSRオプションによって変更することができます。

***NOSHOWSYS**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#INCLUDEディレクティブのシステム組み込みファイルを拡張しません。システム組み込みファイルは, #INCLUDEディレクティブに続いて不等号括弧(< >)で囲まれます。

***SHOWSYS**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#INCLUDEディレクティブのシステム組み込みファイルを拡張します。出力オプションまたは*ALL, *SOURCE,あるいは*LISTのDBGVIEWパラメーターを指定しなければなりません。システム組み込みファイルは, #INCLUDEディレクティブに続いて不等号括弧(< >)で囲まれます。

***NOSHOWUSR**

リストまたはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルは拡張しません。ユーザー組み込みファイルは, #INCLUDEディレクティブに続いて二重引用符(" ")で囲まれます。

***SHOWUSR**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#INCLUDEディレクティブのユーザー組み込みファイルを拡張します。OUTPUTオプション,あるいは*ALL, *SOURCE,または*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。ユーザー組み込みファイルは, #INCLUDEディレクティブに続いて二重引用符(" ")で囲まれます。

***STDINC**

システム提供の見出しファイルがコンパイルのための検索パスに組み込まれます。

***NOSTDINC**

システム提供の見出しファイルはコンパイルのための検索パスに組み込まれません。

***NOSTDLOGMSG**

コンパイル・メッセージはSTDOUTストリームへ送られません。

***STDLOGMSG**

コンパイル・メッセージがSTDOUTストリームへ送られます。

***NOSYSINCPATH**

ユーザー組み込みの検索パスは影響を与えません。

***SYSINCPATH**

ユーザー組み込みの検索パスをシステム組み込みの検索パスに変更します。関数では、このオプションはユーザー#INCLUDEディレクティブ(#INCLUDE "FILE_NAME")の二重引用符を不等号括弧(#INCLUDE <FILE_NAME>)に変更するのと同じです。

***NOXREF**

リストに相互参照テーブルは生成しません。

***XREF**

ソース・コード中の識別コードのリストとともにそれらが表示される行の番号を含む相互参照テーブルを生成します。OUTPUTオプションを指定しなければなりません。

***NOXREFREF**

参照される識別コードの相互参照テーブルをリストの中に生成しません。

***XREFREF**

参照される変数、構造、および関数名の相互参照テーブルをリスト・ファイルの中に生成します。このテーブルには、識別コードが宣言されている行番号が表示されます。

[トップ](#)

チェックアウト・オプション (CHECKOUT)

考えられるプログラミング・エラーを示す通知メッセージの生成を選択することができるオプションを指定します。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

***NONE**

CHECKOUTのすべてのオプションを使用不可にします。

***USAGE**

これは*CONDを指定するのと同様です。

***ALL** CHECKOUTのすべてのオプションを使用可能にします。

***NOCLASS**

クラスの使用に関する情報は表示しません。

***CLASS**

クラスの使用に関する情報を表示します。

***NOCOND**

条件式での考えられる冗長度または問題について警告はしません。

***COND**

条件式での考えられる冗長度または問題について警告をします。

***NOEFFECT**

無効なステートメントについて警告はしません。

***EFFECT**

無効なステートメントについて警告をします。

***NOGENERAL**

一般チェックアウト・メッセージは生成しません。

***GENERAL**

一般チェックアウト・メッセージを生成します。

***NOLANG**

言語レベルの影響に関する情報は表示しません。

***LANG**

言語レベルの影響に関する情報を表示します。

***NOPARM**

未使用のパラメーターについて警告はしません。

***PARM**

未使用のパラメーターについて警告をします。

***NOPORT**

非可搬言語構造について警告はしません。

***PORT**

非可搬言語構造について警告をします。

***NOREACH**

到達不能ステートメントについて警告はしません。

***REACH**

到達不能ステートメントについて警告をします。

***NOTEMP**

コンパイラーが一時変数を作成した場合にメッセージは生成しません。

***TEMP**

コンパイラーが一時変数を作成した場合にメッセージを生成します。

***NOTRUNC**

データの考えられる切り捨てまたは喪失について警告はしません。

***TRUNC**

データの考えられる切り捨てまたは喪失について警告をします。

***NOUNUSED**

未使用の自動または静的変数は検査しません。

***UNUSED**

未使用の自動または静的変数を検査します。

トップ

最適化 (OPTIMIZE)

生成されたオブジェクトの最適化のレベルを指定します。

- 10** 生成されたコードは最適化されません。このレベルではコンパイル時間は最短となります。このレベルでは、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。
- 20** コードについてある程度の最適化が実行されます。このレベルでは、デバッグ中にユーザー変数を表示することができますが、変更することはできません。
- 30** 生成されたコードについて完全な最適化が実行されます。デバッグ・セッション中に、ユーザー変数を変更することはできませんが、表示することはできます。表示される値は、変数の現行値ではない場合があります。
- 40** 生成されたコードには、レベル30で行われたすべての最適化が実行されます。さらに、命令トレースおよび呼び出しトレース・システム機能を使用可能にするコードが、プロシージャーのプロローグおよびエピローグ・ルーチンから除去されます。このコードを除去することによって、リーフ・プロシージャーの作成が可能になります。リーフ・プロシージャーは、他のプロシージャーに対する呼び出しを含まないプロシージャーです。リーフ・プロシージャーに対するプロシージャー呼び出しのパフォーマンスは、通常のプロシージャーに対する呼び出しより大幅に高速となります。

[トップ](#)

インライン・オプション (INLINE)

コンパイラーでは関数呼び出しの呼び出し先関数の命令による置き換えを考慮する必要があるかどうかを指定します。関数をインライン化することによって、呼び出しのオーバーヘッドが除去されるので、より良好な最適化の結果を得ることができます。何度も呼び出される小さい関数は、インライン化に適した候補です。

要素 1 : インライン化機能

インライン化を使用するかどうかを指定します。

- *OFF** コンパイル単位についてインライン化は実行されないことを指定します。
- *ON** コンパイル単位についてインライン化が実行されることを指定します。デバッグ・ビューが指定された場合には、インライン化機能はオフにされます。

要素 2 : モード

インライン化機能は、その限界値および限界の値に従って関数の自動的なインライン化を試みる必要があるかどうかを指定します。

***NOAUTO**

#PRAGMA INLINEディレクティブによって指定された関数だけをインライン化の候補と見なす必要があることを指定します。

***AUTO**

インライン化機能は、関数をインライン化できるかどうかを指定された限界値および限界の値に基づいて決定する必要があることを指定します。*AUTOは#PRAGMA NOINLINEディレクティブによって指定変更されます。

要素 3 : 限界値

自動インライン化の候補とすることができる関数の最大サイズを指定します。このサイズは抽象コード単位 (ACU) で測定されます。ACUのサイズは関数内の実行可能コードと比例します。ソース・コードは、コンパイラーによって自動的にACUに変換されます。

250 250の限界値を指定します。

ACUの数

1-65535のACUの限界値を指定します。

***NOLIMIT**

しきい値をプログラム・オブジェクトの最大サイズとして定義します。

要素 4 : 限界

自動インライン化が停止するまで拡張できる関数の最大相対サイズを指定します。

2000 2000のACUの限界を指定します。

***NOLIMIT**

限界がプログラム・オブジェクトの最大サイズとして定義されます。システム限界が見つかることがあります。

ACUの数

1-65535のACUの限界を指定することができます。

要素 5 : 報告書

コンパイラー・リストとともにインライン化機能報告書を生成するかどうかを指定します。

***NO** インライン化報告書は生成されません。

***YES** インライン化報告書がコンパイラー・リストの一部として生成されます。インライン化報告書を生成するには、OUTPUTオプションを指定しなければなりません。

[トップ](#)

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

作成されたプログラム・オブジェクトのモジュールに使用可能なデバッグのレベルを指定します。これは、また、ソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューも指定します。デバッグ・ビューを要求すると、インライン化はオフになります。

***NONE**

デバッグ機能はプログラム・オブジェクトに挿入されません。

***ALL** すべてのデバッグ・オプション(*STMT, *SOURCE, および*LIST)が使用可能になります。

***STMT**

プログラム・ステートメント番号および記号識別コードを使用してプログラム・オブジェクトをデバッグすることができます。

注: *STMTオプションを使用してモジュール・オブジェクトをデバッグするには、リストが必要です。

*SOURCE

プログラム・オブジェクトをデバッグするためのソース・ビューを生成します。作成されるソース・ビューの内容は、OPTIONパラメーターの値***NOSHOWINC**、***SHOWINC**、***SHOWSYS**、および***SHOWUSR**によって決まります。

注: このビューをデバッグ用に使用するためには、プログラム・オブジェクトの作成後にルート・ソース・ファイルが変更、名前変更、または移動されてはいけません。

LIST** プログラム・オブジェクトをデバッグするためのリスト・ビューを生成します。OPTIONパラメーターの値SHOWINC**、***SHOWUSR**、***SHOWSYS**、および***NOSHOWINC** は、作成されるリスト・ビューの内容を決定します。

トップ

名前の定義 (DEFINE)

ファイルがコンパイラーによって処理される前に有効となるプリプロセッサ・マクロを指定します。様式 **DEFINE(MACRO)**は**DEFINE('MACRO=1')**と同等です。

*NONE

マクロは定義されません。

'名前'または'名前=値'

最大32個のマクロを定義することができます。それぞれのマクロ名はアポストロフィで囲まれます。マクロ名の最大長は80文字です。アポストロフィは、この80文字のストリングの一部ではありません。アポストロフィは大文字小文字の区別があるマクロ名の場合に必要です。

注: コマンドで定義されたマクロにより、ソース内の同じ名前のすべてのマクロ定義は指定変更されますが、コンパイラーによって警告メッセージが生成されます。**#DEFINE MAX(A,B) ((A)>(B):(A)?(B))**のように関数に似たマクロは、コマンド入力行で定義することはできません。

トップ

言語レベル (LANGLVL)

コンパイラーの機能、およびソースの作成時に宣言されるプロトタイプを指定します。

*EXTENDED

プリプロセッサ変数**__EXTENDED__**を定義し、その他の言語レベル変数は未定義とします。このパラメーターは、ILE C++のすべての機能が必要な場合に使用する必要があります。

***ANSI** プリプロセッサ変数**__ANSI__**、**__STDC__**、および**__CPLUSPLUS98_INTERFACE__**、とその他の未定義の言語レベル変数を定義します。ANSI規格のC++のみが使用可能になります。

*LEGACY

このオプションによって、一部のソース構成は初期のコンパイラーを受け入れることができます。

トップ

別名 (ALIAS)

作成されるプログラム・オブジェクトに適用する別名割り当ての表明を指定します。

***ANSI** プログラム・オブジェクトは、ポインターが同じタイプのオブジェクトをポイントするのを許可するだけです。

***NOANSI**

プログラム・オブジェクトは*ANSI別名割り当て規則を使用しません。

***ADDRTAKEN**

プログラム・オブジェクトは、変数のアドレスが取られない限り、その変数クラスをポインターから切り離します。

***NOADDRTAKEN**

プログラム・オブジェクトは*ADDRTAKEN別名割り当て規則を使用しません。

***ALLPTRS**

プログラム・オブジェクトは2つのポインターの別名割り当てを許可しません。

***NOALLPTRS**

プログラム・オブジェクトは*ALLPTRS別名割り当て規則を使用しません。

***TYPEPTR**

プログラム・オブジェクトは、別のタイプの2つのポインターの別名割り当てを許可しません。

***NOTYPEPTR**

プログラム・オブジェクトは*TYPEPTR別名割り当て規則を使用しません。

[トップ](#)

SYSTEMインターフェースOPT (SYSIFCOPT)

作成されるプログラム・オブジェクトに使用されるシステム・インターフェース・オプションを指定します。それらは、1つ以上のブランクで区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

***IFS64IO**

プログラム・オブジェクトは、64ビットCストリーム入出力操作に統合ファイル・システムを使用します。

***IFSIO** プログラム・オブジェクトはCストリーム入出力操作に統合ファイル・システムを使用します。

***NOIFSIO**

プログラム・オブジェクトはCストリーム入出力操作にISERIESデータ管理ファイル・システムを使用します。

[トップ](#)

LOCALEオブジェクト・タイプ (LOCALETYPE)

作成されるプログラム・オブジェクトで使用するロケール・サポートのタイプを指定します。

***LOCALE**

このオプションで作成されたプログラム・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。

*LOCALEUCS2

このオプションで作成されたプログラム・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。幅広文字タイプには、2バイト汎用文字セットの値が含まれます。

*LOCALEUTF

このオプションで作成されたプログラム・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。幅広文字タイプには4バイトのUTF-32の値が入ります。狭幅文字タイプにはUTF-8の値が入ります。

[トップ](#)

メッセージのフラグ・レベル (FLAG)

リストに表示するメッセージのレベルを指定します。

- 0** 通知レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 10** 警告レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 20** エラー・レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 30** 重大エラー・レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。

[トップ](#)

メッセージ限界 (MSGLMT)

コンパイルが停止される前に表示できる、一定のメッセージ重大度のメッセージの最大数を指定します。

要素 1 : メッセージ限界

指定のメッセージ重大度レベル以上で表示できるメッセージの最大数を指定します。

*NOMAX

指定のメッセージ重大度レベルで表示されたメッセージの数とは無関係に、コンパイルは続行されます。

メッセージ限界

表示できるメッセージの数を指定します。有効な範囲は0-32767です。

要素 2 : メッセージ重大度

その指定の重大度以上のメッセージがメッセージ限界数を超えて起こった場合にコンパイルを停止するメッセージ重大度を指定します。

- 30** 重大度が30のメッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 0** 重大度が0以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 10** 重大度が10以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。

- 20 重大度が20以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。

トップ

PGMオブジェクトの置き換え (REPLACE)

オブジェクトの既存のバージョンを現行バージョンで置き換えるかどうかを指定します。

- *YES** 既存のオブジェクトが新規バージョンで置き換えられます。旧バージョンは、QRPLOBJライブラリーに移され、システム日付および時刻に基づいて名前変更されます。置き換えられたオブジェクトのテキスト記述は、元のオブジェクトの名前に変更されます。旧オブジェクトが明示的に削除されていない場合には、次のIPL時にそれが削除されます。
- *NO** 既存のオブジェクトは置き換えられません。指定されたライブラリーに同じ名前のオブジェクトが見つかった場合には、メッセージが表示されて、コンパイルは停止します。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

各オブジェクトに対してプログラム・オブジェクトが持つ権限を含めて、作成されたプログラム・オブジェクトが実行時に使用するユーザー・プロファイルを指定します。プログラム・オブジェクトが使用できるオブジェクトは、プログラム所有者かプログラム・ユーザーのいずれかのプロファイルを使用して制御されます。

***USER**

プログラム・オブジェクトを実行中のユーザーのプロファイルが使用されます。

***OWNER**

プログラム・オブジェクトの処理時には、プログラムの所有者とプログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの処理時に、オブジェクトを見つけてアクセスするために、両方のユーザー・プロファイルにおけるオブジェクト権限の集合的なセットが使用されます。所有ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は、実行中のプログラム・オブジェクトの権限には含まれません。

トップ

権限 (AUT)

オブジェクトに対する特定権限がないユーザー、権限リスト上にないユーザー、またはそのグループに特定のオブジェクトに対する権限がないユーザーに認可される権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する共通権限は、ターゲット・ライブラリー（作成されたオブジェクトを含むライブラリー）のCRTAUTキーワードからとられます。この値は、オブジェクトの作成時に決定されます。ライブラリーに対するCRTAUTの値がオブジェクトの作成後に変更された場合には、新しい値はそのライブラリー中の既存のどのオブジェクトにも影響しません。

- *ALL** 所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される権限を除き、オブジェク

トについてすべての操作の権限を提供します。すべてのユーザーが、オブジェクトの存在を制御し、その機密保護を指定し、それを変更し、また、その所有権の変更も含めた基本機能を実行することができます。

***CHANGE**

すべてのデータ権限、および所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される権限を除き、オブジェクトについてすべての操作を実行する権限を提供します。オブジェクトを変更し、それについて基本機能を実行することができます。

***USE** オブジェクト操作権、読み取り権限、およびモジュール・オブジェクトの結合などの基本読み取り専用操作のための権限を提供します。特定権限のないユーザーは、オブジェクトを変更することができません。

***EXCLUDE**

特殊権限のないユーザーはオブジェクトにアクセスできません。

権限リスト名

ユーザーの権限リストの名前、およびオブジェクトが追加される先の権限を入力します。オブジェクトは、この権限リストによって保護され、オブジェクトに対する共通権限は*AUTLに設定されません。コマンドを出す時には、システムに権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

ユーザーが作成中のオブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*CURRENTおよび*PRVの値について示される例において、また、リリース・レベルの値を指定する場合には、リリースの指定にVXRXXMXの様式が使用されます。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V4R5M0はバージョン4、リリース5、モディフィケーション・レベル0です。

***CURRENT**

オブジェクトは、ユーザーのシステムで現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、V4R5M5がシステムで実行中である場合に、*CURRENTは、ユーザーがV4R5M5の導入されたシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。ユーザーは、また、これ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもオブジェクトを使用することができます。

注: システムでV4R5M5が実行されていて、オブジェクトがV4R5M0を導入したシステムで使用される場合には、TGTRLS(*CURRENT)でなくTGTRLS(V4R5M0)を指定してください。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムの前のモディフィケーション0のリリースで使用されます。たとえば、ユーザーのシステムでV4R5M5が実行中である場合に、*PRVは、ユーザーがV4R4M0の導入されたシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。ユーザーは、また、これ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもオブジェクトを使用することができます。

リリース・レベル

リリースをVXRXXMXの様式で指定します。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は、現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なります。それらは、それぞれの新規リリースで変更されます。このコマンドによってサポートされる最初期のリリース・レベルより前のリリースを指定した場合には、エラー・メッセージが送られません。

トップ

パフォーマンス収集の使用可能化 (ENBPFRCOL)

オブジェクトにパフォーマンス測定コードを生成する必要があるかどうかを指定します。収集されたデータをシステム・パフォーマンス・ツールで使用し、アプリケーションのパフォーマンスのプロファイルを作成することができます。作成されたオブジェクトにコードを生成すると、オブジェクトがわずかに大きくなってパフォーマンスに影響する場合があります。

***PEP** パフォーマンス統計は、プログラム入り口プロシージャーの入り口と出口でのみ収集されます。この値は、アプリケーションに関する全般的なパフォーマンス情報を収集したい時に選択します。

***ENTRYEXIT *NONLEAF**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャー以外の、プログラム・オブジェクトのすべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。これにはプログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、アプリケーション内の他のルーチンを起動するルーチンに関する情報のみをキャプチャーしたい場合に有用です。

***ENTRYEXIT *ALLPRC**

パフォーマンス統計は、プログラム・オブジェクトの（リーフ・プロシージャーを含む）すべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。これにはプログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、すべてのルーチンに関する情報をキャプチャーしたい場合に有用です。このオプションは、アプリケーションによって呼び出されるすべてのプログラムが***PEP**、***ENTRYEXIT**、または***FULL**オプションのいずれかによって作成されたことが分かっている場合に使用してください。そうでない場合には、アプリケーションがパフォーマンス測定に使用できない他のプログラム・オブジェクトを呼び出した場合に、パフォーマンス・ツールがユーザー・アプリケーションにその資源の使用を課すこととなります。このため、資源が実際にはどこで使用されているかを判別するのは困難となります。

***FULL *NONLEAF**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャーではないすべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。また、外部プロシージャーに対する各呼び出しの前後でも統計が収集されます。

***FULL *ALLPRC**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャーを含むすべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。また、外部プロシージャーに対する各呼び出しの前後でも統計が収集されます。

このオプションは、アプリケーションが***PEP**、***ENTRYEXIT**、または***FULL**のいずれかで作成されていない他のプログラム・オブジェクトを呼び出すと考えられる場合に使用してください。このオプションによって、パフォーマンス・ツールは、ユーザーのアプリケーションが使用している資源と、それが呼び出したプログラム・オブジェクトによって使用されている資源を（それらのプログラム・オブジェクトがパフォーマンス測定に使用できない場合であっても）区別することができます。このオプションは経済的ではありませんが、アプリケーション内の各種のプログラム・オブジェクトを選択的に分析することができます。

トップ

パフォーマンス・オプション (PFROPT)

パフォーマンスを高めるために使用可能な各種のオプションを指定します。それらは、1つ以上の空白で区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

可能なオプションは次の通りです。

***SETFPCA**

コンパイラーに、浮動小数点計算に対するANSIのセマンティクスを達成するために浮動小数点の計算属性を設定させます。

***NOSETFPCA**

計算属性は設定されません。このオプションは、作成されるオブジェクトに浮動小数点計算が含まれていない場合にのみ使用してください。

***NOSTRDONLY**

コンパイラーは書き込み可能メモリーの中にストリングを入れる必要があることを指定します。

***STRDONLY**

コンパイラーは読み取り専用メモリーの中にストリングを入れることができることを指定します。

[トップ](#)

プロファイル作成データ (PRFDTA)

プログラム・オブジェクトのプログラム・プロファイル・データ属性を指定します。プログラムのプロファイル作成は、プロシージャーおよびプロシージャー内のコードを統計データ（プロファイル作成データ）に基づいて再配列するために使用される拡張最適化手法です。

***NOCOL**

プログラム・オブジェクトはプロファイル・データの収集に使用できません。

COL** プログラム・オブジェクトはプロファイル・データの収集に使用できます。COL**は、最適化レベルが30以上である場合にのみ指定することができます。

[トップ](#)

テラスペース・オプション (TERASPACE)

プログラム・オブジェクトがテラスペース記憶域を処理できるかどうかを指定します。これには、プログラム・オブジェクトによって割り振られたテラスペース記憶域と他のテラスペース使用可能プログラムおよびサービス・プログラム・オブジェクトから渡されたパラメーターが含まれます。

要素 1 : テラスペース使用可能

***NO** プログラム・オブジェクトは、テラスペースから割り振られた記憶域のアドレッシングを処理することはできません。

***YES** プログラム・オブジェクトは、他のテラスペース使用可能プログラムおよびサービス・プログラム・オブジェクトから渡されたパラメーターを含む、テラスペースから割り振られた記憶域のアドレッシングを処理することができます。

要素 2 : テラスペース・インターフェースの使用

***NOTSIFC**

プログラム・オブジェクトは、省略時の値で記憶域機能の非テラスペース・バージョンを使用します。

***TSIFC**

プログラム・オブジェクトは、省略時の値で記憶域機能のテラスペース・バージョンを使用します。コンパイラーがマクロ変数 `__TERASPACE__` を定義します。

[トップ](#)

ストレージ・モデル (STGMDL)

作成されたオブジェクトで使用する記憶域のタイプを指定します。

***SINGLVL**

作成されたオブジェクトは単一レベルの記憶域を使用します。

***TERASPACE**

作成されたオブジェクトはテラスペース記憶域を使用します。

[トップ](#)

データ・モデル (DTAMDL)

INT, LONG, POINTERとして宣言される変数のサイズ (バイト数) を指定します。

***P128** INT, LONG, POINTERのサイズはそれぞれ4, 4, 16となります。

***LLP64**

INT, LONG, POINTERのサイズはそれぞれ4, 4, 8となります。コンパイラーがマクロ変数 `__LLP64_IFC__` を定義します。

[トップ](#)

実行時バインド (RTBND)

作成されたオブジェクトの実行時バインド・ディレクトリーを指定します。

***DEFAULT**

作成されたオブジェクトは、省略時のバインド・ディレクトリーを使用します。

***LLP64**

作成されたオブジェクトは、64ビットの実行時バインド・ディレクトリーを使用します。この値は、テラスペース記憶域モデル、64ビット・データ・モデル、およびテラスペース記憶域機能インターフェース・オプションと一緒に使用できるだけです。コンパイルがマクロ `__LLP64_RTBNDD__` を定義します。

[トップ](#)

パック構造 (PACKSTRUCT)

構造のメンバーに使用する位置合わせ境界を指定します。

***NATURAL**

構造メンバーはその自然境界で位置合わせされます。たとえば、短整数は2バイトで位置合わせされることになります。16バイト・ポインターは、常に16バイト境界で位置合わせされます。

- 1 構造メンバーを1バイトの位置合わせでパックします。
- 2 構造メンバーを2バイトの位置合わせでパックします。
- 4 構造メンバーを4バイトの位置合わせでパックします。
- 8 構造メンバーを8バイトの位置合わせでパックします。
- 16 構造メンバーを16バイトの位置合わせでパックします。

[トップ](#)

Enumサイズ (ENUM)

コンパイラーが列挙型を表すために使用するバイト数を指定します。

***SMALL**

すべてのENUM変数を、値の範囲を表すことができる最小サイズにします。

- 1 すべてのENUM変数を1バイトにします。
- 2 すべてのENUM変数を2バイトにします。
- 4 すべてのENUM変数を4バイトにします。

***INT** ANSI規格のENUMサイズである4バイトを使用します。

[トップ](#)

依存関係情報 (MAKEDEP)

依存関係情報をファイルの中に生成するかどうかを指定します。この情報は作成ツールで使用することができます。

***NONE**

依存関係情報は生成しません。

'パス名'

依存関係情報を保管するストリーム・ファイルのパス名を指定します。

[トップ](#)

組み込みディレクトリー (INCDIR)

コンパイラーが組み込みファイルを検出するために使用する検索パスに追加する1つまたは複数のディレクトリーを指定します。

検索パスは、OPTIONキーワードで次のパラメーターを使用し、さらに変更することができます。

- *INCDIRFIRSTまたは*NOINCDIRFIRST
- *SYSINCPATHまたは*NOSYSINCPATH
- *STDINCまたは*NOSTDINC

***NONE**

変更されていなければ、省略時のシステム組み込みディレクトリーおよびソース・ディレクトリーからユーザー組み込みファイルが検索されます。

'ディレクトリー'

組み込みファイルを検索する32個までのディレクトリーを指定します。指定したディレクトリーに加えて、ソース・ディレクトリーからもユーザー組み込みファイルが検索されます。

トップ

コンパイラー・サービスOPT (CSOPT)

1つまたは複数のコンパイラー・サービス・オプションを指定します。このパラメーターによって、リリースの間で切り替え可能なコンパイラー機能を弊社から得ることができます。

***NONE**

コンパイラー・サービス・オプションは選択されません。

'コンパイラー・サービス・オプション・ストリング'

選択したコンパイラー・サービス・オプションが、モジュール・オブジェクトの作成時に使用されます。有効なストリングは、PTFカバー・レターまたはリリース情報に記述されています。

トップ

ライセンス内部コードOPT (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターによって、個々のコンパイル時オプションを選択することができますが、これは、選択したそれぞれのタイプのコンパイラー・オプションの潜在的な利点と欠点を理解している経験の豊かなプログラマーを対象としています。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

コンパイル時オプションは選択されません。

'ライセンス内部コード・オプション・ストリング'

選択したライセンス内部コード・コンパイル時オプションが、モジュール・オブジェクトの作成時に使用されます。ある種のオプションでは、作成されたモジュール・オブジェクトをデバッグする機能が損なわれることがあります。

トップ

省略時の文字タイプ (DFTCHAR)

CHARデータ・タイプのための省略時の符号を指定します。

***UNSIGNED**

省略時のCHARタイプを符号なしとします。

***SIGNED**

省略時のCHARタイプを符号付きとします。

ターゲットCCSID (TGTCSSID)

結果のプログラム・オブジェクトに保管されるデータを記述するために使用されるターゲット・コード化文字セット識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SOURCE**

ルート・ソース・ファイルのCCSIDが使用されます。

***JOB** 現行ジョブのCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、文字データが2進数データとして扱われ、変換されないことを示します。

コード化文字セット識別コード

使用するCCSIDを指定します。

テンプレート・オプション (TEMPLATE)

コンパイラーに対するテンプレート・オプションを指定します。

要素1: 一時組み込みディレクトリー

***NONE**

テンプレートは生成されません。

***TEMPINC**

ルート・ソース・ファイルが見つかったディレクトリーの中に作成されるTEMPINCという名前のディレクトリーの中にテンプレートが生成されます。ソース・ファイルがストリーム・ファイルでない場合には、ソース・ファイルが入っているライブラリーにTEMPINCという名前のファイルが作成されます。TEMPLATE(*TEMPINC)とTMPLREGパラメーターは相互に排他的です。

'ディレクトリー'

コンパイラーがテンプレートを生成するディレクトリーを指定してください。

要素2: 最大生成見出し数

1 テンプレートを入れる生成見出しの最大数。

見出しファイルの数

生成される見出しファイルの最大数として1-99999の整数値を指定します。

要素3: テンプレートの妥当性検査

構文解析および意味体系検査がテンプレート定義の実装に適用されるか、テンプレートのインスタンス化だけに適用されるかを制御します。コンパイラーは、警告メッセージまたはエラー・メッセージを作成するオプションを持っています。使用可能なパラメーターは次のとおりです。

***NO** コンパイラーの前のバージョン用に書かれたコードに出されるエラーの数を減らすための構文解析は行いません。

***WARN**

意味エラーに対して警告メッセージを出します。構文解析時に見つかったエラーに対してエラー・メッセージを出します。

***ERROR**

テンプレートがインスタンス化されていなくても、テンプレート実装問題をエラーとして処理します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ***ESCAPE** メッセージ**CZS1613**

コンパイルに失敗しました。

[トップ](#)

バインドRPG PGMの作成 (CRTBNDRPG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインドRPGプログラム作成(CRTBNDRPG)コマンドは、RPGソース・コードをコンパイルしてバインドし、ILEプログラム・オブジェクト(*PGM)を作成します。このコマンドは、対話モードでもバッチ・モードでも使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前, <u>*CTLSPEC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QRPGLESRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>*PGM</u>	オプション, 位置 3
SRCSTMF	ソース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
GENLVL	生成重大度レベル	0-20, <u>10</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SRCMBRTXT</u> , *BLANK	オプション
DFACTGRP	省略時の活動化グループ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ACTGRP	活動化グループ	名前, <u>QILE</u> , *NEW, *CALLER	オプション
BNDDIR	BINDINGディレクトリー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: BINDINGディレクトリー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL	
OPTION	コンパイラー・オプション	値 (最大 20 回の繰り返し): *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *SECLVL, *NOSECLVL, *SHOWCPY, *NOSHOWCPY, *EXPDDS, *NOEXPDDS, *EXT, *NOEXT, *NOSHOWSKP, *SHOWSKP, *NOSRCSTMT, *SRCSTMT, *DEBUGIO, *NODEBUGIO, *NOEVENTF, *EVENTF	オプション
DBGVIEW	デバッグ用ビュー	<u>*STMT</u> , *SOURCE, *LIST, *COPY, *ALL, *NONE	オプション
OUTPUT	出力	<u>*PRINT</u> , *NONE	オプション
OPTIMIZE	最適化レベル	<u>*NONE</u> , *BASIC, *FULL	オプション
INDENT	ソース・リストの字下げ	文字値, <u>*NONE</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CVTOPT	タイプ変換オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *DATETIME, *GRAPHIC, *VARCHAR, *VARGRAPHIC	オプション
SRTSEQ	ソート順序	単一値: *HEX , *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	名前, *JOBRUN , *JOB	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES , *NO	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER , *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
TRUNCNBR	数字の切り捨て	*YES , *NO	オプション
FIXNBR	数値の修正	単一値: *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *ZONED, *INPUTPACKED	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT , *PRV	オプション
ALWNULL	ヌル値可能	*NO , *INPUTONLY, *USRCTL, *YES	オプション
DEFINE	条件名の定義	値 (最大 32 回の繰り返し): 単純名, *NONE	オプション
ENBPFRCOL	パフォーマンス収集使用可能化	*PEP , *ENTRYEXIT, *FULL	オプション
PRFDTA	プロファイル・データ	*NOCOL , *COL	オプション
LICOPT	ライセンス内部コード・オプション	文字値, X	オプション
INCDIR	組み込みディレクトリー	値 (最大 32 回の繰り返し): パス名, *NONE	オプション
PGMINFO	生成プログラム・インターフェース	*NO , *PCML	オプション
INFOSTMF	プログラム・インターフェース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
PPGENOPT	プリプロセッサ・オプション	単一値: *NONE , *DFT その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *RMVCOMMENT, *NORMVCOMMENT, *EXPINCLUDE, *NOEXPINCLUDE, *SEQSRC, *NOSEQSRC	オプション
PPSRCFILE	出力ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
PPSRCMBR	出力ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション
PPSRCSTMF	出力ストリーム・ファイル	パス名, *SRCSTMF	オプション

トップ

プログラム (PGM)

作成しているプログラム・オブジェクト(*PGM)のプログラム名およびライブラリー名を指定します。プログラム名およびライブラリー名はOS/400命名規則に準拠しなければなりません。ライブラリーを指定しない場合には、作成されたプログラムは現行ライブラリーに保管されます。

***CTLSPEC**

コンパイル済みプログラムの名前は、制御仕様書のDFTNAMEキーワードに指定された名前から取られます。制御仕様書にプログラム名が指定されていないで、ソース・メンバーがデータベース・ファイルから取られる場合には、SRCMBRパラメーターに指定されたメンバー名がプログラム名として使用されます。ソースがデータベース・ファイルから取られない場合には、省略時の値としてプログラム名にRPGPGMが使用されます。

プログラム名

プログラム・オブジェクトの名前を入力してください。

***CURLIB**

作成されたプログラム・オブジェクトは現行ライブラリーに保管されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

作成されたプログラム・オブジェクトが保管されるライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルされるILE RPGソース・メンバーが入っているソース・ファイルおよびソース・ファイルが保管されているライブラリーの名前を指定します。望ましいソース物理ファイルの長さは112文字で、内12文字は順序番号および日付用で、80文字はコード用で、20文字は注記用です。これは、コンパイル・リストに示されるソースの最大容量です。

QRPGLESRC

省略時のソース・ファイルQRPGLESRCにコンパイルされるILE RPGソース・メンバーが入っています。

ソース・ファイル名

コンパイルされるILE RPGソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ソース・ファイルが保管されているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。これが省略時の値です。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルされるILE RPGソース・プログラムが入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***PGM** ソース・ファイル・メンバー名としてPGMパラメーターに指定された名前を使用します。コンパイル済みプログラム・オブジェクトは、ソース・ファイル・メンバーと同じ名前をもちます。PGMパ

ラメーターでプログラム名が指定されていない場合には、コマンドは、ソース・ファイルに最初に作成または追加されたメンバーをソース・メンバー名として使用します。

ソース・ファイル・メンバー名

ILE RPGソース・プログラムが入っているメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)

コンパイルするILE RPGソース・コードが入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対修飾または相対修飾のいずれかとすることができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合は、パス名は完全です。相対修飾の場合は、パス名はジョブの現行作業ディレクトリーをそのパス名に付加することにより完全になります。

SRCMBRおよびSRCFILEパラメーターをSRCSTMFパラメーターと一緒に指定することはできません。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

プログラム・オブジェクトの作成を制御します。プログラム・オブジェクトは、コンパイル中に見つかったすべてのエラーの重大度レベルが指定された生成重大度レベル以下である場合に作成されます。

値は0-20でなければなりません。重大度が20を超えるエラーの場合には、プログラム・オブジェクトは生成されません。

10 コンパイル時エラーの重大度レベルが10以下であれば、プログラム・オブジェクトが生成されません。これが省略時の値です。

重大度レベル値

0 - 20の数値を入力してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

プログラムおよびその機能を簡単に説明するテキストを入力することができます。プログラム情報が表示される時には、常にこのテキストが現れます。

***SRCMBRTXT**

ソース・メンバーのテキストが使用されます。

***BLANK**

テキストはありません。

'記述' ソース仕様の機能を簡単に記述するテキストを入力してください。テキストは最大50文字にすることができますが、アポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィは50文字のストリングの一部ではありません。プロンプト画面にテキストを入力する場合には、アポストロフィは必要ありません。

省略時の活動化グループ (DFTACTGRP)

作成されるプログラムを常に省略時の活動化グループで実行するかどうかを指定します。

***YES** このプログラムは、呼び出されると、常に省略時の活動化グループで実行されます。省略時の活動化グループとは、すべてのオリジナル・プログラム・モデル(OPM)プログラムが実行される活動化グループのことです。

DFTACTGRP(*YES)を指定すると、ILE RPGプログラムはファイル共用、ファイル有効範囲設定、およびRCLRSCの面でOPMプログラムと同様に機能します。

プログラムがDFTACTGRP(*YES)で作成された時には、ILE静的バインドは使用可能ではありません。これは、このプログラムの作成時にBNDDIRまたはACTGRPパラメーターを使用できないことを意味します。さらに、ソース中の呼び出し命令はプロシージャでなくプログラムを呼び出すものでなければなりません。

DFTACTGRP(*YES)は、プログラム単位で適用業務をILE RPGに移動する時に便利です。

NO** プログラムは、ACTGRPパラメーターで指定された活動化グループに関連付けられます。NO**を指定した時には、静的バインドが可能です。

ACTGRP(*CALLER)を指定し、このプログラムが省略時の活動化グループで実行するプログラムによって呼び出される場合には、このプログラムは、ファイル共用、ファイル有効範囲設定、およびRCLRSCの面でILEセマンティクスに従って機能します。

DFTACTGRP(*NO)は、名前を指定された活動化グループでの実行やサービス・プログラムへのバインドなどのILE概念の利点を利用する時に便利です。

トップ

活動化グループ (ACTGRP)

呼び出された時にこのプログラムが関連付けられる活動化グループを指定します。

QILE このプログラムは、呼び出されると、名前を指定された活動化グループQILE中に活動化されます。これが省略時の値です。

***NEW** このプログラムは、呼び出されると、新しい活動化グループ中に活動化されます。

***CALLER**

このプログラムは、呼び出されると、呼び出し元の活動化グループ中に活動化されます。

活動化グループ名

このプログラムが呼び出された時に使用される活動化グループの名前を指定してください。

トップ

BINDINGディレクトリー (BNDDIR)

記号分析解決で使用されるバインディング・ディレクトリーのリストを指定します。

***NONE**

バインディング・ディレクトリーは指定されません。

バイディング・ディレクトリー名

記号分析解決で使用されるバイディング・ディレクトリーの名前を指定してください。ディレクトリー名は、次の1つのライブラリー値で修飾することができます。

***LIBL** バイディング・ディレクトリーが保管されているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。これが省略時の値です。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

コンパイラー・オプション (OPTION)

ソース・メンバーのコンパイル時に使用するオプションを指定します。一部またはすべてのオプションをどのような順序でも指定することができます。各オプションは1つまたは複数のブランク・スペースで区切ってください。オプションが複数回指定された場合には、最後のものが使用されます。

***XREF**

(適切な場合には) ソース・メンバーの相互参照表を作成します。

***NOXREF**

相互参照表は作成されません。

***GEN** コンパイラーによって戻された最高の重大度レベルがGENLVLオプションに指定された重大度を超えない場合にプログラム・オブジェクトを作成します。

***NOGEN**

プログラム・オブジェクトを作成しません。

***NOSECLVL**

第1レベル・メッセージ・テキストの次の行に第2レベル・メッセージ・テキストを印刷しません。

***SECLVL**

メッセージ要約セクションの第1レベル・メッセージ・テキストの次の行に第2レベル・メッセージ・テキストを印刷します。

***SHOWCPY**

/COPYコンパイラー・ディレクティブによって含まれるメンバーのソース・レコードを表示します。

***NOSHOWCPY**

/COPYコンパイラー・ディレクティブによって含まれるメンバーのソース・レコードを表示しません。

***EXPDDS**

外部記述ファイルの拡張をリストに表示し、キー・フィールド情報を表示します。

***NOEXPDDS**

外部記述ファイルの拡張をリストに表示せず、キー・フィールド情報を表示しません。

***EXT** コンパイル時に参照された外部プロシージャおよびフィールドのリストをリストに表示します。

***NOEXT**

コンパイル時に参照された外部プロシージャおよびフィールドのリストをリストに表示しません。

***NOSHOWSKP**

リストのソース部分の中の無視されたステートメントは表示されません。コンパイラーは、/IF、/ELSEIFまたは/ELSEディレクティブの結果としてのステートメントを無視します。

***SHOWSKP**

リストのソース部分の中のすべてのステートメントを、コンパイラーがそれらをスキップしたかどうかにかかわらず表示します。

***NOSRCSTMT**

リスト中の行番号は、順次に割り当てられます。これらの番号は、ステートメント番号を使用してデバッグするときに使用されます。行番号は、リストの左端の桁に示されます。リストの右端の2桁にはソースIDとSEU順序番号が表示されます。

***SRCSTMT**

デバッグのためのステートメント番号は、次のようにSEU順序番号およびソースIDを使用して生成されます。

$$\text{ステートメント番号} = \text{ソースID} * 1000000 + \text{ソースSEU順序番号}$$

SEU順序番号は、リストの左端の桁に示されます。ステートメント番号は、リストの右端の桁に示されます。これらの番号は、ステートメント番号を使用してデバッグするときに使用されます。

注: OPTION(*SRCSTMT)が指定されているときには、ソース・ファイル中のすべての順序番号が有効な数値でなければなりません。同じソース・ファイルに重複した順序番号がある場合には、デバッガーの振る舞いは予測できず、診断メッセージまたは相互参照項目のステートメント番号が無意味となることがあります。

***DEBUGIO**

すべての入出力仕様に停止点を生成します。

***NODEBUGIO**

入出力仕様に停止点を生成しません。

***NOEVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT (CODE)により使用するために事象ファイルを作成しません。CODEは、このファイルを使用してCODEエディターと統合されたエラー・フィールドバックを提供します。事象ファイルは、通常、CODE内からモジュールまたはプログラムを作成する時に作成されます。

***EVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT (CODE)により使用するために事象ファイルを作成します。事象ファイルは、作成されたモジュールまたはプログラム・オブジェクトが保管されるライブラリー中のファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。ファイルEVFEVENTが存在しない場合には、自動的に作成されます。事象ファイル・メンバー名は、作成されるオブジェクトの名前と同じです。

CODEは、このファイルを使用してCODEエディターと統合されたエラー・フィードバックを提供します。事象ファイルは、通常、CODE内からモジュールまたはプログラムを作成する時に作成されます。

[トップ](#)

デバッグ用ビュー (DBGVIEW)

コンパイル済みプログラム・オブジェクトに使用可能なデバッグのレベルおよびソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューを指定します。

***STMT**

コンパイラ・リストの行番号またはステートメント番号を使用して、プログラム・オブジェクトをデバッグできるようにします。OPTION(*NOSRCSTMT)が指定されているときには、行番号がコンパイラ・リストのソース・セクションの左端の桁に示されます。OPTION(*SRCSTMT)が指定されているときには、ステートメント番号がコンパイラ・リストのソース・セクションの右端の桁に示されます。

***SOURCE**

コンパイル済みプログラム・オブジェクトのデバッグのためのソース・ビューを生成します。ルートのソース・メンバーがDDMファイルである場合には、このビューは使用可能ではありません。また、コンパイル後、プログラムのデバッグを試みる前にソース・メンバーに変更が加えられた場合にも、これらのソース・メンバーのビューが使用できないことがあります。

***LIST** コンパイル済みプログラム・オブジェクトのデバッグのためのリスト・ビューを生成します。リスト・ビューに含まれる情報は、OPTIONパラメーターに*SHOWCPY、*EXPDDS、および*SRCSTMTを指定していたかどうかによります。

注: リスト・ビューには、字下げオプションを使用して要求した字下げは示されません。

***COPY**

コンパイル済みプログラム・オブジェクトのデバッグのためのソース・ビューおよびコピー・ビューを生成します。このオプションのソース・ビューは、*SOURCEオプションの場合に生成されたソース・ビューと同じです。コピー・ビューは、すべての/COPYソース・メンバーが含まれるデバッグ・ビューです。ルートのソース・メンバーがDDMファイルである場合には、これらのビューは使用可能ではありません。また、コンパイル後、プログラムのデバッグを試みる前にソース・メンバーに変更が加えられた場合にも、これらのソース・メンバーのビューが使用できないことがあります。

***ALL** コンパイル済みプログラム・オブジェクトのデバッグのためのリスト・ビュー、ソース・ビュー、およびコピー・ビューを生成します。リスト・ビューに含まれる情報は、OPTIONパラメーターに*SHOWCPY、*EXPDDS、および*SRCSTMTを指定していたかどうかによります。

***NONE**

コンパイル済みプログラム・オブジェクトのデバッグのためのすべてのデバッグ・オプションを使用できないようにします。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストが生成されるかどうかを指定します。

***PRINT**

ILE RPGプログラム・ソースおよびすべてのコンパイル時メッセージからなるコンパイル・リストを作成します。リストに含まれる情報は、OPTIONパラメーターに*XREF, *SECLVL, *SHOWCPY, *EXPDDS, *EXT, *SHOWSKP,および*SRCSTMTを指定しているかどうかによって異なります。

***NONE**

コンパイル・リストを生成しません。

トップ

最適化レベル (OPTIMIZE)

モジュールの最適化のレベルがあればそれを指定します。

***NONE**

生成されたコードは最適化されません。これは、変換時間の面で一番早いものです。デバッグ・モードになっている時には、変数を表示して修正することができます。

***BASIC**

生成されたコードに対してある種の最適化が実行されます。これにより、デバッグ・モードになっている時に、ユーザー変数は表示できますが、修正することはできません。

***FULL** 最も効果的なコードを生成する最適化。変換時間は最も遅くなります。提示されている値が現在値でない場合でも、ユーザー変数は変更できませんが、表示することはできます。

トップ

ソース・リストの字下げ (INDENT)

読み易さを増すために、構造化された命令をソース・リストで字下げするかどうかを指定します。構造化された命令の文節をマークするために使用される文字も指定します。

注: ここで要求した字下げは、DBGVIEW(*LIST)を指定した時に作成されるリスト・デバッグ・ビューで反映されません。

***NONE**

ソース・リストで構造化された命令は字下げされません。

文字値 構造化された命令の文節に対してソース・リストが字下げされます。ステートメントおよび文節の位置合わせは、選択した文字を使用してマークされます。最大2文字の長さの任意の文字ストリングを選択することができます。文字ストリング中にブランクを使用したい場合には、そのストリングを単一引用符で囲まなければなりません。

注: プログラムにエラーがある場合には、字下げは期待通りに現れないことがあります。

トップ

タイプ変換オプション (CVTOPT)

ILE RPGコンパイラーによる外部記述データベース・ファイルから検索された日付、時刻、タイム・スタンプ、図形データ・タイプ、および可変長データ・タイプの操作方法を指定します。

***NONE**

可変長データベース・データ・タイプを無視し、固有のRPG日付、時刻、タイム・スタンプ、および図形データ・タイプを使用します。

***DATETIME**

日付、時刻、およびタイム・スタンプのデータベース・データ・タイプが固定長文字フィールドとして宣言されることを指定します。

***GRAPHIC**

2バイト文字セット(DBCS)図形データ・タイプが固定長文字フィールドとして宣言されることを指定します。

***VARCHAR**

可変長文字データ・タイプが固定長文字フィールドとして宣言されることを指定します。

***VARGRAPHIC**

可変長2バイト文字セット(DBCS)図形データ・タイプが固定長文字フィールドとして宣言されることを指定します。

[トップ](#)

ソート順序 (SRTSEQ)

ILE RPGソース・プログラムで使用されるソート順序テーブルを指定します。

***HEX** ソート順序テーブルは使用されません。

***JOB** *PGMが作成される時にジョブのSRTSEQ値を使用します。

***JOBRUN**

*PGMが実行される時にジョブのSRTSEQ値を使用します。

***LANGIDUNQ**

固有の重みテーブルを使用します。この特殊値は、正しいソート順序テーブルを決定するためにLANGIDパラメーターと一緒に使用されます。

***LANGIDSHR**

共用重みテーブルを使用します。この特殊値は、正しいソート順序テーブルを決定するためにLANGIDパラメーターと一緒に使用されます。

ソート・テーブル名

プログラムで使用されるソート順序テーブルの修飾名を入力してください。

***LIBL** ソート順序テーブルが保管されているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

ソート順序テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソート順序テーブルが保管されているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

ソート順序が*LANGIDUNQおよび*LANGIDSHRである時に使用される言語識別コードを指定します。LANGIDパラメーターは、ソート順序テーブルを選択するためにSRTSEQ パラメーターと一緒に使用されます。

***JOBRUN**

RPGプログラムが実行される時にジョブと関連したLANGID値を使用します。

***JOB** RPGプログラムが作成される時にジョブと関連したLANGID値を使用します。

言語識別コード

指定された言語識別コードを使用します。(たとえば、フランス語の場合にはFRA で、ドイツ語の場合にはDEU。)

トップ

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定された (または暗黙に指定された) ライブラリーに同じ名前のプログラムがすでに存在している時に、新しいプログラムが作成されるかどうかを指定します。CRTBNDRPGコマンドの処理の時に作成された中間モジュールは、REPLACE指定に従ったものではなく、QTEMPライブラリーに対してはREPLACE(*NO)が暗示されます。CRTBNDRPGコマンドが処理を完了すると、中間モジュールは削除されます。

***YES** 指定されたライブラリーに新しいプログラムが作成されます。指定されたライブラリーの同じ名前の既存のプログラムはライブラリーQRPLOBJに移動されます。

***NO** 指定されたライブラリーに同じ名前のプログラムがすでに存在している場合には、新しいプログラムは作成されません。既存のプログラムは置き換えられず、メッセージが表示され、コンパイルは停止します。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

作成されたプログラム・オブジェクトを実行するユーザー・プロファイルを指定します。プログラムを実行し、プログラムで使用できるオブジェクト (各プログラムに対してプログラムがもつ権限を含む) を制御するために、プログラム所有者またはプログラム・ユーザーのプロファイルが使用されます。プログラムがすでに存在している場合には、このパラメーターは更新されません。USRPRFの値を変更するためには、プログラムを削除し、正しい値を使用してコンパイルし直してください (あるいは構成する*MODULEオブジェクトが存在している場合には、CRTPGMコマンドを呼び出すように選択することができます)。

***USER**

プログラムはプログラムの使用者のユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

***OWNER**

プログラムは、プログラムの使用者と所有者の両方のユーザー・プロファイルのもとで実行されます。プログラムの実行中にオブジェクトを見つけ、それにアクセスするために、両方のユーザー・プロファイルに収集可能なオブジェクト権限のセットが使用されます。プログラムの実行中に作成されたオブジェクトは、すべてプログラムのユーザーによって所有されます。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、および所属するユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザーに与えられる権限を指定します。プログラムの作成後に、CLコマンドのオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)またはオブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)を使用してすべてまたは指定したユーザーの権限を変更することができます。これらのコマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックを参照してください。

*LIBCRTAUT

オブジェクトの共通認可は、ターゲット・ライブラリー（オブジェクトが入っているライブラリー）のCRTAUTキーワードから取られます。値は、オブジェクトの作成時に決定されます。作成後にライブラリーのCRTAUT値が変わった場合には、新しい値は既存のオブジェクトに反映されません。

***ALL** 所有者に限定されているか、あるいは権限リスト管理権限によって制御されるものを除いてプログラム・オブジェクトに対するすべての命令の権限。ユーザーはプログラム・オブジェクトの存在を制御し、オブジェクトに対するこの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトに対する基本機能を実行することができますが、所有権を移すことはできません。

*CHANGE

所有者に限定されているか、あるいはオブジェクト権とオブジェクト管理権によって制御されているものを除いて、プログラム・オブジェクトに対するすべてのデータ権限およびすべての命令を実行する権限を提供します。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本機能を実行することができます。

***USE** オブジェクト操作権および読み取り権限、すなわちプログラム・オブジェクトに対する基本操作の権限を提供します。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。

*EXCLUDE

ユーザーは、オブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

ユーザーおよびプログラムが追加される権限の権限リストの名前を入力してください。プログラム・オブジェクトはこの権限リストによって保護され、プログラム・オブジェクトの共通認可は*AUTLにセットされます。CRTBNDRPGコマンドを出す時には、この権限リストがシステム上に存在していなければなりません。

注: システムの機密保護要件を反映させるためには、AUTパラメーターを使用してください。使用可能な機密保護機能は、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)で詳しく説明されています。

トップ

数字の切り捨て (TRUNCNBR)

プログラムの実行中に数値オーバーフローが起こった場合に、結果のフィールドに切り捨て値を入れるか、それともエラーを生成するかを指定します。

注: TRUNCNBRオプションは式の中で行なわれる演算には適用されません。(式は拡張演算項目2フィールドにあります。) これらの演算でオーバーフローが起こった場合には、常にエラーが発生します。

***YES** 数値オーバーフローを無視して、結果のフィールドに切り捨て値を入れます。

***NO** 数値オーバーフローが検出された時に、実行時エラーが生成されます。

トップ

数値の修正 (FIXNBR)

正しくない10進数データをコンパイラーによって訂正するかどうかを指定します。

***NONE**

正しくない10進数データが使用された場合に、実行時に10進数エラーとなることを指示します。

***ZONED**

正しくないゾーン10進数データは、バック・データへの変換時にコンパイラーによって訂正されません。数値フィールドのブランクはゼロとして扱われます。各桁は妥当性検査されます。桁が有効でない場合には、その桁はゼロで置き換えられます。符号が有効でない場合には、その符号は16進数'F'の正符号に強制的に変更されます。符号が有効である場合には、必要に応じ16進数'F'の正符号または16進数'D'の負符号に変更されます。結果のバック・データが正しくない場合には、そのデータは訂正されません。

***INPUTPACKED**

正しくないパック10進数データが入力仕様の処理中に出てきた場合に、内部変数がゼロに設定されることを指示します。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成されるオブジェクトを使用するオペレーティング・システムのリリースを指定します。***CURRENT**および***PRV**値の場合の例では、ターゲット・リリース 値を指定する時には、形式VXRXXMXを使用してリリースを指定します。VX はバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V2R3M0は、バージョン2、リリース3、モディフィケーション・レベル0です。

このパラメーターに対する有効な値はリリースごとに変わります。指定できる値は次の通りです。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザー・システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、システムでV2R3M5を実行中の場合には、***CURRENT**はV2R3M5が導入されているシステムでオブジェクトを使用しようとしていることを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上で、このオブジェクトを使用することもできます。

注: システムでV2R3M5が実行中で、オブジェクトをV2R3M0が導入されたシステムで使用しようとする場合には、TGTRLS(***CURRENT**)ではなくTGTRLS(V2R3M0)を指定してください。

PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムの前のリリース、モディフィケーション・レベル0で使用されます。たとえばシステムでV2R3M5を実行中の場合には、PRV**はV2R2M0が導入されているシステムでオブジェクトを使用しようとしていることを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上で、このオブジェクトを使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は、現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりも前の ターゲット・リリース を指定した場合には、エラー・メッセージが出され、サポートされる最も古いリリースが表示されます。

注: コマンドの現在のバージョンは、コマンドの前のリリースで使用可能でないオプションをサポートすることがあります。前のリリースで使用されるオブジェクトを作成するためにコマンドが使用される場合には、コマンドはそのリリースに該当するコンパイラーで処理され、サポートされないオプションはどれも認識されません。コンパイラーは、処理に使用可能でないオプションについて警告を出すとは限りません。

トップ

ヌル値可能 (ALWNULL)

ILE RPGプログラムが、外部記述データベース・ファイルから、ヌル値可能フィールドをもつレコードをどのように使用できるかを指定します。

***NO** ILE RPGプログラムが外部記述ファイルからのヌル値フィールドをもつレコードを処理しないことを指定します。ヌル値が入っているレコードを検索しようとした場合には、レコード中のデータはILE RPGプログラムに対してアクセス不能となり、データ・マッピング・エラーが起こります。

*INPUTONLY

ILE RPGプログラムが、外部記述入力専用データベース・ファイルから、ヌル値の入ったヌル値可能フィールドをもつレコードを正常に読み取ることができることを指定します。ヌル値の入ったレコードを検索する時には、データ・マッピング・エラーは起こらず、データベースの省略時の値がヌル値の入った任意のフィールドに入れられます。プログラムは以下を実行することはできません。

- ヌル値可能キー・フィールドの使用
- ヌル値可能フィールドの入ったレコードの作成または更新
- プログラムの実行時に、ヌル値可能フィールドが実際にヌルであるかどうかを判別すること
- ヌル値可能フィールドをヌルに設定すること

*USRCTL

ILE RPGプログラムが、外部記述データベース・ファイルから、ヌル値の入ったレコードを読み取り、書き出し、および更新できることを指定します。ヌル・キーのあるレコードはキー順操作を使用して検索することができます。プログラムは、ヌル値可能フィールドが実際にヌルであるかどうかを判別することができ、出力または更新用に、ヌル値可能フィールドをヌルに設定することができます。プログラマーは、ヌル値の入ったフィールドがプログラム内で正しく使用されていることを確認する責任があります。

***YES** *INPUTONLYと同じ。

トップ

条件名の定義 (DEFINE)

コンパイルの開始前に定義される条件名を指定します。パラメーターDEFINE(条件名)を使用することは、ソース・ファイルの最初の行に直接/DEFINE条件名をエンコードすることと同じです。

***NONE**

条件名は定義されません。これが省略時の値です。

条件名 最大32個までの条件名を指定することができます。各名前の長さは50桁までとすることができます。条件名はコンパイルの開始時に定義されるものと見なされます。

[トップ](#)

パフォーマンス収集使用可能化 (ENBPFCOL)

パフォーマンス収集を使用可能にするかどうかを指定します。

***PEP** パフォーマンス統計は、プログラム入りロプロシージャーの入り口および出口にのみ収集されます。これは、プログラムの実際のプログラム入りロプロシージャーに対して適用され、プログラム内のモジュールのメイン・プロシージャーには適用されません。これが省略時の値です。

***ENTRYEXIT**

パフォーマンス統計はプログラムのすべてのプロシージャーの入り口および出口に収集されます。

***FULL** パフォーマンス統計はすべてのプロシージャーの入り口および出口に収集されます。また、統計は、外部プロシージャーに対する各呼び出しの前後に収集されます。

[トップ](#)

プロファイル・データ (PRFDTA)

プログラム・プロファイル・データ属性をプログラムに指定します。プログラム・プロファイルは、統計データ（プロファイル・データ）に基づいてプロシージャーおよびプロシージャー内のコードを再順序づけするために使用される拡張最適化手法です。

***NOCOL**

このプログラムはプロファイル・データを収集できません。これが省略時の値です。

COL** プログラムはプロファイル・データを収集できます。COL**は、モジュールの最適化レベルが***FULL**の時と***CURRENT**のターゲット・リリースでコンパイルしている時にだけ指定することができます。

注: BNDDIRパラメーターを使用して追加のモジュールおよびサービス・プログラムをバインドする場合に、これらの追加のオブジェクトは***COL**または***NOCOL**がプログラムに指定されている時には影響を受けません。モジュールのプログラム・プロファイル・データ属性は、モジュール作成時に設定されます。

[トップ](#)

ライセンス内部コード・オプション (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターは、個別のコンパイル時オプションを選択できるようにするもので、選択したそれぞれのタイプのコンパイラー・オプションの潜在的な利点と欠点を理解した高度のプログラマーを対象にしています。

[トップ](#)

組み込みディレクトリー (INCDIR)

コピー・ファイルを検索するためにコンパイラーにより使用される検索パスに追加する1つ以上のディレクトリーを指定します。ソース・プログラム中のコピー・ファイルを解決できない場合に、コンパイラーはここに指定されたディレクトリーを検索します。

***NONE**

ユーザー・ディレクトリーでコピー・ファイルは検索されません。省略時の値により、ソース・ディレクトリーは検索されます。

'ディレクトリー'

コピー・ファイルを検索するディレクトリーを最大32個まで指定してください。指定されたディレクトリーの他に、ソース・ディレクトリーからもコピー・ファイルが検索されます。

[トップ](#)

生成プログラム・インターフェース (PGMINFO)

プログラム・インターフェース情報をストリーム・ファイルに生成するかどうかを指定します。指定できる値は次の通りです。

***NO** このオプションは、プログラム・インターフェース情報を生成しない省略時の値を指定します。

***PCML**

PCML (プログラム呼び出しマークアップ言語) をストリーム・ファイルに生成することを指定します。生成されたPCMLは、JAVAメソッドが少ないJAVAコードでこのRPGプログラムを呼び出しやすくします。生成されるPCMLが入るストリーム・ファイルの名前はINFOSTMFオプションに指定されていなければなりません。

[トップ](#)

プログラム・インターフェース・ストリーム・ファイル (INFOSTMF)

PGMINFOオプションに指定された生成されたプログラム・インターフェース情報が入るストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対修飾または相対修飾のいずれかとすることができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合は、パス名は完全です。相対修飾の場合は、パス名はジョブの現行作業ディレクトリーをそのパス名に付加することにより完全になります。

このパラメーターを指定できるのは、PGMINFOパラメーターに*NO以外の値が指定されている場合だけです。

トップ

プリプロセッサ・オプション (PPGENOPT)

ソース・コードのコンパイル時に使用するプリプロセッサ生成オプションを指定します。

考えられるオプションは次の通りです。

***NONE**

ソース・ファイルに対してコンパイラ全体を実行します。プリプロセッサ出力をファイルにコピーしません。

***DFT** 入力ソースに対してプリプロセッサを実行します。プリプロセッサ出力の生成のオプションとして、*RMVCOMMENT、*EXPINCLUDEおよび*NOSEQSRCが使用されます。出力ソース・ファイルおよびメンバーを指定するには、PPSRCFILEおよびPPSRCMBRを使用し、プリプロセッサ出力を含めるストリーム・ファイルを指定するには、PPSRCSTMFを使用してください。

***RMVCOMMENT**

プリプロセス中にコメント、ブランク行、およびほとんどのディレクティブを除去します。RPG仕様のみ、および仕様の正しい変換処理に必要なすべてのディレクティブは保存します。

***NORMVCOMMENT**

プリプロセス中にコメント、ブランク行、およびリスト制御ディレクティブ（たとえば、/EJECT、/TITLE）を保存します。プリプロセス中にソース制御ディレクティブ（たとえば、/COPY、/IF）をコメントに変換します。

***EXPINCLUDE**

生成された出力ファイルで/INCLUDEディレクティブを展開します。

***NOEXPINCLUDE**

/INCLUDEディレクティブは生成された出力ファイルに変更されずに配置されます。

注: /COPYディレクティブは常に展開されます。

***SEQSRC**

PPSRCFILEを指定した場合は、生成された出力メンバーには順次に順序番号が付けられ、000001で始まり、000001ずつ増分されます。

***NOSEQSRC**

PPSRCFILEを指定した場合は、生成された出力メンバーは、プリプロセッサが読み取った元のソースと同じ順序番号を持ちます。

トップ

出力ソース・ファイル (PPSRCFILE)

プリプロセッサ出力のソース・ファイル名およびライブラリーを指定します。

ソース・ファイル名

プリプロセッサ出力のソース・ファイルの名前を指定します。

考えられるライブラリー値は次の通りです。

***CURLIB**

プリプロセッサ出力は現行ライブラリー中に作成されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合は、プリプロセッサ出力ファイルはQGPLライブラリー中に作成されます。

ライブラリー名

プリプロセッサ出力のライブラリーの名前を指定します。

トップ

出力ソース・メンバー (PPSRCMBR)

プリプロセッサ出力のソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

***PGM** PGMパラメーターに提供した名前は、プリプロセッサ出力メンバー名として使用されます。

メンバー名

プリプロセッサ出力のメンバーの名前を指定します。

トップ

出カストリーム・ファイル (PPSRCSTMF)

プリプロセッサ出力のストリーム・ファイルのパス名を指定します。

***SRCSTMF**

SRCSTMFパラメーターに提供したパス名は、プリプロセッサ出力パス名として使用されます。ファイルは拡張子'.I'を持ちます。

'パス名'

プリプロセッサ出力ストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対修飾または相対修飾のいずれかとすることができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合は、パス名は完全です。相対修飾の場合は、パス名はジョブの現行作業ディレクトリーをそのパス名に付加することにより完全になります。

トップ

例

例1: ソース・プログラムのプログラム・オブジェクトへのコンパイル

```
CRTBNDRPG  PGM(MYLIB/XMPLE1)
            SRCFILE(MYLIB/QRPGSRC)  SRCMBR(XMPLE1)
            OUTPUT(*PRINT)  TEXT('MY RPG IV PROGRAM')
```

このコマンドはILE RPGのコンパイラーを呼び出して、XMPLE1の名前のプログラムを作成します。ソース・プログラムは、ライブラリーMYLIB中のソース・ファイルQRPGLESRCのメンバーXMPLE1中にあります。コンパイラー・リストが作成されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

RNS9310

コンパイルは正常に実行されなかった。プログラム&1がライブラリー&2に作成されませんでした。

[トップ](#)

COBOLモジュールの作成 (CRTCBLMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CRTCBLMODコマンドはILE COBOLソース・プログラムをモジュールの中にコンパイルします。このコマンドは、対話式、バッチ・モード、またはCLプログラムで使用することができます。

CRTCBLMODコマンドに指定されたすべてのオブジェクト名は、AS/400命名規則に従っていなければなりません。

CRTCBLMODコマンドのパラメーターについての説明は、次の通りです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: モジュール	名前, *PGMID	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCBLLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *MODULE	オプション, 位置 3
SRCSTMF	ソース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 30	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT, *NONE	オプション, 位置 4
OPTION	コンパイラー・オプション	値 (最大 50 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *NOXREF, *XREF, *GEN, *NOGEN, *NOSEQUENCE, *SEQUENCE, *NOVBSUM, *VBSUM, *NONUMBER, *NUMBER, *LINENUMBER, *NOMAP, *MAP, *NOOPTIONS, *OPTIONS, *QUOTE, *APOST, *NOSECLVL, *SECLVL, *PRTCORR, *NOPRTCORR, *MONOPRC, *NOMONOPRC, *RANGE, *NORANGE, *NOUNREF, *UNREF, *NOSYNC, *SYNC, *NOCRTF, *CRTF, *NODUPKEYCHK, *DUPKEYCHK, *NOINZDLT, *INZDLT, *NOBLK, *BLK, *STDINZ, *NOSTDINZ, *STDINZHEX00, *NODDSFILLER, *DDSFILLER, *NOIMBEDERR, *IMBEDERR, *STDTRUNC, *NOSTDTRUNC, *NOCHGPOSSGN, *CHGPOSSGN, *NOEVENTF, *EVENTF, *MONOPIC, *NOMONOPIC, *NOCRTARKIDX, *CRTARKIDX	オプション, 位置 5

キーワード	記述	選択項目	注
CVTOPT	変換オプション	値 (最大 8 回の繰り返し): *NOVARCHAR, *VARCHAR, *NODATETIME, *DATETIME, *NOPICXGRAPHIC, *PICXGRAPHIC, *NOPICGGRAPHIC, *PICGGRAPHIC, *NOFLOAT, *FLOAT, *NODATE, *DATE, *NOTIME, *TIME, *NOTIMESTAMP, *TIMESTAMP, *NOCVTTODATE, *CVTTODATE, *NOPICNGRAPHIC, *PICNGRAPHIC	オプション
MSGLMT	メッセージ限界	要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージの数	0-9999, *NOMAX	
	要素 2: メッセージ限界重大度	0-30, 30	
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	*STMT , *SOURCE, *LIST, *ALL, *NONE	オプション
OPTIMIZE	最適化レベル	*NONE , *BASIC, *FULL	オプション
FLAGSTD	FIPSフラグ付け	値 (最大 2 回の繰り返し): *NOFIPS, *MINIMUM, *INTERMEDIATE, *HIGH, *NOOBSOLETE, *OBSOLETE	オプション
EXTDSPOPT	拡張表示オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *DFRWRT, *NODFRWRT, *UNDSPCHR, *NOUNDSPCHR, *ACCUPDALL, *ACCUPDNE	オプション
FLAG	フラグ重大度	0-99, 0	オプション
REPLACE	モジュールの置き換え	*YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
LINKLIT	リンク・リテラル	*PGM , *PRC	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT , *PRV	オプション
SRTSEQ	ソート順序	単一値: *HEX , *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語ID	文字値, *JOBRUN , *JOB	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集の活動化	単一値: *PEP その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 収集レベル	*FULL , *ENTRYEXIT	
PRFDTA	プロファイル・データ	*NOCOL , *COL	オプション
CCSID	コード化文字セットID	整数, *JOBRUN , *HEX, *JOB	オプション
ARITHMETIC	演算モード	*NOEXTEND , *EXTEND31, *EXTEND63	オプション
NTLPADCHAR	PADDING CHARACTER	要素リスト	オプション
	要素 1: SINGLE BYTE TO NATIONAL	文字値, *DEFAULT	
	要素 2: DOUBLE BYTE TO NATIONAL	文字値, *DEFAULT	
	要素 3: NATIONAL TO NATIONAL	文字値, *DEFAULT	
LICOPT	LICENSED INTERNAL CODE OPTIONS	文字値	オプション
INCDIR	ディレクトリー組み込み	値 (最大 32 回の繰り返し): パス名, *NONE	オプション
PGMINFO	プログラム・インターフェース生成	*NO , *PCML	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
INFOSTMF	プログラム・インターフェース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション

トップ

モジュール (MODULE)

作成中のモジュール・オブジェクトのモジュール名およびライブラリー名を指定します。モジュール名およびライブラリー名はAS/400命名規則に従ってなければなりません。指定できる値は次の通りです。

*PGMID

モジュールの名前は、コンパイル単位の一番外側のILE COBOLソース・プログラムのPROGRAM-ID段落から引用されます。

モジュール名

コンパイル済みILE COBOLモジュールを識別する名前を入力してください。このパラメーターにモジュール名を指定して、この名前を使用する順序で ソース・プログラムの順序（単一ソース・ファイル・メンバーの複数のコンパイル単位）をコンパイルすると、この順序の最初のモジュールがこの名前を使用し、他のモジュールは対応する一番外側のコンパイル単位のILE COBOLソースのPROGRAM-ID段落に指定された名前を使用します。

指定可能なライブラリー値は、次の通りです。

*CURLIB

作成されたモジュール・オブジェクトは現行ライブラリーの中に記憶されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

作成されたモジュール・オブジェクトを記憶するライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルするILE COBOLソース・コードが入っているソース・ファイルおよびライブラリーの名前を指定します。このソース・ファイルのレコード長は92でなければなりません。指定できる値は次の通りです。

QCBLLSRC

ソース・ファイルQCBLLSRCにコンパイルするCOBOLのソース・コードが入っていることを指定します。

ソース・ファイル名

コンパイルするILE COBOLのソース・コードが入っているソース・ファイルの名前を入力します。

指定可能なライブラリー値は、次の通りです。

***LIBL** ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるためにライブラリー・リストが探索されます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルするILE COBOLソース・コードが入っているメンバーの名前を指定します。SRCFILEパラメーターで参照しているソース・ファイルがデータベース・ファイルである場合にだけ、このパラメーターを指定することができます。指定できる値は次の通りです。

***MODULE**

MODULEパラメーターで指定されたモジュール名と同じ名前をもつソース・ファイル・メンバーが使用されます。

MODULEパラメーターにモジュール名を指定しない場合には、データベース・ソース・ファイルの最初のメンバーが使用されます。

ソース・ファイル・メンバー名

ILE COBOLソース・コードが入っているメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)

コンパイルするILE COBOLソース・コードが入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対的または相対的に修飾することができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合には、パス名は完全です。相対修飾の場合には、パス名は、パス名にジョブの現行作業ディレクトリーを付加することによって完了します。

SRCMBRおよびSRCFILEパラメーターをSRCSTMFパラメーターと一緒に指定することはできません。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

モジュール・オブジェクトを作成するかどうかを決定する重大度レベルを指定します。重大度レベルはコンパイル時に生成されるメッセージの重大度レベルと対応しています。このパラメーターは、ソース・ファイル・メンバーの各コンパイル単位に個別に適用されます。前のコンパイル単位が正常に実行されない場合でも、ソース・ファイル・メンバー中のその他のコンパイル単位はコンパイルされることとなります。

指定できる値は次の通りです。

30 30以上の重大度レベルのエラーが起こった場合には、モジュール・オブジェクトは作成されません。

重大度レベル

モジュール・オブジェクトを作成するかどうかを決定するために使用したい重大度レベルを、0-30の範囲の1桁または2桁の数字で指定してください。この重大度レベル以上の重大度レベルのエラーが起った場合には、モジュール・オブジェクトは作成されません。

[トップ](#)

テキスト記述 (TEXT)

モジュールおよびその機能を簡単に説明するテキストを入力することができます。

***SRCMBRTXT**

モジュール・オブジェクトの記述には、ILE COBOLソース・コードが入っているデータベース・ファイル・メンバーを記述するのと同じテキストが使用されます。情報源が装置ファイルまたはインライン・ファイルからの場合には、*SRCMBRTXTの指定は*BLANKの指定と同じ効果となります。

***BLANK**

テキストは指定されません。

テキスト記述

モジュールおよびその機能を簡単に説明するテキストを入力してください。テキストは最大50桁の長さのSBCS文字にすることができ、単一引用符で囲む必要があります。単一引用符は50桁の文字ストリングの一部にはなりません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストを生成するかどうかを指定します。指定できる値は次の通りです。

***PRINT**

コンパイル・リストが生成されます。メンバーがコンパイルされる場合には、出力ファイルはメンバーと同じ名前になります。ストリーム・ファイルがコンパイルされて、PGMパラメーターに*PGMIDが指定されている場合には、出力ファイルはCOBOLPGM00という名前になります。そうでない場合には、プログラムと同じ名前になります。

***NONE**

コンパイル・リストは生成されません。

[トップ](#)

コンパイラー・オプション (OPTION)

ILE COBOLソース・コードのコンパイル時に使用するオプションを指定します。

ILE COBOLソース・プログラムのPROCESSステートメントで指定されたオプションによって、OPTIONパラメーターの対応するオプションが指定変更されます。

OPTIONパラメーターに指定できる値は、次の通りです。

SOURCE**またはSRC**

コンパイラーは、ILE COBOLソース・プログラムとすべてのコンパイル時エラー・メッセージから構成されるソース・リストを作成します。

NOSOURCE**またはNOSRC**

コンパイラーはリストのソース・パートを作成しません。ソース・リストが不要である場合には、コンパイル時間を短くすることができるので、このオプションを使用してください。

***NOXREF**

コンパイラーはILE COBOLソース・プログラムの相互参照表を作成しません。

***XREF**

コンパイラーはILE COBOLソース・プログラムの相互参照表を作成します。

***GEN** コンパイラーは、ILE COBOLソースのコンパイル後に、モジュール・オブジェクトを作成します。

***NOGEN**

コンパイラーは、ILE COBOLソース・プログラムのコンパイル後に、モジュール・オブジェクトを作成しません。エラー・メッセージまたはリストだけが必要な場合には、このオプションを指定することができます。

***NOSEQUENCE**

参照番号の順序エラーは検査されません。

***SEQUENCE**

参照番号の順序エラーが検査されます。***LINENUMBER**オプションを指定した場合には、順序エラーは起こりません。

***NOVBSUM**

動詞使用カウントは印刷されません。

***VBSUM**

動詞使用カウントが印刷されます。

***NONUMBER**

ソース・ファイルの順序番号が参照番号に使用されます。

***NUMBER**

ユーザー提供の順序番号（1-6桁目）が参照番号に使用されます。

***LINENUMBER**

コンパイラーによって作成された順序番号が参照番号に使用されます。このオプションはILE COBOLプログラムのソース・コードとCOPYステートメントで導入されたソース・コードを結合して、1つの連続番号順にします。FIPS（米国情報処理規格）フラグ付けまたはSAAフラグ付けを指定する場合には、このオプションを使用してください。

***NOMAP**

コンパイラーはデータ部マップをリストしません。

***MAP** コンパイラーはデータ部マップをリストします。

***NOOPTIONS**

このコンパイルに有効となっているオプションがリストされません。

***OPTIONS**

このコンパイルに有効となっているオプションがリストされます。

***QUOTE**

区切り文字引用符(")が非数値リテラル、16進リテラル、およびブール・リテラルに使用されることを指定します。また、このオプションは、表意定数QUOTEの値が引用符のEBCDIC値をもつことも指定します。

***APOST**

区切り文字アポストロフィ(')が非数値リテラル、16進リテラル、およびブール・リテラルに使用されることを指定します。また、このオプションは、表意定数QUOTEの値が引用符のEBCDIC値をもつことも指定します。

***NOSECLVL**

このコンパイルで第2レベル・メッセージ・テキストはリストされません。

***SECLVL**

このコンパイルで、コンパイル・リストのメッセージ・セクションに、第1レベル・エラー・テキストと一緒に第2レベル・メッセージ・テキストがリストされます。

***PRTCORR**

CORRESPONDING句の使用の結果として基本項目が含まれることを示すコメント行がコンパイル・リストの中に挿入されます。

***NOPRTCORR**

CORRESPONDING句が使用された時に、コメント行はコンパイル・リストの中に挿入されません。

***MONOPRC**

PROGRAM-ID段落、CALL、CANCEL、またはSET ENTRYステートメント、およびEND PROGRAMヘッダーで見つかったプログラム名（リテラルまたは語句）は、すべて大文字（単一シフト）に変換され、プログラム名作成規則が強制的に適用されます。

***NOMONOPRC**

PROGRAM-ID段落、CALL、CANCEL、またはSET ENTRYステートメント、およびEND PROGRAMヘッダーで見つかったプログラム名（リテラルまたは語句）は、すべて大文字（非単一シフト）に変換されず、プログラム名作成規則は強制されません。このオプションによって、標準COBOLでは使用できない特殊文字を、CALL行き先に使用することができます。

***RANGE**

実行時に、添え字は正しい範囲内にあることを確認するために検査されますが、指標の範囲は検査されません。参照変更およびコンパイラ生成のサブstring命令も検査されます。

形式が正しいこと、さらに正しい日付、時刻、またはタイム・スタンプが表示されていることを確認するために、日付-時刻項目の内容を検査します。

***NORANGE**

実行時に範囲は検査されません。

注: *RANGEオプションによって添え字範囲を検査するコードが生成されます。たとえば、20 要素の配列の21番目の要素をアクセスしようとしていないことが確認されます。

*NORANGEオプションは添え字の範囲を検査するコードを生成しません。結果として、

*NORANGEオプションによって高速の実行コードが作成されます。

***NOUNREF**

参照されていないデータ項目はコンパイル済みモジュールの中に含まれません。これによって、使用記憶域の量が減少し、より大きなプログラムをコンパイルすることができます。*NOUNREFオプ

ションを選択している時には、デバッグ中に、参照されていないデータ項目を表示したり割り当てたりすることはできません。参照されていないデータ項目は、OPTION (*XREF)を指定して生成された相互参照表にはまだ表示されます。

***UNREF**

参照されていないデータ項目は、コンパイル済みモジュールに含まれます。

***NOSYNC**

SYNCHRONIZED文節は構文検査のみが行なわれます。

***SYNC**

SYNCHRONIZED文節がコンパイラーによってコンパイルされます。SYNCHRONIZED文節によって、データ項目の位置は、右端（最小有効文字）が自然の記憶域境界になるように位置合わせされます。自然の記憶域境界は、記憶するデータの長さおよびタイプによって、記憶域の中で次に最も近い4バイト境界、8バイト境界、または16バイト境界となります。この位置合わせを達成するために位置合わせされた項目に隣接する特別の記憶域が予約されます。SYNCHRONIZEDと記述された各基本データ項目は、そのデータ記憶域割り当てに対応する自然の記憶域境界に位置合わせされます。

***NOCRTF**

OPEN命令の実行時に使用できないディスク・ファイルは、動的には作成されません。

***CRTF**

OPEN命令の実行時に使用できないディスク・ファイルが、動的に作成されます。

注: 動的に作成されるファイルの最大レコード長は32766です。*CRTFオプションが指定された場合でも、索引付きファイルは動的に作成されません。

***NODUPKEYCHK**

INDEXEDファイルの重複した基本レコード・キーと代替レコード・キーを検査しません。

***DUPKEYCHK**

INDEXEDファイルの重複した基本レコード・キーと代替レコード・キーを検査します。

***NOINZDLT**

順次アクセスによる相対ファイルは、ファイルがOUTPUT用にオープンされた場合には、CLOSE命令時に削除済みレコードを初期設定しません。レコード境界はOPEN OUTPUT時に書き出されたレコード数によって決まります。次のOPEN命令によって、レコード境界までに限ってアクセスすることができます。

***INZDLT**

順次アクセスによる相対ファイルは、ファイルがOUTPUT用にオープンされた場合には、CLOSE命令時に削除済みレコードを初期設定します。ファイルの活動レコードは影響を受けません。レコード境界は、次のOPEN命令のファイル・サイズとして定義されます。

***NOBLK**

コンパイラーは、STARTステートメントによらないSEQUENTIALアクセス・ファイルのブロック化だけを許します。BLOCK CONTAINS文節は、指定された場合には、テープ・ファイルの場合を除いて無視されます。

***BLK** *BLKが使用されて、BLOCK CONTAINS文節が指定された時には、コンパイラーは、STARTステートメントによるDYNAMICアクセス・ファイルおよびSEQUENTIALアクセス・ファイルのブロック化を許します。出力操作でオープンされたRELATIVEファイルのブロック化は許されません。BLOCK CONTAINS文節はブロック化するレコードの数を制御します。

*BLKが使用され、BLOCK CONTAINS文節が指定されていない時には、コンパイラーはSTARTステートメントによらないSEQUENTIALアクセス・ファイルのブロック化だけを許します。オペレーティング・システムがブロック化するレコード数を決定します。

***STDINZ**

VALUE文節をもたないこれらの項目の場合に、コンパイラーはデータ項目をシステムの省略時の値に初期設定します。

***NOSTDINZ**

VALUE文節をもたないこれらの項目の場合に、コンパイラーはデータ項目をシステムの省略時の値に初期設定しません。

***STDINZHEX00**

VALUE文節をもたないこれらの項目の場合に、コンパイラーはデータ項目を16進数のゼロに初期設定します。

***NODDSFILLER**

COPY DDSステートメントによって突き合わせフィールドが見つからない場合には、フィールド記述は生成されません。

***DDSFILLER**

COPY DDSステートメントによって突き合わせフィールドが見つからない場合には、単一文字のFILLERフィールド記述"07 FILLER PIC X"が常に作成されます。

***NOIMBEDERR**

エラー・メッセージはコンパイル・リストのソース・リスト・セクションに含まれません。エラー・メッセージは、コンパイル・リストのエラー・メッセージ・セクションにだけ表示されます。

***IMBEDERR**

第1レベル・エラー・メッセージは、コンパイル・リストのソース・リスト・セクションに含まれ、エラーが起こった行の直後に表示されます。エラー・メッセージは、コンパイル・リストのエラー・メッセージ・セクションにも表示されます。

***STDTRUNC**

このオプションはUSAGE BINARYデータにだけ適用されます。*STDTRUNCを選択した時には、USAGE BINARYデータはBINARY受け取りフィールドのPICTURE文節の桁数まで切り捨てられます。

***NOSTDTRUNC**

このオプションはUSAGE BINARYデータにだけ適用されます。*NOSTDTRUNCを選択した時には、BINARY受け取りフィールドはハーフ・ワード、フル・ワード、またはダブル・ワード境界までのみ切り捨てられます。また、BINARY送り出しフィールドもハーフ・ワード、フル・ワード、またはダブル・ワードとして処理されます。したがって、フィールドの全2進数の内容が有効です。また、DISPLAYステートメントはBINARYフィールドの内容全体が切り捨てなしで変換されます。

***NOCHGPOSSGN**

ゾーンおよびパック数字データの省略時の正符号として16進数のFが使用されます。16進数のFは、OS/400オペレーティング・システムのシステム省略時の値です。

***CHGPOSSGN**

ゾーンおよびパック数字データの省略時の正符号として16進数のCが使用されます。これは、VALUE文節の結果の他にMOVE, ADD, SUBTRACT, MULTIPLY, DIVIDE, COMPUTE,およびINITIALIZEステートメントのすべての結果に適用されます。

***NOEVENTF**

連携開発環境/400 (CODE/400)で使用するイベント・ファイルを作成しません。CODE/400は、このファイルを使用して、エラーのフィードバックをCODE/400エディターに組み込みます。モジュールまたはプログラムをCODE/400内から作成した時には、通常、イベント・ファイルが作成されません。

***EVENTF**

連携開発環境/400 (CODE/400)で使用するイベント・ファイルが作成されます。イベント・ファイルは、作成されるモジュールまたはプログラム・オブジェクトが記憶されるライブラリー中のファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。ファイルEVFEVENTが存在していない場合には、自動的にこれが作成されます。イベント・ファイルのメンバー名は、作成されるオブジェクトの名前と同じです。

CODE/400は、このファイルを使用して、エラーのフィードバックをCODE/400エディターに組み込みます。モジュールまたはプログラムをCODE/400内から作成した時には、通常、イベント・ファイルが作成されます。

***MONOPIC**

PICTURE文字ストリングは、すべて大文字（単一シフト）に変換されます。

***NOMONOPIC**

PICTURE文字ストリングに使用される通貨記号は大文字・小文字が区別されます。すなわち、PICTURE記号A, B, E, G, N, P, S, V, X, Z, CR,およびDBの大文字に対応する小文字は、PICTURE文字ストリングの中のそれらの大文字表記と同じです。他の小文字はすべて対応するそれらの大文字表記と同じではありません。

***NOCRTARKIDX**

永続索引が見つからない場合には、一時代替レコード・キー(ARK)索引は作成されません。

***CRTARKIDX**

永続索引が見つからない場合に、一時代替レコード・キー(ARK)索引が作成されます。

トップ

変換オプション (CVTOPT)

コンパイラーが、COPY DDSを介して外部記述ファイルからプログラムに渡された日付、時刻、およびタイム・スタンプ・フィールド・タイプ、DBCSフィールド・タイプ、可変長文字フィールド・タイプ、および浮動小数点フィールド・タイプを処理する方法を指定します。指定できる値は次の通りです。

***NOVARCHAR**

可変長フィールドはFILLERフィールドとして定義されます。

***VARCHAR**

可変長フィールドは、グループ項目として宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

***NODATETIME**

日付、時刻、およびタイム・スタンプ・データ・タイプがFILLERフィールドとして定義されます。

***DATETIME**

日付、時刻、およびタイム・スタンプのDDSデータ・タイプは、DDS名に基づいて指定されたCOBOLデータ項目名です。CVTOPTパラメーター値*DATE、*TIME,または*TIMESTAMPの1つが指

定されない限り、COBOLデータ項目のカテゴリーは英数字です。この場合には、COBOLデータ項目のカテゴリーは、それぞれ日付、時刻、またはタイム・スタンプです。

***NOPIXGRAPHIC**

DBCSグラフィック・データ・タイプがFILLERフィールドとして定義されます。

***PICXGRAPHIC**

固定長DBCSグラフィックデータ・タイプは固定長英数字フィールドとして宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

*VARCHARオプションも使用されている場合には、可変長DBCSグラフィック・データ・タイプは固定長グループ項目として宣言されて、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

***PICGGRAPHIC**

固定長DBCSグラフィック・データ・タイプは固定長Gタイプ・フィールドとして宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

*VARCHARオプションも使用されている場合には、可変長DBCSグラフィック・データ・タイプは固定長グループ項目（後にGタイプ・フィールドが続く数値フィールドから構成される）として宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

***NOPICGGRAPHIC**

DBCSグラフィック・データ・タイプがFILLERフィールドとして定義されます。

***NOFLOAT**

浮動小数点データ・タイプは2進数のUSAGEが指定されたFILLERフィールドとして宣言されます。

***FLOAT**

浮動小数点データ・タイプが、そのDDS名およびCOMP-1（単精度）またはCOMP-2（倍精度）のUSAGEが指定されてプログラムに組み込まれます。これらのフィールドはILE COBOLソース・プログラムにアクセスできるようになります。

***NODATE**

DDS日付データ・タイプは、カテゴリー英数字COBOLデータ項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

```
06 FILLER PIC X(10).
```

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***DATE**

DDS日付データ・タイプは、カテゴリー日付COBOLデータ項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

```
06 FILLER FORMAT DATE '@Y-%M-%D'.
```

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***NOTIME**

DDS時刻データ・タイプは、カテゴリー英数字COBOLデータ項目として宣言されます。たとえば次のようになります。

```
06 FILLER PIC X(8).
```

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***TIME** DDS時刻データ・タイプが、カテゴリ時刻COBOLデータ項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

```
06 FILLER FORMAT TIME '%H:%M:%S'.
```

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***NOTIMESTAMP**

DDSタイム・スタンプ・データ・タイプが、カテゴリ英数字COBOLデータ項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

```
06 FILLER PIC X(26).
```

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***TIMESTAMP**

DDSタイム・スタンプ・データ・タイプが、カテゴリのタイム・スタンプCOBOLデータ項目として宣言されます。たとえば、次のようになります。

```
06 FILLER FORMAT TIMESTAMP.
```

COBOLデータ項目名が、*NODATETIME/*DATETIME CVTOPTパラメーターによって判別されます。

***NOCVTTODATE**

DATFMTキーワードを指定したDDSデータ・タイプ(DDS日付データ・タイプを除く)は、元のDDSタイプに基づいてILE COBOLで宣言されます。

***CVTTODATE**

DATFMTキーワードを指定したDDSデータ・タイプ(DDS日付データ・タイプを除く)は、日付データ・タイプとしてILE COBOLで宣言されます。

***NOPICNGRAPHIC**

DBCSグラフィック・データ・タイプがFILLERフィールドとして定義されます。

***PICNGRAPHIC**

固定長DBCSグラフィック・データ・タイプは固定長各国語データ・フィールドとして宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

[トップ](#)

メッセージ限界 (MSGLMT)

各コンパイル単位について、その数だけのエラーが発生するとコンパイルが停止する特定のエラー重大度レベルのメッセージの最大数を指定します。1つのコンパイル単位がこの最大数に達すると、ソース・メンバー全体のコンパイルが停止されます。

たとえば、メッセージの最大数に3を指定し、エラー重大度レベルに20を指定した場合には、20以上の重大度レベルのエラーが3つまたはそれ以上起こった場合に、コンパイルが停止します。指定のエラー重大度レベルと等しいかまたは超えているメッセージがない場合には、見つかったエラーの数に関係なくコンパイルは続行されます。

メッセージの数

メッセージの最大数を指定してください。指定できる値は次の通りです。

***NOMAX**

見つかったエラーの数に関係なく正常完了までコンパイルは続行されます。

最大数 コンパイルが停止する前に指定のエラー重大度レベルでまたはそれ以上で発生可能なメッセージの最大数を指定します。有効な範囲は0-9999です。

メッセージ限界重大度

コンパイルを停止するかどうかを判別するのに使用されるエラー重大度レベルを指定します。指定できる値は次の通りです。

30 重大度レベル30以上のエラーの数が指定されたメッセージの最大数を超過している場合に、コンパイルが停止します。

エラー重大度レベル

コンパイルを停止するかどうかを判別するのに使用したいエラー重大度レベルを、0-30の1桁または2桁の数字で入力してください。この重大度レベル以上のエラーの数が指定されたメッセージの最大数を超過している場合に、コンパイルが停止します。

トップ

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

コンパイルされたモジュールのデバッグに使用可能なソース・プログラムのビューまたは生成されたリストを制御するオプションを指定します。指定できる値は次の通りです。

***STMT**

記号名およびステートメント番号を使用して、コンパイルされたモジュールをデバッグすることができます。

***SOURCE**

COPYステートメントを介して含まれたコピーされたメンバーの他に、1次ソース・メンバーには、コンパイル済みモジュールのデバッグ用に使用可能なソース・ビューがあります。これらのビューは、1次ソース・メンバーおよびコピーされたソース・メンバーがローカル・データベース・ソース・ファイルから参照される場合だけ使用可能です。コンパイルおよびデバッグ中にメンバーを変更または削除しないでください。

***LIST** COPYおよびREPLACEステートメントの処理後にソース・コードを表示するリストは、コンパイル済みモジュールのデバッグに使用することができます。このオプションはコンパイル済みモジュールのサイズが増えますが、コンパイル済みプログラムの実行時パフォーマンスには影響しません。

リスト・ビューは、対応するコンパイラ・オプションが要求されたときに、相互参照表、データ部のマップ、および動詞の使用カウントを含めます。たとえば、OPTION(*XREF)が指定されると、相互参照表が含まれます。

1次ソース・メンバーおよびコピーされたソース・メンバーがどこにあっても、リスト・ビューを生成することができます。リスト・ビューはコンパイル後のソース・メンバーの変更または削除の影響を受けません。

***ALL** *STMT, *SOURCE,および*LISTを組み合わせて指定することと等価です。

***NONE**

コンパイルされたモジュールをデバッグすることはできません。これはコンパイル済みプログラムのサイズを減少しますが、その実行時パフォーマンスに影響しません。このオプションを指定した時には、定様式ダンプをとることはできません。

[トップ](#)

最適化レベル (OPTIMIZE)

モジュールの最適化のレベルを指定します。指定できる値は次の通りです。

***NONE**

コンパイル済みモジュールで最適化は実行されません。このオプションを使用した時には、コンパイル時間は最小化されます。このオプションによって、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。

***BASIC**

コンパイル済みモジュールで一部の最適化（ローカル・ブロック・レベルでのみ）が実行されます。このオプションによって、デバッグ中にユーザー変数を表示できますが、変更することはできません。

***FULL** コンパイル済みモジュールで完全な最適化（グローバル・レベルで）が実行されます。この最適化によって、コンパイル時間は増えますが、最も効率的なコードが生成されます。このオプションによって、デバッグ中にユーザー変数を表示できますが、変更することはできません。表示された変数の値は最新の値でない場合があります。一部の変数は、表示されない場合があります。

注: 選択した最適化レベルに関係なく、全面的な最適化を可能にするすべての情報が生成されます。ユーザーは、ソース・プログラムを再コンパイルすることなく、CHGMOD コマンドを使用して、モジュール・オブジェクトの*NONEから*FULLまで最適化レベルを変更することができます。

[トップ](#)

FIPSフラグ付け (FLAGSTD)

FIPSフラグ付けのオプションを指定します。（FIPSメッセージで使用された参照番号が固有であることを確認するためには、*LINENUMBERオプションを選択してください。）指定できる値は次の通りです。

***NOFIPS**

ILE COBOLソース・プログラムにはFIPSフラグ付きではありません。

***MINIMUM**

最低サブセット以上のFIPSフラグ。

***INTERMEDIATE**

中間サブセット以上のFIPSフラグ。

***HIGH** 高サブセットのFIPSフラグ。

***NOOBSOLETE**

使用しない言語要素にフラグが付けられません。

***OBSOLETE**

使用されなくなった言語要素にフラグが付けられます。

拡張表示オプション (EXTDSPOPT)

ワークステーション入出力用に拡張ACCEPTおよび拡張DISPLAYステートメントを使用するためのオプションを指定します。指定できる値は次の通りです。

*DFRWRT

拡張DISPLAYステートメントは、拡張ACCEPTステートメントが見つかるか、あるいはバッファーが満たされるまで、バッファーの中に保留されます。

バッファーの内容は、拡張ACCEPTステートメントが見つかるか、あるいはバッファーが満たされた時に表示装置に書き出されます。

*NODFRWRT

各拡張DISPLAYステートメントはそれが出てきた時に実行されます。

*UNDSPCHR

表示可能および表示不能文字は、拡張ACCEPTおよび拡張DISPLAYステートメントによって処理されます。

*NOUNDSPCHR

表示可能文字だけが、拡張ACCEPTおよび拡張DISPLAYステートメントによって処理されます。

リモート3174および3274制御装置に接続された表示装置にこのオプションを使用しなければなりません。ローカル・ワークステーションにもこのオプションを使用することができます。このオプションを使用する場合には、データに表示可能文字だけが入っていないと見なされません。データに16進数20より小さい値が入っている場合には、予期しない画面様式から重大エラーに至る結果を予測することはできません。

*ACCUPDALL

UPDATE句の存在に関係なく、拡張ACCEPTステートメントですべてのタイプのデータが事前表示されます。

*ACCUPDNE

UPDATE句が含まれていない拡張ACCEPTステートメントで数字編集されたデータだけが事前表示されます。

フラグ重大度 (FLAG)

コンパイル・リストに表示するメッセージの最小重大度レベルを指定します。指定できる値は次の通りです。

0 全てのメッセージがコンパイル・リストに表示されます。

重大度レベル

コンパイル・リストに表示したいメッセージの最小重大度レベルを指定する1桁または2桁の数字を入力してください。指定されたこの値以上の重大度レベルをもつメッセージがコンパイル・リストに表示されます。

モジュールの置き換え (REPLACE)

指定されたライブラリーまたは暗黙のライブラリーに同じ名前のモジュールがすでに存在している時に、新しいモジュールを作成するかどうかを指定します。指定できる値は次の通りです。

- *YES** 新しいモジュールが作成され、指定されたライブラリーまたは暗黙のライブラリーで同じ名前のすべての既存のモジュールを置き換えます。指定されたライブラリーまたは暗黙のライブラリーで同じ名前の既存のモジュールはライブラリーQRPLIBに移動されます。
- *NO** 指定されたライブラリーまたは暗黙のライブラリーに同じ名前のモジュールがすでに存在する場合には、新しいモジュールは作成されません。既存のモジュールは置き換えられず、メッセージが表示され、コンパイルは停止します。

トップ

権限 (AUT)

モジュール・オブジェクトに対する特定権限を持っていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、またはグループがモジュール・オブジェクトに対する特定権限を持っていないユーザーに与える権限を指定します。モジュール・オブジェクトを作成した後で、GRTOBJAUT（オブジェクト権限認可）またはRVKOBJAUT（オブジェクト権限取り消し）コマンドを使用してすべてのユーザーまたは特定のユーザーの権限を変更することができます。

指定できる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

オブジェクトの共通認可は、宛先ライブラリー（作成されたモジュール・オブジェクトが入っているライブラリー）のCRTAUTキーワードから引用されます。この値はモジュール・オブジェクトが作成される時に決定されます。モジュール・オブジェクトが作成された後で、CRTAUTの値が変更された場合には、新しい値は既存のすべてのオブジェクトに影響しません。

- *ALL** 所有者に限定されているか、または権限リスト管理権限によって管理されている以外のモジュール・オブジェクトにすべての操作の権限を与えます。ユーザーはモジュール・オブジェクトの存在を制御し、それに対する機密保護を指定して、それに対して基本機能を実行することができますが、その所有権を転送することはできません。

*CHANGE

所有者に限定されているか、または権限リスト管理権限によって管理されている以外のモジュール・オブジェクトにすべてのデータ権限およびモジュール・オブジェクトにすべての操作の実行権限を提供します。ユーザーはオブジェクトを変更し、それに対して基本機能を実行することができます。

- *USE** モジュール・オブジェクトに基本的な操作を実行するための権限であるオブジェクト操作権および読み取り権限を提供します。ユーザーはオブジェクトに対して基本的な操作を実行することができますが、オブジェクトを変更することはできません。

*EXCLUDE

ユーザーはモジュール・オブジェクトをアクセスすることができません。

権限リスト名

ユーザーおよびモジュールを追加する権限の権限リストの名前を入力してください。モジュール・オブジェクトは、この権限リストによって保護され、モジュール・オブジェクトの共通権限は

*AUTLに設定されます。CRTCLBLMODコマンドが出された時に、この権限リストはシステム上に存在していなければなりません。権限リスト作成(CRTAUTL)コマンドを使用してユーザー専用の権限リストを作成してください。

トップ

リンク・リテラル (LINKLIT)

外部CALL/CANCEL 'リテラル' 行き先およびSET ENTRY行き先の関係タイプを指定します。SPECIAL-NAMES段落に次の文を指定することによって、特定の外部CALL/CANCEL 'リテラル' 行き先およびSET ENTRY行き先リストに対するこのオプションを一時変更することができます。

LINKAGE TYPE IS プログラム内ファイル名 FOR 行き先リスト。

LINKLITに指定できる値は、次の通りです。

***PGM** CALL/CANCELまたはSET ENTRYの行き先はプログラム・オブジェクトです。

***PRC** CALL/CANCELまたはSET ENTRYの行き先はILEプロシージャです。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成されるモジュール・オブジェクトを使用する予定であるオペレーティング・システムのリリースを指定します。*CURRENTおよび*PRV値の説明で示した例および ターゲット・リリース 値を指定するときのリリースの指定方法はVXRXXMXの形式です。ここで、VXはバージョンで、RXはリリースで、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V2R3M0はバージョン2,リリース3,モディフィケーション・レベル0です。

このパラメーターに有効な値はリリースごとに変わります。指定できる値は次の通りです。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在システムで実行されているオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、システムでV2R3M5が実行されている場合には、*CURRENTはV2R3M5が導入されているシステムでオブジェクトを使用する予定であることを意味します。また、このオブジェクトは、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することもできます。

注: システム上でV2R3M5が実行されている場合で、オブジェクトをV2R3M0が導入されているシステムで使用したい場合には、TGTRLS(*CURRENT)ではなくTGTRLS(V2R3M0)を指定してください。

***PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベルが0のオペレーティング・システムの前のリリースで使用されます。たとえば、ユーザーのシステムでV2R3M5が実行されている場合には、*PRVはV2R2M0が導入されているシステムでオブジェクトを使用する予定であることを意味します。また、このオブジェクトは、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定されたリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は、現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりも前の ターゲット・リリース を指定した場合には、エラー・メッセージが出され、サポートされる最も古いリリースが表示されます。

注: コマンドの現行バージョンは、前のコマンドのリリースでは使用できないオプションをサポートすることもあります。コマンドが前のリリースで使用するオブジェクトを作成するために使用された場合には、そのリリースに適したコンパイラーで処理されて、サポートされないオプションは認識されません。コンパイラーは、必ずしも処理できないオプションに関しての警告を出すとは限りません。

トップ

ソート順序 (SRTSEQ)

ALPHABET文節の中でNLSSORTが英字名と関連している時に使用されるソート順序を指定します。SRTSEQパラメーターは、モジュールが使用するシステム定義またはユーザー定義のソート順序テーブルを決定するために、LANGIDパラメーターと一緒に使用されます。指定できる値は次の通りです。

***HEX** ソート順序テーブルは使用されず、ソート順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

***JOB** ソート順序は、コンパイル時にコンパイル・ジョブのソート順序を使用して分析解決され、モジュールと関連づけられます。ソート順序テーブルはコンパイル時にシステムに存在していなければなりません。実行時に、実行時ジョブのCCSIDのソート順序がコンパイル時ジョブのCCSIDと異なっている場合には、コンパイル時にロードされたソート順序テーブルが、実行時ジョブのCCSIDと一致するように変換されます。

*JOB RUN

プログラムのソート順序は、実行時に分析解決され、モジュールと関連づけられます。コンパイル時に、コンパイラーはコンパイル・ジョブのソート順序をモジュールと関連づけます。実行時に、このソート順序は実行時にジョブと関連づけるソート順序に置き換えられます。この値によって、モジュールはいったんコンパイルされて、実行時に別のソート順序と一緒に使用されます。

*LANGIDUNQ

使用中のソート順序テーブルにはコード・ページ中の各文字に対する固有の重みが入っていないことを指定します。使用されるソート順序テーブルは、LANGIDパラメーターで指定された言語と対応した、固有の重みづけされたテーブルでなければなりません。

*LANGIDSHR

使用中のソート順序テーブルにはコード・ページ中の複数の文字に同じ重みを入れることができることを指定します。使用されるソート順序テーブルは、LANGIDパラメーターで指定された言語と対応した、共用の重みづけされたテーブルです。

テーブル名

使用するソート順序テーブルの名前を指定してください。テーブルには指定されたコード・ページ中のすべての文字に対する重みが入っています。重みは、コード・ポイントで定義された文字と関連づけられています。ソート順序テーブル名を使用する時に、オブジェクトが存在するライブラリーを指定することができます。有効なライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ソート順序テーブルが入っているライブラリーを見つけるためにライブラリー・リストが探索されます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソート順序テーブルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

言語ID (LANGID)

ソート順序との組み合わせで使用される言語IDを指定します。LANGIDパラメーターは、有効なSRTSEQ値が*LANGIDUNQまたは*LANGIDSHRの時にだけ使用されます。指定できる値は次の通りです。

***JOBRUN**

プログラムの言語IDは実行時に分析解決されます。コンパイル済みプログラムを実行する時に、ジョブの言語IDが使用されます。この値によって、モジュールはいったんコンパイルされて、実行時に別の言語IDと一緒に使用されます。

***JOB** モジュールの言語IDはコンパイル時に分析解決されます。

言語ID名

有効な3文字の言語IDを入力してください。

トップ

パフォーマンス収集の活動化 (ENBPFCOL)

モジュールまたはプログラムの中でパフォーマンス測定コードを生成するかどうかを指定します。収集されたデータを使用して、システム・パフォーマンス・ツールでアプリケーションのパフォーマンスのプロファイルを作成することができます。コンパイル済みのモジュールまたはプログラムにパフォーマンス測定コードの追加を生成することにより、オブジェクトがわずかに大きくなり、パフォーマンスに影響することがあります。

***PEP** パフォーマンス統計は、プログラム入りロプロシージャーの入り口および出口にのみ収集されます。アプリケーションの全体的なパフォーマンス情報を収集したい場合には、この値を選択してください。このサポートは、前にTPSTツールが提供されたサポートと同等です。これは省略時の値です。

***ENTRYEXIT**

パフォーマンス統計は、プログラムのすべてのプロシージャーの入り口および出口に収集されます。これには、プログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、すべてのルーチンについての情報を収集したい場合に便利です。ユーザー・アプリケーションによって呼び出されるすべてのプログラムが*PEP、*ENTRYEXITまたは*FULLオプションを使用してコンパイルされたことが分かっている場合には、このオプションを使用してください。そうでない場合には、ユーザー・アプリケーションがパフォーマンス測定が不能な他のプログラムを呼び出した場合には、パフォーマンス測定ツールは、それらのプログラムが資源を使用することはユーザー・アプリケーションに責任があるものと見なします。これにより、実際に資源がどこで使用されるのかを判別することが困難となります。

***FULL** パフォーマンス統計はすべてのプロシーチャーの入り口および出口に収集されます。また、統計は外部プロシーチャーに対する各呼び出しの前後に収集されます。

ユーザー・アプリケーションが、*PEP、*ENTRYEXITまたは*FULLのいずれかを使用してコンパイルされたものではない他のプログラムを呼び出すと思われる場合には、このオプションを使用してください。このオプションを使用することにより、パフォーマンス・ツールは、ユーザー・アプリケーションによって使用される資源と、ユーザー・アプリケーションが呼び出すプログラムによって使用される資源を区別することができます（呼び出されるプログラムがパフォーマンス測定不能であっても）。このオプションは最も不経済ですが、アプリケーション中のいろいろなプログラムを選択的に分析することができます。

トップ

プロファイル・データ (PRFDTA)

モジュールにプログラム・プロファイル・データ属性を指定します。プログラム・プロファイルは、統計データ（プロファイル・データ）に基づいてプロシーチャーおよびプロシーチャー内のコードを再順序づけるために使用される拡張最適化手法です。

***NOCOL**

このモジュールはプロファイル・データを収集できません。これは省略時の値です。

***COL** このモジュールはプロファイル・データを収集できます。

注: *COLを指定できるのは、モジュールの最適化レベルが*FULLの時だけです。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

実行時にファイル中のレコードとLOCALEと関連したデータが変換されるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

***JOB RUN**

プログラムのCCSIDが実行時に解決されます。コンパイル済みプログラムを実行すると、現行ジョブの省略時値CCSIDが使用されます。

***JOB** コンパイル時の現行ジョブの省略時値CCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、フィールドのデータがビット・データとして扱われ、変換されないことを示します。

コード化文字セットID

使用するCCSIDを指定します。

トップ

演算モード (ARITHMETIC)

数字データに演算モードを指定します。指定できる値は次の通りです。

***NOEXTEND**

このオプションは、数字データの省略時の演算モードを指定します。固定小数点演算式の間接結果は最大30桁までで、数値リテラルの最大長は18桁だけです。

***EXTEND31**

固定小数点演算の間接結果の精度を増すには、このオプションを使用してください。固定小数点演算式の間接結果は最大31桁までで、数値リテラルの最大長は31桁の場合があります。

***EXTEND63**

固定小数点演算の間接結果の精度を増すには、このオプションを使用してください。固定小数点演算式の間接結果は最大63桁までで、数値リテラルの最大長は63桁とすることができます。

[トップ](#)

PADDING CHARACTER (NTLPADCHAR)

以下のような変換状態で埋め込みが行われる時に使用される各国語埋め込み文字(NTLPADCHAR)を指定します。

1.単一バイト文字を国別文字へ。

2.2バイト文字を国別文字へ。

3.国別文字を国別文字へ。

***DEFAULT**

このオプションは、以下のような省略時の埋め込み文字を指定します。

1.単一バイト文字を国別文字へ(NX"0020")

2.2バイト文字を国別文字へ(NX"3000")

3.国別文字を国別文字へ(NX"3000")

各国語16進リテラル

長さが1の有効な任意の各国語16進リテラルをNX" "またはNX' 'の形式で指定します。

[トップ](#)

LICENSED INTERNAL CODE OPTIONS (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターを使用すれば個別のコンパイル時オプションを選択できますが、これは、選択した個々のコンパイラ・オプションのタイプの潜在的な利点と欠点を理解している上級プログラマーを対象としています。

[トップ](#)

ディレクトリー組み込み (INCDIR)

コピー・ファイルを探すためにコンパイラが使用する検索パスに追加する1つまたは複数のディレクトリーを指定します。コンパイラは、ソース・プログラムのコピー・ファイルを解決できない場合には、ここで指定したディレクトリーを検索します。

***NONE**

ユーザー・ディレクトリーでコピー・ファイルは検索されません。省略時値では、現行ディレクトリーが検索されます。

'ディレクトリー'

コピー・ファイルを検索する最大32のディレクトリーを指定してください。指定されたディレクトリーに加えて、現行ディレクトリーでもコピー・ファイルが検索されます。

トップ

プログラム・インターフェース生成 (PGMINFO)

プログラム・インターフェース情報をストリーム・ファイルに生成するかどうかを指定します。指定できる値は次の通りです。

***NO** このオプションは、プログラム・インターフェース情報を生成しない省略時値を指定します。

***PCML**

PCML（プログラム呼び出しマークアップ言語）をストリーム・ファイルに生成するように指定します。生成されたPCMLは、JAVAメソッドによるこのCOBOLモジュール内のプロシーチャーの呼び出しを容易にするのでJAVAコードは少なくて済みます。生成されたPCMLを入れるストリーム・ファイルの名前は、INFOSTMFオプションで指定しなければなりません。

トップ

プログラム・インターフェース・ストリーム・ファイル (INFOSTMF)

PGMINFOオプションで指定された生成されたプログラム・インターフェース情報を入れるストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対的または相対的に修飾することができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合には、パス名は完全です。相対修飾の場合には、パス名は、パス名にジョブの現行作業ディレクトリーを付加することによって完了します。

このパラメーターを指定できるのは、PGMINFOパラメーターに*NO以外の値がある場合だけです。

トップ

例

例1:ソース・プログラムをモジュール・オブジェクトにコンパイル

```
CRTCLMOD  MODULE(MYLIB/XMPLE1) SRCFILE(MYLIB/QCBLLESRC)
          SRCMBR(XMPLE1)  OUTPUT(*PRINT)
          TEXT('MY ILE COBOL MODULE')
```

このコマンドは、ILE COBOLコンパイラーを呼び出し、XMPLE1という名前のモジュールを作成します。ソース・プログラムは、ライブラリーMYLIBのソース・ファイルQCBLLESRCのメンバーXMPLE1に入っています。コンパイル・リストが作成されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

LNC9001

コンパイルは正常に行なわれません。&1は作成されていません。

LNC9006

TGTRLS(&1)が指定されましたが、コンパイラーが導入されていません。

LNC9007

プロダクト・ライブラリーに損傷があるか、あるいはユーザーにはその使用が認可されていない。

LNC9015

TGTRLS(&1)が正しくない。

COBOLプログラム作成 (CRTCLPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CRTCLPGMコマンドは、COBOLソース・プログラムをコンパイルして、AS/400システムで使用されるプログラム・オブジェクトを作成します。このコマンド是对話式でも、バッチ・モードでも、またCLプログラムに組み込んで使用することができます。

CRTCLPGMコマンドに指定するすべてのオブジェクト名は英数字で構成しなければならず、また最初の文字は英字でなければなりません。名前の長さは10桁を超えることはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前, *PGMID	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QLBSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-29, 29	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 50 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *NOXREF, *XREF, *GEN, *NOGEN, *NOSEQUENCE, *SEQUENCE, *NOVBSUM, *VBSUM, *NONUMBER, *NUMBER, *LINENUMBER, *NOMAP, *MAP, *NOOPTIONS, *OPTIONS, *QUOTE, *APOST, *SECLVL, *NOSECLVL, *PRTCORR, *NOPRTCORR, *NOSRCDBG, *SRCDBG, *NOLSTDBG, *LSTDBG, *PRINT, *NOPRINT	オプション, 位置 4
GENOPT	生成オプション	値 (最大 50 回の繰り返し): *NOLIST, *LIST, *NOXREF, *XREF, *NOPATCH, *PATCH, *NODUMP, *DUMP, *NOATR, *ATR, *RANGE, *NORANGE, *UNREF, *NOUNREF, *NOOPTIMIZE, *OPTIMIZE, *NODDSFILLER, *DDSFILLER, *NOSYNC, *SYNC, *NOCRTE, *CRTE, *NODUPKEYCHK, *DUPKEYCHK, *STDERR, *NOSTDERR, *NOEXTACCDSP, *EXTACCDSP, *NOINZDLT, *INZDLT, *NOBLK, *BLK, *STDINZ, *NOSTDINZ, *FS21DUPKY, *NOFS21DUPKY	オプション, 位置 5
CVTOPT	変換オプション	値 (最大 50 回の繰り返し): *NOVARCHAR, *VARCHAR, *NODATETIME, *DATETIME, *NOGRAPHIC, *GRAPHIC	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SRTSEQ	ソート順序	単一値: *HEX , *JOB, *JOB RUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOB RUN , *JOB	オプション
MSGLMT	メッセージ限界	要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージの数	1-9999, *NOMAX	
	要素 2: メッセージ限界重大度	0-29, 29	
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSPT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
FLAGSTD	FIPSフラグ付け	値 (最大 24 回の繰り返し): *NOFIPS, *MINIMUM, *INTERMEDIATE, *HIGH, *NOSEG, *SEG1, *SEG2, *NODEB, *DEB1, *DEB2, *NOOBSOLETE, *OBSOLETE	オプション
SAAFLAG	SAAフラグ付け	*NOFLAG , *FLAG	オプション
EXTDSPOPT	拡張表示オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *DFRWRT, *NODFRWRT, *UNDSPCHR, *NOUNDSPCHR, *ACCUPDALL, *ACCUPDNE	オプション
FLAG	フラグ重大度	0-99, 0	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*NO, *YES	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT , *PRV	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER , *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
DUMP	コンパイラ・デバッグ・ダンプ	要素リスト	オプション
	要素 1:	1-65535, *	
	要素 2:	1-65535	
ITDUMP	中間テキスト・ダンプ	0-31, 0	オプション

トップ

プログラム (PGM)

作成中のCOBOLプログラム・オブジェクトのプログラム名およびライブラリー名を指定します。考えられる値は次の通りです。

*PGMID

プログラム・オブジェクトの名前はCOBOLソース・プログラムのPROGRAM-ID段落から取られます。

プログラム名

コンパイル済みCOBOLプログラムを識別する名前を入力してください。このパラメーターにプログラム名を指定して、コンパイルをバッチ・モードで実行した場合には、バッチ・ジョブの最初のプログラムがこの名前を使用し、他のすべてのプログラムはソース・プログラムのPROGRAM-ID段落に指定された名前を使用します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

作成されたプログラム・オブジェクトを入れるライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルしたいCOBOLソースが入っているソース・ファイルの名前を指定します。考えられる値は次の通りです。

QLBLSRC

弊社提供のソース・ファイルQLBLSRCに、コンパイルされるCOBOLソース・プログラムが入っています。

ソース・ファイル名

コンパイルされるCOBOLソース・プログラムが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。このソース・ファイルはレコード長が92でなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ライブラリー名を指定しない場合には、ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルしたいCOBOLソースが入っているメンバーの名前を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SRCFILEパラメーターで参照したソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合だけです。考えられる値は次の通りです。

***PGM** PGMパラメーターにプログラム名を指定した場合には、コンパイラーはそのプログラムと同じ名前のメンバーのソース・プログラムを探し、そのプログラムおよびメンバーと同じ名前の目的プログラムを作成します。

PGMパラメーターにプログラム名を指定しなかった場合には、コンパイラーはデータベース・ソース・ファイルの最初のメンバーでプログラム・ソースを探し、PROGRAM-ID段落に指定された名前を使用して目的プログラムを作成します。

ソース・ファイル・メンバー名

COBOLソース・プログラムが入っているメンバー名を入力してください。

生成重大度レベル (GENLVL)

プログラム・オブジェクトを作成するかどうかを決定する重大度レベルを指定します。この重大度レベルはプログラムのコンパイル時に作成されるメッセージの重大度レベルに対応します。エラー・メッセージの重大度レベルが指定した値より大きい場合には、プログラム・オブジェクトは作成されません。たとえば、このパラメーターに19を指定した場合には、メッセージのどれかの重大度レベルが20以上であれば、プログラム・オブジェクトは作成されません。

考えられる値は次の通りです。

29 重大度レベルが29より大きいエラーが起こった場合には、プログラム・オブジェクトは作成されません。

重大度レベル

1桁または2桁の数字(0-29)を指定してください。このレベルより大きい重大度レベルのエラーが起こった場合には、プログラム・オブジェクトは作成されません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

プログラムとその機能についての簡単な説明。考えられる値は次の通りです。

*SRCMBRTXT

プログラム・オブジェクトのテキストには、COBOLソースが入っているデータベース・ファイル・メンバーを記述するテキストと同じものを使用します。ソースが装置またはインライン・ファイルから入力された場合には、*SRCMBRTXTの指定は、*BLANKの指定と同じ効果となります。

*BLANK

テキストは指定されません。

テキスト記述

プログラムおよびその機能を簡単に説明するテキストを入力してください。テキストは最長で50桁とすることができますが、アポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィは50桁のストリングの一部にはなりません。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

COBOLソースのコンパイル時に使用するオプションを指定します。考えられる値は次の通りです。

*SOURCEまたは*SRC

コンパイラーは、COBOLソース・コードおよびすべてのコンパイル時エラー・メッセージから構成されるソース・リストを作成します。

*NOSOURCEまたは*NOSRC

コンパイラーは、リストのソース部分を作成しません。ソース・リストが不要な場合には、このオプションを使用してください。コンパイル時間が短くなる場合があります。

***NOXREF**

コンパイラーは、ソース・プログラムの相互参照表を作成しません。

***XREF**

コンパイラーは、ソース・プログラムの相互参照表を作成します。

***GEN** コンパイラーは、ソース・プログラムのコンパイル後にプログラム・オブジェクトを作成します。

***NOGEN**

コンパイラーは、ソース・プログラムのコンパイル後にプログラム・オブジェクトを作成しません。この時点でエラー・リストだけが必要な場合には、このオプションを指定することができます。

***NOSEQUENCE**

参照番号の順序エラーは検査されません。

***SEQUENCE**

参照番号の順序エラーが検査されます。*LINENUMBERオプションを指定した場合には、順序エラーは起こりません。

***NOVBSUM**

動詞使用カウントは印刷されません。

***VBSUM**

動詞使用カウントが印刷されます。

***NONUMBER**

ソース・ファイルの順序番号が参照番号として使用されます。

***NUMBER**

参照番号としてユーザー提供の順序番号（1-6桁目）が使用されます。

***LINENUMBER**

コンパイラーによって作成される順序番号が参照番号に使用されます。このオプションはプログラム・ソース・コードとCOPYステートメントによって取り入れられるソース・コードを結合して、1つの連続番号順序を生成します。FIPS（米国情報処理規格）フラグ付けまたは、システム・アプリケーション体系フラグ付けを指定する場合には、このオプションを使用してください。

***NOMAP**

コンパイラーは、データ部マップをリストしません。

***MAP** コンパイラーは、データ部マップをリストします。

***NOOPTIONS**

このコンパイルでは、有効なオプションはリストされません。

***OPTIONS**

このコンパイルでは、有効なオプションがリストされます。

***QUOTE**

区切り引用符(")が非数値リテラルおよびブール・リテラルに使用されることを指定します。これはまた、表意定数QUOTEの値が引用符のEBCDIC値をもつことをも指定します。

***APOST**

区切りアポストロフィ(')が非数値リテラルおよびブール・リテラルに使用されることを指定します。これはまた、表意定数QUOTEの値がアポストロフィのEBCDIC値をもつことをも指定します。

***NOSECLVL**

このコンパイルでは第2レベル・メッセージ・テキストはリストされません。

***SECLVL**

このコンパイルでは第2レベル・メッセージ・テキストがリストされます。

***PRTCORR**

コンパイラーは、CORRESPONDING句を使用した結果としてどの基本項目が組み込まれたかを示す注記行を、コンパイル・リストに挿入します。

***NOPRTCORR**

コンパイラーは、CORRESPONDING句が使用されても、注記行をコンパイル・リストに挿入しません。

***NOSRCDBG**

このオプションは、IBM連携開発環境/400プロダクトを使用してCOBOLプログラムをコンパイルした場合にプログラム式ワークステーションに表示される情報の種類を決めます。

コンパイラーは、ソース・レベル・デバッグ情報を作成しません。*NOLSTDBGも有効となっている場合には、コンパイラーはソース・レベル・エラー情報も作成しません。

***SRCDBG**

このオプションは、IBM連携開発環境/400 (CODE/400)プロダクトを使用してCOBOLプログラムをコンパイルした場合にプログラム式ワークステーションに表示される情報の種類を決めます。

コンパイラーは、ソース・レベル・エラー情報およびソース・レベル・デバッグ情報を作成します。

*SRCDBGと*LSTDBGを同時に指定することはできません。いずれか一方のみを指定してください。

注: *SRCDBGオプションを使用できるのは、IBM CODE/400プロダクトを使用してプログラムをコンパイルしている場合だけです。このオプションを指定してもIBM CODE/400プロダクトが導入されていなければ、COBOL/400コンパイラーは処理を続行しますが、エラー・メッセージが出されません。このオプションの詳細については、CODE/400 DEBUG TOOL AND REFERENCE (SC09-1622)を参照してください。

***NOLSTDBG**

このオプションは、IBM連携開発環境/400プロダクトを使用してCOBOLプログラムをコンパイルした場合にプログラム式ワークステーションに表示される情報の種類を決めます。

コンパイラーは、リスト・ビューまたはリスト・レベル・デバッグ情報を作成しません。

*NOSRCDBGも有効であれば、コンパイラーはソース・レベル・エラー情報も作成しません。

***LSTDBG**

このオプションは、IBM連携開発環境/400プロダクトを使用してCOBOLプログラムをコンパイルした場合にプログラム式ワークステーションに表示される情報の種類を決めます。

コンパイラーは、リスト・ビュー、ソース・レベル・エラー情報、およびリスト・レベル・デバッグ情報を作成します。

*SRCDBGと*LSTDBGを同時に指定することはできません。いずれか一方のみを指定してください。

注: *SRCDBGオプションを使用できるのは、IBM CODE/400プロダクトを使用してプログラムをコンパイルしている場合だけです。このオプションを指定してもIBM CODE/400プロダクトが導入さ

れていなければ、COBOL/400コンパイラーは処理を続行しますが、エラー・メッセージが出されま
す。このオプションの詳細については、CODE/400 DEBUG TOOL USER'S GUIDE AND
REFERENCE (SC09-1622)を参照してください。

***PRINT**

コンパイラーはスプール・リストを作成します。

***NOPRINT**

コンパイラーはスプール・リストを作成しません。

トップ

生成オプション (GENOPT)

プログラム・オブジェクトの作成時に使用するオプションを指定します。COBOLに問題がある場合には、
リストが必要になることがあります。考えられる値は次の通りです。

***NOLIST**

IRP（プログラムの中間表現）、関連した16進コード、またはエラー・メッセージはリストされま
せん。

***LIST** IRP,関連した16進コード、およびエラー・メッセージがリストされます。

***NOXREF**

IRPに定義されているオブジェクトの相互参照表は作成されません。

***XREF**

IRPに定義されているすべてのオブジェクトの相互参照表が作成されます。

***NOPATCH**

コンパイル済みプログラムにプログラム・パッチ域のスペースは予約されません。

***PATCH**

コンパイル済みプログラムにプログラム・パッチ域のスペースが予約されます。プログラム・パッ
チ域はデバッグ用に使用することができます。

***NODUMP**

プログラム・テンプレートはリストされません。

***DUMP**

プログラム・テンプレートがリストされます。

***NOATR**

IRPソースの属性はリストされません。

***ATR** IRPソースの属性がリストされます。

***RANGE**

実行時に、システムは添え字が正しい範囲内にあるかどうかを検査しますが、指標の範囲は検査し
ません。また、参照変更およびコンパイラー生成のサブストリング操作も検査します。

***NORANGE**

実行時に範囲は検査されません。

***UNREF**

参照されていないデータ項目がコンパイル済みプログラムに含まれます。

***NOUNREF**

参照されていないデータ項目はコンパイル済みプログラムに含められません。これにより、使用されるODT（オブジェクト定義テーブル）の数が減るので、より大きなプログラムのコンパイルが可能になります。ただし、*XREFオプションによって作成される相互参照表には、参照されていないデータ項目が現われます。

***NOOPTIMIZE**

コンパイラーはプログラム用の標準最適化だけを実行します。

***OPTIMIZE**

作成されたプログラム・オブジェクトをより効率的に実行することができ、また必要な記憶域も少なくて済みます。ただし、*OPTIMIZEを指定すると、プログラムのコンパイルに必要な時間が大幅に増えることがあります。

***NODDSFILLER**

COPY DDSステートメントによって突き合わせフィールドが見つからない場合には、フィールド記述は作成されません。

***DDSFILLER**

COPY DDSステートメントによって突き合わせフィールドが見つからない場合には、単一文字のFILLERフィールド記述"07 FILLER PIC X"が常に作成されます。

***NOSYNC**

SYNCHRONIZED文節が構文検査されます。

***SYNC**

SYNCHRONIZED文節によって、記憶域の自然境界で基本項目の位置合わせが行なわれます。

***NOCRTF**

OPEN操作の時点で使用可能でないファイルは、動的に作成されません。

***CRTF**

OPEN操作の時点で使用可能でないファイルが、動的に作成されます。

***NODUPKEYCHK**

索引付きファイルの重複キー検査は行なわれません。

***DUPKEYCHK**

索引付きファイルの重複キー検査が行なわれます。

***STDERR**

標準エラー処理が使用されます。エラー処理の詳細については、COBOL/400ユーザーの手引きのエラー処理に関する章を参照してください。

***NOSTDERR**

バージョン1、リリース1および2のエラー処理方式が使用されます。エラー処理の詳細については、COBOL/400ユーザーの手引きのエラー処理に関する章を参照してください。

***NOEXTACCDSP**

コンパイラーで、拡張ACCEPTまたは拡張DISPLAYステートメントを使用することができません。

***EXTACCDSP**

コンパイラーで、拡張ACCEPTおよび拡張DISPLAYステートメントを使用することができます。

***NOINZDLT**

順次アクセスの相対ファイルが、OUTPUT用にオープンされた場合に、CLOSE操作時に削除済みレ

コードについて初期設定されません。すなわち、レコード境界はOPEN OUTPUT時に書き出されたレコード数によって決まります。後続のOPEN操作では、このレコード境界までしかアクセスすることができません。

***INZDLT**

順次アクセスの相対ファイルが、OUTPUT用にオープンされた場合に、CLOSE操作時に削除済みレコードについて初期設定されます。ファイル中の活動レコードは影響を受けません。すなわち、レコード境界は後続のOPEN操作のファイル・サイズとして定義されます。

***NOBLK**

コンパイラーは、STARTステートメントのない順次アクセス・ファイルのみのブロック化を許しません。

BLOCK CONTAINS文節が指定されている場合、テープ・ファイルを除いてBLOCK CONTAINS文節は無視されます。

***BLK** BLOCK CONTAINSとともに使用すると、コンパイラーは動的アクセス・ファイルおよびSTARTステートメントのある順次アクセス・ファイルからのブロック化を許します。出力操作にオープンされた相対ファイルのブロック化は許されません。

BLOCK CONTAINS文節は、ブロック化するレコードの数を制御します。

BLOCK CONTAINS文節を指定しない場合には、コンパイラーはSTARTステートメントのない順次アクセス・ファイルのみのブロック化を許します。オペレーティング・システムがブロック化するレコードの数を決定します。

***STDINZ**

コンパイラーは、データ項目がVALUE文節に依存していなければ、そのデータ項目をシステムの省略時の値に初期設定します。

***NOSTDINZ**

VALUE文節のない項目については、コンパイラーはデータ項目をシステム省略時値に初期設定しません。

***FS21DUPKY**

必須のREADステートメントと後続のREWRITEまたはDELETEステートメントの間でキーの値が変更された場合には、コンパイラーは、重複キーを含む索引付きファイルをランダムまたは動的アクセス・モードで処理している時に、ファイル状況21を報告します。

***NOFS21DUPKY**

コンパイラーは、重複キーを含む索引付きファイルをランダムまたは動的アクセス・モードで処理している時に、ファイル状況21を報告しません。REWRITEステートメントはレコードのキーを変更することができます。

トップ

変換オプション (CVTOPT)

外部記述ファイルからCOPY DDSを介してプログラムに渡されたシステム・アプリケーション体系の日付、時刻、ならびにタイム・スタンプのデータ・タイプ、DBCSグラフィックス・データ・タイプ、および可変長文字フィールドを、コンパイラーがどのように処理するかを指定します。考えられる値は次の通りです。

***NOVARCHAR**

可変長フィールドは無視され、FILLERフィールドとして宣言されます。

***VARCHAR**

可変長フィールドは固定長グループ項目として宣言され、プログラムでアクセスすることができます。

***NODATETIME**

日付、時刻、およびタイム・スタンプのデータ・タイプは無視され、FILLERフィールドとして宣言されます。

***DATETIME**

日付、時刻、および、タイム・スタンプのデータ・タイプは固定長文字フィールドとして宣言され、プログラムでアクセスすることができます。

***NOGRAPHIC**

グラフィックス・データ・タイプは無視され、FILLERフィールドとして宣言されます。

***GRAPHIC**

固定長グラフィックス・データ・タイプは固定長英数字フィールドとして宣言され、プログラムでアクセスすることができます。

*VARCHARオプションも使用中の場合には、可変長DBCSグラフィックス・データ・タイプは固定長グループ項目として宣言され、プログラムでアクセスすることができます。

トップ

ソート順序 (SRTSEQ)

ALPHABET文節のアルファベット名がNLSSORTと関連づけられている場合に使用されるソート順序を指定します。SRTSEQパラメーターは、LANGIDパラメーターと一緒に使用して、プログラムがシステム定義のソート順序テーブルを使用するかまたはユーザー定義のソート順序テーブルを使用するかを判別します。考えられる値は次の通りです。

***HEX** ソート順序テーブルを使用せずに、ソート順序を判別するために、文字の16進数値を使用します。

***JOB** プログラムのソート順序は、コンパイル時に分析解決されてプログラムと関連づけられます。ソート順序テーブルは、コンパイル時にシステム内に存在しなければなりません。

***JOBRUN**

プログラムのソート順序は、実行時に分析解決されてプログラムと関連づけられます。コンパイル時には、コンパイラーがコンパイル・ジョブのソート順序をプログラムと関連づけます。実行時には、このソート順序がジョブの実行時に関連づけられたソート順序と置き換えられます。

***LANGIDUNQ**

使用されるソート順序テーブルにコード・ページの各文字に対する固有の重みづけが入っていないことを示します。使用されるソート順序テーブルは、LANGIDパラメーターで指定された言語に対応する固有の重みづけテーブルとなります。

***LANGIDSHR**

使用されるソート順序テーブルにコード・ページの複数の文字に対して同じ重みづけを入れることができることを示します。使用されるソート順序テーブルは、LANGIDパラメーターで指定された言語に対応する共用重みづけテーブルとなります。

テーブル名

使用するソート順序テーブルの名前を入力してください。テーブルには、所定のコード・ページのすべての文字に対する重みづけが入っています。重みづけは、コード・ポイントで定義されている

文字と対応します。ソート順序テーブル名を使用する場合には、テーブルが入っているライブラリーを指定することができます。有効な値は次の通りです。

***LIBL** ソート順序テーブルが入っているライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを検索します。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソート順序テーブルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

注: SRTSEQの有効なPROCESSステートメントは、SRTSEQ(HEX), SRTSEQ(JOB), SRTSEQ(JOBRUN), SRTSEQ(LANGIDUNQ), SRTSEQ(LANGIDSHR), SRTSEQ("テーブル名"), SRTSEQ("ライブラリー名/テーブル名"), SRTSEQ("LIBL/テーブル名"),およびSRTSEQ("CURLIB/テーブル名")です。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

ソート順序と一緒に使用する言語識別コードを指定します。LANGIDパラメーターが使用されるのは、有効なSRTSEQ値が*LANGIDUNQまたは*LANGIDSHRの場合だけです。考えられる値は次の通りです。

***JOBRUN**

プログラムの言語識別コードは、実行時に分析解決されます。コンパイル済みプログラムが実行される場合には、ジョブの言語識別コードが使用されます。この値によってプログラムが1回コンパイルされ、実行時に別の言語識別コードで使用されます。

***JOB** プログラムの言語識別コードは、コンパイル時に分析解決されます。

言語識別コード

有効な3文字の言語識別コードを入力してください。

注: LANGIDの有効なPROCESSステートメントは、LANGID(JOBRUN), LANGID(JOB),およびLANGID("言語識別コード")です。

[トップ](#)

メッセージ限界 (MSGLMT)

一定のエラー重大度レベルのエラー・メッセージがいくつ出されるまでコンパイルを停止しないかを示す、発生してよいエラー・メッセージの最大数を指定して、コンパイルを制御します。

たとえば、重大度レベル20以上のエラーが4つ以上起こった場合にコンパイルを停止するよう指定することができます。この例の場合には、エラー・メッセージの最大数に3を、最大エラー重大度レベルに20を指定します。重大度レベルが20以上のエラーが3つ起こった場合コンパイルは続行されますが、4つ目のエラーが検出された時点でコンパイルは停止します。最大重大度レベルに達しないメッセージの場合には、検出されたエラーの数に関係なくコンパイルは続行されます。

メッセージ限界

エラー・メッセージの最大数に使用できる値は次の通りです。

***NOMAX**

見つかったエラーの数にかかわらず、正常完了までコンパイルは続行されます。

1-9999

指定した重大度レベル以上のエラーが指定した数を越えた場合に、コンパイルは停止します。最大重大度レベルに達しないメッセージの場合には、検出されたエラーの数に関係なくコンパイルは続行されます。

メッセージ重大度

最大エラー重大度レベルに使用できる値は次の通りです。

29 重大度レベルが29以上のエラーが指定したエラー・メッセージの最大数を越えた場合に、コンパイルは停止します。

最大重大度レベル

1桁または2桁の数字(0-29)を指定してください。指定した重大度レベル以上のエラーの数が、指定したエラー・メッセージの最大数を越えると、コンパイルは停止します。

[トップ](#)

印刷ファイル (PRTFILE)

コンパイル・リストの送り先のファイルの名前、およびそのファイルが入っているライブラリーを指定します。このファイルのレコード長は最小でも132が必要です。132より小さいレコード長のファイルを指定した場合には、情報が失われます。

考えられる値は次の通りです。

QSYSPRT

ファイル名を指定しない場合には、コンパイル・リストは弊社提供ファイルQSYSPRTに送られます。

ファイル名

コンパイラー・リストが送られるファイル名を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルを入れるライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

FIPSフラグ付け (FLAGSTD)

FIPSフラグ付けのオプションを指定します。考えられる値は次の通りです。

***NOFIPS**

ソース・プログラムにFIPSフラグがありません。

***MINIMUM**

最低サブセット以上のFIPSフラグです。

***INTERMEDIATE**

中間サブセット以上のFIPSフラグです。

***HIGH** 高サブセットのFIPSフラグです。

***NOSEG**

任意選択モジュールSEGMENTATIONはFIPSフラグが付けられません。

***SEG1**

任意選択モジュールSEGMENTATIONレベル 1 以上のFIPSフラグです。

***SEG2**

任意選択モジュールSEGMENTATIONレベル 2 のFIPSフラグです。

***NODEB**

任意選択モジュールDEBUGは、FIPSフラグが付けられません。

***DEB1**

任意選択モジュールDEBUGレベル 1 以上のFIPSフラグです。

***DEB2**

任意選択モジュールDEBUGレベル 2 のFIPSフラグです。

***NOOBSOLETE**

使用されなくなった言語要素には、フラグが付けられません。

***OBSOLETE**

使用されなくなった言語要素にフラグが付けられます。

[トップ](#)

SAAフラグ付け (SAAFLAG)

COBOLでサポートされていないCOBOL/400*機能のフラグ付けが必要であるかどうかを指定します。考えられる値は次の通りです。

***NOFLAG**

COBOLフラグ付けは実行されません。

***FLAG**

COBOLフラグ付けが実行されます。

[トップ](#)

拡張表示オプション (EXTDSPOPT)

ワークステーション入出力用の拡張ACCEPTおよびDISPLAYステートメントのために使用するオプションを指定します。考えられる値は次の通りです。

*DFRWRT

拡張DISPLAYステートメントは、拡張ACCEPTステートメントが検出されるまで、またはバッファがいっぱいになるまで、バッファに保持されます。

拡張ACCEPTステートメントが検出されないうちにバッファがいっぱいになった場合には、バッファの内容が画面に書き出されます。拡張ACCEPTステートメントが検出されると、その時点のバッファの内容が画面に書き出されます。

*NODFRWRT

拡張DISPLAYステートメントは、それぞれが見つかった時に実行されます。

*UNDSPCHR

表示可能文字と表示不能文字が拡張ACCEPTおよび拡張DISPLAYステートメントによって処理されます。

*NOUNDSPCHR

表示可能文字だけが拡張ACCEPTおよび拡張DISPLAYステートメントによって処理されます。

このオプションはリモート3174および3274制御装置に接続された表示装置について使用するものですが、ローカル・ワークステーションについても使用することができます。このオプションを使用する場合には、データに表示可能な文字が入っていないければなりません。データに16進20より小さい値が入っているとその結果は予期できず、予期しない画面様式になる場合から重大エラーになる場合まであります。

*ACCUPDALL

UPDATE句の有無にかかわらず、すべてのタイプのデータが拡張ACCEPTステートメントで事前表示されます。

*ACCUPDNE

数字編集データのみが、UPDATE句を含まない拡張ACCEPTステートメントで事前表示されます。

[トップ](#)

フラグ重大度 (FLAG)

印刷されるメッセージの最低重大度レベルを指定します。考えられる値は次の通りです。

0 すべてのメッセージが印刷されます。

重大度レベル

印刷されるメッセージの最低重大度レベルを指定する1桁または2桁の数字を入力してください。指定した値以上の重大度レベルをもつメッセージがリストされます。

[トップ](#)

プログラムの置き換え (REPLACE)

同じライブラリーに同じ名前のプログラム・オブジェクトがすでに存在している場合に、新しいプログラム・オブジェクトを作成するかどうかを指定します。考えられる値は次の通りです。

- *YES** 新しいプログラム・オブジェクトが作成され、指定したライブラリー中の同じ名前の既存のプログラム・オブジェクトはライブラリーQRPLOBJに移動されます。
- *NO** 同じ名前のプログラム・オブジェクトが指定したライブラリーにすでに存在している場合には、新しいプログラム・オブジェクトは作成されません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

正確なリリース・レベルはVXRXXMXの形式で指定することができます。ここで、VX はバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V3R1M0はバージョン3、リリース1、モディフィケーション・レベル0です。

注: ターゲット・システムでオブジェクトを使用するためには、そのオブジェクトを作成コマンドに指定したターゲット・リリース・レベルに保管してから、それをターゲット・システムに復元しなければなりません。

たとえば、システムがV3R1M0を実行中に、V2R3M0システムに配布するプログラム・オブジェクトを作成したい場合には、そのプログラムをTGTRLS(V2R3M0)またはTGTRLS(*PRV)で作成し、プログラムをTGTRLS(V2R3M0)またはTGTRLS(*PRV)で保管して、V2R3M0システムで復元しなければなりません。また、このプログラム・オブジェクトは、V3R1M0システムでも復元することもできます。

注: プログラムは、作成コマンドに指定したものより前のリリース・レベルに復元することができます。プログラムを実行することができる最も古いリリースを判別するためには、DSPPGMを使用してください。

***CURRENT**

このオブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用するためのものです。たとえば、システムでV3R1M0が実行中の場合には、*CURRENTは、V3R1M0が導入されているシステムでこのオブジェクトを使用することを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。

***PRV** このオブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0である前のリリースで使用するためのものです。たとえば、システムでV3R1M0 が実行中の場合には、*PRVは、V2R3M0が導入されているシステムでこのオブジェクトを使用することを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。

リリース・レベル

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定されたりリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって決まり、新しいリリースごとに変わります。有効な値のリストを参照するためには、そのコマンドのTGTRLSパラメーターでF4=プロンプトを押してください。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

コンパイル済みCOBOLプログラムを実行するユーザー・プロファイルを指定します。プログラムを実行し、プログラム（プログラムが各オブジェクトに対してもっている権限を含む）によって使用できるオブジェクトを制御するために、プログラム所有者またはプログラム・ユーザーのプロファイルが使用されます。

考えられる値は次の通りです。

*USER

プログラムの実行時に、プログラムの使用者のユーザー・プロファイルが使用されます。

*OWNER

プログラムの実行時に、プログラムの所有者と使用者の両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの実行中にオブジェクトを見つけてアクセスするためには、両方のユーザー・プロファイルのオブジェクト権が一括して使用されます。プログラムの実行中に作成されたオブジェクトはそのプログラムのユーザーが所有します。

トップ

権限 (AUT)

プログラム・オブジェクトに対して特定権限をもっていないか、権限リスト上にないか、あるいはグループがプログラム・オブジェクトに対して特定権限をもっていないユーザーに認可される権限を指定します。この権限は、プログラム・オブジェクトの作成後に、GRTOBJAUT（オブジェクト権限認可）またはRVKOBJAUT（オブジェクト権限取り消し）コマンドを使用して、すべてのユーザーまたは個々のユーザーについて変更することができます。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

オブジェクトの共通認可は、宛先ライブラリー（作成されたプログラム・オブジェクトが入れられるライブラリー）のCRTAUTキーワードから取られます。この値はプログラム・オブジェクトの作成時に決まります。プログラム・オブジェクトの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変わっても、新しい値が既存のオブジェクトに影響を及ぼすことはありません。

***ALL** 所有者だけに限定されるかまたは権限リスト管理権限によって制御される操作を除くすべての操作をプログラム・オブジェクトに対して実行できる権限を提供します。ユーザーは、プログラム・オブジェクトの存在の制御、プログラム・オブジェクトの機密保護の指定、プログラム・オブジェクトの変更、およびプログラム・オブジェクトに対する基本的な機能の実行を行なうことができますが、プログラム・オブジェクトの所有権を移すことはできません。

*CHANGE

すべてのデータ権限と、所有者にだけ限定されるかまたはオブジェクト権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作を除くすべての操作をプログラム・オブジェクトに対して実行できる権限を提供します。ユーザーは、プログラム・オブジェクトを変更したり、プログラム・オブジェクトの実行やデバッグなどの基本的な機能をプログラム・オブジェクトに対して実行したりすることができます。

***USE** オブジェクト操作権限および読み取り権限（プログラムの実行などの基本的な操作をプログラム・オブジェクトに対して実行できる権限）を提供します。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。

注: プログラムの変数の定様式ダンプを取得するには、プログラムに対して*USE権限を持っていないければなりません。変数をダンプするには、さらにプログラムが観察可能な情報も持っていません。

一部のユーザーが変数のダンプができることを望まない場合は、ユーザーに*OBJOPRだけに加えてプログラムに*EXECUTE権限を与えてください。これはユーザーにプログラムの呼び出しは許可しますが、その変数をダンプすることは許可しません。

すべてのユーザーに変数のダンプができることを望まない場合は、プログラムの変更(CHGPGM)を使用して、プログラムの観察可能な情報を除去してください。

***EXCLUDE**

ユーザーはプログラム・オブジェクトにアクセスすることができません。

権限リスト名

プログラムが追加されるユーザーおよび権限の権限リストの名前を入力してください。プログラム・オブジェクトはこの権限リストによって保護され、プログラム・オブジェクトの共通認可は*AUTLに設定されます。この権限リストは、CRTCLBLPGMコマンドが出される時にシステム上に存在していなければなりません。

[トップ](#)

コンパイラー・デバッグ・ダンプ (DUMP)

IBM COBOLデバッグ援助機能。(弊社技術員用)

[トップ](#)

中間テキスト・ダンプ (ITDUMP)

コンパイル中の一定の時点にコンパイラーに内部テキストをダンプさせるIBMデバッグ援助機能。(弊社技術員用)

[トップ](#)

例

例1: ソース・プログラムをプログラム・オブジェクトにコンパイル

```
CRTCLBLPGM  PGM(MYLIB/XMPLE1) SRCFILE(MYLIB/QLBLSRC)
             SRCMBR(XMPLE1)  OPTION(*SOURCE)
             TEXT('MY COBOL PROGRAM')
```

このコマンドはCOBOLコンパイラーを呼び出して、XMPLE1という名前のプログラムを作成します。ソース・プログラムはライブラリーMYLIB中のソース・ファイルQLBLSRCのメンバーXMPLE1にあります。コンパイラー・リストが作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** [メッセージ](#)

LBL9001

コンパイルは正常に行なわれませんでした。プログラムは作成されません。

LBL9004

プログラムはすでに存在している。コンパイルは正常に行なわれませんでした。

LBL9006

TGTRLS(&1)が指定されたが、前のコンパイラーが導入されていない。

LBL9007

プロダクト・ライブラリーに損傷があるか、あるいはユーザーにはその使用が認可されていない。

SQL9002

SQLプリコンパイルと&7コンパイルのTGTRLSパラメーターが矛盾している。

SQL9003

このSQLソースには、&7コンパイルのレベルが正しくない。

[トップ](#)

Cモジュール作成 (CRTCMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

Cモジュール作成(CRTCMOD)コマンドは、ILE Cコンパイラーを開始します。このコマンドは、バッチか対話式のどちらかのモードか、あるいはCLプログラムから使用することができます。コンパイラーは、ソース・コード中のILEステートメントに基づいてモジュール・オブジェクトを作成しようとします。

エラー・メッセージ: CRTCMOD

*ESCAPE メッセージ

CZM0613

コンパイルに失敗しました。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *MODULE	オプション, 定位置 3
SRCSTMF	ソース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力オプション	単一値: *NONE, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 出力ファイル名	パス名, *PRINT, *PRINT	
	要素 2: タイトル	文字値, *BLANK	
	要素 3: サブタイトル	文字値, *BLANK	

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	コンパイラー・オプション	値 (最大 35 回の繰り返し): *NOAGR, *AGR, *DIGRAPH, *NODIGRAPH, *NOEVENTF, *EVENTF, *NOEXPMAC, *EXPMAC, *NOFULL, *FULL, *GEN, *NOGEN, *NOINCDIRFIRST, *INCDIRFIRST, *LOGMSG, *NOLOGMSG, *NOPPONLY, *PPONLY, *NOSECLVL, *SECLVL, *NOSHOWINC, *SHOWINC, *NOSHOWSKP, *SHOWSKP, *SHOWSRC, *NOSHOWSRC, *NOSHOWSYS, *SHOWSYS, *NOSHOWUSR, *SHOWUSR, *STDINC, *NOSTDINC, *NOSTDLOGMSG, *STDLOGMSG, *NOSTRUCREF, *STRUCREF, *NOSYSINCPATH, *SYSINCPATH, *NOXREF, *XREF, *NOXREFREF, *XREFREF	オプション
CHECKOUT	チェックアウト・オプション	値 (最大 39 回の繰り返し): * NONE , *USAGE, *ALL, *NOCOND, *COND, *NOCONST, *CONST, *NOEFFECT, *EFFECT, *NOENUM, *ENUM, *NOEXTERN, *EXTERN, *NOGENERAL, *GENERAL, *NOGOTO, *GOTO, *NOINIT, *INIT, *NOPARM, *PARM, *NOPORT, *PORT, *NOPPCHECK, *PPCHECK, *NOPPTRACE, *PPTRACE, *NOREACH, *REACH, *NOTRUNC, *TRUNC, *NOUNUSED, *UNUSED	オプション
OPTIMIZE	最適化	10 , 20, 30, 40	オプション
INLINE	インライン・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: インライナー	* OFF , *ON	
	要素 2: モード	* NOAUTO , *AUTO	
	要素 3: しきい値	1-65535, 250 , *NOLIMIT	
	要素 4: 限界	1-65535, 2000 , *NOLIMIT	
	要素 5: 報告書	* NO , *YES	
MODCRTOPT	モジュール作成オプション	* NOKEEPILDTA , *KEEPILDTA	オプション
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	* NONE , *ALL, *STMT, *SOURCE, *LIST	オプション
DEFINE	名前の定義	単一値: * NONE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 文字値	オプション
LANGLVL	言語レベル	* EXTENDED , *ANSI	オプション
ALIAS	別名	値 (最大 3 回の繰り返し): * ANSI , *NOANSI, *ADDRTAKEN, *NOADDRTAKEN, *ALLPTRS, *NOALLPTRS, *TYPEPTR, *NOTYPEPTR	オプション
SYSIFCOPT	SYSTEMインターフェース OPT	値 (最大 2 回の繰り返し): *NOIFSIO, *IFSIO, *IFS64IO, *NOASYNCSIGNAL, *ASYNCSIGNAL	オプション
LOCALETYPE	LOCALEオブジェクト・タイプ	* LOCALE , *LOCALEUCS2, *LOCALEUTF, *CLD	オプション
FLAG	メッセージのフラグ・レベル	0 , 10, 20, 30	オプション
MSGLMT	コンパイラー・メッセージ	要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ限界	0-32767, * NOMAX	
	要素 2: メッセージ限界の重大度	0, 10, 20, 30	
REPLACE	MODULE OBJECTの置き換え	* YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, * LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, * CURRENT , *PRV	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ENBPFCOL	パフォーマンス収集の使用可能	要素リスト	オプション
	要素 1: 収集レベル	*PEP , *ENTRYEXIT, *FULL	
	要素 2: プロシージャ	*NONLEAF, *ALLPRC	
PFROPT	パフォーマンス・オプション	値 (最大 2 回の繰り返し): *SETFPCA, *NOSETFPCA, *NOSTRDONLY, *STRDONLY	オプション
PRFDTA	プロファイル作成データ	*NOCOL , *COL	オプション
TERASPACE	テラスペース・オプション	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: テラスペース使用可能	*YES	
	要素 2: TERASPACE INTERFACESの使用	*NOTSIFC , *TSIFC	
STGMDL	ストレージ・モデル	*SINGLVL , *TERASPACE, *INHERIT	オプション
DTAMD	データ・モデル	*P128 , *LLP64	オプション
PACKSTRUCT	バック構造	*NATURAL , 1, 2, 4, 8, 16	オプション
ENUM	Enumサイズ	*SMALL , 1, 2, 4, *INT	オプション
MAKEDEP	依存関係情報	パス名, *NONE	オプション
PPGENOPT	プリプロセッサ・オプション	単一値: *NONE , *DFT その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *RMVCOMMENT, *NORMVCOMMENT, *GENLINE, *NOGENLINE	オプション
PPSRCFILE	出力ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
PPSRCMBR	出力ソース・メンバー	名前, *MODULE	オプション
PPSRCSTMF	出カストリーム・ファイル	パス名, *SRCSTMF	オプション
INCDIR	組み込みディレクトリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): パス名	オプション
CSOPT	コンパイラー・サービスOPT	文字値, *NONE	オプション
LICOPT	ライセンス内部コードOPT	文字値, *NONE	オプション
DFTCHAR	省略時の文字タイプ	*UNSIGNED , *SIGNED	オプション
TGTCCSID	ターゲットCCSID	1-65535, *SOURCE , *JOB, *HEX	オプション

トップ

モジュール (MODULE)

モジュール名およびモジュール・オブジェクトのライブラリーを指定します。

モジュール名

モジュール・オブジェクトの名前を入力します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

モジュール・オブジェクトは現行ライブラリーに保管されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、モジュール・オブジェクトはQGPLライブラリーに作成されます。

ライブラリー名

モジュール・オブジェクトが保管されるライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルしたいILE Cソース・コードが入っているファイルのソース・ファイル名およびライブラリーを指定します。

QCSRC

QCSRCという名前のソース・ファイルに、コンパイルしたいILE Cソース・コードを含むメンバーが入っています。

ソース・ファイル名

ILE Cソース・コードを含むメンバーが入っているソース・ファイルの名前を入力します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ソース・ファイルがあるライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルは現行ライブラリーから検索されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、ソース・ファイルはQGPLライブラリーから検索されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力します。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルするソース・コードが入っているメンバーの名前を指定します。

*MODULE

MODULEパラメーターで提供されたモジュール名がソース・メンバー名として使用されます。

メンバー名

ソース・コードが入っているメンバーの名前を入力します。

[トップ](#)

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)

コンパイルしたいソース・コードが入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。

パス名は絶対修飾パス名か相対修飾パス名のどちらかにすることができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。絶対修飾の場合には、そのパス名で完全です。相対修飾の場合には、ジョブの現行作業ディレクトリーをパス名に対して事前に入手することによって、そのパス名は完全なものとなります。

SRCMBRおよびSRCFILEパラメーターをSRCSTMFパラメーターと一緒に指定することはできません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

モジュール・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

ソース・ファイル・メンバーに関連したテキスト記述がモジュール・オブジェクトに使用されます。ソース・ファイルがインライン・ファイル、ストリーム・ファイル、または装置ファイルである場合には、テキストはブランクとなります。

***BLANK**

テキストは現れないことを指定します。

'記述' 50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定します。

[トップ](#)

出力オプション (OUTPUT)

コンパイラー・リストが生成されるかどうかを指定します。

単一の値

***NONE**

コンパイラー・リストは生成しません。リストが必要でない場合であっても、このパラメーター値を使用してコンパイル時のパフォーマンスを改善することが必要です。*NONEが指定されると、OPTIONパラメーターに指定された、リストと関連するすべてのパラメーター値が無視されます。

要素 1 : 出力ファイル名

***PRINT**

リストを含むスプール・ファイルを生成します。

'パス名'

リストを保持するストリーム・ファイルのパス名を指定します。

要素 2 : タイトル

***BLANK**

テキストは現れないことを指定します。

'タイトル'

リスト・ファイルのタイトル・ストリング（最大80文字）を指定します。

要素 3 : サブタイトル

***BLANK**

テキストは現れないことを指定します。

'サブタイトル'

リスト・ファイルのサブタイトル・ストリング（最大80文字）を指定します。

[トップ](#)

コンパイラー・オプション (OPTION)

ILE Cソース・コードのコンパイル時に使用するオプションを指定します。それらは、1つ以上のブランクで区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

可能なオプションは次の通りです。

***NOAGR**

リストに集合マップは生成しません。

***AGR** リストにすべての集合のマップを生成します。マップには構造および共用体が含まれます。構造マップはメンバーの埋め込みを示します。このオプションは*STRUCREFオプションを指定変更します。

***DIGRAPH**

ソース・コード中の連字を使用することができます。

***NODIGRAPH**

ソース・コード中の連字を使用することはできません。

***NOEVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)によって使用するためのイベント・ファイルは作成しません。

***EVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)によって使用するためのイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、作成されたモジュールまたはプログラム・オブジェクトが保管されるライブラリーにファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。EVFEVENTが存在しない場合には、それが自動的に作成されます。イベント・ファイル・メンバー名は、作成中のオブジェクトの名前と同じです。CODE/400は、このファイルを使用して、CODE/400編集機能によって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、イベント・ファイルはCODE/400内からモジュールまたはプログラム・オブジェクトを作成するときに作成されます。

***NOEXPMAC**

マクロの中に構文エラーが見つからなければ、リスト中のマクロは展開されません。

***EXPMAC**

リスト中のすべてのマクロを展開します。このパラメーターはDBGVIEW(*ALL)およびDBGVIEW(*LIST)とは矛盾します。OPTION(*EXPMAC)がDBGVIEW(*ALL)またはDBGVIEW(*LIST)と一緒に使用されている場合には、コンパイルが停止してエラー・メッセージが出されます。

***NOFULL**

すべてのリスト・オプションはオンにしません。

***FULL** すべてのリスト・オプションをオンにします。

***GEN** コンパイル処理のすべてのフェーズが実行されます。

***NOGEN**

コンパイルは構文検査の後に停止します。モジュール・オブジェクトは作成されません。

***NOINCDIRFIRST**

INCDIRパラメーターとして指定された組み込みディレクトリーは、標準見出しファイルの組み込みパスの前には組み込まれません。

***INCDIRFIRST**

INCDIRパラメーターとして指定された組み込みディレクトリーが、標準見出しファイルの組み込みパスの前に組み込まれます。

***LOGMSG**

コンパイル・メッセージをジョブ・ログに書き込みます。

このオプションおよびFLAGパラメーターを指定した場合には、FLAGパラメーターに指定された（およびそれより高い）重大度のメッセージがジョブ・ログに入れられます。

このオプション、およびメッセージの最大数をMSGLMTパラメーターに指定した場合には、指定された重大度のその数のメッセージがジョブ・ログに入れられた時に、コンパイルは停止します。

***NOLOGMSG**

コンパイル・メッセージをジョブ・ログに書き込みません。

***NOPPONLY**

*GENがそのままOPTIONに対する省略時の値として残されている場合には、コンパイラーはコンパイル順序全体を実行します。

***PPONLY**

プリプロセッサのみが実行され、出力は保管されます。コンパイル順序の残りの部分は実行されません。

SRCFILEまたはSRCMBRが指定された場合には、出力はQTEMPライブラリーのソース・ファイルQACZEXPANDに保管されます。メンバー名は、MODULEパラメーターに指定された名前と同じです。ジョブがバッチ・モードで投入された場合には、出力はQTEMPに保管されているので、そのジョブが完了すると出力は削除されます。

SRCSTMFが指定された場合には、出力はユーザーの現行ディレクトリーのストリーム・ファイルに保管されます。ファイル名は、SRCSTMF上の拡張子'.I'を付けたファイルと同じです。

OPTION(*PPONLY)は、パラメーターPPGENOPT, PPSRCFILE, PPSRCMBR,およびPPSRCSTMFによって置き換えられます。

***NOSECLVL**

リストに第2レベル・メッセージ・テキストは生成しません。

***SECLVL**

リストに第2レベル・メッセージ・テキストを生成します。このオプションを有効にするには、OUTPUTオプションを指定しなければなりません。

***NOSHOWINC**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルまたはシステム組み込みファイルを展開しません。

***SHOWINC**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルとシステム組み込みファ

イルの両方を展開します。OUTPUTオプション, あるいは*ALL, *SOURCE,または*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。

***NOSHOWSKP**

リストのソース部分またはデバッグ・リスト・ビューのプリプロセッサが無視したステートメントを組み込みません。プリプロセッサは、プリプロセッサ・ディレクティブが偽（ゼロ）と評価した結果としてステートメントを無視します。

***SHOWSKP**

プリプロセッサがスキップしたかどうかに関係なく、リストのソース部分またはデバッグ・リスト・ビューのすべてのステートメントを組み込みます。OUTPUTオプション, あるいは*ALLまたは*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。

***SHOWSRC**

リストにソース・コードを表示します。このオプションは、*SHOWINC, *SHOWSYS,または*SHOWUSRオプションによって変更することができます。

***NOSHOWSRC**

リストにソース・コードは表示しません。このオプションは、*SHOWINC, *SHOWSYS,または*SHOWUSRオプションによって変更することができます。

***NOSHOWSYS**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#INCLUDEディレクティブのシステム組み込みファイルを展開しません。システム組み込みファイルは、#INCLUDEディレクティブに続いて不等号括弧(< >)で囲まれます。

***SHOWSYS**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#INCLUDEディレクティブのシステム組み込みファイルを展開します。OUTPUTオプション, あるいは*ALL, *SOURCE,または*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。システム組み込みファイルは、#INCLUDEディレクティブに続いて不等号括弧(< >)で囲まれます。

***NOSHOWUSR**

リストまたはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルは拡張しません。ユーザー組み込みファイルは、#INCLUDEディレクティブに続いて二重引用符(" ")で囲まれます。

***SHOWUSR**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#INCLUDEディレクティブのユーザー組み込みファイルを展開します。OUTPUTオプション, あるいは*ALL, *SOURCE,または*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。ユーザー組み込みファイルは、#INCLUDEディレクティブに続いて二重引用符(" ")で囲まれます。

***STDINC**

システム提供の見出しファイルがコンパイルのための検索パスに組み込まれます。

***NOSTDINC**

システム提供の見出しファイルはコンパイルのための検索パスに組み込まれません。

***NOSTDLOGMSG**

コンパイル・メッセージはSTDOUTストリームへ送られません。

***STDLOGMSG**

コンパイル・メッセージがSTDOUTストリームへ送られます。

***NOSTRUCREF**

参照されるすべてのSTRUCTまたはUNION変数のマップはリスト・ファイルに生成しません。

***STRUCREF**

参照されるすべてのSTRUCTまたはUNION変数のマップをリスト・ファイルに生成します。

***NOSYSINCPATH**

ユーザー組み込みの検索パスは影響を与えません。

***SYSINCPATH**

ユーザー組み込みの検索パスをシステム組み込みの検索パスに変更します。関数では、このオプションはユーザー#includeディレクティブ(#INCLUDE "FILE_NAME")の二重引用符を不等号括弧(#INCLUDE <FILE_NAME>)に変更するのと同じです。

***NOXREF**

リストに相互参照テーブルは生成しません。

***XREF**

ソース・コード中の識別コードのリストとともにそれらが表示される行の番号を含む相互参照テーブルを生成します。OUTPUTオプションを指定しなければなりません。

***NOXREFREF**

参照される識別コードの相互参照テーブルをリストの中に生成しません。

***XREFREF**

参照される変数、構造、および関数名の相互参照テーブルをリスト・ファイルの中に生成します。このテーブルには、識別コードが宣言されている行番号が表示されます。

トップ

チェックアウト・オプション (CHECKOUT)

考えられるプログラミング・エラーを示す通知メッセージの生成を選択することができるオプションを指定します。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

注: CHECKOUTは多くのメッセージを生成することがあります。これらのメッセージがジョブ・ログへ送られないようにするには、OUTPUTパラメーターとともにOPTION(*NOLOGMSG *NOSTDLOGMSG)を指定して、チェックアウト・メッセージをリスト・ファイルに入れてください。

***NONE**

CHECKOUTのすべてのオプションを使用不可にします。

***USAGE**

これは、*ENUM、*EXTERN、*INIT、*PARM、*PORT、*GENERAL、および*TRUNCを指定することと同等です。

***ALL** CHECKOUTのすべてのオプションを使用可能にします。

***NOCOND**

条件式での考えられる冗長度または問題について警告はしません。

***COND**

条件式での考えられる冗長度または問題について警告をします。

***NOCONST**

定数に関係した操作について警告はしません。

***CONST**

定数に関係した操作について警告をします。

***NOEFFECT**

無効なステートメントについて警告はしません。

***EFFECT**

無効なステートメントについて警告をします。

***NOENUM**

列挙型の使用はリストしません。

***ENUM**

列挙型の使用をリストします。

***NOEXTERN**

外部宣言がある未使用の変数はリストしません。

***EXTERN**

外部宣言がある未使用の変数をリストします。

***NOGENERAL**

一般チェックアウト・メッセージはリストしません。

***GENERAL**

一般チェックアウト・メッセージをリストします。

***NOGOTO**

GOTOステートメントのオカレンスおよび使用はリストしません。

***GOTO**

GOTOステートメントのオカレンスおよび使用をリストします。

***NOINIT**

明示的に初期設定されない自動変数はリストしません。

***INIT** 明示的に初期設定されない自動変数をリストします。

***NOPARM**

使用されない関数パラメーターはリストしません。

***PARM**

使用されない関数パラメーターをリストします。

***NOPORT**

C言語の非可搬使用はリストしません。

***PORT**

C言語の非可搬使用をリストします。

***NOPPCHECK**

プリプロセッサ・ディレクティブはリストしません。

***PPCHECK**

プリプロセッサ・ディレクティブをリストします。

***NOPPTRACE**

プリプロセッサによる組み込みファイルのトレースはリストしません。

***PPTRACE**

プリプロセッサによる組み込みファイルのトレースをリストします。

***NOREACH**

到達不能ステートメントについて警告はしません。

***REACH**

到達不能ステートメントについて警告をします。

***NOTRUNC**

データの考えられる切り捨てまたは喪失について警告はしません。

***TRUNC**

データの考えられる切り捨てまたは喪失について警告をします。

***NOUNUSED**

未使用の自動または静的変数は検査しません。

***UNUSED**

未使用の自動または静的変数を検査します。

[トップ](#)

最適化 (OPTIMIZE)

生成されたオブジェクトの最適化のレベルを指定します。

- 10** 生成されたコードは最適化されません。このレベルではコンパイル時間は最短となります。このレベルでは、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。
- 20** コードについてある程度の最適化が実行されます。このレベルでは、デバッグ中にユーザー変数を表示することができますが、変更することはできません。
- 30** 生成されたコードについて完全な最適化が実行されます。デバッグ・セッション中に、ユーザー変数を変更することはできませんが、表示することはできます。表示される値は、変数の現行値ではない場合があります。
- 40** 生成されたコードには、レベル30で行われたすべての最適化が実行されます。さらに、命令トレースおよび呼び出しトレース・システム機能を使用可能にするコードが、プロシージャーのプロローグおよびエピログ・ルーチンから除去されます。このコードを除去することによって、リーフ・プロシージャーの作成が可能になります。リーフ・プロシージャーは、他のプロシージャーに対する呼び出しを含まないプロシージャーです。リーフ・プロシージャーに対するプロシージャー呼び出しのパフォーマンスは、通常のプロシージャーに対する呼び出しより大幅に高速となります。

[トップ](#)

インライン・オプション (INLINE)

コンパイラーでは関数呼び出しの呼び出し先関数の命令による置き換えを考慮する必要があるかどうかを指定します。関数をインライン化することによって、呼び出しのオーバーヘッドが除去されるので、より良好な最適化の結果を得ることができます。何度も呼び出される小さい関数は、インライン化に適した候補です。

要素 1 : インライン化機能

インライン化を使用するかどうかを指定します。

***OFF** コンパイル単位についてインライン化は実行されないことを指定します。

***ON** コンパイル単位についてインライン化が実行されることを指定します。デバッグ・ビューが指定された場合には、インライン化機能はオフにされます。

要素 2 : モード

インライン化機能は、その限界値および限界の値に従って関数の自動的なインライン化を試みる必要があるかどうかを指定します。

***NOAUTO**

#PRAGMA INLINEディレクティブによって指定された関数だけをインライン化の候補と見なす必要があることを指定します。

***AUTO**

インライン化機能は、関数をインライン化できるかどうかを指定された限界値および限界の値に基づいて決定する必要があることを指定します。*AUTOは#PRAGMA NOINLINEディレクティブによって指定変更されます。

要素 3 : 限界値

自動インライン化の候補とすることができる関数の最大サイズを指定します。このサイズは抽象コード単位 (ACU) で測定されます。ACUのサイズは関数内の実行可能コードと比例します。ソース・コードは、コンパイラーによって自動的にACUに変換されます。

250 250の限界値を指定します。

ACUの数

1-65535のACUの限界値を指定します。

***NOLIMIT**

しきい値をプログラム・オブジェクトの最大サイズとして定義します。

要素 4 : 限界

自動インライン化が停止するまで拡張できる関数の最大相対サイズを指定します。

2000 2000のACUの限界を指定します。

***NOLIMIT**

限界がプログラム・オブジェクトの最大サイズとして定義されます。システム限界が見つかることがあります。

ACUの数

1-65535のACUの限界を指定することができます。

要素 5 : 報告書

コンパイラー・リストとともにインライン化機能報告書を生成するかどうかを指定します。

***NO** インライン化報告書は生成されません。

***YES** インライン化報告書がコンパイラー・リストの一部として生成されます。インライン化報告書を生成するには、OUTPUTオプションを指定しなければなりません。

[トップ](#)

モジュール作成オプション (MODCRTOPT)

モジュール・オブジェクトの作成時に使用するオプションを指定します。それらは、ブランクで区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

***NOKEEPILDTA**

中間言語データはモジュール・オブジェクトと一緒に保管されません。

***KEEPILDTA**

中間言語データがモジュール・オブジェクトと一緒に保管されます。

トップ

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

作成されたプログラムまたはサービス・プログラム・オブジェクトにこのモジュールのどのデバッグ・レベルが使用可能かを指定します。これは、また、ソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューも指定します。デバッグ・ビューを要求すると、インライン化はオフになります。

***NONE**

デバッグ機能はモジュール・オブジェクトに挿入されません。

***ALL** すべてのデバッグ・オプション(*STMT, *SOURCE,および*LIST)が使用可能になります。

***STMT**

プログラム・ステートメント番号および記号識別コードを使用して、モジュール・オブジェクトをデバッグすることができます。

注: *STMTオプションを使用してモジュール・オブジェクトをデバッグするには、リストが必要です。

***SOURCE**

モジュール・オブジェクトをデバッグするためのソース・ビューを生成します。作成されるソース・ビューの内容は、OPTIONパラメーターの値*NOSHOWINC, *SHOWINC, *SHOWSYS,および*SHOWUSRによって決まります。

注: このビューをデバッグ用に使用するためには、モジュール・オブジェクトの作成後にルート・ソース・ファイルが変更、名前変更、または移動されてはいけません。

***LIST** モジュール・オブジェクトをデバッグするためのリスト・ビューを生成します。OPTIONパラメーターの値*SHOWINC, *SHOWUSR, *SHOWSYS,および*NOSHOWINC は、作成されるリスト・ビューの内容を決定します。

トップ

名前の定義 (DEFINE)

ファイルがコンパイラーによって処理される前に有効となるプリプロセッサ・マクロを指定します。様式DEFINE(MACRO)はDEFINE('MACRO=1')と同等です。

***NONE**

マクロは定義されません。

'名前'または'名前=値'

最大32個のマクロを定義することができます。それぞれのマクロ名はアポストロフィで囲まれます。マクロ名の最大長は80文字です。アポストロフィは、この80文字のストリングの一部ではありません。アポストロフィは大文字小文字の区別があるマクロ名の場合に必要です。

注: コマンドで定義されたマクロにより、ソース内の同じ名前のすべてのマクロ定義は指定変更されますが、コンパイラーによって警告メッセージが生成されます。#DEFINE MAX(A,B) ((A)>(B):(A)?(B))のように関数に似たマクロは、コマンド入力行で定義することはできません。

トップ

言語レベル (LANGlvl)

コンパイラーの機能、およびソースの作成時に宣言されるプロトタイプを指定します。

*EXTENDED

プリプロセッサ変数__EXTENDED__を定義し、その他の言語レベル変数は未定義とします。このパラメーターは、ILE Cのすべての機能が必要な場合に使用する必要があります。

*ANSI プリプロセッサ変数__ANSI__および__STDC__を定義し、その他の言語レベル変数は未定義とします。ANSI規格のCのみが使用可能になります。

注: ILE Cコンパイラーでは、常に__ILEC400__マクロが事前定義されます。

トップ

別名 (ALIAS)

作成されるモジュール・オブジェクトに適用する別名割り当ての表明を指定します。

*ANSI モジュール・オブジェクトは、ポインターが同じタイプのオブジェクトをポイントするのを許可するだけです。

*NOANSI

モジュール・オブジェクトは*ANSI別名割り当て規則を使用しません。

*ADDRTAKEN

モジュール・オブジェクトは、変数のアドレスが取られない限り、その変数クラスをポインターから切り離します。

*NOADDRTAKEN

モジュール・オブジェクトは*ADDRTAKEN別名割り当て規則を使用しません。

*ALLPTRS

モジュール・オブジェクトは2つのポインターの別名割り当てを許可しません。

*NOALLPTRS

モジュール・オブジェクトは*ALLPTRS別名割り当て規則を使用しません。

*TYPEPTR

モジュール・オブジェクトは、別のタイプの2つのポインターの別名割り当てを許可しません。

*NOTYPEPTR

モジュール・オブジェクトは*TYPEPTR別名割り当て規則を使用しません。

SYSTEMインターフェースOPT (SYSIFCOPT)

作成されるモジュール・オブジェクトに使用されるシステム・インターフェース・オプションを指定します。それらは、1つ以上のブランクで区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

***NOIFSIO**

モジュール・オブジェクトは、Cストリーム入出力操作にISERIESデータ管理ファイル・システムを使用します。

***IFSIO** モジュール・オブジェクトは、Cストリーム入出力操作に統合ファイル・システムを使用します。

***IFS64IO**

モジュール・オブジェクトは、64ビットCストリーム入出力操作に統合ファイル・システムを使用します。

***NOASYNCSIGNAL**

非同期信号機能に対する同期信号機能の実行時マッピングは使用可能にしません。

***ASYNCSIGNAL**

非同期信号機能に対する同期信号機能の実行時マッピングを使用可能にします。このオプションを指定すると、C実行時によって同期SIGNAL()およびRAISE()関数がそれぞれ非同期SIGACTION()およびKILL()関数にマップされます。

トップ

LOCALEオブジェクト・タイプ (LOCALETYPE)

作成されるモジュール・オブジェクトで使用するロケール・サポートのタイプを指定します。

***LOCALE**

このオプションで作成されたモジュール・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。

***LOCALEUCS2**

このオプションで作成されたモジュール・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。幅広文字タイプには、2バイト汎用文字セットの値が含まれます。

***CLD** このオプションで作成されたモジュール・オブジェクトは、*CLDオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。

***LOCALEUTF**

このオプションで作成されたモジュール・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。広幅文字タイプには4バイトのUTF-32の値が入ります。狭幅文字タイプにはUTF-8の値が入ります。

トップ

メッセージのフラグ・レベル (FLAG)

リストに表示するメッセージのレベルを指定します。

- 0** 通知レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 10** 警告レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 20** エラー・レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 30** 重大エラー・レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。

[トップ](#)

コンパイラー・メッセージ (MSGLMT)

コンパイルが停止される前に表示できる、一定のメッセージ重大度のメッセージの最大数を指定します。

要素 1 : メッセージ限界

指定のメッセージ重大度レベル以上で表示できるメッセージの最大数を指定します。

***NOMAX**

指定のメッセージ重大度レベルで表示されたメッセージの数とは無関係に、コンパイルは続行されます。

メッセージ限界

表示できるメッセージの数を指定します。有効な範囲は0-32767です。

要素 2 : メッセージ重大度

その指定の重大度以上のメッセージがメッセージ限界数を超えて起こった場合にコンパイルを停止するメッセージ重大度を指定します。

- 30** 重大度が30のメッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 0** 重大度が0以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 10** 重大度が10以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 20** 重大度が20以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。

[トップ](#)

MODULE OBJECTの置き換え (REPLACE)

オブジェクトの既存のバージョンを現行バージョンで置き換えるかどうかを指定します。

- *YES** 既存のオブジェクトが新規バージョンで置き換えられます。旧バージョンは、QRPLOBJライブラリーに移され、システム日付および時刻に基づいて名前変更されます。置き換えられたオブジェクトのテキスト記述は、元のオブジェクトの名前に変更されます。旧オブジェクトが明示的に削除されていない場合には、次のIPL時にそれが削除されます。

***NO** 既存のオブジェクトは置き換えられません。指定されたライブラリーに同じ名前のオブジェクトが見つかった場合には、メッセージが表示されて、コンパイルは停止します。

トップ

権限 (AUT)

オブジェクトに対する特定権限がないユーザー、権限リスト上にないユーザー、またはそのグループに特定のオブジェクトに対する権限がないユーザーに認可される権限を指定します。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する共通権限は、ターゲット・ライブラリー（作成されたオブジェクトを含むライブラリー）のCRTAUTキーワードからとられます。この値は、オブジェクトの作成時に決定されます。ライブラリーに対するCRTAUTの値がオブジェクトの作成後に変更された場合には、新しい値はそのライブラリー中の既存のどのオブジェクトにも影響しません。

***ALL** 所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される権限を除き、オブジェクトについてすべての操作の権限を提供します。すべてのユーザーが、オブジェクトの存在を制御し、その機密保護を指定し、それを変更し、また、その所有権の変更も含めた基本機能を実行することができます。

*CHANGE

すべてのデータ権限、および所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される権限を除き、オブジェクトについてすべての操作を実行する権限を提供します。オブジェクトを変更し、それについて基本機能を実行することができます。

***USE** オブジェクト操作権、読み取り権限、およびモジュール・オブジェクトの結合などの基本読み取り専用操作のための権限を提供します。特定権限のないユーザーは、オブジェクトを変更することができません。

*EXCLUDE

特殊権限のないユーザーはオブジェクトにアクセスできません。

権限リスト名

ユーザーの権限リストの名前、およびオブジェクトが追加される先の権限を入力します。オブジェクトは、この権限リストによって保護され、オブジェクトに対する共通権限は*AUTLに設定されます。コマンドを出す時には、システムに権限リストが存在していなければなりません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

ユーザーが作成中のオブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*CURRENTおよび*PRVの値について示される例において、また、リリース・レベルの値を指定する場合には、リリースの指定にVXR^XMXの様式が使用されます。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V4R5M0はバージョン4、リリース5、モディフィケーション・レベル0です。

*CURRENT

オブジェクトは、ユーザーのシステムで現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、V4R5M5がシステムで実行中である場合に、*CURRENTは、ユーザーが

V4R5M5の導入されたシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。ユーザーは、また、これ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもオブジェクトを使用することができます。

注: システムでV4R5M5が実行されていて、オブジェクトがV4R5M0を導入したシステムで使用される場合には、TGTRLS(*CURRENT)でなくTGTRLS(V4R5M0) を指定してください。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムの前のモディフィケーション0のリリースで使用されます。たとえば、ユーザーのシステムでV4R5M5が実行中である場合に、*PRVは、ユーザーがV4R4M0の導入されたシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。ユーザーは、また、これ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもオブジェクトを使用することができます。

リリース・レベル

リリースをVXRXXMXの様式で指定します。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は、現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なります。それらは、それぞれの新規リリースで変更されます。このコマンドによってサポートされる最初期のリリース・レベルより前のリリースを指定した場合には、エラー・メッセージが送られます。

トップ

パフォーマンス収集の使用可能化 (ENBPFRCOL)

オブジェクトにパフォーマンス測定コードを生成する必要があるかどうかを指定します。収集されたデータをシステム・パフォーマンス・ツールで使用し、アプリケーションのパフォーマンスのプロファイルを作成することができます。作成されたオブジェクトにコードを生成すると、オブジェクトがわずかに大きくなってパフォーマンスに影響する場合があります。

***PEP** パフォーマンス統計は、プログラム入りロプロシージャーの入り口と出口でのみ収集されます。この値は、アプリケーションに関する全般的なパフォーマンス情報を収集したい時に選択します。

***ENTRYEXIT *NONLEAF**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャー以外の、プログラム・オブジェクトのすべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。これにはプログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、アプリケーション内の他のルーチンを起動するルーチンに関する情報のみをキャプチャーしたい場合に有用です。

***ENTRYEXIT *ALLPRC**

パフォーマンス統計は、プログラム・オブジェクトの（リーフ・プロシージャーを含む）すべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。これにはプログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、すべてのルーチンに関する情報をキャプチャーしたい場合に有用です。このオプションは、アプリケーションによって呼び出されるすべてのプログラムが*PEP、*ENTRYEXIT、または*FULLオプションのいずれかによって作成されたことが分かっている場合に使用してください。そうでない場合には、アプリケーションがパフォーマンス測定に使用できない他のプログラム・オブジェクトを呼び出した場合に、パフォーマンス・ツールがユーザー・アプリケーションにその資源の使用を課すこととなります。このため、資源が実際にはどこで使用されているかを判別するのは困難となります。

***FULL *NONLEAF**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャーではないすべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。また、外部プロシージャーに対する各呼び出しの前後でも統計が収集されます。

***FULL *ALLPRC**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャーを含むすべてのプロシージャーの入り口と出口で収集されます。また、外部プロシージャーに対する各呼び出しの前後でも統計が収集されます。

このオプションは、アプリケーションが*PEP、*ENTRYEXIT、または*FULLのいずれかで作成されていない他のプログラム・オブジェクトを呼び出すと考えられる場合に使用してください。このオプションによって、パフォーマンス・ツールは、ユーザーのアプリケーションが使用している資源と、それが呼び出したプログラム・オブジェクトによって使用されている資源を（それらのプログラム・オブジェクトがパフォーマンス測定に使用できない場合であっても）区別することができます。このオプションは経済的ではありませんが、アプリケーション内の各種のプログラム・オブジェクトを選択的に分析することができます。

トップ

パフォーマンス・オプション (PFROPT)

パフォーマンスを高めるために使用可能な各種のオプションを指定します。それらは、1つ以上の空白で区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

可能なオプションは次の通りです。

***SETFPCA**

コンパイラーに、浮動小数点計算に対するANSIのセマンティクスを達成するために浮動小数点の計算属性を設定させます。

***NOSETFPCA**

計算属性は設定されません。このオプションは、作成されるオブジェクトに浮動小数点計算が含まれていない場合にのみ使用してください。

***NOSTRDONLY**

コンパイラーは書き込み可能メモリーの中にストリングを入れる必要があることを指定します。

***STRDONLY**

コンパイラーは読み取り専用メモリーの中にストリングを入れることができることを指定します。

トップ

プロファイル作成データ (PRFDTA)

モジュール・オブジェクトのプログラム・プロファイル・データ属性を指定します。プログラムのプロファイル作成は、プロシージャーおよびプロシージャー内のコードを統計データ（プロファイル作成データ）に基づいて再配列するために使用される拡張最適化手法です。

***NOCOL**

モジュール・オブジェクトはプロファイル・データの収集に使用できません。

***COL** モジュール・オブジェクトはプロファイル・データの収集に使用できます。*COLは、最適化レベルが30以上である場合にのみ指定することができます。

テラスペース・オプション (TERASPACE)

モジュール・オブジェクトがテラスペース記憶域を処理できるかどうかを指定します。これには、モジュール・オブジェクトによって割り振られたテラスペース記憶域と他のテラスペース使用可能プログラムおよびサービス・プログラム・オブジェクトから渡されたパラメーターが含まれます。

要素 1 : テラスペース使用可能

***NO** モジュール・オブジェクトは、テラスペースから割り振られた記憶域のアドレッシングを処理することはできません。

***YES** モジュール・オブジェクトは、他のテラスペース使用可能プログラムおよびサービス・プログラム・オブジェクトから渡されたパラメーターを含む、テラスペースから割り振られた記憶域のアドレッシングを処理することができます。

要素 2 : テラスペース・インターフェースの使用

***NOTSIFC**

モジュール・オブジェクトは、省略時の値で記憶域機能の非テラスペース・バージョンを使用します。

***TSIFC**

モジュール・オブジェクトは、省略時の値で記憶域機能のテラスペース・バージョンを使用します。コンパイラーがマクロ変数 `__TERASPACE__` を定義します。

ストレージ・モデル (STGMDDL)

作成されたオブジェクトで使用する記憶域のタイプを指定します。

***SNGLVL**

作成されたオブジェクトは単一レベルの記憶域を使用します。

***TERASPACE**

作成されたオブジェクトはテラスペース記憶域を使用します。

***INHERIT**

作成されたオブジェクトは、単一レベルとテラスペースの両方の記憶域を使用することができます。使用される記憶域のタイプは、呼び出し側が必要とする記憶域のタイプによって異なります。

データ・モデル (DTAMDDL)

INT, LONG, POINTERとして宣言される変数のサイズ (バイト数) を指定します。

***P128** INT, LONG, POINTERのサイズはそれぞれ4, 4, 16となります。

***LLP64**

INT, LONG, POINTERのサイズはそれぞれ4, 4, 8となります。コンパイラーがマクロ変数 `__LLP64_IFC__` を定義します。

[トップ](#)

パック構造 (PACKSTRUCT)

構造のメンバーに使用する位置合わせ境界を指定します。

***NATURAL**

構造メンバーはその自然境界で位置合わせされます。たとえば、短整数は2バイトで位置合わせされることとなります。16バイト・ポインターは、常に16バイト境界で位置合わせされます。

- 1 構造メンバーを1バイトの位置合わせでパックします。
- 2 構造メンバーを2バイトの位置合わせでパックします。
- 4 構造メンバーを4バイトの位置合わせでパックします。
- 8 構造メンバーを8バイトの位置合わせでパックします。
- 16 構造メンバーを16バイトの位置合わせでパックします。

[トップ](#)

Enumサイズ (ENUM)

コンパイラーが列挙型を表すために使用するバイト数を指定します。

***SMALL**

すべてのENUM変数を、値の範囲を表すことができる最小サイズにします。

- 1 すべてのENUM変数を1バイトにします。
- 2 すべてのENUM変数を2バイトにします。
- 4 すべてのENUM変数を4バイトにします。

***INT** ANSI規格のENUMサイズである4バイトを使用します。

[トップ](#)

依存関係情報 (MAKEDEP)

依存関係情報をファイルの中に生成するかどうかを指定します。この情報は作成ツールで使用することができます。

***NONE**

依存関係情報は生成しません。

'パス名'

依存関係情報を保管するストリーム・ファイルのパス名を指定します。

[トップ](#)

プリプロセッサ・オプション (PPGENOPT)

ソース・コードのコンパイル時に使用するプリプロセッサ生成オプションを指定します。

可能なオプションは次の通りです。

***NONE**

ソース・ファイルに対してコンパイラ全体を実行します。プリプロセッサの出力をファイルにコピーしないようにしてください。

DFT** 入力ソースに対してプリプロセッサを実行します。RMVCOMMENT**および***GENLINE**は、プリプロセッサの出力を生成するためのオプションとして使用されます。**PPSRCFILE**および**PPSRCMBR**を使用して、出力ソース・ファイルおよびメンバーを指定するか、あるいは**PPSRCSTMF**を使用して、プリプロセッサの出力を入れるストリーム・ファイルを指定してください。

***RMVCOMMENT**

プリプロセス中にコメントを除去します。

***NORMVCOMMENT**

プリプロセス中にコメントを保存します。

***GENLINE**

プリプロセッサの出力中に#LINEディレクティブを生成します。

***NOGENLINE**

プリプロセッサの出力から#LINEディレクティブを抑制します。

[トップ](#)

出力ソース・ファイル (PPSRCFILE)

プリプロセッサの出力のための物理ファイル名およびライブラリーを指定します。

ソース・ファイル名

プリプロセッサの出力のための物理ファイルの名前を指定します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

プリプロセッサの出力は現行ライブラリーに作成されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、プリプロセッサの出力ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

ライブラリー名

プリプロセッサの出力のためのライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

出力ソース・メンバー (PPSRCMBR)

プリプロセッサの出力のための物理ファイル・メンバーの名前を指定します。

***MODULE**

MODULEパラメーターで提供された名前がプリプロセッサの出力メンバー名として使用されます。

メンバー名

プリプロセッサの出力のためのメンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

出力ストリーム・ファイル (PPSRCSTMF)

プリプロセッサの出力のためのストリーム・ファイルのパス名を指定します。

***SRCSTMF**

SRCSTMFパラメーターで提供されたパス名がプリプロセッサの出力パス名として使用されます。このファイルには'.I'の拡張子があります。

'パス名'

プリプロセッサの出力ストリーム・ファイルのパス名を指定します。

[トップ](#)

組み込みディレクトリー (INCDIR)

コンパイラーが組み込みファイルを検出するために使用する検索パスに追加する1つまたは複数のディレクトリーを指定します。INCDIRを使用すると、INCLUDE環境変数が指定変更されます。

検索パスは、OPTIONキーワードで次のパラメーターを使用し、さらに変更することができます。

- *INCDIRFIRSTまたは*NOINCDIRFIRST
- *SYSINCPATHまたは*NOSYSINCPATH
- *STDINCまたは*NOSTDINC

***NONE**

変更されていなければ、省略時のシステム組み込みディレクトリーおよびソース・ディレクトリーからユーザー組み込みファイルが検索されます。

'ディレクトリー'

組み込みファイルを検索する32個までのディレクトリーを指定します。指定したディレクトリーに加えて、ソース・ディレクトリーからもユーザー組み込みファイルが検索されます。

[トップ](#)

コンパイラー・サービスOPT (CSOPT)

1つまたは複数のコンパイラー・サービス・オプションを指定します。このパラメーターによって、リリースの間で切り替え可能なコンパイラー機能を弊社から得ることができます。

***NONE**

コンパイラー・サービス・オプションは選択されません。

'コンパイラー・サービス・オプション・ストリング'

選択したコンパイラー・サービス・オプションが、モジュール・オブジェクトの作成時に使用されます。有効なストリングは、PTFカバー・レターまたはリリース情報に記述されています。

[トップ](#)

ライセンス内部コードOPT (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターによって、個々のコンパイル時オプションを選択することができますが、これは、選択したそれぞれのタイプのコンパイラー・オプションの潜在的な利点と欠点を理解している経験の豊かなプログラマーを対象としています。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

コンパイル時オプションは選択されません。

'ライセンス内部コード・オプション・ストリング'

選択したライセンス内部コード・コンパイル時オプションが、モジュール・オブジェクトの作成時に使用されます。ある種のオプションでは、作成されたモジュール・オブジェクトをデバッグする機能が損なわれることがあります。

[トップ](#)

省略時の文字タイプ (DFTCHAR)

CHARデータ・タイプのための省略時の符号を指定します。

***UNSIGNED**

省略時のCHARタイプを符号なしとします。

***SIGNED**

省略時のCHARタイプを符号付きとします。

[トップ](#)

ターゲットCCSID (TGTCSSID)

結果のモジュール・オブジェクトに保管されるデータを記述するために使用されるターゲット・コード化文字セット識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SOURCE**

ルート・ソース・ファイルのCCSIDが使用されます。

***JOB** 現行ジョブのCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、文字データが2進数データとして扱われ、変換されないことを示します。

コード化文字セット識別コード
使用するCCSIDを指定します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CZM0613

コンパイルに失敗しました。

[トップ](#)

C++モジュール作成 (CRTCPPMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

C++モジュール作成(CRTCPPMOD)コマンドは、ILE C++コンパイラーを開始します。このコマンドは、バッチか対話式のどちらかのモードか、あるいはCLプログラムから使用することができます。コンパイラーは、ソース・コード中のILE C++ステートメントに基づいてモジュール・オブジェクトを作成しようとしません。

エラー・メッセージ: CRTCPPMOD

***ESCAPE** メッセージ

CZS0613

コンパイルに失敗しました。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCPPSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *MODULE	オプション, 定位置 3
SRCSTMF	ソース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT , *BLANK	オプション
OUTPUT	出力オプション	単一値: *NONE , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 出力ファイル名	パス名, *PRINT , *PRINT	
	要素 2: タイトル	文字値, *BLANK	
	要素 3: サブタイトル	文字値, *BLANK	

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	コンパイラー・オプション	値 (最大 35 回の繰り返し): *NOBITSIGN, *BITSIGN, *NOEVENTF, *EVENTF, *NOEXPMAC, *EXPMAC, *NOFULL, *FULL, *GEN, *NOGEN, *NOINCDIRFIRST, *INCDIRFIRST, *LOGMSG, *NOLOGMSG, *LONGLONG, *NOLONGLONG, *NORTTI, *RTTIAL, *RTTITYPE, *RTTICAST, *NOSHOWINC, *SHOWINC, *SHOWSRC, *NOSHOWSRC, *NOSHOWSYS, *SHOWSYS, *NOSHOWUSR, *SHOWUSR, *STDINC, *NOSTDINC, *NOSTDLOGMSG, *STDLOGMSG, *NOSYSINCPATH, *SYSINCPATH, *NOXREF, *XREF, *NOXREFREF, *XREFREF	オプション
CHECKOUT	チェックアウト・オプション	値 (最大 45 回の繰り返し): * NONE , *USAGE, *ALL, *NOCLASS, *CLASS, *NOCOND, *COND, *NOEFFECT, *EFFECT, *NOGENERAL, *GENERAL, *NOLANG, *LANG, *NOPARM, *PARM, *NOPORT, *PORT, *NOREACH, *REACH, *NOTEMP, *TEMP, *NOTRUNC, *TRUNC, *NOUNUSED, *UNUSED	オプション
OPTIMIZE	最適化	<u>10</u> , 20, 30, 40	オプション
INLINE	インライン・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: インライナー	* OFF , *ON	
	要素 2: モード	* NOAUTO , *AUTO	
	要素 3: しきい値	1-65535, <u>250</u> , *NOLIMIT	
	要素 4: 限界	1-65535, <u>2000</u> , *NOLIMIT	
	要素 5: 報告書	* NO , *YES	
MODCRTOPT	モジュール作成オプション	* NOKEEPILDTA , *KEEPILDTA	オプション
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	* NONE , *ALL, *STMT, *SOURCE, *LIST	オプション
DEFINE	名前の定義	単一値: * NONE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 文字値	オプション
LANGLVL	言語レベル	* EXTENDED , *ANSI, *LEGACY	オプション
ALIAS	別名	値 (最大 3 回の繰り返し): * ANSI , *NOANSI, *ADDRTAKEN, *NOADDRTAKEN, *ALLPTRS, *NOALLPTRS, *TYPEPTR, *NOTYPEPTR	オプション
SYSIFCOPT	SYSTEMインターフェース OPT	* IFS64IO , *IFSIO, *NOIFSIO	オプション
LOCALETYPE	LOCALEオブジェクト・タイプ	* LOCALE , *LOCALEUCS2, *LOCALEUTF	オプション
FLAG	メッセージのフラグ・レベル	<u>0</u> , 10, 20, 30	オプション
MSGLMT	コンパイラー・メッセージ	要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ限界	0-32767, * NOMAX	
	要素 2: メッセージ限界の重大度	0, 10, 20, <u>30</u>	
REPLACE	MODULE OBJECTの置き換え	* YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, * LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, * CURRENT , *PRV	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集の使用可能	要素リスト	オプション
	要素 1: 収集レベル	* PEP , *ENTRYEXIT, *FULL	
	要素 2: プロシージャ	*NONLEAF, *ALLPRC	

キーワード	記述	選択項目	注
PFROPT	パフォーマンス・オプション	値 (最大 2 回の繰り返し): *SETFPCA, *NOSETFPCA, *NOSTRDONLY, *STRDONLY	オプション
PRFDTA	プロファイル作成データ	* NOCOL , *COL	オプション
TERASPACE	テラスペース・オプション	単一値: * NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: テラスペース使用可能	* YES	
	要素 2: TERASPACE INTERFACESの使用	* NOTSIFC , *TSIFC	
STGMDL	ストレージ・モデル	* SINGLVL , *TERASPACE, *INHERIT	オプション
DTAMD	データ・モデル	* P128 , *LLP64	オプション
RTBND	実行時バインド	* DEFAULT , *LLP64	オプション
PACKSTRUCT	パック構造	* NATURAL , 1, 2, 4, 8, 16	オプション
ENUM	Enumサイズ	* SMALL , 1, 2, 4, *INT	オプション
MAKEDEP	依存関係情報	パス名, * NONE	オプション
PPGENOPT	プリプロセッサ・オプション	単一値: * NONE , *DFT その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *RMVCOMMENT, *NORMVCOMMENT, *GENLINE, *NOGENLINE	オプション
PPSRCFILE	出力ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * CURLIB	
PPSRCMBR	出力ソース・メンバー	名前, * MODULE	オプション
PPSRCSTMF	出力ストリーム・ファイル	パス名, *SRCSTMF	オプション
INCDIR	組み込みディレクトリー	単一値: * NONE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): パス名	オプション
CSOPT	コンパイラー・サービスOPT	文字値, * NONE	オプション
LICOPT	ライセンス内部コードOPT	文字値, * NONE	オプション
DFTCHAR	省略時の文字タイプ	* UNSIGNED , *SIGNED	オプション
TGTCCSID	ターゲットCCSID	1-65535, * SOURCE , *JOB, *HEX	オプション
TEMPLATE	テンプレート・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 一時組み込みディレクトリー	パス名, * NONE , *TEMPINC	
	要素 2: 生成済み最大見出し数	1-99999, 1	
	要素 3: テンプレートの妥当性検査	* NO , *WARN, *ERROR	
TMPREG	テンプレート・レジストリー	パス名, *DFT, * NONE	オプション
WEAKTMPL	WEAKテンプレート定義	* YES , *NO	オプション

トップ

モジュール (MODULE)

モジュール名およびモジュール・オブジェクトのライブラリーを指定します。

モジュール名

モジュール・オブジェクトの名前を入力します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

モジュール・オブジェクトは現行ライブラリーに保管されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、モジュール・オブジェクトはQGPLライブラリーに作成されます。

ライブラリー名

モジュール・オブジェクトが保管されるライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルしたいILE C++ソース・コードが入っているファイルのソース・ファイル名およびライブラリーを指定します。

QCPPSRC

QCPPSRCという名前のソース・ファイルに、コンパイルしたいILE C++ソース・コードを含むメンバーが入っています。

ソース・ファイル名

ILE C++ソース・コードを含むメンバーが入っているソース・ファイルの名前を入力します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ソース・ファイルがあるライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルは現行ライブラリーから検索されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、ソース・ファイルはQGPLライブラリーから検索されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力します。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルするソース・コードが入っているメンバーの名前を指定します。

***MODULE**

MODULEパラメーターで提供されたモジュール名がソース・メンバー名として使用されます。

メンバー名

ソース・コードが入っているメンバーの名前を入力します。

[トップ](#)

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)

コンパイルしたいソース・コードが入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。

パス名は絶対修飾パス名か相対修飾パス名のどちらかにすることができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。絶対修飾の場合には、そのパス名で完全です。相対修飾の場合には、ジョブの現行作業ディレクトリーをパス名に対して事前に入手することによって、そのパス名は完全なものとなります。

SRCMBRおよびSRCFILEパラメーターをSRCSTMFパラメーターと一緒に指定することはできません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

モジュール・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

ソース・ファイル・メンバーに関連したテキスト記述がモジュール・オブジェクトに使用されます。ソース・ファイルがインライン・ファイル、ストリーム・ファイル、または装置ファイルである場合には、テキストはブランクとなります。

***BLANK**

テキストは現れないことを指定します。

'記述' 50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定します。

[トップ](#)

出力オプション (OUTPUT)

コンパイラー・リストが生成されるかどうかを指定します。

単一の値

***NONE**

コンパイラー・リストは生成しません。リストが必要でない場合であっても、このパラメーター値を使用してコンパイル時のパフォーマンスを改善することが必要です。*NONEが指定されると、OPTIONパラメーターに指定された、リストと関連するすべてのパラメーター値が無視されます。

要素 1 : 出力ファイル名

***PRINT**

リストを含むスプール・ファイルを生成します。

'パス名'

リストを保持するストリーム・ファイルのパス名を指定します。

要素 2 : タイトル

***BLANK**

テキストは現れないことを指定します。

'タイトル'

リスト・ファイルのタイトル・ストリング（最大80文字）を指定します。

要素3：サブタイトル

***BLANK**

テキストは現れないことを指定します。

'サブタイトル'

リスト・ファイルのサブタイトル・ストリング（最大80文字）を指定します。

[トップ](#)

コンパイラー・オプション (OPTION)

ILE C++ソース・コードのコンパイル時に使用するオプションを指定します。それらは、1つ以上の空白で区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

可能なオプションは次の通りです。

***NOBITSIGN**

ビット・フィールドを符号なしとして指定します。

***BITSIGN**

ビット・フィールドを符号付きとして指定します。

***NOEVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)によって使用するためのイベント・ファイルは作成しません。

***EVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)によって使用するためのイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、作成されたモジュールまたはプログラム・オブジェクトが保管されるライブラリーにファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。EVFEVENTが存在しない場合には、それが自動的に作成されます。イベント・ファイル・メンバー名は、作成中のオブジェクトの名前と同じです。通常、イベント・ファイルは、CODE/400内からモジュールまたはプログラム・オブジェクトを作成するときに作成されます。CODE/400は、このファイルを使用して、CODE/400編集機能によって統合されたエラー・フィードバックを提供します。

***NOEXPMAC**

マクロの中に構文エラーが見つからなければ、リスト中のマクロは展開されません。

***EXPMAC**

リスト中のすべてのマクロを展開します。

***NOFULL**

すべてのリスト・オプションはオンにしません。

***FULL** すべてのリスト・オプションをオンにします。

***GEN** コンパイル処理のすべてのフェーズが実行されます。

***NOGEN**

コンパイルは構文検査の後に停止します。モジュール・オブジェクトは作成されません。

***NOINCDIRFIRST**

INCDIRパラメーターとして指定された組み込みディレクトリーは、標準見出しファイルの組み込みパスの前には組み込まれません。

***INCDIRFIRST**

INCDIRパラメーターとして指定された組み込みディレクトリーが、標準見出しファイルの組み込みパスの前に組み込まれます。

***LOGMSG**

コンパイル・メッセージをジョブ・ログに書き込みます。

このオプションおよびFLAGパラメーターを指定した場合には、FLAGパラメーターに指定された（およびそれより高い）重大度のメッセージがジョブ・ログに入れられます。

このオプション、およびメッセージの最大数をMSGLMTパラメーターに指定した場合には、指定された重大度のその数のメッセージがジョブ・ログに入れられた時に、コンパイルは停止します。

***NOLOGMSG**

コンパイル・メッセージをジョブ・ログに書き込みません。

***LONGLONG**

LONG LONGデータ・タイプの使用を許可します。

***NOLONGLONG**

LONG LONGデータ・タイプの使用は許可しません。

***NORTTI**

実行時タイプ識別コード(RTTI)情報を生成しません。

***RTTIALL**

RTTI TYPEIDおよびDYNAMIC_CAST演算子に必要な情報を生成します。

***RTTITYPE**

RTTI TYPEID演算子のみに必要な情報を生成します。

***RTTICAST**

DYNAMIC_CAST演算子のみに必要な情報を生成します。

***NOSHOWINC**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルまたはシステム組み込みファイルを拡張しません。

***SHOWINC**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルとシステム組み込みファイルの両方を拡張します。OUTPUTオプション、あるいは*ALL、*SOURCE、または*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。

***SHOWSRC**

リストにソース・コードを表示します。このオプションは、*SHOWINC、*SHOWSYS、または*SHOWUSRオプションによって変更することができます。

***NOSHOWSRC**

リストにソース・コードは表示しません。このオプションは、*SHOWINC、*SHOWSYS、または*SHOWUSRオプションによって変更することができます。

***NOSHOWSYS**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#includeディレクティブのシステム組み込みファイルを拡張しません。システム組み込みファイルは、#includeディレクティブに続いて不等号括弧(< >)で囲まれます。

***SHOWSYS**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#includeディレクティブのシステム組み込みファ

イルを拡張します。出力オプションまたは*ALL, *SOURCE,あるいは*LISTのDBGVIEWパラメーターを指定しなければなりません。システム組み込みファイルは、#INCLUDEディレクティブに続いて不等号括弧(< >)で囲まれます。

***NOSHOWUSR**

リストまたはデバッグ・ビューのユーザー組み込みファイルは拡張しません。ユーザー組み込みファイルは、#INCLUDEディレクティブに続いて二重引用符(" ")で囲まれます。

***SHOWUSR**

リストのソース部分またはデバッグ・ビューの#INCLUDEディレクティブのユーザー組み込みファイルを拡張します。OUTPUTオプション, あるいは*ALL, *SOURCE,または*LISTのDBGVIEWパラメーター値を指定しなければなりません。ユーザー組み込みファイルは、#INCLUDEディレクティブに続いて二重引用符(" ")で囲まれます。

***STDINC**

システム提供の見出しファイルがコンパイルのための検索パスに組み込まれます。

***NOSTDINC**

システム提供の見出しファイルはコンパイルのための検索パスに組み込まれません。

***NOSTDLOGMSG**

コンパイル・メッセージはSTDOUTストリームへ送られません。

***STDLOGMSG**

コンパイル・メッセージがSTDOUTストリームへ送られます。

***NOSYINCPATH**

ユーザー組み込みの検索パスは影響を与えません。

***SYINCPATH**

ユーザー組み込みの検索パスをシステム組み込みの検索パスに変更します。関数では、このオプションはユーザー#INCLUDEディレクティブ(#INCLUDE "FILE_NAME")の二重引用符を不等号括弧(#INCLUDE <FILE_NAME>) に変更するのと同じです。

***NOXREF**

リストに相互参照テーブルは生成しません。

***XREF**

ソース・コード中の識別コードのリストとともにそれらが表示される行の番号を含む相互参照テーブルを生成します。OUTPUTオプションを指定しなければなりません。

***NOXREFREF**

参照される識別コードの相互参照テーブルをリストの中に生成しません。

***XREFREF**

参照される変数, 構造, および関数名の相互参照テーブルをリスト・ファイルの中に生成します。このテーブルには, 識別コードが宣言されている行番号が表示されます。

[トップ](#)

チェックアウト・オプション (CHECKOUT)

考えられるプログラミング・エラーを示す通知メッセージの生成を選択することができるオプションを指定します。オプションが複数回指定されたか, または2つのオプションが矛盾している場合には, 最後に指定されたオプションが使用されます。

***NONE**

CHECKOUTのすべてのオプションを使用不可にします。

***USAGE**

これは*CONDを指定するのと同様です。

***ALL** CHECKOUTのすべてのオプションを使用可能にします。

***NOCLASS**

クラスの使用に関する情報は表示しません。

***CLASS**

クラスの使用に関する情報を表示します。

***NOCOND**

条件式での考えられる冗長度または問題について警告はしません。

***COND**

条件式での考えられる冗長度または問題について警告をします。

***NOEFFECT**

無効なステートメントについて警告はしません。

***EFFECT**

無効なステートメントについて警告をします。

***NOGENERAL**

一般チェックアウト・メッセージは生成しません。

***GENERAL**

一般チェックアウト・メッセージを生成します。

***NOLANG**

言語レベルの影響に関する情報は表示しません。

***LANG**

言語レベルの影響に関する情報を表示します。

***NOPARM**

未使用のパラメーターについて警告はしません。

***PARM**

未使用のパラメーターについて警告をします。

***NOPORT**

非可搬言語構造について警告はしません。

***PORT**

非可搬言語構造について警告をします。

***NOREACH**

到達不能ステートメントについて警告はしません。

***REACH**

到達不能ステートメントについて警告をします。

***NOTEMP**

コンパイラーが一時変数を作成した場合にメッセージは生成しません。

***TEMP**

コンパイラーが一時変数を作成した場合にメッセージを生成します。

***NOTRUNC**

データの考えられる切り捨てまたは喪失について警告はしません。

***TRUNC**

データの考えられる切り捨てまたは喪失について警告をします。

***NOUNUSED**

未使用の自動または静的変数は検査しません。

***UNUSED**

未使用の自動または静的変数を検査します。

[トップ](#)

最適化 (OPTIMIZE)

生成されたオブジェクトの最適化のレベルを指定します。

- 10** 生成されたコードは最適化されません。このレベルではコンパイル時間は最短となります。このレベルでは、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。
- 20** コードについてある程度の最適化が実行されます。このレベルでは、デバッグ中にユーザー変数を表示することができますが、変更することはできません。
- 30** 生成されたコードについて完全な最適化が実行されます。デバッグ・セッション中に、ユーザー変数を変更することはできませんが、表示することはできます。表示される値は、変数の現行値ではない場合があります。
- 40** 生成されたコードには、レベル30で行われたすべての最適化が実行されます。さらに、命令トレースおよび呼び出しトレース・システム機能を使用可能にするコードが、プロシージャーのプロローグおよびエピローグ・ルーチンから除去されます。このコードを除去することによって、リーフ・プロシージャーの作成が可能になります。リーフ・プロシージャーは、他のプロシージャーに対する呼び出しを含まないプロシージャーです。リーフ・プロシージャーに対するプロシージャー呼び出しのパフォーマンスは、通常のプロシージャーに対する呼び出しより大幅に高速となります。

[トップ](#)

インライン・オプション (INLINE)

コンパイラーでは関数呼び出しの呼び出し先関数の命令による置き換えを考慮する必要があるかどうかを指定します。関数をインライン化することによって、呼び出しのオーバーヘッドが除去されるので、より良好な最適化の結果を得ることができます。何度も呼び出される小さい関数は、インライン化に適した候補です。

要素 1 : インライン化機能

インライン化を使用するかどうかを指定します。

***OFF** コンパイル単位についてインライン化は実行されないことを指定します。

***ON** コンパイル単位についてインライン化が実行されることを指定します。デバッグ・ビューが指定された場合には、インライン化機能はオフにされます。

要素 2 : モード

インライン化機能は、その限界値および限界の値に従って関数の自動的なインライン化を試みる必要があるかどうかを指定します。

***NOAUTO**

#PRAGMA INLINEディレクティブによって指定された関数だけをインライン化の候補と見なす必要があることを指定します。

***AUTO**

インライン化機能は、関数をインライン化できるかどうかを指定された限界値および限界の値に基づいて決定する必要があることを指定します。*AUTOは#PRAGMA NOINLINEディレクティブによって指定変更されます。

要素 3 : 限界値

自動インライン化の候補とすることができる関数の最大サイズを指定します。このサイズは抽象コード単位 (ACU) で測定されます。ACU のサイズは関数内の実行可能コードと比例します。ソース・コードは、コンパイラーによって自動的に ACU に変換されます。

250 250 の限界値を指定します。

ACU の数

1-65535 の ACU の限界値を指定します。

***NOLIMIT**

しきい値をプログラム・オブジェクトの最大サイズとして定義します。

要素 4 : 限界

自動インライン化が停止するまで拡張できる関数の最大相対サイズを指定します。

2000 2000 の ACU の限界を指定します。

***NOLIMIT**

限界がプログラム・オブジェクトの最大サイズとして定義されます。システム限界が見つかることがあります。

ACU の数

1-65535 の ACU の限界を指定することができます。

要素 5 : 報告書

コンパイラー・リストとともにインライン化機能報告書を生成するかどうかを指定します。

***NO** インライン化報告書は生成されません。

***YES** インライン化報告書がコンパイラー・リストの一部として生成されます。インライン化報告書を生成するには、OUTPUT オプションを指定しなければなりません。

[トップ](#)

モジュール作成オプション (MODCRTOPT)

モジュール・オブジェクトの作成時に使用するオプションを指定します。それらは、空白で区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または 2 つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

***NOKEEPILDTA**

中間言語データはモジュール・オブジェクトと一緒に保管されません。

***KEEPILDTA**

中間言語データがモジュール・オブジェクトと一緒に保管されます。

トップ

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

作成されたプログラムまたはサービス・プログラム・オブジェクトにこのモジュールのどのデバッグ・レベルが使用可能かを指定します。これは、また、ソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューも指定します。デバッグ・ビューを要求すると、インライン化はオフになります。

***NONE**

デバッグ機能はモジュール・オブジェクトに挿入されません。

***ALL** すべてのデバッグ・オプション(*STMT, *SOURCE,および*LIST)が使用可能になります。

***STMT**

プログラム・ステートメント番号および記号識別コードを使用して、モジュール・オブジェクトをデバッグすることができます。

注: *STMTオプションを使用してモジュール・オブジェクトをデバッグするには、リストが必要です。

***SOURCE**

モジュール・オブジェクトをデバッグするためのソース・ビューを生成します。作成されるソース・ビューの内容は、OPTIONパラメーターの値*NOSHOWINC, *SHOWINC, *SHOWSYS,および*SHOWUSRによって決まります。

注: このビューをデバッグ用に使用するためには、モジュール・オブジェクトの作成後にルート・ソース・ファイルが変更、名前変更、または移動されてはいけません。

***LIST** モジュール・オブジェクトをデバッグするためのリスト・ビューを生成します。OPTIONパラメーターの値*SHOWINC, *SHOWUSR, *SHOWSYS,および*NOSHOWINC は、作成されるリスト・ビューの内容を決定します。

トップ

名前の定義 (DEFINE)

ファイルがコンパイラーによって処理される前に有効となるプリプロセッサ・マクロを指定します。様式DEFINE(MACRO)はDEFINE('MACRO=1')と同等です。

***NONE**

マクロは定義されません。

'名前'または'名前=値'

最大32個のマクロを定義することができます。それぞれのマクロ名はアポストロフィで囲まれます。マクロ名の最大長は80文字です。アポストロフィは、この80文字のストリングの一部ではありません。アポストロフィは大文字小文字の区別があるマクロ名の場合に必要です。

注: コマンドで定義されたマクロにより、ソース内の同じ名前のすべてのマクロ定義は指定変更されますが、コンパイラーによって警告メッセージが生成されます。`#DEFINE MAX(A,B) ((A)>(B):(A)?(B))`のように関数に似たマクロは、コマンド入力行で定義することはできません。

[トップ](#)

言語レベル (LANGLVL)

コンパイラーの機能、およびソースの作成時に宣言されるプロトタイプを指定します。

***EXTENDED**

プリプロセッサ変数 `__EXTENDED__` を定義し、その他の言語レベル変数は未定義とします。このパラメーターは、ILE C++のすべての機能が必要な場合に使用する必要があります。

***ANSI** プリプロセッサ変数 `__ANSI__`, `__STDC__`, および `__CPLUSPLUS98_INTERFACE__` とその他の未定義の言語レベル変数を定義します。ANSI規格のC++のみが使用可能になります。

***LEGACY**

このオプションによって、一部のソース構成は初期のコンパイラーを受け入れることができます。

[トップ](#)

別名 (ALIAS)

作成されるモジュール・オブジェクトに適用する別名割り当ての表明を指定します。

***ANSI** モジュール・オブジェクトは、ポインターが同じタイプのオブジェクトをポイントするのを許可するだけです。

***NOANSI**

モジュール・オブジェクトは***ANSI**別名割り当て規則を使用しません。

***ADDRTAKEN**

モジュール・オブジェクトは、変数のアドレスが取られない限り、その変数クラスをポインターから切り離します。

***NOADDRTAKEN**

モジュール・オブジェクトは***ADDRTAKEN**別名割り当て規則を使用しません。

***ALLPTRS**

モジュール・オブジェクトは2つのポインターの別名割り当てを許可しません。

***NOALLPTRS**

モジュール・オブジェクトは***ALLPTRS**別名割り当て規則を使用しません。

***TYPEPTR**

モジュール・オブジェクトは、別のタイプの2つのポインターの別名割り当てを許可しません。

***NOTYPEPTR**

モジュール・オブジェクトは***TYPEPTR**別名割り当て規則を使用しません。

[トップ](#)

SYSTEMインターフェースOPT (SYSIFCOPT)

作成されるモジュール・オブジェクトに使用されるシステム・インターフェース・オプションを指定します。それらは、1つ以上の空白で区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

***IFS64IO**

モジュール・オブジェクトは、64ビットCストリーム入出力操作に統合ファイル・システムを使用します。

***IFSIO** モジュール・オブジェクトは、Cストリーム入出力操作に統合ファイル・システムを使用します。

***NOIFSIO**

モジュール・オブジェクトは、Cストリーム入出力操作にISERIESデータ管理ファイル・システムを使用します。

[トップ](#)

LOCALEオブジェクト・タイプ (LOCALETYPE)

作成されるモジュール・オブジェクトで使用するロケール・サポートのタイプを指定します。

***LOCALE**

このオプションで作成されたモジュール・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。

***LOCALEUCS2**

このオプションで作成されたモジュール・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。幅広文字タイプには、2バイト汎用文字セットの値が含まれます。

***LOCALEUTF**

このオプションで作成されたモジュール・オブジェクトは、*LOCALEオブジェクトによって提供されるロケール・サポートを使用します。広幅文字タイプには4バイトのUTF-32の値が入ります。狭幅文字タイプにはUTF-8の値が入ります。

[トップ](#)

メッセージのフラグ・レベル (FLAG)

リストに表示するメッセージのレベルを指定します。

- 0** 通知レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 10** 警告レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 20** エラー・レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。
- 30** 重大エラー・レベルで始まるすべてのメッセージが表示されます。

[トップ](#)

メッセージ限界 (MSG_LMT)

コンパイルが停止される前に表示できる、一定のメッセージ重大度のメッセージの最大数を指定します。

要素 1 : メッセージ限界

指定のメッセージ重大度レベル以上で表示できるメッセージの最大数を指定します。

***NOMAX**

指定のメッセージ重大度レベルで表示されたメッセージの数とは無関係に、コンパイルは続行されます。

メッセージ限界

表示できるメッセージの数を指定します。有効な範囲は0-32767です。

要素 2 : メッセージ重大度

その指定の重大度以上のメッセージがメッセージ限界数を超えて起こった場合にコンパイルを停止するメッセージ重大度を指定します。

- 30** 重大度が30のメッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 0** 重大度が0以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 10** 重大度が10以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。
- 20** 重大度が20以上メッセージでメッセージ限界が起こった後にコンパイルが停止することを指定します。

[トップ](#)

MODULE OBJECTの置き換え (REPLACE)

オブジェクトの既存のバージョンを現行バージョンで置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のオブジェクトが新規バージョンで置き換えられます。旧バージョンは、QRPLOBJライブラリーに移され、システム日付および時刻に基づいて名前変更されます。置き換えられたオブジェクトのテキスト記述は、元のオブジェクトの名前に変更されます。旧オブジェクトが明示的に削除されていない場合には、次回のIPL時にそれが削除されます。

***NO** 既存のオブジェクトは置き換えられません。指定されたライブラリーに同じ名前のオブジェクトが見つかった場合には、メッセージが表示されて、コンパイルは停止します。

[トップ](#)

権限 (AUT)

オブジェクトに対する特定権限がないユーザー、権限リスト上にないユーザー、またはそのグループに特定のオブジェクトに対する権限がないユーザーに認可される権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する共通権限は、ターゲット・ライブラリー（作成されたオブジェクトを含むラ

イブラリー) のCRTAUTキーワードからとられます。この値は、オブジェクトの作成時に決定されます。ライブラリーに対するCRTAUTの値がオブジェクトの作成後に変更された場合には、新しい値はそのライブラリー中の既存のどのオブジェクトにも影響しません。

***ALL** 所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される権限を除き、オブジェクトについてすべての操作の権限を提供します。すべてのユーザーが、オブジェクトの存在を制御し、その機密保護を指定し、それを変更し、また、その所有権の変更も含めた基本機能を実行することができます。

***CHANGE**

すべてのデータ権限、および所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される権限を除き、オブジェクトについてすべての操作を実行する権限を提供します。オブジェクトを変更し、それについて基本機能を実行することができます。

***USE** オブジェクト操作権、読み取り権限、およびモジュール・オブジェクトの結合などの基本読み取り専用操作のための権限を提供します。特定権限のないユーザーは、オブジェクトを変更することができません。

***EXCLUDE**

特殊権限のないユーザーはオブジェクトにアクセスできません。

権限リスト名

ユーザーの権限リストの名前、およびオブジェクトが追加される先の権限を入力します。オブジェクトは、この権限リストによって保護され、オブジェクトに対する共通権限は*AUTLに設定されます。コマンドを出す時には、システムに権限リストが存在していなければなりません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

ユーザーが作成中のオブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

*CURRENTおよび*PRVの値について示される例において、また、リリース・レベルの値を指定する場合には、リリースの指定にVXRXXMXの様式が使用されます。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V4R5M0はバージョン4、リリース5、モディフィケーション・レベル0です。

***CURRENT**

オブジェクトは、ユーザーのシステムで現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、V4R5M5がシステムで実行中である場合に、*CURRENTは、ユーザーがV4R5M5の導入されたシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。ユーザーは、また、これ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもオブジェクトを使用することができます。

注: システムでV4R5M5が実行されていて、オブジェクトがV4R5M0を導入したシステムで使用される場合には、TGTRLS(*CURRENT)でなくTGTRLS(V4R5M0)を指定してください。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムの前のモディフィケーション0のリリースで使用されます。たとえば、ユーザーのシステムでV4R5M5が実行中である場合に、*PRVは、ユーザーがV4R4M0の導入されたシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。ユーザーは、また、これ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもオブジェクトを使用することができます。

リリース・レベル

リリースをVXRXXMXの様式で指定します。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は、現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なります。それらは、それぞれの新規リリースで変更されます。このコマンドによってサポートされる最初期のリリース・レベルより前のリリースを指定した場合には、エラー・メッセージが送られません。

トップ

パフォーマンス収集の使用可能化 (ENBPFRCOL)

オブジェクトにパフォーマンス測定コードを生成する必要があるかどうかを指定します。収集されたデータをシステム・パフォーマンス・ツールで使用し、アプリケーションのパフォーマンスのプロファイルを作成することができます。作成されたオブジェクトにコードを生成すると、オブジェクトがわずかに大きくなってパフォーマンスに影響する場合があります。

***PEP** パフォーマンス統計は、プログラム入り口プロシージャの入り口と出口でのみ収集されます。この値は、アプリケーションに関する全般的なパフォーマンス情報を収集したい時に選択します。

***ENTRYEXIT *NONLEAF**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャ以外の、プログラム・オブジェクトのすべてのプロシージャの入り口と出口で収集されます。これにはプログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、アプリケーション内の他のルーチンを起動するルーチンに関する情報のみをキャプチャしたい場合に有用です。

***ENTRYEXIT *ALLPRC**

パフォーマンス統計は、プログラム・オブジェクトの（リーフ・プロシージャを含む）すべてのプロシージャの入り口と出口で収集されます。これにはプログラムPEPルーチンが含まれます。

この選択項目は、すべてのルーチンに関する情報をキャプチャしたい場合に有用です。このオプションは、アプリケーションによって呼び出されるすべてのプログラムが*PEP、*ENTRYEXIT、または*FULLオプションのいずれかによって作成されたことが分かっている場合に使用してください。そうでない場合には、アプリケーションがパフォーマンス測定に使用できない他のプログラム・オブジェクトを呼び出した場合に、パフォーマンス・ツールがユーザー・アプリケーションにその資源の使用を課すこととなります。このため、資源が実際にはどこで使用されているかを判別するのは困難となります。

***FULL *NONLEAF**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャではないすべてのプロシージャの入り口と出口で収集されます。また、外部プロシージャに対する各呼び出しの前後でも統計が収集されます。

***FULL *ALLPRC**

パフォーマンス統計は、リーフ・プロシージャを含むすべてのプロシージャの入り口と出口で収集されます。また、外部プロシージャに対する各呼び出しの前後でも統計が収集されます。

このオプションは、アプリケーションが*PEP、*ENTRYEXIT、または*FULLのいずれかで作成されていない他のプログラム・オブジェクトを呼び出すと考えられる場合に使用してください。このオプションによって、パフォーマンス・ツールは、ユーザーのアプリケーションが使用している資源と、それが呼び出したプログラム・オブジェクトによって使用されている資源を（それらのプログ

ラム・オブジェクトがパフォーマンス測定に使用できない場合であっても) 区別することができます。このオプションは経済的ではありませんが、アプリケーション内の各種のプログラム・オブジェクトを選択的に分析することができます。

[トップ](#)

パフォーマンス・オプション (PFROPT)

パフォーマンスを高めるために使用可能な各種のオプションを指定します。それらは、1つ以上の空白で区切り、任意の順序で指定することができます。オプションが複数回指定されたか、または2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。

可能なオプションは次の通りです。

***SETFPCA**

コンパイラーに、浮動小数点計算に対するANSIのセマンティクスを達成するために浮動小数点の計算属性を設定させます。

***NOSETFPCA**

計算属性は設定されません。このオプションは、作成されるオブジェクトに浮動小数点計算が含まれていない場合にのみ使用してください。

***NOSTRDONLY**

コンパイラーは書き込み可能メモリーの中にストリングを入れる必要があることを指定します。

***STRDONLY**

コンパイラーは読み取り専用メモリーの中にストリングを入れることができることを指定します。

[トップ](#)

プロファイル作成データ (PRFDTA)

モジュール・オブジェクトのプログラム・プロファイル・データ属性を指定します。プログラムのプロファイル作成は、プロシージャおよびプロシージャ内のコードを統計データ（プロファイル作成データ）に基づいて再配列するために使用される拡張最適化手法です。

***NOCOL**

モジュール・オブジェクトはプロファイル・データの収集に使用できません。

COL** モジュール・オブジェクトはプロファイル・データの収集に使用できます。COL**は、最適化レベルが30以上である場合にのみ指定することができます。

[トップ](#)

テラスペース・オプション (TERASPACE)

モジュール・オブジェクトがテラスペース記憶域を処理できるかどうかを指定します。これには、モジュール・オブジェクトによって割り振られたテラスペース記憶域と他のテラスペース使用可能プログラムおよびサービス・プログラム・オブジェクトから渡されたパラメーターが含まれます。

要素 1 : テラスペース使用可能

***NO** モジュール・オブジェクトは、テラスペースから割り振られた記憶域のアドレッシングを処理することはできません。

***YES** モジュール・オブジェクトは、他のテラスペース使用可能プログラムおよびサービス・プログラム・オブジェクトから渡されたパラメーターを含む、テラスペースから割り振られた記憶域のアドレッシングを処理することができます。

要素 2 : テラスペース・インターフェースの使用

***NOTSIFC**

モジュール・オブジェクトは、省略時の値で記憶域機能の非テラスペース・バージョンを使用します。

***TSIFC**

モジュール・オブジェクトは、省略時の値で記憶域機能のテラスペース・バージョンを使用します。コンパイラーがマクロ変数 `__TERASPACE__` を定義します。

[トップ](#)

ストレージ・モデル (STGMDL)

作成されたオブジェクトで使用する記憶域のタイプを指定します。

***SNGLVL**

作成されたオブジェクトは単一レベルの記憶域を使用します。

***TERASPACE**

作成されたオブジェクトはテラスペース記憶域を使用します。

***INHERIT**

作成されたオブジェクトは、単一レベルとテラスペースの両方の記憶域を使用することができます。使用される記憶域のタイプは、呼び出し側が必要とする記憶域のタイプによって異なります。

[トップ](#)

データ・モデル (DTAMDL)

INT, LONG, POINTERとして宣言される変数のサイズ (バイト数) を指定します。

***P128** INT, LONG, POINTERのサイズはそれぞれ4, 4, 16となります。

***LLP64**

INT, LONG, POINTERのサイズはそれぞれ4, 4, 8となります。コンパイラーがマクロ変数 `__LLP64_IFC__` を定義します。

[トップ](#)

実行時バインド (RTBND)

作成されたオブジェクトの実行時バインド・ディレクトリーを指定します。

***DEFAULT**

作成されたオブジェクトは、省略時のバインド・ディレクトリーを使用します。

***LLP64**

作成されたオブジェクトは、64ビットの実行時バインド・ディレクトリーを使用します。この値は、テラスペース記憶域モデル、64ビット・データ・モデル、およびテラスペース記憶域機能インターフェース・オプションと一緒に使用できるだけです。コンパイルがマクロ `_LLP64_RTBNDR` を定義します。

[トップ](#)

パック構造 (PACKSTRUCT)

構造のメンバーに使用する位置合わせ境界を指定します。

***NATURAL**

構造メンバーはその自然境界で位置合わせされます。たとえば、短整数は2バイトで位置合わせされることになります。16バイト・ポインターは、常に16バイト境界で位置合わせされます。

- 1 構造メンバーを1バイトの位置合わせでパックします。
- 2 構造メンバーを2バイトの位置合わせでパックします。
- 4 構造メンバーを4バイトの位置合わせでパックします。
- 8 構造メンバーを8バイトの位置合わせでパックします。
- 16 構造メンバーを16バイトの位置合わせでパックします。

[トップ](#)

Enumサイズ (ENUM)

コンパイラーが列挙型を表すために使用するバイト数を指定します。

***SMALL**

すべてのENUM変数を、値の範囲を表すことができる最小サイズにします。

- 1 すべてのENUM変数を1バイトにします。
- 2 すべてのENUM変数を2バイトにします。
- 4 すべてのENUM変数を4バイトにします。

***INT** ANSI規格のENUMサイズである4バイトを使用します。

[トップ](#)

依存関係情報 (MAKEDEP)

依存関係情報をファイルの中に生成するかどうかを指定します。この情報は作成ツールで使用することができます。

***NONE**

依存関係情報は生成しません。

'パス名'

依存関係情報を保管するストリーム・ファイルのパス名を指定します。

プリプロセッサ・オプション (PPGENOPT)

ソース・コードのコンパイル時に使用するプリプロセッサ生成オプションを指定します。

可能なオプションは次の通りです。

***NONE**

ソース・ファイルに対してコンパイラ全体を実行します。プリプロセッサの出力をファイルにコピーしないようにしてください。

DFT** 入力ソースに対してプリプロセッサを実行します。RMVCOMMENT**および***GENLINE**は、プリプロセッサの出力を生成するためのオプションとして使用されます。**PPSRCFILE**および**PPSRCMBR**を使用して、出力ソース・ファイルおよびメンバーを指定するか、あるいは**PPSRCSTMF**を使用して、プリプロセッサの出力を入れるストリーム・ファイルを指定してください。

***RMVCOMMENT**

プリプロセス中にコメントを除去します。

***NORMVCOMMENT**

プリプロセス中にコメントを保存します。

***GENLINE**

プリプロセッサの出力中に**#LINE**ディレクティブを生成します。

***NOGENLINE**

プリプロセッサの出力から**#LINE**ディレクティブを抑制します。

トップ

出力ソース・ファイル (PPSRCFILE)

プリプロセッサの出力のための物理ファイル名およびライブラリーを指定します。

ソース・ファイル名

プリプロセッサの出力のための物理ファイルの名前を指定します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

プリプロセッサの出力は現行ライブラリーに作成されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合には、プリプロセッサの出力ファイルは**QGPL**ライブラリーに作成されます。

ライブラリー名

プリプロセッサの出力のためのライブラリーの名前を指定します。

トップ

出力ソース・メンバー (PPSRCMBR)

プリプロセッサの出力のための物理ファイル・メンバーの名前を指定します。

***MODULE**

MODULEパラメーターで提供された名前がプリプロセッサの出力メンバー名として使用されます。

メンバー名

プリプロセッサの出力のためのメンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

出力ストリーム・ファイル (PPSRCSTMF)

プリプロセッサの出力のためのストリーム・ファイルのパス名を指定します。

***SRCSTMF**

SRCSTMFパラメーターで提供されたパス名がプリプロセッサの出力パス名として使用されます。このファイルには'.I'の拡張子があります。

'パス名'

プリプロセッサの出力ストリーム・ファイルのパス名を指定します。

[トップ](#)

組み込みディレクトリー (INCDIR)

コンパイラーが組み込みファイルを検出するために使用する検索パスに追加する1つまたは複数のディレクトリーを指定します。

検索パスは、OPTIONキーワードで次のパラメーターを使用し、さらに変更することができます。

- *INCDIRFIRSTまたは*NOINCDIRFIRST
- *SYSINCPATHまたは*NOSYSINCPATH
- *STDINCまたは*NOSTDINC

***NONE**

変更されていなければ、省略時のシステム組み込みディレクトリーおよびソース・ディレクトリーからユーザー組み込みファイルが検索されます。

'ディレクトリー'

組み込みファイルを検索する32個までのディレクトリーを指定します。指定したディレクトリーに加えて、ソース・ディレクトリーからもユーザー組み込みファイルが検索されます。

[トップ](#)

コンパイラー・サービスOPT (CSOPT)

1つまたは複数のコンパイラー・サービス・オプションを指定します。このパラメーターによって、リリースの間で切り替え可能なコンパイラー機能を弊社から得ることができます。

***NONE**

コンパイラー・サービス・オプションは選択されません。

'コンパイラー・サービス・オプション・ストリング'

選択したコンパイラー・サービス・オプションが、モジュール・オブジェクトの作成時に使用されます。有効なストリングは、PTFカバー・レターまたはリリース情報に記述されています。

[トップ](#)

ライセンス内部コードOPT (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターによって、個々のコンパイル時オプションを選択することができますが、これは、選択したそれぞれのタイプのコンパイラー・オプションの潜在的な利点と欠点を理解している経験の豊かなプログラマーを対象としています。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

コンパイル時オプションは選択されません。

'ライセンス内部コード・オプション・ストリング'

選択したライセンス内部コード・コンパイル時オプションが、モジュール・オブジェクトの作成時に使用されます。ある種のオプションでは、作成されたモジュール・オブジェクトをデバッグする機能が損なわれることがあります。

[トップ](#)

省略時の文字タイプ (DFTCHAR)

CHARデータ・タイプのための省略時の符号を指定します。

***UNSIGNED**

省略時のCHARタイプを符号なしとします。

***SIGNED**

省略時のCHARタイプを符号付きとします。

[トップ](#)

ターゲットCCSID (TGTCSSID)

結果のモジュール・オブジェクトに保管されるデータを記述するために使用されるターゲット・コード化文字セット識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SOURCE**

ルート・ソース・ファイルのCCSIDが使用されます。

***JOB**

現行ジョブのCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、文字データが2進数データとして扱われ、変換されないことを示します。

コード化文字セット識別コード
使用するCCSIDを指定します。

[トップ](#)

テンプレート・オプション (TEMPLATE)

コンパイラーに対するテンプレート・オプションを指定します。

要素1: 一時組み込みディレクトリー

***NONE**
テンプレートは生成されません。

***TEMPINC**
ルート・ソース・ファイルが見つかったディレクトリーの中に作成されるTEMPINCという名前のディレクトリーの中にテンプレートが生成されます。ソース・ファイルがストリーム・ファイルでない場合には、ソース・ファイルが入っているライブラリーにTEMPINCという名前のファイルが作成されます。TEMPLATE(*TEMPINC)とTMPLREGパラメーターは相互に排他的です。

'ディレクトリー'
コンパイラーがテンプレートを生成するディレクトリーを指定してください。

要素2: 最大生成見出し数

1 テンプレートを入れる生成見出しの最大数。

見出しファイルの数
生成される見出しファイルの最大数として1-99999の整数値を指定します。

要素3: テンプレートの妥当性検査

構文解析および意味体系検査がテンプレート定義の実装に適用されるか、テンプレートのインスタンス化だけに適用されるかを制御します。コンパイラーは、警告メッセージまたはエラー・メッセージを作成するオプションを持っています。使用可能なパラメーターは次のとおりです。

***NO** コンパイラーの前のバージョン用に書かれたコードに出されるエラーの数を減らすための構文解析は行いません。

***WARN**
意味エラーに対して警告メッセージを出します。構文解析時に見つかったエラーに対してエラー・メッセージを出します。

***ERROR**
テンプレートがインスタンス化されていなくても、テンプレート実装問題をエラーとして処理します。

[トップ](#)

テンプレート・レジストリー (TMPLREG)

ソースに見つかったすべてのテンプレートのレコードを保持して、各テンプレートの1つのインスタンス化だけが作成されるようにします。TMPLREGとTEMPLATE(*TEMPINC)パラメーターは相互に排他的です。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

テンプレート情報のトラックを保持するテンプレート・レジストリー・ファイルは使用しません。

***DFT** ソース・ファイルがストリーム・ファイルの場合には、テンプレート・レジストリー・ファイルは省略時の名前'TEMPLATEREGISTRY'でソース・ディレクトリーに作成されます。ソース・ファイルがストリーム・ファイルでない場合には、ソースが入っているライブラリーにメンバーQTMPREGを持つファイルQTMPREGが作成されます。

'パス名'

テンプレート・レジストリー情報を保管するストリーム・ファイルのパス名を指定してください。

[トップ](#)

WEAKテンプレート定義 (WEAKTMPL)

テンプレート・クラスの静的メンバーにWEAK定義を使用するかどうかを指定します。テンプレート・クラスのWEAK定義の静的メンバーは、1つのプログラムまたはサービス・プログラム・オブジェクト内の複数の定義の矛盾を防ぎます。

***YES** WEAK定義がテンプレート・クラスの静的メンバーに使用されます。

***NO** WEAK定義はテンプレート・クラスの静的メンバーには使用されません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CZS0613

コンパイルに失敗しました。

[トップ](#)

DFU表示装置ファイルの作成 (CRTDFUDSPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御言語 (CL) コマンド(CRTDFUDSPF)はDFU表示装置ファイルを作成します。

エラー・メッセージ: CRTDFUDSPF

なし

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	表示装置ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 表示装置ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
AUTH	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
REPLACE	置き換え	*YES, *NO	オプション
PRINT	ソース・リストの印刷	*NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション

[トップ](#)

表示装置ファイル (FILE)

作成するDFU表示装置ファイルの名前を指定します。この名前は、ソースDDSを保管した時にDFUが作成したプログラムの名前と同じでなければなりません。

*CURLIB

作成時に表示装置ファイルを記憶するために現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

DFU表示装置ファイルを作成したいライブラリーの名前を入力してください。ライブラリーは、元のDFUプログラムを作成したライブラリーと同じライブラリーでなければなりません。

表示装置ファイル名

作成する表示装置ファイルの名前を入力してください。表示装置ファイル名は、元の装置ファイルを作成したプログラムの名前と一致していなければなりません。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

ソースDDSが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

ソース・ファイル名

この表示装置ファイルのDDSが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。

***LIBL** DFUは指定されたソース・ファイルの検索にユーザーのライブラリー・リストを使用します。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの修飾名を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

このDFU表示装置ファイルのDDSが入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***FILE** DFUは、ソース・ファイル・メンバー名としてFILEパラメーターに指定された名前を使用します。

ソース・ファイル・メンバー名

ソースDDSが入っているメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

権限 (AUTH)

表示装置ファイルに対して与える権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

表示装置ファイルが作成される時に、表示装置ファイルの共通認可を、ライブラリーのCRTAUTパラメーターに指定された値に設定します。表示装置ファイルが作成された後でライブラリーのCRTAUT値が変わっても、新しい値がライブラリーの既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

所有者に限定されている操作とオブジェクト存在権またはオブジェクト管理権限によって制御される操作を除くすべての操作を他のユーザーが表示装置ファイルに対して行なうことができるように

します。他のユーザーはこのファイルに対して基本的な操作を行なうことができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** 所有者に限定されている操作と権限リスト管理権限によって制御される操作を除くすべての操作を他のユーザーが表示装置ファイルに対して行なうことができるようにします。他のユーザーはこのファイルの存在の制御、保護の指定、変更などを行なうことができます。他のユーザーがこのファイルの所有権を移動することはできません。

***USE** 他のユーザーがファイルの読み取りなど、基本的な操作を行なうことができますようにします。他のユーザーがファイルを変更することはできません。

***EXCLUDE**

他のユーザーが表示装置ファイルにアクセスできないようにします。他のユーザーには何の権限もありません。

権限リスト名

表示装置ファイルに使用される権限リストの名前を指定することができます。

[トップ](#)

置き換え (REPLACE)

同じライブラリーに同じ名前の表示装置ファイルがすでに存在していても新しい表示装置ファイルが作成されるように指定します。

***YES** 既存のファイルを置き換え、新しいファイルを再作成するには、*YESのままにします。

REPLACEに*NOを指定した場合には、新しいDFU表示装置ファイルの作成を要求する前に元の（調整前の）DFU表示装置ファイルを削除しなければなりません。

***NO** 既存のファイルを置き換えたくない場合には、*NOを入力してください。

[トップ](#)

ソース・リストの印刷 (PRINT)

ファイルの作成時に生成されるリストの印刷を指定します。

***NO** このリストを印刷したくない場合には、*NOのままにしておいてください。

***YES** 表示装置ファイルの作成に使用されるソース・ステートメント(DDS)のリストを印刷するためには、*YESを入力してください。エラーも一緒に印刷されます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

表示装置ファイルおよびその機能を簡単に記述した文字ストリングを指定します。

***SRCMBRTXT**

DFUは表示装置ファイルの作成に使用されたソース・ファイル・メンバーからテキストを取り出します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 表示装置ファイルを簡単に記述するために最大50文字をアポストロフィで囲んで入力することができます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

RPGモジュールの作成 (CRTRPGMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPGモジュールの作成

RPGモジュール作成(CRTRPGMOD)コマンドは、RPGソース・コードをコンパイルしてモジュール・オブジェクト(*MODULE)を作成します。このコマンドはバッチ・モードでも、対話モードでも使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: モジュール	名前, <u>*CTLSPEC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QRPGLESRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>*MODULE</u>	オプション, 位置 3
SRCSTMF	ソース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
GENLVL	生成重大度レベル	0-20, <u>10</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SRCMBRTXT</u> , *BLANK	オプション
OPTION	コンパイラー・オプション	値 (最大 20 回の繰り返し): *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *SECLVL, *NOSECLVL, *SHOWCPY, *NOSHOWCPY, *EXPDDS, *NOEXPDDS, *EXT, *NOEXT, *NOSHOWSKP, *SHOWSKP, *NOSRCSTMT, *SRCSTMT, *DEBUGIO, *NODEBUGIO, *NOEVENTF, *EVENTF	オプション
DBGVIEW	デバッグ用ビュー	<u>*STMT</u> , *SOURCE, *LIST, *COPY, *ALL, *NONE	オプション
OUTPUT	出力	<u>*PRINT</u> , *NONE	オプション
OPTIMIZE	最適化レベル	<u>*NONE</u> , *BASIC, *FULL	オプション
INDENT	ソース・リストの字下げ	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CVTOPT	タイプ変換オプション	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *DATETIME, *GRAPHIC, *VARCHAR, *VARGRAPHIC	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SRTSEQ	ソート順序	単一値: *HEX , *JOB, *JOB RUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	名前, *JOB RUN , *JOB	オプション
REPLACE	モジュールの置き換え	*YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
TRUNCNBR	数字の切り捨て	*YES , *NO	オプション
FIXNBR	数値の修正	単一値: *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *ZONED, *INPUTPACKED	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT , *PRV	オプション
ALWNULL	ヌル値可能	*NO , *INPUTONLY, *USRCTL, *YES	オプション
DEFINE	条件名の定義	値 (最大 32 回の繰り返し): 単純名, *NONE	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集使用可能化	*PEP , *ENTRYEXIT, *FULL	オプション
PRFDTA	プロファイル・データ	*NOCOL , *COL	オプション
BNDDIR	BINDINGディレクトリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: BINDINGディレクトリー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LICOPT	ライセンス内部コード・オプション	文字値, X	オプション
INCDIR	組み込みディレクトリー	値 (最大 32 回の繰り返し): パス名, *NONE	オプション
PGMINFO	生成プログラム・インターフェース	*NO , *PCML	オプション
INFOTMF	プログラム・インターフェース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
PPGENOPT	プリプロセッサ・オプション	単一値: *NONE , *DFT その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *RMVCOMMENT, *NORMVCOMMENT, *EXPINCLUDE, *NOEXPINCLUDE, *SEQSRC, *NOSEQSRC	オプション
PPSRCFILE	出力ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
PPSRCMBR	出力ソース・メンバー	名前, *MODULE	オプション
PPSRCSTMF	出力ストリーム・ファイル	パス名, *SRCSTMF	オプション

トップ

モジュール (MODULE)

作成しているモジュール・オブジェクトのライブラリー名およびモジュール名を指定します。モジュール名およびライブラリー名はOS/400命名規則に準拠しなければなりません。ライブラリーを指定しない場合には、作成されたモジュールは現行ライブラリーに保管されます。

***CTLSPEC**

コンパイル済みモジュールの名前は、制御仕様書のDFTNAMEキーワードに指定された名前から取られます。制御仕様書にモジュール名を指定せず、ソース・メンバーがデータベース・ファイルからのものである場合には、SRCMBRパラメーターで指定されたメンバー名がモジュール名として使用されます。ソース・メンバーがデータベース・ファイルからのものではない場合には、省略時の値としてモジュール名にRPGMODが使用されます。

モジュール名

モジュール・オブジェクトの名前を入力してください。

***CURLIB**

コンパイル済みモジュール・オブジェクトは現行ライブラリーに保管されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

コンパイル済みモジュール・オブジェクトが保管されるライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルされるILE RPGソース・メンバーが入っているソース・ファイルおよびソース・ファイルが保管されているライブラリーの名前を指定します。望ましいソース物理ファイルの長さは112文字で、内12文字は順序番号および日付用で、80文字はコード用で、20文字は注記用です。これは、コンパイル・リストに示されるソースの最大容量です。

QRPGLESRC

省略時のソース・ファイルQRPGLESRCにコンパイルされるILE RPGソース・メンバーが入っています。

ソース・ファイル名

コンパイルされるILE RPGソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。これが省略時の値です。

***LIBL** ソース・ファイルが保管されているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。これが省略時の値です。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルされるILE RPGソース仕様が入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***MODULE**

ソース・ファイル・メンバー名としてMODULEパラメーターに指定された名前を使用します。コンパイル済みモジュール・オブジェクトは、ソース・ファイル・メンバーと同じ名前をもちます。MODULEパラメーターにモジュール名が指定されていない場合には、このコマンドは、ソース・ファイルに最初に作成または追加されたメンバーの名前をソース・メンバー名として使用します。

ソース・ファイル・メンバー名

ILE RPGソース仕様が入っているメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)

コンパイルするILE RPGソース・コードが入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対修飾または相対修飾のいずれかとすることができます。絶対パス名は/で始まり、相対パス名は/以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合は、パス名は完全です。相対修飾の場合は、パス名はジョブの現行作業ディレクトリーをそのパス名に付加することにより完全になります。

SRCMBRおよびSRCFILEパラメーターをSRCSTMFパラメーターと一緒に指定することはできません。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

モジュール・オブジェクトの作成を制御します。モジュール・オブジェクトは、コンパイル中に見つかったすべてのエラーの重大度レベルが指定された生成重大度レベル以下である場合に作成されます。

値は0-20でなければなりません。重大度が20を超えるエラーの場合には、モジュール・オブジェクトは生成されません。

10 コンパイル時エラーの重大度レベルが10以下であれば、モジュール・オブジェクトが生成されません。これが省略時の値です。

重大度レベル値

0 - 20の数値を入力してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

モジュールおよびその機能を簡単に説明するテキストを入力することができます。モジュール情報が表示される時には、常にこのテキストが現れます。

***SRCMBRTXT**

ソース・メンバーのテキストが使用されます。これが省略時の値です。

***BLANK**

テキストはありません。

記述 ソース仕様の機能を簡単に記述するテキストを入力してください。テキストは最大50文字にすることができますが、アポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィは50文字のストリングの一部ではありません。プロンプト画面にテキストを入力する場合には、アポストロフィは必要ありません。

トップ

コンパイラー・オプション (OPTION)

ソース・メンバーのコンパイル時に使用するオプションを指定します。一部またはすべてのオプションをどのような順序でも指定することができます。各オプションは1つまたは複数のブランク・スペースで区切ってください。オプションが複数回指定された場合には、最後のものが使用されます。

***XREF**

(適切な場合には) ソース・メンバーの相互参照表を作成します。

***NOXREF**

相互参照表は作成されません。

***GEN** コンパイラーによって戻された最高の重大度レベルがGENLVLオプションに指定された重大度を超えない場合にCRTPGMコマンドを使用してバインドできるモジュール・オブジェクトを作成します。

***NOGEN**

モジュール・オブジェクトを作成しません。

***NOSECLVL**

第1レベル・メッセージ・テキストの次の行に第2レベル・メッセージ・テキストを印刷しません。

***SECLVL**

メッセージ要約セクションの第1レベル・メッセージ・テキストの次の行に第2レベル・メッセージ・テキストを印刷します。

***SHOWCPY**

/COPYコンパイラー・ディレクティブによって含まれるメンバーのソース・レコードを表示します。

***NOSHOWCPY**

/COPYコンパイラー・ディレクティブによって含まれるメンバーのソース・レコードを表示しません。

***EXPDDS**

外部記述ファイルの拡張をリストに表示し、キー・フィールド情報を表示します。

***NOEXPDDS**

外部記述ファイルの拡張をリストに表示せず、キー・フィールド情報を表示しません。

***EXT** コンパイル時に参照された外部プロシージャおよびフィールドのリストをリストに表示します。

***NOEXT**

コンパイル時に参照された外部プロシージャおよびフィールドのリストをリストに表示しません。

***NOSHOWSKP**

リストのソース部分の中の無視されたステートメントは表示されません。コンパイラーは、`/IF`、`/ELSEIF`または`/ELSE`ディレクティブの結果としてのステートメントを無視します。

***SHOWSKP**

リストのソース部分の中のすべてのステートメントを、コンパイラーがそれらをスキップしたかどうかにかかわらず表示します。

***NOSRCSTMT**

リスト中の行番号は、順次に割り当てられます。これらの番号は、ステートメント番号を使用してデバッグするときに使用されます。行番号は、リストの左端の桁に示されます。リストの右端の2桁にはソースIDとSEU順序番号が表示されます。

***SRCSTMT**

デバッグのためのステートメント番号は、次のようにSEU順序番号およびソースIDを使用して生成されます。

$$\text{ステートメント番号} = \text{ソースID} * 1000000 + \text{ソースSEU順序番号}$$

SEU順序番号は、リストの左端の桁に示されます。ステートメント番号は、リストの右端の桁に示されます。これらの番号は、ステートメント番号を使用してデバッグするときに使用されます。

注: `OPTION(*SRCSTMT)`が指定されているときには、ソース・ファイル中のすべての順序番号が有効な数値でなければなりません。同じソース・ファイルに重複した順序番号がある場合には、デバッガーの振る舞いは予測できず、診断メッセージまたは相互参照項目のステートメント番号が無意味となることがあります。

***DEBUGIO**

すべての入出力仕様に停止点を生成します。

***NODEBUGIO**

入出力仕様に停止点を生成しません。

***NOEVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT (CODE)により使用するために事象ファイルを作成しません。CODEは、このファイルを使用してCODEエディターと統合されたエラー・フィードバックを提供します。事象ファイルは、通常、CODE内からモジュールまたはプログラムを作成する時に作成されます。

***EVENTF**

COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT (CODE)により使用するために事象ファイルを作成します。事象ファイルは、作成されたモジュールまたはプログラム・オブジェクトが保管されるライブラリー中のファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。ファイルEVFEVENTが存在しない場合には、自動的に作成されます。事象ファイル・メンバー名は、作成されるオブジェクトの名前と同じです。

CODEは、このファイルを使用してCODEエディターと統合されたエラー・フィードバックを提供します。事象ファイルは、通常、CODE内からモジュールまたはプログラムを作成する時に作成されます。

トップ

デバッグ用ビュー (DBGVIEW)

コンパイル済みモジュール・オブジェクトに使用可能なデバッグのレベルおよびソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューを指定します。

***STMT**

コンパイラ・リストの行番号またはステートメントを使用して、モジュール・オブジェクトをデバッグできるようにします。OPTION(*NOSRCSTMT)が指定されているときには、行番号がコンパイラ・リストのソース・セクションの左端の桁に示されます。OPTION(*SRCSTMT)が指定されているときには、ステートメント番号がコンパイラ・リストのソース・セクションの右端の桁に示されます。

***SOURCE**

コンパイル済みモジュール・オブジェクトのデバッグのためのソース・ビューを生成します。ルートソース・メンバーがDDMファイルである場合には、このビューは使用可能ではありません。また、コンパイル後、プログラムのデバッグを試みる前にソース・メンバーに変更が加えられた場合にも、これらのソース・メンバーのビューが使用できないことがあります。

***LIST** コンパイル済みモジュール・オブジェクトのデバッグのためのリスト・ビューを生成します。リスト・ビューに含まれる情報は、OPTIONパラメーターに*SHOWCPY, *EXPDDS,および*SRCSTMTを指定していたかどうかによります。

注: リスト・ビューには、字下げオプションを使用して要求した字下げは示されません。

***COPY**

コンパイル済みモジュール・オブジェクトのデバッグのためのソース・ビューおよびコピー・ビューを生成します。このオプションのソース・ビューは、*SOURCEオプションの場合に生成されたソース・ビューと同じです。コピー・ビューは、すべての/COPYソース・メンバーが含まれるデバッグ・ビューです。ルートソース・メンバーがDDMファイルである場合には、これらのビューは使用可能ではありません。また、コンパイル後、プログラムのデバッグを試みる前にソース・メンバーに変更が加えられた場合にも、これらのソース・メンバーのビューが使用できないことがあります。

***ALL** コンパイル済みモジュール・オブジェクトのデバッグのためのリスト・ビュー、ソース・ビュー、およびコピー・ビューを生成します。リスト・ビューに含まれる情報は、OPTIONパラメーターに*SHOWCPY, *EXPDDS,および*SRCSTMTを指定していたかどうかによります。

***NONE**

コンパイル済みモジュール・オブジェクトのデバッグのためのすべてのデバッグ・オプションを使用できないようにします。

トップ

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストが生成されるかどうかを指定します。

***PRINT**

ILE RPGモジュール・ソースおよびすべてのコンパイル時メッセージからなるコンパイル・リストを作成します。リストに含まれる情報は、OPTIONパラメーターに*XREF, *SECLVL, *SHOWCPY, *EXPDDS, *EXT, *SHOWSKP,および*SRCSTMTを指定しているかどうかによって異なります。

***NONE**

コンパイル・リストを生成しません。

最適化レベル (OPTIMIZE)

モジュールの最適化のレベルがあればそれを指定します。

***NONE**

生成されたコードは最適化されません。これは、変換時間の面で一番早いものです。デバッグ・モードになっている時には、変数を表示して修正することができます。

***BASIC**

生成されたコードに対してある種の最適化が実行されます。これにより、デバッグ・モードになっている時に、ユーザー変数は表示できますが、修正することはできません。

***FULL** 最も効果的なコードを生成する最適化。変換時間は最も遅くなります。提示されている値が現在値でない場合でも、ユーザー変数は変更できませんが、表示することはできます。

トップ

ソース・リストの字下げ (INDENT)

読み易さを増すために、構造化された命令をソース・リストで字下げするかどうかを指定します。構造化された命令の文節をマークするために使用される文字も指定します。

注: ここで要求した字下げは、DBGVIEW(*LIST)を指定した時に作成されるリスト・デバッグ・ビューで反映されません。

***NONE**

ソース・リストで構造化された命令は字下げされません。これが省略時の値です。

文字値 構造化された命令の文節に対してソース・リストが字下げされます。ステートメントおよび文節の位置合わせは、選択した文字を使用してマークされます。最大2文字の長さの任意の文字ストリングを選択することができます。文字ストリング中にブランクを使用したい場合には、そのストリングを単一引用符で囲まなければなりません。

注: モジュールにエラーがある場合には、字下げは期待通りに現れないことがあります。

トップ

タイプ変換オプション (CVTOPT)

ILE RPGコンパイラーによる外部記述データベース・ファイルから検索された日付、時刻、タイム・スタンプ、図形データ・タイプ、および可変長データ・タイプの操作方法を指定します。

***NONE**

可変長データベース・データ・タイプを無視し、固有のRPG日付、時刻、タイム・スタンプ、および図形データ・タイプを使用します。

***DATETIME**

日付、時刻、およびタイム・スタンプのデータベース・データ・タイプが固定長文字フィールドとして宣言されることを指定します。

***GRAPHIC**

2バイト文字セット(DBCS)図形データ・タイプが固定長文字フィールドとして宣言されることを指定します。

***VARCHAR**

可変長文字データ・タイプが固定長文字フィールドとして宣言されることを指定します。

***VARGRAPHIC**

可変長2バイト文字セット(DBCS)図形データ・タイプが固定長文字フィールドとして宣言されることを指定します。

トップ

ソート順序 (SRTSEQ)

ILE RPGソース・プログラムで使用されるソート順序テーブルを指定します。

***HEX** ソート順序テーブルは使用されません。

***JOB** モジュールが作成される時にジョブのSRTSEQ値を使用します。

***JOBRUN**

モジュールが実行される時（バインド後）にジョブのSRTSEQ値を使用します。

***LANGIDUNQ**

固有の重みテーブルを使用します。この特殊値は、正しいソート順序テーブルを決定するためにLANGIDパラメーターと一緒に使用されます。

***LANGIDSHR**

共用重みテーブルを使用します。この特殊値は、正しいソート順序テーブルを決定するためにLANGIDパラメーターと一緒に使用されます。

ソート・テーブル名

ソート順序テーブルの名前を入力してください。

***LIBL** ソート順序テーブルが保管されているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

ソート順序テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソート順序テーブルが保管されているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

言語識別コード (LANGID)

ソート順序が*LANGIDUNQおよび*LANGIDSHRである時に使用される言語識別コードを指定します。LANGIDパラメーターは、ソート順序テーブルを選択するためにSRTSEQ パラメーターと一緒に使用されます。

***JOBRUN**

RPGモジュールが実行される時（バインド後）にジョブと関連したLANGID値を使用します。

***JOB** RPGモジュールが作成される時にジョブと関連したLANGID値を使用します。

言語識別コード

指定された言語識別コードを使用します。(たとえば、フランス語の場合にはFRA で、ドイツ語の場合にはDEU。)

トップ

モジュールの置き換え (REPLACE)

指定されたライブラリーに同じ名前のモジュールがすでに存在している時に、新しいモジュール・オブジェクトが作成されるかどうかを指定します。

***YES** 指定されたライブラリーに新しいモジュール・オブジェクト・プログラムが作成されます。指定されたライブラリーの同じ名前の既存のモジュール・オブジェクトはライブラリーQRPLOBJに移動されます。

***NO** 指定されたライブラリーに同じ名前のモジュール・オブジェクトがすでに存在している場合には、新しいモジュール・オブジェクトは作成されません。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、および所属するユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザーに与えられる権限を指定します。モジュールの作成後に、CLコマンドのオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)またはオブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)を使用してすべてまたは指定したユーザーの権限を変更することができます。これらのコマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックを参照してください。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトの共通認可は、ターゲット・ライブラリー（オブジェクトが入っているライブラリー）のCRTAUTキーワードから取られます。値は、オブジェクトの作成時に決定されます。作成後にライブラリーのCRTAUT値が変わった場合には、新しい値は既存のオブジェクトに反映されません。

***ALL** 所有者に限定されているか、あるいは権限リスト管理権限によって制御されるものを除いてモジュール・オブジェクトに対するすべての命令の権限。ユーザーはモジュール・オブジェクトの存在を制御し、オブジェクトに対するこの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトに対する基本機能を実行することができますが、所有権を移すことはできません。

***CHANGE**

所有者に限定されているか、あるいはオブジェクト権とオブジェクト管理権によって制御されているものを除いて、モジュール・オブジェクトに対するすべてのデータ権限およびすべての命令を実行する権限を提供します。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本機能を実行することができます。

***USE** オブジェクト操作権と読み取り権限、およびプログラムへのバインドなどのモジュール・オブジェクトに対する基本操作の権限を提供します。ユーザーはオブジェクトを変更することができます。

***EXCLUDE**

ユーザーは、オブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

ユーザーおよびモジュールが追加される権限の権限リストの名前を入力してください。モジュール・オブジェクトはこの権限リストによって保護され、モジュール・オブジェクトの共通認可は *AUTL にセットされます。CRTRPGMOD コマンドを出す時には、この権限リストがシステム上に存在していなければなりません。

注: システムの機密保護要件を反映させるためには、AUT パラメーターを使用してください。使用可能な機密保護機能は、ISERIES 機密保護解説書 (SD88-5027) で詳しく説明されています。

[トップ](#)

数字の切り捨て (TRUNCNBR)

プログラムの実行中に数値オーバーフローが起こった場合に、結果のフィールドに切り捨て値を入れるか、それともエラーを生成するかを指定します。

注: TRUNCNBR オプションは式の中で行なわれる演算には適用されません。(式は拡張演算項目 2 フィールドにあります。) これらの演算でオーバーフローが起こった場合には、常にエラーが発生します。

***YES** 数値オーバーフローを無視して、結果のフィールドに切り捨て値を入れます。

***NO** 数値オーバーフローが検出された時に、実行時エラーが生成されます。

[トップ](#)

数値の修正 (FIXNBR)

正しくない 10 進数データをコンパイラーによって訂正するかどうかを指定します。

***NONE**

正しくない 10 進数データが使用された場合に、実行時に 10 進数エラーとなることを指示します。

***ZONED**

正しくないゾーン 10 進数データは、パック・データへの変換時にコンパイラーによって訂正されません。数値フィールドのブランクはゼロとして扱われます。各桁は妥当性検査されます。桁が有効でない場合には、その桁はゼロで置き換えられます。符号が有効でない場合には、その符号は 16 進数 'F' の正符号に強制的に変更されます。符号が有効である場合には、必要に応じ 16 進数 'F' の正符号または 16 進数 'D' の負符号に変更されます。結果のパック・データが正しくない場合には、そのデータは訂正されません。

***INPUTPACKED**

正しくないパック 10 進数データが入力仕様の処理中に出てきた場合に、内部変数がゼロに設定されることを指示します。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成されるオブジェクトを使用するオペレーティング・システムのリリースを指定します。*CURRENTおよび*PRV値の場合の例では、ターゲット・リリース 値を指定する時には、形式VXRXXMXを使用してリリースを指定します。VX はバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V2R3M0は、バージョン2、リリース3、モディフィケーション・レベル0です。

このパラメーターに対する有効な値はリリースごとに変わります。指定できる値は次の通りです。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザー・システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、システムでV2R3M5を実行中の場合には、*CURRENTはV2R3M5が導入されているシステムでオブジェクトを使用しようとしていることを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上で、このオブジェクトを使用することもできます。

注: システムでV2R3M5が実行中で、オブジェクトをV2R3M0が導入されたシステムで使用しようとする場合には、TGTRLS(*CURRENT)ではなくTGTRLS(V2R3M0)を指定してください。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムの前のリリース、モディフィケーション・レベル0で使用されます。たとえばシステムでV2R3M5を実行中の場合には、*PRVはV2R2M0が導入されているシステムでオブジェクトを使用しようとしていることを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上で、このオブジェクトを使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は、現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。このコマンドでサポートされている最も古いリリース・レベルよりも前の ターゲット・リリース を指定した場合には、エラー・メッセージが出され、サポートされる最も古いリリースが表示されます。

注: コマンドの現在のバージョンは、コマンドの前のリリースで使用可能でないオプションをサポートすることがあります。前のリリースで使用されるオブジェクトを作成するためにコマンドが使用される場合には、コマンドはそのリリースに該当するコンパイラーで処理され、サポートされないオプションはどれも認識されません。コンパイラーは、処理に使用可能でないオプションについて警告を出すとは限りません。

[トップ](#)

ヌル値可能 (ALWNULL)

ILE RPGモジュールが、外部記述データベース・ファイルから、ヌル値可能フィールドの入ったレコードをどのように使用できるようにするかを指定します。

***NO** ILE RPGモジュールが外部記述ファイルからのヌル値フィールドをもつレコードを処理しないことを指定します。ヌル値が入っているレコードを検索しようとした場合には、レコード中のデータはILE RPGモジュールに対してアクセス不能となり、データ・マッピング・エラーが起こります。

***INPUTONLY**

ILE RPGモジュールが、外部記述入力専用データベース・ファイルから、ヌル値の入ったヌル値可

能フィールドをもつレコードを正常に読み取ることができることを指定します。ヌル値の入ったレコードを検索する時には、データ・マッピング・エラーは起こらず、データベースの省略時の値がヌル値の入った任意のフィールドに入れられます。モジュールは以下を実行することはできません。

- ヌル値可能キー・フィールドの使用
- ヌル値可能フィールドの入ったレコードの作成または更新
- モジュールの実行中に、ヌル値可能フィールドが実際にヌルであるかどうかを判別すること
- ヌル値可能フィールドをヌルに設定すること

***USRCTL**

ILE RPGモジュールが、外部記述データベース・ファイルから、ヌル値の入ったレコードを読み取り、書き出し、更新できることを指定します。ヌル・キーのあるレコードはキー順操作を使用して検索することができます。モジュールは、ヌル値可能フィールドが実際にヌルであるかどうかを判別することができ、出力または更新用に、ヌル値可能フィールドをヌルに設定することができます。プログラマーは、ヌル値の入ったフィールドがモジュール内で正しく使用されていることを確認する責任があります。

***YES** *INPUTONLYと同じ。

トップ

条件名の定義 (DEFINE)

コンパイルの開始前に定義される条件名を指定します。パラメーターDEFINE(条件名)を使用することは、ソース・ファイルの最初の行に直接/DEFINE条件名をエンコードすることと同じです。

***NONE**

条件名は定義されません。これが省略時の値です。

名前 最大32個までの条件名を指定することができます。各名前の長さは50桁までとすることができます。条件名はコンパイルの開始時に定義されるものと見なされます。

トップ

パフォーマンス収集使用可能化 (ENBPFRCOL)

パフォーマンス収集を使用可能にするかどうかを指定します。

***PEP** パフォーマンス統計は、プログラム入りロプロシーチャーの入り口および出口にのみ収集されます。これは、プログラムの実際のプログラム入りロプロシーチャーに対して適用され、プログラム内のモジュールのメイン・プロシーチャーには適用されません。これが省略時の値です。

***ENTRYEXIT**

パフォーマンス統計はモジュールのすべてのプロシーチャーの入り口および出口に収集されます。

***FULL** パフォーマンス統計はすべてのプロシーチャーの入り口および出口に収集されます。また、統計は、外部プロシーチャーに対する各呼び出しの前後に収集されます。

トップ

プロファイル・データ (PRFDTA)

プログラム・プロファイル・データ属性をモジュールに指定します。プログラム・プロファイルは、統計データ（プロファイル・データ）に基づいてプロシージャおよびプロシージャ内のコードを再順序づけるために使用される拡張最適化手法です。

***NOCOL**

このモジュールはプロファイル・データを収集できません。これが省略時の値です。

***COL** このモジュールはプロファイル・データを収集できます。*COLは、モジュールの最適化レベルが*FULLの時と*CURRENTのターゲット・リリースでコンパイルしている時にだけ指定することができます。

[トップ](#)

BINDINGディレクトリー (BNDDIR)

モジュールの記号分析解決で使用されるバインディング・ディレクトリーのリストを指定します。バインディング・ディレクトリーの検索は、モジュールがCRTPGMまたはCRTSRVPGM時刻にバインドされる時に行われます。

***NONE**

バインディング・ディレクトリーは指定されません。

バインディング・ディレクトリー名

記号分析解決で使用されるバインディング・ディレクトリーの名前を指定してください。ディレクトリー名は、次の1つのライブラリー値で修飾することができます。

***LIBL** バインディング・ディレクトリーが保管されているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。これが省略時の値です。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーは、コンパイル時に分析解決されます。次に、モジュールをバインドする時に、バインディング・ディレクトリーの検索に使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライセンス内部コード・オプション (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターは、個別のコンパイル時オプションを選択できるようにするもので、選択したそれぞれのタイプのコンパイラー・オプションの潜在的な利点と欠点を理解した高度のプログラマーを対象にしています。

[トップ](#)

組み込みディレクトリー (INCDIR)

コピー・ファイルを検索するためにコンパイラーにより使用される検索パスに追加する1つ以上のディレクトリーを指定します。ソース・プログラム中のコピー・ファイルを解決できない場合に、コンパイラーはここに指定されたディレクトリーを検索します。

***NONE**

ユーザー・ディレクトリーでコピー・ファイルは検索されません。省略時の値により、ソース・ディレクトリーは検索されます。

'ディレクトリー'

コピー・ファイルを検索するディレクトリーを最大32個まで指定してください。指定されたディレクトリーの他に、ソース・ディレクトリーからもコピー・ファイルが検索されます。

[トップ](#)

生成プログラム・インターフェース (PGMINFO)

プログラム・インターフェース情報をストリーム・ファイルに生成するかどうかを指定します。指定できる値は次の通りです。

***NO** このオプションは、プログラム・インターフェース情報を生成しない省略時の値を指定します。

***PCML**

PCML（プログラム呼び出しマークアップ言語）をストリーム・ファイルに生成することを指定します。生成されたPCMLは、JAVAメソッドが少ないJAVAコードでこのRPGモジュールでプロシージャを呼び出しやすくします。生成されるPCMLが入るストリーム・ファイルの名前はINFOSTMFオプションに指定されていなければなりません。

[トップ](#)

プログラム・インターフェース・ストリーム・ファイル (INFOSTMF)

PGMINFOオプションに指定された生成されたプログラム・インターフェース情報が入るストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対修飾または相対修飾のいずれかとすることができます。絶対パス名は/で始まり、相対パス名は/以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合は、パス名は完全です。相対修飾の場合は、パス名はジョブの現行作業ディレクトリーをそのパス名に付加することにより完全になります。

このパラメーターを指定できるのは、PGMINFOパラメーターに*NO以外の値が指定されている場合だけです。

[トップ](#)

プリプロセッサ・オプション (PPGENOPT)

ソース・コードのコンパイル時に使用するプリプロセッサ生成オプションを指定します。

考えられるオプションは次の通りです。

***NONE**

ソース・ファイルに対してコンパイラ全体を実行します。プリプロセッサ出力をファイルにコピーしません。

DFT** 入力ソースに対してプリプロセッサを実行します。プリプロセッサ出力の生成のオプションとして、RMVCOMMENT**、***EXPINCLUDE**および***NOSEQSRC**が使用されます。出力ソース・ファイルおよびメンバーを指定するには、**PPSRCFILE**および**PPSRCMBR**を使用し、プリプロセッサ出力を含めるストリーム・ファイルを指定するには、**PPSRCSTMF**を使用してください。

***RMVCOMMENT**

プリプロセス中にコメント、ブランク行、およびほとんどのディレクティブを除去します。RPG仕様のみ、および仕様の正しい変換処理に必要なすべてのディレクティブは保存します。

***NORMVCOMMENT**

プリプロセス中にコメント、ブランク行、およびリスト制御ディレクティブ (たとえば、**/EJECT**、**/TITLE**)を保存します。プリプロセス中にソース制御ディレクティブ (たとえば、**/COPY**、**/IF**)をコメントに変換します。

***EXPINCLUDE**

生成された出力ファイルの**/INCLUDE**ディレクティブを展開します。

***NOEXPINCLUDE**

/INCLUDEディレクティブは生成された出力ファイルに変更されずに配置されます。

注: **/COPY**ディレクティブは常に展開されます。

***SEQSRC**

PPSRCFILEを指定した場合は、生成された出力メンバーには順次に順序番号が付けられ、000001で始まり、000001ずつ増分されます。

***NOSEQSRC**

PPSRCFILEを指定した場合は、生成された出力メンバーは、プリプロセッサが読み取った元のソースと同じ順序番号を持ちます。

[トップ](#)

出力ソース・ファイル (PPSRCFILE)

プリプロセッサ出力のソース・ファイル名およびライブラリーを指定します。

ソース・ファイル名

プリプロセッサ出力のソース・ファイルの名前を指定します。

考えられるライブラリー値は次の通りです。

***CURLIB**

プリプロセッサ出力は現行ライブラリー中に作成されます。ジョブに現行ライブラリーがない場合は、プリプロセッサ出力ファイルは**QGPL**ライブラリー中に作成されます。

ライブラリー名

プリプロセッサ出力のライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

出力ソース・メンバー (PPSRCMBR)

プリプロセッサ出力のソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

***MODULE**

MODULEパラメーターに提供した名前は、プリプロセッサ出力メンバー名として使用されます。

メンバー名

プリプロセッサ出力のメンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

出力ストリーム・ファイル (PPSRCSTMF)

プリプロセッサ出力のストリーム・ファイルのパス名を指定します。

***SRCSTMF**

SRCSTMFパラメーターに提供したパス名は、プリプロセッサ出力パス名として使用されます。
ファイルは拡張子'.I'を持ちます。

'パス名'

プリプロセッサ出力ストリーム・ファイルのパス名を指定します。

このパス名は絶対修飾または相対修飾のいずれかとすることができます。絶対パス名は'/'で始まり、相対パス名は'/'以外の文字で始まります。

絶対修飾の場合は、パス名は完全です。相対修飾の場合は、パス名はジョブの現行作業ディレクトリーをそのパス名に付加することにより完全になります。

[トップ](#)

例

例1: ソース・モジュールのモジュール・オブジェクトへのコンパイル

```
CRTRPGMOD  MODULE(MYLIB/XMPLE1)
           SRCFILE(MYLIB/QRPGLESRC) SRCMBR(XMPLE1)
           OUTPUT(*PRINT) TEXT('MY RPG IV MODULE')
```

このコマンドはILE RPGのコンパイラを呼び出して、XMPLE1の名前のモジュールを作成します。ソース・モジュールは、ライブラリーMYLIB中のソース・ファイルQRPGLESRCのメンバーXMPLE1中にありません。コンパイラ・リストが作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

RNS9309

コンパイルは正常に実行されなかった。モジュール&1がライブラリー&2に作成されませんでした。

[トップ](#)

RPG/400プログラムの作成 (CRTRPGPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPG/400コンパイラーを開始するためには、RPGプログラム作成(CRTRPGPGM)コマンドが使用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前, *CTLSPEC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QRPGRSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-99, 9	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 14 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *DUMP, *NODUMP, *SECLVL, *NOSECLVL, *SRCDBG, *NOSRCDBG, *LSTDBG, *NOLSTDBG	オプション
GENOPT	生成オプション	値 (最大 10 回の繰り返し): *LIST, *NOLIST, *XREF, *NOXREF, *ATR, *NOATR, *DUMP, *NODUMP, *PATCH, *NOPATCH, *OPTIMIZE, *NOOPTIMIZE	オプション
INDENT	ソース・リストの字下げ	文字値, *NONE	オプション
CVTOPT	タイプ変換オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *DATETIME, *VARCHAR, *GRAPHIC	オプション
SRTSEQ	ソート順序	単一値: *HEX, *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	名前, *JOBRUN, *JOB	オプション
SAAFLAG	SAAフラグ付け	*NOFLAG, *FLAG	オプション
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSVRT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER , *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
PHSTRC	フェーズ追跡	*NO , *YES	オプション
ITDUMP	中間テキスト・ダンプ	文字値, *NONE	オプション
SNPDUMP	スナップ・ダンプ	文字値, *NONE	オプション
CODELIST	コード・リスト	文字値, *NONE , *ALL	オプション
IGNDECERR	10進データ・エラーの無視	*NO , *YES	オプション
ALWNULL	ヌル値使用可能	*NO , *YES	オプション

トップ

プログラム (PGM)

コンパイル済みRPGプログラムのプログラム名およびライブラリーを指定します。

***CTLSPEC**

制御仕様の75-80桁目で指示されたプログラム名。

プログラム名

プログラムを識別する名前を入力してください。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーを指定していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

コンパイル済みプログラムを保管するライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

ソース・プログラムが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

QRPGSRC

省略時のソース・ファイルQRPGSRCには、コンパイルされるRPGプログラムが入っています。

ソース・ファイル名

コンパイルされるRPGソース・プログラムが入っているソース・ファイル名を入力します。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索して、ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーを指定していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・メンバー (SRCMBR)

ソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***PGM** ソース・ファイル・メンバー名としてPGMパラメーターで指定した名前。

ソース・ファイル・メンバー名

ソース・プログラムが入っているメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

プログラム・オブジェクトの作成を停止する診断メッセージの重大度レベルを指定します。

9 省略時の重大度レベルは9です。

重大度レベル値

01-50の2桁の数字を入力してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

プログラム機能の説明に使用するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

ソース・ファイル・メンバーのテキスト記述を使用します。

***BLANK**

テキストはありません。

[トップ](#)

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ソース・プログラムをコンパイルする時に使用するオプションを指定します。

SOURCE**またはSRC**

コンパイラーがソース・リストを提供します。

NOSOURCE**またはNOSRC**

コンパイラーはソース・リストを提供しません。

***XREF**

コンパイラーが相互参照表を提供します。

***NOXREF**

コンパイラーは相互参照表を提供しません。

***GEN** プログラムのコンパイル後に実行可能なプログラム・オブジェクトが作成されます。

***NOGEN**

プログラム・オブジェクトは作成されません。

***NODUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷しません。

***DUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷します。

***NOSECLVL**

メッセージ・テキストは印刷されません。

***SECLVL**

メッセージ・テキストが印刷されます。

***NOSRCDBG**

ソース・レベルのデバッグ情報は作成されません。ソース・レベルのエラー情報は、*LSTDBGを指定しない限り作成されません。

***SRCDBG**

コンパイラーは、連携開発環境/400 (CODE/400)で使用するためのソース・レベルのエラー情報およびソース・レベルのデバッグ情報を作成します。また、システム・デバッガー(STRDBG OPMSRC(*YES))を使用してOPMプログラムとILEプログラムを同時にデバッグしたい場合には、ソース・レベルまたはリスト・レベルのデバッグ情報が必要です。

*SRCDBGと*LSTDBGを一緒に指定することはできません。どちらか一方を指定してください。

***NOLSTDBG**

リスト・ビューまたはリスト・レベルのデバッグ情報は作成されません。ソース・レベルのエラー情報は、*SRCDBGを指定しない限り作成されません。

***LSTDBG**

コンパイラーは、連携開発環境/400 (CODE/400)で使用するためのリスト・ビュー、ソース・レベルのエラー情報、およびリスト・レベルのデバッグ情報を作成します。また、システム・デバッガー(STRDBG OPMSRC(*YES))を使用してOPMプログラムとILEプログラムを同時にデバッグしたい場合には、ソース・レベルまたはリスト・レベルのデバッグ情報が必要です。

*SRCDBGと*LSTDBGを一緒に指定することはできません。どちらか一方を指定してください。

トップ

生成オプション (GENOPT)

目的コードの作成に使用するオプションを指定してください。

***NOLIST**

プログラムの中間表現(IRP)リストを作成しません。

***LIST** プログラムの中間表現(IRP)をリストします。

***NOXREF**

プログラムの中間表現(IRP)の相互参照リストを作成しません。

***XREF**

プログラムの中間表現(IRP)に定義されたすべてのオブジェクトの相互参照リストを作成します。

***NOATR**

属性リストを作成しません。

***ATR** プログラムの中間表現(IRP)ソース・プログラムの属性をリストします。

***NODUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷しません。

***DUMP**

プログラム・テンプレートを印刷します。

***NOPATCH**

コンパイル済みプログラムにプログラム・パッチ域を予約しません。

***PATCH**

コンパイル済みプログラムにプログラム・パッチ域のスペースを予約します。

***NOOPTIMIZE**

コンパイラーはプログラムの最適化を実行しません。

***OPTIMIZE**

コンパイラーは処理効率の高いプログラムを作成します。

トップ

ソース・リストの字下げ (INDENT)

DOステートメントおよびIF-ELSE文節は、読みやすいように字下げを指定します。また、対応するDO-ENDDOの対とIF-ELSEの対の結合に使用される文字も指定します。

***NONE**

DOステートメントまたはIF-ELSE文節の中では、リストは字下げされません。

文字ストリング

対応するネスト・レベルを結合するためには所定の文字ストリングを使用します。

トップ

タイプ変換オプション (CVTOPT)

日付、時刻、およびタイム・スタンプ・データベースのデータ・タイプ、および外部記述ファイルから検索される可変長データ・タイプをRPG/400コンパイラーで処理する方法を指定します。

***NONE**

日付、時刻、タイム・スタンプ、および可変長データベースのデータ・タイプは無視されて、RPG/400プログラムでアクセスすることはできません。

***DATETIME**

日付、時刻、タイム・スタンプのデータベースのデータ・タイプは固定長文字フィールドとして宣言されて、RPG/400プログラムでアクセスすることができます。

***VARCHAR**

可変長データベースのデータ・タイプは固定長文字フィールドとして宣言されて、RPG/400プログラムでアクセスすることができます。

***GRAPHIC**

DBCSグラフィックス・データ・タイプは固定長の文字フィールドとして宣言され、RPG/400プログラムでアクセス可能です。

注: プログラム中で可変長DBCSグラフィックス・データ・タイプを宣言する必要がある場合には、*VARCHARおよび*GRAPHICの両方のパラメーターを選択してください。

トップ

ソート順序 (SRTSEQ)

使用するソート順序テーブルを指定します。

注: CRTRPGPGMまたはCRTRPTPGMコマンドのSRTSEQおよびLANGIDパラメーターにコーディングされた値を使用するためには、制御仕様の代替照合順序フィールドにDを指定しなければなりません。代替照合順序はコンパイル時または実行時のいずれかにシステムから検索されます。Dオプションを指定すると、代替照合順序は以下に影響を与えます。すなわち、すべての文字比較操作、文字テーブルおよび配列のLOKUPおよびSORTA、および文字のコンパイル時データおよび実行時前配列とテーブルの順序検査に影響を与えます。実行時に代替照合順序が検索される場合には、コンパイル時データの順序検査は実行時まで延期されます。

***HEX** ソート順序を決定するために、文字の16進数値を使用します。これが省略時の値です。

***JOB** RPGプログラムの作成時に、ジョブに対応したSRTSEQ値を使用します。

***JOBRUN**

RPGプログラムの実行時に、ジョブに対応したSRTSEQ値を使用します。

***LANGIDUNQ**

固有の重みづけテーブルを使用します。この特殊値は、ソート順序テーブルの選択で、LANGIDパラメーターと一緒に使用されます。

***LANGIDSHR**

共用の重みづけテーブルを使用します。この特殊値は、ソート順序テーブルの選択で、LANGIDパラメーターと一緒に使用されます。

ソート順序テーブル名

ソート順序テーブルの名前を入力してください。

***LIBL** コンパイラーは、ライブラリー・リストを検索してソート順序テーブルが入っているライブラリーを見つけます。これが省略時の値です。

***CURLIB**

ソート順序テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソート順序テーブルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

言語識別コード (LANGID)

ソート順序が*LANGIDUNQまたは*LANGIDSHRの時に使用する言語識別コードを指定します。LANGIDパラメーターは、ソート順序テーブルの選択で、SRTSEQパラメーターと一緒に使用されます。

***JOBRUN**

RPGプログラムの実行時に、ジョブに対応したLANGID値を使用します。これが省略時の値です。

***JOB** RPGプログラムの作成時に、ジョブに対応したLANGID値を使用します。

言語識別コード

使用する言語識別コード（たとえば、フランス語の場合にはFRA,ドイツ語の場合にはDEU)を入力してください。

トップ

SAAフラグ付け (SAAFLAG)

RPGによってサポートされない仕様のフラグ付けを行なうかどうかを指定します。

***NOFLAG**

フラグ付けは実行されません。

***FLAG**

フラグ付けが実行されます。

トップ

印刷ファイル (PRTFILE)

コンパイル・リストを入れるファイルの名前およびファイルが入っているライブラリーを指定します。

QSYSPRT

コンパイル・リストがQSYSPRTファイルに入れられます。

ファイル名

コンパイル・リストを入れるファイルの名前を入力してください。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索して、ライブラリーを見つけます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーを指定していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

プログラムの置き換え (REPLACE)

同じライブラリーに同じ名前の既存のプログラム・オブジェクトがある時に、新しいプログラム・オブジェクトを作成するかどうかを指定します。

***YES** 新しいプログラム・オブジェクトが作成され、指定したライブラリーにある同じ名前の既存のプログラム・オブジェクトはライブラリーQRPLOBJに移動されます。

***NO** 同じ名前のプログラム・オブジェクトが指定したライブラリーにすでに存在している場合には、新しいプログラム・オブジェクトは作成されません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成されるオブジェクトが使用されるオペレーティング・システムのリリースを指定します。***CURRENT** および***PRV**値の例の場合で、ターゲット・リリースを指定する時には、**VXRXXMX**の形式を使用してリリースを指定します。ここで、**VX**はバージョン、**RX**はリリース、**MX**はモディフィケーション・レベルです。たとえば、**V2R3M0**は、バージョン2、リリース3、モディフィケーション・レベル0です。

このパラメーターに対する有効な値はリリースごとに変わります。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、**V2R3M5**がシステムで実行されている場合には、***CURRENT**は、ユーザーは**V2R3M5**が導入されているシステムでオブジェクトを使用することを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上でこのオブジェクトを使用することもできます。

PRV** オブジェクトは、前のリリースのモディフィケーション・レベル0のオペレーティング・システムで使用されます。たとえば、**V2R3M5**がシステムで実行されている場合には、PRV**は**V2R2M0**が導入されているシステムでオブジェクトを使用することを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで、このオブジェクトを使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースを**VXRXXMX**の形式で指定してください。オブジェクトは、指定されたりリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されているシステムで使用することができます。

有効な値は、現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。このコマンドでサポートされている最も古いリリースよりも前のリリース・レベルを指定した場合には、エラー・メッセージが出されて、サポートされる最も古いリリースを表示します。

注: プログラムは、作成コマンドに指定したリリースより前のリリース・レベルで復元することができません。プログラムを実行することができる最も古いリリースを判別するためには、**DSPPGM**を使用してください。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

コンパイル済みRPGプログラムを実行するユーザー・プロファイルを指定します。

***USER**

プログラムはプログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

***OWNER**

プログラムは、プログラムの所有者とユーザーの両方のユーザー・プロファイルで実行されます。プログラムがすでに存在している場合には、**USRPRF**パラメーターは更新されません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このプログラムのために認可する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

作成されるオブジェクトの省略時の共通認可は、宛先ライブラリーと関連のあるCRTAUTキーワードからとられます。この値は作成時に決定されます。ライブラリーのCRTAUTキーワードの値が作成後に変更された場合には、その新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***ALL** オブジェクト所有権の転送の場合を除き、プログラムの権限を完了します。

***CHANGE**

オブジェクトの存在および管理を取り扱う操作以外のすべての操作が認められます。

***USE** デバッグまたは変更権限を除く、コンパイル済みプログラムの読み取りまたは実行権限。

注: プログラムの変数の定様式ダンプを取得するには、プログラムに対して***USE**権限を持っていないければなりません。変数をダンプするには、さらにプログラムが観察可能な情報も持っていません。

一部のユーザーが変数のダンプができることを望まない場合は、ユーザーに***OBJOPR**だけに加えてプログラムに***EXECUTE**権限を与えてください。これはユーザーにプログラムの呼び出しは許可しますが、その変数をダンプすることは許可しません。

すべてのユーザーに変数のダンプができることを望まない場合は、プログラムの変更(CHGPGM)を使用して、プログラムの観察可能な情報を除去してください。

***EXCLUDE**

権限なし。

権限リスト名

オブジェクトを保護する権限リストの名前。共通認可は***AUTL**になります。

[トップ](#)

フェーズ追跡 (PHSTRC)

コンパイラーについてのフェーズの追跡情報をリストに含めるかどうかを指定します。

***NO** コンパイラー・フェーズの情報を作成しません。

***YES** コンパイラー・フェーズの情報を作成します。

[トップ](#)

中間テキスト・ダンプ (ITDUMP)

中間テキストの動的リストの作成を指定します。

***NONE**

中間テキスト・ダンプを作成しません。

フェーズ名

各フェーズ名の最後の2桁を入力してください。

[トップ](#)

スナップ・ダンプ (SNPDUMP)

主要データ域および中間テキストのリストを作成するかどうかを指定します。

*NONE

スナップ・ダンプを作成しません。

フェーズ名

各フェーズ名の最後の2桁を入力してください。

[トップ](#)

コード・リスト (CODELIST)

特定のフェーズに対してIRPの動的リストを作成するかどうかを指定します。

*NONE

中間IRPダンプを作成しません。

***ALL** 中間IRPダンプを作成します。

フェーズ名

各フェーズ名の最後の2桁を入力してください。

[トップ](#)

10進データ・エラーの無視 (IGNDECERR)

10進数データ・エラーを無視するかどうかを指定します。

***NO** 10進数データ・エラーは無視されません。

***YES** 10進数データ・エラーは無視されます。

[トップ](#)

ヌル値使用可能 (ALWNULL)

RPG/400プログラムが外部記述入力ファイルのヌル値可能フィールドからヌル値を受け入れるかどうかを指定します。

***NO** RPG/400プログラムがヌル値フィールドを受け入れないことを指定します。

***YES** RPG/400プログラムが外部記述入力ファイルのヌル値フィールドを受け入れることを指定します。

[トップ](#)

例

例1: ソース・プログラムをプログラム・オブジェクトにコンパイル

```
CRTRPGPGM  PGM(MYLIB/XMPLE1)
            SRCFILE(MYLIB/QRPGSRC) SRCMBR(XMPLE1)
            OPTION(*SOURCE) TEXT('MY RPG III PROGRAM')
```

このコマンドはRPG/400コンパイラを呼び出して、XMPLE1という名前のプログラムを作成します。ソース・プログラムはライブラリMYLIB中のソース・ファイルQRPGSRCのメンバーXMPLE1にあります。コンパイラ・リストが作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

QRG9001

コンパイルは正常に行なわれなかった。プログラムは作成されません。

QRG9004

TGTRLSオプションに指定されたリリース&1はサポートされていない。

QRG9005

*SRCDBGまたは*LSTDBGコンパイラ・オプションを処理することはできない。

[トップ](#)

AUTO REPORT RPG プログラム作成 (CRTRPTPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

報告書簡易作成機能のRPG/400コンパイラーを開始するためには、報告書簡易作成プログラム作成 (CRTRPTPGM)コマンドが使用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前, <u>*CTLSPEC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QRPGSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>*PGM</u>	オプション, 位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-99, <u>9</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SRCMBRTXT</u> , *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 14 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *DUMP, *NODUMP, *SECLVL, *NOSECLVL, *LSTDBG, *NOLSTDBG	オプション
GENOPT	生成オプション	値 (最大 10 回の繰り返し): *LIST, *NOLIST, *XREF, *NOXREF, *ATR, *NOATR, *DUMP, *NODUMP, *PATCH, *NOPATCH, *OPTIMIZE, *NOOPTIMIZE	オプション
INDENT	ソース・リストの字下げ	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CVTOPT	タイプ変換オプション	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *DATETIME, *VARCHAR, *GRAPHIC	オプション
SRTSEQ	ソート順序	単一値: <u>*HEX</u> , *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	名前, <u>*JOBRUN</u> , *JOB	オプション
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, <u>QSYSPRT</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
RPTOPT	報告書簡易作成機能オプション	値 (最大 10 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *FLOW, *NOFLOW, *AST, *NOAST, *DATE, *NODATE, *COMPILE, *NOCOMPILE, *SECLVL, *NOSECLVL	オプション
OUTFILE	報告書簡易作成機能出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 報告書簡易作成機能出力ファイル	名前, <u>*NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	報告書簡易作成機能出力メンバー	名前, <u>*NONE</u>	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, <u>*CURRENT</u> , *PRV	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	<u>*USER</u> , *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
PHSTRC	フェーズ追跡	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ITDUMP	中間テキスト・ダンプ	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
SNPDUMP	スナップ・ダンプ	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CODELIST	コード・リスト	文字値, <u>*NONE</u> , *ALL	オプション
IGNDECERR	10進データ・エラーの無視	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ALWNULL	ヌル値使用可能	<u>*NO</u> , *YES	オプション

トップ

プログラム (PGM)

コンパイル済みRPGプログラムのプログラム名およびライブラリーを指定します。

*CTLSPEC

制御仕様の75-80桁目で指示されたプログラム名。

プログラム名

プログラムを識別する名前を入力してください。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーを指定していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

コンパイル済みプログラムを保管するライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

ソース・プログラムが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

QRPGSRC

省略時のソース・ファイルQRPGSRCには、コンパイルされるRPGプログラムが入っています。

ソース・ファイル名

コンパイルされるRPGソース・プログラムが入っているソース・ファイル名を入力します。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索して、ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーを指定していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

ソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***PGM** ソース・ファイル・メンバー名としてPGMパラメーターで指定した名前。

ソース・ファイル・メンバー名

ソース・プログラムが入っているメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

プログラム・オブジェクトの作成を停止する診断メッセージの重大度レベルを指定します。

9 省略時の重大度レベルは9です。

重大度レベル値

01-50の2桁の数字を入力してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

プログラム機能の説明に使用するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

ソース・ファイル・メンバーのテキスト記述を使用します。

***BLANK**

テキストはありません。

[トップ](#)

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ソース・プログラムをコンパイルする時に使用するオプションを指定します。

SOURCE**またはSRC**

コンパイラーがソース・リストを提供します。

NOSOURCE**またはNOSRC**

コンパイラーはソース・リストを提供しません。

***XREF**

コンパイラーが相互参照表を提供します。

***NOXREF**

コンパイラーは相互参照表を提供しません。

***GEN** プログラムのコンパイル後に実行可能なプログラム・オブジェクトが作成されます。

***NOGEN**

プログラム・オブジェクトは作成されません。

***NODUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷しません。

***DUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷します。

***NOSECLVL**

メッセージ・テキストは印刷されません。

***SECLVL**

メッセージ・テキストが印刷されます。

***NOLSTDBG**

リスト・ビューまたはリスト・レベルのデバッグ情報、あるいはソース・レベルのエラー情報は作成されません。

***LSTDBG**

コンパイラーは、連携開発環境/400 (CODE/400)で使用するためのリスト・ビュー、ソース・レベルのエラー情報、およびリスト・レベルのデバッグ情報を作成します。また、システム・デバッガー(STRDBG OPMSRC(*YES))を使用してOPMプログラムとILEプログラムを同時にデバッグしたい場合には、リスト・レベルのデバッグ情報が必要です。

[トップ](#)

生成オプション (GENOPT)

目的コードの作成に使用するオプションを指定してください。

***NOLIST**

プログラムの中間表現(IRP)リストを作成しません。

***LIST** プログラムの中間表現(IRP)をリストします。

***NOXREF**

プログラムの中間表現(IRP)の相互参照リストを作成しません。

***XREF**

プログラムの中間表現(IRP)に定義されたすべてのオブジェクトの相互参照リストを作成します。

***NOATR**

属性リストを作成しません。

***ATR** プログラムの中間表現(IRP)ソース・プログラムの属性をリストします。

***NODUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷しません。

***DUMP**

プログラム・テンプレートを印刷します。

***NOPATCH**

コンパイル済みプログラムにプログラム・パッチ域を予約しません。

***PATCH**

コンパイル済みプログラムにプログラム・パッチ域のスペースを予約します。

***NOOPTIMIZE**

コンパイラはプログラムの最適化を実行しません。

***OPTIMIZE**

コンパイラは処理効率の高いプログラムを作成します。

トップ

ソース・リストの字下げ (INDENT)

DOステートメントおよびIF-ELSE文節は、読みやすいように字下げを指定します。また、対応するDO-ENDDOの対とIF-ELSEの対の結合に使用される文字も指定します。

***NONE**

DOステートメントまたはIF-ELSE文節の中では、リストは字下げされません。

文字ストリング

対応するネスト・レベルを結合するためには所定の文字ストリングを使用します。

トップ

タイプ変換オプション (CVTOPT)

日付、時刻、およびタイム・スタンプ・データベースのデータ・タイプ、および外部記述ファイルから検索される可変長データ・タイプをRPG/400コンパイラで処理する方法を指定します。

***NONE**

日付、時刻、タイム・スタンプ、および可変長データベースのデータ・タイプは無視されて、RPG/400プログラムでアクセスすることはできません。

***DATETIME**

日付、時刻、タイム・スタンプのデータベースのデータ・タイプは固定長文字フィールドとして宣言されて、RPG/400プログラムでアクセスすることができます。

***VARCHAR**

可変長データベースのデータ・タイプは固定長文字フィールドとして宣言されて、RPG/400プログラムでアクセスすることができます。

***GRAPHIC**

DBCSグラフィックス・データ・タイプは固定長の文字フィールドとして宣言され、RPG/400プログラムでアクセス可能です。

注: プログラム中で可変長DBCSグラフィックス・データ・タイプを宣言する必要がある場合には、*VARCHARおよび*GRAPHICの両方のパラメーターを選択してください。

トップ

ソート順序 (SRTSEQ)

使用するソート順序テーブルを指定します。

注: CRTRPGPGMまたはCRTRPTPGMコマンドのSRTSEQおよびLANGIDパラメーターにコーディングされた値を使用するためには、制御仕様の代替照合順序フィールドにDを指定しなければなりません。代替照合順序はコンパイル時または実行時のいずれかにシステムから検索されます。Dオプションを指定すると、代替照合順序は以下に影響を与えます。すなわち、すべての文字比較操作、文字テーブルおよび配列のLOKUPおよびSORTA、および文字のコンパイル時データおよび実行時前配列とテーブルの順序検査に影響を与えます。実行時に代替照合順序が検索される場合には、コンパイル時データの順序検査は実行時まで延期されます。

***HEX** ソート順序を決定するために、文字の16進数値を使用します。これが省略時の値です。

***JOB** RPGプログラムの作成時に、ジョブに対応したSRTSEQ値を使用します。

***JOBRUN**

RPGプログラムの実行時に、ジョブに対応したSRTSEQ値を使用します。

***LANGIDUNQ**

固有の重みづけテーブルを使用します。この特殊値は、ソート順序テーブルの選択で、LANGIDパラメーターと一緒に使用されます。

***LANGIDSHR**

共用の重みづけテーブルを使用します。この特殊値は、ソート順序テーブルの選択で、LANGIDパラメーターと一緒に使用されます。

ソート順序テーブル名

ソート順序テーブルの名前を入力してください。

***LIBL** コンパイラーは、ライブラリー・リストを検索してソート順序テーブルが入っているライブラリーを見つけます。これが省略時の値です。

***CURLIB**

ソート順序テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソート順序テーブルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

言語識別コード (LANGID)

ソート順序が*LANGIDUNQまたは*LANGIDSHRの時に使用する言語識別コードを指定します。LANGIDパラメーターは、ソート順序テーブルの選択で、SRTSEQパラメーターと一緒に使用されます。

***JOBRUN**

RPGプログラムの実行時に、ジョブに対応したLANGID値を使用します。これが省略時の値です。

***JOB** RPGプログラムの作成時に、ジョブに対応したLANGID値を使用します。

言語識別コード

使用する言語識別コード（たとえば、フランス語の場合にはFRA,ドイツ語の場合にはDEU)を入力してください。

トップ

印刷ファイル (PRTFILE)

コンパイル・リストを入れるファイルの名前およびファイルが入っているライブラリーを指定します。

QSYSPRT

コンパイル・リストがQSYSPRTファイルに入れられます。

ファイル名

コンパイル・リストを入れるファイルの名前を入力してください。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索して、ライブラリーを見つけます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーを指定していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

報告書簡易作成機能オプション (RPTOPT)

報告書簡易作成機能ソース・プログラムのコンパイル時に使用するオプションを指定します。

NOSOURCE**またはNOSRC**

コンパイラーはソース・リストを提供しません。

SOURCE**またはSRC**

コンパイラーがソース・リストを提供します。

***NOFLOW**

メジャー・ルーチンの実行の流れは書き出されません。

***FLOW**

メジャー・ルーチンの実行の流れが書き出されます。

***NOAST**

合計書き出し行のアスタリスクは生成されません。

***AST** 合計書き出し行のアスタリスクは生成されます。

***DATE**

最初の*AUTOページ見出し行に日付およびページ番号が印刷されます。

***NODATE**

最初の*AUTOページ見出し行に日付およびページ番号は印刷されません。

***COMPILE**

報告書簡易作成機能のソース・コンパイルの後に、RPG/400コンパイラーが呼び出されます。

***NOCOMPILE**

RPG/400コンパイラーは呼び出されません。

***NOSECLVL**

メッセージ・テキストは印刷されません。

***SECLVL**

メッセージ・テキストが印刷されます。

[トップ](#)

報告書簡易作成機能出力ファイル (OUTFILE)

報告書簡易作成機能で作成されるRPGソース・プログラムの出力ファイルの名前を指定します。

***NONE**

報告書簡易作成機能は、RPGソース・プログラムをコンパイラーに渡すための一時ファイルを作成します。

ファイル名

生成されたRPGソース・プログラムが入っているファイルの名前を入力します。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索して、ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーを指定していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

報告書簡易作成機能出力メンバー (OUTMBR)

出力ファイルのメンバーの名前を指定します。

***NONE**

メンバー名としてソース・メンバー名を使用します。

ファイル・メンバー名

報告書簡易作成機能プログラムからの出力を受け取るメンバーの名前を入力します。

[トップ](#)

プログラムの置き換え (REPLACE)

同じライブラリーに同じ名前の既存のプログラム・オブジェクトがある時に、新しいプログラム・オブジェクトを作成するかどうかを指定します。

- *YES** 新しいプログラム・オブジェクトが作成され、指定したライブラリーにある同じ名前の既存のプログラム・オブジェクトはライブラリーQRPLOBJに移動されます。
- *NO** 同じ名前のプログラム・オブジェクトが指定したライブラリーにすでに存在している場合には、新しいプログラム・オブジェクトは作成されません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成されるオブジェクトが使用されるオペレーティング・システムのリリースを指定します。***CURRENT** および***PRV**値の例の場合で、ターゲット・リリース を指定する時には、**VXRXXMX**の形式を使用してリリースを指定します。ここで、**VX**はバージョン、**RX**はリリース、**MX**はモディフィケーション・レベルです。たとえば、**V2R3M0**は、バージョン2、リリース3、モディフィケーション・レベル0です。

このパラメーターに対する有効な値はリリースごとに変わります。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、**V2R3M5**がシステムで実行されている場合には、***CURRENT**は、ユーザーは**V2R3M5**が導入されているシステムでオブジェクトを使用することを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上でこのオブジェクトを使用することもできます。

PRV** オブジェクトは、前のリリースのモディフィケーション・レベル0のオペレーティング・システムで使用されます。たとえば、**V2R3M5**がシステムで実行されている場合には、PRV**は**V2R2M0**が導入されているシステムでオブジェクトを使用することを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで、このオブジェクトを使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースを**VXRXXMX**の形式で指定してください。オブジェクトは、指定されたりリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されているシステムで使用することができます。

有効な値は、現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。このコマンドでサポートされている最も古いリリースよりも前のリリース・レベルを指定した場合には、エラー・メッセージが出されて、サポートされる最も古いリリースを表示します。

注: プログラムは、作成コマンドに指定したリリースより前のリリース・レベルで復元することができません。プログラムを実行することができる最も古いリリースを判別するためには、**DSPPGM**を使用してください。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

コンパイル済みRPGプログラムを実行するユーザー・プロファイルを指定します。

***USER**

プログラムはプログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

***OWNER**

プログラムは、プログラムの所有者とユーザーの両方のユーザー・プロファイルで実行されます。プログラムがすでに存在している場合には、USRPRFパラメーターは更新されません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このプログラムのために認可する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

作成されるオブジェクトの省略時の共通認可は、宛先ライブラリーと関連のあるCRTAUTキーワードからとられます。この値は作成時に決定されます。ライブラリーのCRTAUTキーワードの値が作成後に変更された場合には、その新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***ALL** オブジェクト所有権の転送の場合を除き、プログラムの権限を完了します。

***CHANGE**

オブジェクトの存在および管理を取り扱う操作以外のすべての操作が認められます。

***USE** デバッグまたは変更権限を除く、コンパイル済みプログラムの読み取りまたは実行権限。

注: プログラムの変数の定様式ダンプを取得するには、プログラムに対して***USE**権限を持っていないければなりません。変数をダンプするには、さらにプログラムが観察可能な情報も持っていません。

一部のユーザーが変数のダンプができることを望まない場合は、ユーザーに***OBJOPR**だけに加えてプログラムに***EXECUTE**権限を与えてください。これはユーザーにプログラムの呼び出しは許可しますが、その変数をダンプすることは許可しません。

すべてのユーザーに変数のダンプができることを望まない場合は、プログラムの変更(CHGPGM)を使用して、プログラムの観察可能な情報を除去してください。

***EXCLUDE**

権限なし。

権限リスト名

オブジェクトを保護する権限リストの名前。共通認可は***AUTL**になります。

[トップ](#)

フェーズ追跡 (PHSTRC)

コンパイラーについてのフェーズの追跡情報をリストに含めるかどうかを指定します。

***NO** コンパイラー・フェーズの情報を作成しません。

***YES** コンパイラー・フェーズの情報を作成します。

[トップ](#)

中間テキスト・ダンプ (ITDUMP)

中間テキストの動的リストの作成を指定します。

*NONE

中間テキスト・ダンプを作成しません。

フェーズ名

各フェーズ名の最後の2桁を入力してください。

[トップ](#)

スナップ・ダンプ (SNPDUMP)

主要データ域および中間テキストのリストを作成するかどうかを指定します。

*NONE

スナップ・ダンプを作成しません。

フェーズ名

各フェーズ名の最後の2桁を入力してください。

[トップ](#)

コード・リスト (CODELIST)

特定のフェーズに対してIRPの動的リストを作成するかどうかを指定します。

*NONE

中間IRPダンプを作成しません。

***ALL** 中間IRPダンプを作成します。

フェーズ名

各フェーズ名の最後の2桁を入力してください。

[トップ](#)

10進データ・エラーの無視 (IGNDECERR)

10進数データ・エラーを無視するかどうかを指定します。

***NO** 10進数データ・エラーは無視されません。

***YES** 10進数データ・エラーは無視されます。

[トップ](#)

ヌル値使用可能 (ALWNULL)

RPG/400プログラムが外部記述入力ファイルのヌル値可能フィールドからヌル値を受け入れるかどうかを指定します。

***NO** RPG/400プログラムがヌル値フィールドを受け入れないことを指定します。

***YES** RPG/400プログラムが外部記述入力ファイルのヌル値フィールドを受け入れることを指定します。

[トップ](#)

例

例1: ソース・プログラムをプログラム・オブジェクトにコンパイル

```
CRTTRPTPGM  PGM(MYLIB/XMPLE1)
             SRCFILE(MYLIB/QRPGSRC) SRCMBR(XMPLE1)
             OPTION(*SOURCE)
             TEXT('MY RPG III AUTO REPORT PROGRAM')
```

このコマンドはRPG/400コンパイラを呼び出して、XMPLE1という名前の自動レポート・プログラムを作成します。ソース・プログラムはライブラリーMYLIB中のソース・ファイルQRPGSRCのメンバーXMPLE1にあります。コンパイラ・リストが作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

RPT9001

報告書簡易作成機能が正常に実行されなかった。

RPT0082

重大なエラーが起こったため、報告書簡易作成機能の生成は打ち切られた。

QRG9004

TGTRLSオプションに指定されたリリース&1はサポートされていない。

[トップ](#)

S/36 COBOLプログラム作成 (CRTS36CBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CRTS36CBLコマンドは、COBOLソース・プログラムをシステム/36環境で使用するプログラム・オブジェクトにコンパイルします。このコマンドは、対話式、バッチ・モード、あるいはCLプログラムから使用することができます。

CRTS36CBLコマンドで指定するオブジェクト名は、すべて英数字で構成されなければならず、その最初の文字は英字でなければなりません。名前の長さは、8桁以下でなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前, *PGMID	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QS36SRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-29, 29	オプション, 位置 4
NEP	非終了プログラム	*NO, *YES	オプション, 位置 5
MRTMAX	MRT装置の最大数	0-99, 0	オプション, 位置 6
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 50 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *NOXREF, *XREF, *GEN, *NOGEN, *NOSEQUENCE, *SEQUENCE, *NOVBSUM, *VBSUM, *NONUMBER, *NUMBER, *LINENUMBER, *NOMAP, *MAP, *NOOPTIONS, *OPTIONS, *QUOTE, *APOST, *DEBUG, *NODEBUG, *SECLVL, *NOSECLVL, *PRINT, *NOPRINT	オプション
GENOPT	生成オプション	値 (最大 50 回の繰り返し): *NOLIST, *LIST, *NOXREF, *XREF, *NOPATCH, *PATCH, *NODUMP, *DUMP, *NOATR, *ATR, *RANGE, *NORANGE, *UNREF, *NOUNREF, *NOOPTIMIZE, *OPTIMIZE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSPRT	
	修飾子 2: 印刷ファイル・ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
ICFLIB	OS/400-ICFファイルのライブラリー	名前	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*NO, *YES	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT , *PRV	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER , *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
DUMP	コンパイラー・デバッグ・ダンプ	要素リスト	オプション
	要素 1:	1-32767, 1 , *	
	要素 2:	1-32767, 32767	
ITDUMP	中間テキスト・ダンプ	0-31, 0	オプション
FIXDECDTA	10進数データの修正	*NO, *YES	オプション
CPYLIB	コピー・ファイル・ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	オプション

トップ

プログラム (PGM)

作成中のCOBOLプログラム・オブジェクトのプログラム名およびライブラリー名を指定します。考えられる値は次の通りです。

*PGMID

プログラム・オブジェクトの名前は、COBOLソース・プログラムのPROGRAM-ID 段落から取られます。

プログラム名

コンパイル済みCOBOLプログラムを識別する名前を入力してください。このパラメーターにプログラム名を指定してバッチ・モードでコンパイルを実行すると、バッチ・ジョブの最初のプログラムがこの名前を使用し、他のプログラムはソース・プログラムのPROGRAM-ID段落に指定された名前を使用します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

作成したプログラム・オブジェクトを入れるライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルしたいCOBOLソースが入っているソース・ファイルの名前を指定します。考えられる値は次の通りです。

QS36SRC

弊社提供ソース・ファイルQS36SRCに、コンパイルしたいCOBOLソースが入っています。

ソース・ファイル名

コンパイルしたいCOBOLソース・プログラムが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。このソース・ファイルのレコード長は9 2でなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

コンパイルしたいCOBOLソースが入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SRCFILEパラメーターに参照されているソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合だけです。考えられる値は次の通りです。

***PGM** PGMパラメーターにプログラム名を指定した場合には、コンパイラーはこのプログラムと同じ名前のメンバー中のソース・プログラムを検索し、このプログラムおよびメンバーと同じ名前でプログラム・オブジェクトを作成します。

PGMパラメーターにプログラム名を指定しない場合には、コンパイラーはデータベース・ソース・ファイルの最初のメンバー中のソース・プログラムを検索し、PROGRAM-ID 段落に指定された名前を使用してプログラム・オブジェクトを作成します。

ソース・ファイル・メンバー名

COBOLソース・プログラムが入っているメンバー名を入力してください。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

目的プログラムを作成するかどうかを判別する重大度レベルを指定します。この重大度レベルは、プログラムのコンパイル時に作成されるメッセージの重大度レベルに対応します。エラー・メッセージの重大度レベルが指定した値よりも大きい場合には、プログラム・オブジェクトは作成されません。たとえば、このパラメーターに19を指定して、メッセージのいずれかの重大度レベルが20またはそれ以上であれば、プログラム・オブジェクトは作成されません。

29 プログラム中で29より大きい重大度レベルのエラーが起こった場合には、プログラム・オブジェクトは作成されません。

重大度レベル

2桁の数字(00-29)を入力してください。

[トップ](#)

非終了プログラム (NEP)

このプログラムが非終了（または長時間実行）プログラムであるかどうかを指定します。非終了プログラムは休むことなく実行され、他のプログラムとは共用されないシステム資源（ディスク記憶域、表示装置、または印刷装置など）を使用します。非終了プログラムは、その要求元がすべて解放されても終了しません。

考えられる値は次の通りです。

***NO** プログラムは非終了プログラムではありません。

***YES** プログラムは非終了プログラムです。

[トップ](#)

MRT装置の最大数 (MRTMAX)

コンパイル済みプログラムの実行中に使用できる要求元表示装置の最大数を指定します。最大は99です。考えられる値は次の通りです。

0 要求表示装置はありません。

1-99 2桁の数字(00-99)を指定することができます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

プログラムおよびその機能の簡単な記述。考えられる値は次の通りです。

***SRCMBRTXT**

COBOLソースが入っているデータベース・ファイル・メンバーを記述するものと同じテキストをプログラム・オブジェクトに使用します。ソースが装置またはインライン・ファイルから入力された場合には、*SRCMBRTXTの指定は、*BLANKの指定と同じ効果となります。

***BLANK**

テキストは指定されません。

テキスト記述

プログラムおよびその機能を簡単に記述するテキストを入力してください。テキストの長さは最大50桁とすることができますが、アポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィは、50桁のストリングの一部ではありません。

[トップ](#)

ソース・リスト・オプション (OPTION)

COBOLソースのコンパイル時に使用するオプションを指定します。考えられる値は次の通りです。

SOURCE**またはSRC**

コンパイラーは、COBOLソース入力とすべてのコンパイル時エラー・メッセージから構成されるソース・リストを作成します。

NOSOURCE**またはNOSRC**

コンパイラーは、ソース・リストを作成しません。

***NOXREF**

コンパイラーは、ソース・プログラムの相互参照表を作成しません。

***XREF**

コンパイラーは、ソース・プログラムの相互参照表を作成します。

***GEN** コンパイラーは、ソース・プログラムのコンパイル後にプログラム・オブジェクトを作成します。

***NOGEN**

コンパイラーは、構文検査を実行して適切なエラー・メッセージをリストしますが、コンパイル済みプログラム・オブジェクトを作成しません。

***SEQUENCE**

コンパイラーは、ソース・プログラム・ステートメントの順序を検査します。ステートメントの順序が違っている場合には、メッセージが印刷されます。

***NOSEQUENCE**

コンパイラーは、ソース・プログラム・ステートメントの順序を検査しません。

***NOVBSUM**

動詞使用カウントは印刷されません。

***VBSUM**

動詞使用カウントが印刷されます。

***NUMBER**

参照番号として、ユーザー提供の順序番号 (1-6桁目) が使用されます。

***NONUMBER**

参照番号として、ソース・ファイルの順序番号 (1-6桁目) が使用されます。

***LINENUMBER**

コンパイラーによって作成された順序番号が参照番号として使用されます。このオプションは、プログラム・ソース・コードとCOPYステートメントによって提示されたソース・コードを1つの連続番号順に結合します。FIPS (米国情報処理規格) フラグづけを指定する場合には、このオプションを使用してください。

***NOMAP**

コンパイラーは、データ部マップをリストしません。

***MAP** コンパイラーはデータ部マップをリストします。

***OPTIONS**

このコンパイルに有効なオプションがリストされます。

***NOOPTIONS**

このコンパイルに有効なオプションはリストされません。

***QUOTE**

リテラルを記述するために引用符(")を使用することを指定します。

***APOST**

リテラルを記述するのにアポストロフィ (') を使用することを指定します。

***DEBUG**

WITH DEBUGGING MODE文節を含んでいないプログラムにDEBUGを指定しても、このオプションは効果がありません。WITH DEBUGGING ON文節を通常の指定として取り扱います。

***NODEBUG**

WITH DEBUGGING ON文節を注記として取り扱います。

***NOSECLVL**

このコンパイルでは、第2レベル・メッセージ・テキストはリストされません。

***SECLVL**

このコンパイルでは、第2レベル・メッセージ・テキストがリストされます。

***PRINT**

COBOLCプロシージャーによって作成されたコンパイル・リストが印刷されます。

***NOPRINT**

COBOLCプロシージャーによって作成されたコンパイル・リストは印刷または表示されません。

トップ

生成オプション (GENOPT)

プログラム・オブジェクトの作成時に使用するオプションを指定します。このリストは、COBOLで問題が起こった場合に必要になることがあります。考えられる値は次の通りです。

***NOLIST**

IRP (プログラムの中間表示) , 関連した16進コード, またはエラー・メッセージはリストされません。

***LIST** IRP,関連した16進コード, およびエラー・メッセージがリストされます。

***NOXREF**

IRPで定義されているすべてのオブジェクトの相互参照表は作成されません。

***XREF**

IRPで定義されているすべてのオブジェクトの相互参照表が作成されます。

***NOPATCH**

コンパイル済みプログラムに、プログラム・パッチ域用のスペースは予約されません。

***PATCH**

コンパイル済みプログラムに、プログラム・パッチ域用のスペースが予約されます。プログラム・パッチ域は、デバッグ用に使用することができます。

***NODUMP**

プログラム・テンプレートはリストされません。

***DUMP**

プログラム・テンプレートがリストされます。

***NOATR**

IRPソースの属性はリストされません。

***ATR** IRPソースの属性がリストされます。

***NORANGE**

実行時に範囲は検査されません。

***RANGE**

実行時にシステムは添え字が正しい範囲内にあるかどうかを検査しますが、指標の範囲は検査しません。また、コンパイラーによって作成されたコードのサブストリング操作も検査します。

***UNREF**

コンパイル済みプログラムに、参照されていないデータ項目が組み込まれます。

***NOUNREF**

コンパイル済みプログラムには、参照されていないデータ項目は組み込まれません。これにより、使用されるODT（オブジェクト定義テーブル）項目の数が減らされ、より大きいプログラムをコンパイルすることができます。ただし、参照されていないデータ項目は、*XREFオプションによって作成された相互参照表には表示されます。

***NOOPTIMIZE**

コンパイラーはプログラムの標準最適化だけを実行します。

***OPTIMIZE**

作成されたプログラム・オブジェクトはより効率的に実行でき、記憶域も小さくて済みますが、*OPTIMIZEを指定すると、プログラムのコンパイルに必要な時間がかなり長くなる場合があります。

トップ

印刷ファイル (PRTFILE)

コンパイル・リストが送られるファイルの名前およびそのファイルが入られるライブラリーを指定します。このファイルのレコード長は最低132でなければなりません。132より小さいレコード長のファイルを指定すると、情報が失われます。

考えられる値は次の通りです。

QSYSPRT

ファイル名を指定しない場合には、コンパイル・リストは弊社提供のQSYSPRTファイルに送られます。

ファイル名

コンパイラー・リストが送られるファイル名を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リスト*LIBLを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーとして指定したライブラリーが検索されます。現行ライブラリーとしてライブラリーを割り当てていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入れられるライブラリーの名前を入力してください。

トップ

OS/400-ICFファイルのライブラリー (ICFLIB)

プログラムで使用するOS/400-ICFレコード様式定義が入っているライブラリーを指定します。

ICFライブラリー名

OS/400-ICFファイルのライブラリーの名前を入力してください。

トップ

プログラムの置き換え (REPLACE)

同じライブラリーに同じ名前のプログラム・オブジェクトがすでに存在する場合に、新しいプログラム・オブジェクトが作成されるかどうかを指定します。考えられる値は次の通りです。

- *YES** 新しいプログラム・オブジェクトが作成され、指定したライブラリー中の同じ名前の既存のプログラム・オブジェクトはライブラリーQRPLOBJに移動されます。
- *NO** 指定したライブラリーに同じ名前のプログラム・オブジェクトがすでに存在する場合には、新しいプログラム・オブジェクトは作成されません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

正確なリリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定することができます。ここで、VX はバージョン、RXはリリース、およびMXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V3R1M0はバージョン3、リリース1、モディフィケーション・レベル0です。

注: ターゲット・システムでオブジェクトを使用するためには、作成コマンドで指定されたターゲット・リリース・レベルに合わせてオブジェクトを保管し、次にターゲット・システムでこれを復元しなければなりません。

たとえば、ユーザー・システムがV3R1M0で実行している時に、V2R3M0システムに配布するプログラム・オブジェクトを作成したい場合には、TGTRLS(V2R3M0)またはTGTRLS(*PRV)でプログラムを作成し、これをTGTRLS(V2R3M0)またはTGTRLS(*PRV)で保管して、このプログラムをV2R3M0システムで復元しなければなりません。このプログラム・オブジェクトは、V3R1M0システムに復元することもできます。

注: プログラムは、作成コマンドに指定したリリースより前のリリース・レベルで復元することができます。プログラムを実行することができる最も古いリリースを判別するためには、DSPPGMを使用してください。

*CURRENT

このオブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用するためのものです。たとえば、システムでV3R1M0が実行中の場合には、

*CURRENTはV3R1M0が導入されたシステムでオブジェクトを使用することを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上でこのオブジェクトを使用することもできます。

***PRV** このオブジェクトは、オペレーティング・システムの前のリリースのモディフィケーション・レベル0で使用するためのものです。たとえば、ユーザー・システムでV3R1M0が実行中の場合には、*PRVはV2R3M0を導入したシステムでオブジェクトを使用することを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上でこのオブジェクトを使用することもできます。

リリース・レベル

リリースはVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースのシステムまたはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステムで使用することができます。

有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変更されます。有効な値のリストを参照するためには、コマンドのTGTRLSパラメーターでF4=プロンプトを押してください。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

コンパイル済みCOBOLプログラムを実行するユーザー・プロファイルを指定します。プログラムを実行し、プログラムで使用できるオブジェクト（そのプログラムが各オブジェクトに対して持つ権限を含む）を制御するためには、プログラム所有者またはプログラム・ユーザーのプロファイルが使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***USER**

プログラムの実行時には、プログラムの使用者のユーザー・プロファイルが使用されます。

***OWNER**

プログラムの実行時には、プログラムの所有者と使用者の両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの実行時にオブジェクトを見つけてアクセスするためには、両方のユーザーを合わせたオブジェクト権が使用されます。プログラムの実行中に作成されたオブジェクトは、そのプログラムのユーザーが所有します。

トップ

権限 (AUT)

プログラム・オブジェクトに対して特定の権限を持たないか、権限リスト上にないか、あるいはユーザー・グループがプログラム・オブジェクトに対して特定の権限を持たないユーザーに与えられる権限を指定します。権限は、プログラムの作成後にGRTOBJAUT（オブジェクト権限認可）またはRVKOBJAUT（オブジェクト権限取り消し）コマンドを使用して、すべてのユーザーまたは特定のユーザーに対して変更することができます。

考えられる値は次の通りです。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトの共通認可は、ターゲット・ライブラリー（作成されたプログラム・オブジェクトを

入れるライブラリー)のCRTAUTキーワードから取り出されます。この値はオブジェクトの作成時に決定されます。オブジェクトの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、その新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***ALL** 所有者に限定され、あるいは権限リスト管理権限によって制御されるものを除き、プログラム・オブジェクトに対するすべての操作を認可します。ユーザーはプログラム・オブジェクトの存在を制御し、その機密保護を指定し、それを変更し、その基本機能(プログラム・オブジェクトの実行およびデバッグなど)を実行することができます。

***CHANGE**

所有者に限定され、あるいはオブジェクト権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるものを除き、すべてのデータ権限およびプログラム・オブジェクトに対してすべての操作を実行する権限を提供します。ユーザーは、オブジェクトを変更し、オブジェクトに対する基本機能(プログラム・オブジェクトの実行およびデバッグなど)を実行することができます。

***USE** オブジェクト操作権および読み取り権限(プログラムの実行などのプログラム・オブジェクトに対する基本操作権限)を提供します。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。

注: プログラムの変数の定様式ダンプを取得するには、プログラムに対して*USE権限を持っていないければなりません。変数をダンプするには、さらにプログラムが観察可能な情報も持っていません。

一部のユーザーが変数のダンプができることを望まない場合は、ユーザーに*OBJOPRだけに加えてプログラムに*EXECUTE権限を与えてください。これはユーザーにプログラムの呼び出しは許可しますが、その変数をダンプすることは許可しません。

すべてのユーザーに変数のダンプができることを望まない場合は、プログラムの変更(CHGPGM)を使用して、プログラムの観察可能な情報を除去してください。

***EXCLUDE**

一般ユーザーはプログラム・オブジェクトにアクセスすることができません。

権限リスト名

ユーザーの権限リストの名前およびプログラムが追加する権限を入力してください。プログラム・オブジェクトはこの権限リストによって保護され、プログラム・オブジェクトの共通認可は*AUTLに設定されます。CRTS36CBLを出す時には、システム上に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

コンパイラー・デバッグ・ダンプ (DUMP)

IBM COBOLデバッグ援助機能。(弊社技術員用)

[トップ](#)

中間テキスト・ダンプ (ITDUMP)

コンパイル中の一定の時間にコンパイラーに内部テキストをダンプさせるIBMデバッグ援助機能。(弊社技術員用)

[トップ](#)

1 0 進数データの修正 (FIXDECDTA)

1 0 進数データ・エラーを調べます。1 0 進数データ・エラーは、プログラムが正しくないパックまたはゾーン1 0 進数を使用しようとした時に起こります。考えられる値は次の通りです。

***YES** コンパイラーは監視するためのコードを生成して、1 0 進数データ・エラーを訂正します。

***NO** コンパイラーは、1 0 進数データ・エラーを監視するコードを生成しません。そのようなエラーが起こった場合には、プログラムは停止します。

トップ

コピー・ファイル・ライブラリー (CPYLIB)

COPYステートメントに出合った時に検索されるライブラリーの名前を指定します。ライブラリーを指定しない場合には、#LIBRARYが使用されます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

現行ライブラリーとして指定したライブラリーが検索されます。現行ライブラリーとしてライブラリーを割り当てていない場合には、QGPLが使用されます。

***LIBL** COPYファイルが入っているライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが検索されません。

ライブラリー名

COPYファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

例

例1: ソース・プログラムをシステム/36環境で使用するプログラム・オブジェクトにコンパイル

```
CRTS36CBL  PGM(MYLIB/XMPLE1)  SRCFILE(MYLIB/QS36SRC)
           SRCMBR(XMPLE1)  OPTION(*SOURCE)
           TEXT('MY COBOL PROGRAM')
```

このコマンドはCOBOLコンパイラーを呼び出して、XMPLE1という名前のプログラムを作成します。ソース・プログラムはライブラリーMYLIB中のソース・ファイルQS36SRCのメンバーXMPLE1にあります。コンパイラー・リストが作成されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CBL1019

コンパイルが正常に行なわれなかった。プログラムは作成されません。

SBL9001

コンパイルが正常に行なわれなかった。プログラムは作成されません。

SBL9006

TGTRLS(&1)が指定されたが、前のコンパイラーが導入されていない。

SBL9007

プロダクト・ライブラリーに損傷があるか、あるいはユーザーにはその使用が認可されていない。

[トップ](#)

RPG IIプログラムの作成 (CRTS36RPG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36互換RPG IIコンパイラを呼び出すためには、システム/36 RPGプログラム作成(CRTS36RPG)コマンドを使用します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前, *CTLSPEC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QS36SRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-99, 21	オプション
NEP	非終了プログラム	*NO, *YES	オプション
MRTMAX	最大MRT装置数	0-99, 0	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 10 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *DUMP, *NODUMP, *SECLVL, *NOSECLVL, *CONSOLE, *NOCONSOLE	オプション
GENOPT	生成オプション	値 (最大 10 回の繰り返し): *LIST, *NOLIST, *XREF, *NOXREF, *ATR, *NOATR, *DUMP, *NODUMP, *PATCH, *NOPATCH, *OPTIMIZE, *NOOPTIMIZE	オプション
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSPT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ICFLIB	ICFファイルのライブラリー	名前	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER, *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
PHSTRC	フェーズの追跡	*NO, *YES	オプション
ITDUMP	中間テキスト・ダンプ	文字値, *NONE	オプション
SNPDUMP	スナップ・ダンプ	文字値, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CODELIST	コード・リスト	文字値, *NONE, *ALL	オプション
FIXDECDTA	固定小数点データ	*YES, *NO	オプション

トップ

プログラム (PGM)

コンパイル済みRPGプログラムの認識に使用されるライブラリー名およびプログラム名を指定します。

*CTLSPEC

システムによって使用される制御仕様の75-80桁目のプログラム名を指定します。

プログラム名

プログラム・オブジェクトの認識に使用される名前を入力してください。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、#LIBRARYが使用されることになります。

ライブラリー名

コンパイル済みプログラムが入れられるライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

ソース・プログラムが入っているファイルの名前およびそのファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

QS36SRC

省略時のファイル名を指定します。

ソース・ファイル名

コンパイルされるプログラムが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムがライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、#LIBRARYが使用されることになります。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・メンバー (SRCMBR)

ソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***PGM** コンパイルされるソース・プログラムのメンバー名を指定します。

ソース・ファイル・メンバー名

ソース・プログラムが入っているメンバーの名前を入力してください。

トップ

生成重大度レベル (GENLVL)

見つかったエラーの重大度によって、プログラム・オブジェクトが生成されるかどうかを指定します。

21 エラー・メッセージの重大度レベルが21またはこれ以上の場合には、プログラム・オブジェクトを生成しません。

重大度レベル値

0-99の数値を入力してください。RPGメッセージの重大度レベルの値は50を超えてはいけません。

トップ

非終了プログラム (NEP)

現行プログラムを非終了プログラムとするかどうかを指定します。

***NO** このプログラムが非終了プログラムでないことを指定します。

***YES** このプログラムが非終了プログラムであることを指定します。

トップ

最大MRT装置数 (MRTMAX)

要求元表示装置の最大数を指定します。

0 このプログラムはSRTプログラムです。

最大端末数

要求元端末の最大数を示す0-99の数値を入力してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

ユーザーはプログラムおよびその機能を記述するテキストを入力することができます。

*SRCMBRTXT

ソース・プログラム中のテキストを使用します。

*BLANK

テキストを省略します。

テキスト

50文字以下の記述をアポストロフィで囲んで入力してください。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ソース・プログラムのコンパイル時に使用するオプションを指定します。

SOURCE**またはSRC**

コンパイル時のエラーのついたソース・リストを作成します。

NOSOURCE**またはNOSRC**

ソース・リストを作成しません。

***XREF**

相互参照表およびキー・フィールド情報テーブルを作成します。

***NOXREF**

相互参照表およびキー・フィールド情報テーブルを作成しません。*NOSOURCEを指定した時には、これが省略時の値です。

***GEN** 実行可能なプログラムを作成します。

***NOGEN**

実行可能なプログラムを作成しません。

***NODUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷しません。

***DUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷します。

***NOSECLVL**

第2レベル・メッセージを印刷しません。

***SECLVL**

第1レベル・メッセージに続いて第2レベル・メッセージを印刷します。

***CONSOLE**

コンパイル中のプログラムにCONSOLEファイルが含まれている場合に、CONSOLE ファイル用の画面様式を作成します。

***NOCONSOLE**

CONSOLEファイル用の画面様式を作成しません。

[トップ](#)

生成オプション (GENOPT)

プログラム・オブジェクトの作成時に使用するオプションを指定します。

***NOLIST**

プログラムの中間表現(IRP)のリストを作成しません。

***LIST** プログラムの中間表現(IRP)のリストを作成します。

***NOXREF**

IRPの相互参照表を印刷しません。

***XREF**

IRPの相互参照表を印刷します。

***NOATR**

IRPの属性リストを作成しません。

***ATR** IRPの属性リストを作成します。

***NODUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷しません。

***DUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷します。

***NOPATCH**

コンパイル済みプログラム中にプログラム・パッチ域を予約しません。

***PATCH**

コンパイル済みプログラム中にプログラム・パッチ域を予約します。

***NOOPTIMIZE**

プログラムの処理効率を改善しません。

***OPTIMIZE**

プログラムの処理効率を改善します。

トップ

印刷ファイル (PRTFILE)

コンパイル・リストが入れられるファイルの名前およびそのファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

QSYSPRT

ファイル名を指定しない場合には、コンパイル・リストがQSYSPRTファイルに入れられます。

印刷ファイル名

コンパイル・リストが入れられるファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、#LIBRARYが使用されることとなります。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ICFファイルのライブラリー (ICFLIB)

プログラムで使用されるOS/400-ICFレコード様式定義が入っているライブラリーを指定します。

ICFライブラリー名

OS/400-ICFファイルのライブラリーの名前を入力してください。

トップ

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定されたライブラリーの中にすでに同じ名前のプログラムが存在している場合に、新しいプログラム・オブジェクトを作成するかどうかを指定します。

- *YES** 新しいプログラム・オブジェクトが作成され、指定したライブラリーの中の同じ名前の既存のプログラム・オブジェクトはライブラリーQRPLOBJに移動されます。
- *NO** 指定したライブラリーの中に同じ名前のプログラム・オブジェクトがあった場合には、新しいプログラム・オブジェクトは作成されません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成されているオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリースを指定します。

CURRENT**およびPRV**値の説明で示した例、および ターゲット・リリース 値を指定するときのリリースの指定方法は、VXRXXMXの形式です。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V2R3M0は、バージョン2,リリース3,モディフィケーション・レベル0となります。

このパラメーターに対する有効な値はリリースごとに変わります。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

オブジェクトは、ユーザーのシステムで現在実行されているオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、V2R3M5がシステム上で実行されている場合には、***CURRENT**は、ユーザーがV2R3M5の導入されているシステムでオブジェクトを使用する予定であることを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上でこのオブジェクトを使用することもできます。

- *PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベルが0であるオペレーティング・システムの前のリリースで使用されます。たとえば、V2R3M5がユーザーのシステムで実行されている場合には、***PRV**はオブジェクトをV2R2M0が導入されているシステムで使用する予定であることを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上で、このオブジェクトを使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定されたリリースのシステム、またはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されているシステムで使用することができます。

有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。このコマンドでサポートされている最も古いリリースよりもっと前のリリース・レベルを指定した場合には、エラー・メッセージが出され、サポートされている最も古いリリースを表示します。

注: プログラムは、作成コマンドに指定したリリースより前のリリース・レベルで復元することができません。プログラムを実行することができる最も古いリリースを判別するためには、DSPPGMを使用してください。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

コンパイル済みRPGプログラムを実行するユーザー・プロファイルを指定します。

***USER**

プログラムの実行時にプログラムの使用者のプロファイルを使用します。

***OWNER**

プログラムの実行時にプログラムの所有者と使用者の両方のユーザー・プロファイルを使用します。プログラムがすでに存在している場合には、USRPRFパラメーターは更新されません。

トップ

権限 (AUT)

このプログラムのために認可する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

作成されたオブジェクトに対する省略時の共通認可は、ターゲット・ライブラリーと対応したCRTAUTキーワードから取り出されます。この値は作成時に決定されます。作成後にライブラリーのCRTAUTキーワードの値が変わっても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***ALL** プログラムに対する完全な権限（オブジェクト所有権の移転を除く）が認められます。

***CHANGE**

オブジェクトの存在および管理を取り扱う操作以外のすべての操作が認められます。

***USE** コンパイル済みプログラムの読み取りまたは実行は認められますが、デバッグまたは変更はできません。

注: プログラムの変数の定様式ダンプを取得するには、プログラムに対して***USE**権限を持っていないければなりません。変数をダンプするには、さらにプログラムが観察可能な情報も持っていません。

一部のユーザーが変数のダンプができることを望まない場合は、ユーザーに***OBJOPR**だけに加えてプログラムに***EXECUTE**権限を与えてください。これはユーザーにプログラムの呼び出しは許可しますが、その変数をダンプすることは許可しません。

すべてのユーザーに変数のダンプができることを望まない場合は、プログラムの変更(CHGPGM)を使用して、プログラムの観察可能な情報を除去してください。

***EXCLUDE**

権限は認められません。

権限リスト

オブジェクトを保護する権限リストの名前。共通認可は***AUTL**になります。

トップ

フェーズの追跡 (PHSTRC)

コンパイラー・フェーズの追跡情報をリストに含めるかどうかを指定します。

***NO** コンパイラー・フェーズの情報を含めません。

***YES** コンパイラー・フェーズの情報を含めます。

中間テキスト・ダンプ (ITDUMP)

指定されたコンパイラー・フェーズの中間テキストの動的リストを作成します。

***NONE**

中間テキスト・ダンプを作成しません。

フェーズ名

1-25個のフェーズ名の4-5桁目を入力してください。

トップ

スナップ・ダンプ (SNPDUMP)

1つまたは複数の指定されたフェーズのコンパイルの後に主要データ域および中間テキストのリストを作成します。

***NONE**

スナップ・ダンプを作成しません。

フェーズ名

1-25個のフェーズ名の4-5桁目を入力してください。

トップ

コード・リスト (CODELIST)

指定されたコンパイラー・フェーズのプログラムの中間表現(IRP)の動的リストを作成します。

***NONE**

IRPリストを作成しません。

***ALL** 各コンパイラー・フェーズのIRPリストを作成します。

フェーズ名

1-25個のフェーズ名の4-5桁目を入力してください。

トップ

固定小数点データ (FIXDECDTA)

正しくない10進数データを訂正するか、あるいはエラーを通知するかを指定します。

***YES** A-Fの範囲の数値をゼロに、正しくない符号をプラスにセットすることによって、正しくないデータが訂正されます。

***NO** 正しくないデータを訂正せずに、プログラムにエラーを通知します。

トップ

例

例1: ソース・プログラムをプログラム・オブジェクトにコンパイル

```
CRTS36RPG  PGM(MYLIB/XMPLE1)
           SRCFILE(MYLIB/QS36SRC) SRCMBR(XMPLE1)
           OPTION(*SOURCE) TEXT('MY RPG II PROGRAM')
```

このコマンドはSYSTEM/36互換RPG IIコンパイラを呼び出して、XMPLE1という名前のプログラムを作成します。ソース・プログラムはライブラリーMYLIB中のソース・ファイルQS36SRCのメンバーXMPLE1にあります。コンパイラ・リストが作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

QRG9001

コンパイルが正常に実行されなかった。プログラムは作成されません。

QRG9004

TGTRLSオプションに指定されたリリース&1はサポートされていない。

[トップ](#)

コンソール表示装置ファイル作成 (CRTS36RPGR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CONSOLE表示装置ファイルを作成するためには、システム/36 RPGR作成(CRTS36RPGR)コマンドを使用します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRCMBR	ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QS36SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
OUTLIB	出力ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	オプション, 定位置 3
FMTSRCF	S/36形式を受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: S/36形式を受け取るファイル	名前, <u>*SRCFILE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*SRCLIB</u>	
FMTMBR	形式を受け取るメンバー	名前, <u>*CRTDFT</u>	オプション, 定位置 5
DDSSRCF	DDSを受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: DDSを受け取るファイル	名前, <u>*SRCFILE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*SRCLIB</u>	
DDSMBR	DDSを受け取るメンバー	名前, <u>*CRTDFT</u>	オプション
GEN	コンソール形式の生成	<u>*YES</u> , *NO	オプション
REPLACE	出力メンバーの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

RPG IIプログラム仕様が入っているソース・メンバーを指定します。

ソース・ファイル・メンバー名

ソース・プログラムが入っているメンバーの名前を入力してください。

ソース・ファイル (SRCFILE)

RPG IIソース・メンバーが入っているファイルおよびそのファイルが入っているライブラリーを指定します。

QS36SRC

省略時のファイル名を指定します。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、**#LIBRARY**が使用されることになります。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

出カライブラリー (OUTLIB)

画面様式のオブジェクト・メンバーが入っているライブラリーを指定します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、**#LIBRARY**が使用されることになります。

出カライブラリー名

オブジェクト・メンバーが入れられるライブラリーの名前を入力してください。

トップ

S/36形式を受け取るファイル (FMTSRCF)

S仕様およびD仕様を含むメンバーが入れられるファイルおよびそのファイルが入れられるライブラリーを指定します。

***SRCFILE**

ソース・ファイル・パラメーター(SRCFILE)に指定されたファイル名を使用します。

***NONE**

S仕様およびD仕様を作成されないことを指定します。

S仕様およびD仕様のソース・ファイル名

S仕様およびD仕様が入れられるファイルの名前を入力してください。

***SRCLIB**

ソース・ファイル・ライブラリー名(SRCFILEパラメーター)に指定された同じライブラリーを使用します。

S仕様およびD仕様のライブラリー名

S仕様およびD仕様のソース・ファイルが入れられるライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

形式を受け取るメンバー (FMTMBR)

S仕様およびD仕様が入れられるメンバーを指定します。

*CRTDFT

指定されたソース・メンバー名(SRCMBR)の終わりに'FM'を追加して使用します。

S仕様およびD仕様のメンバー名

S仕様およびD仕様が入れられるメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

DDSを受け取るファイル (DDSSRCF)

DDS仕様を含むメンバーが入れられるファイルおよびそのファイルが入れられるライブラリーを指定します。

*SRCFILE

ソース・ファイル・パラメーター(SRCFILE)に指定されたファイル名を使用します。

*NONE

DDS仕様を作成されないことを指定します。

DDSソース・ファイル名

DDSメンバーが入れられるソース・ファイルの名前を入力してください。

*SRCLIB

ソース・ファイル・ライブラリー名(SRCFILEパラメーター)に指定された同じライブラリーを使用します。

DDSライブラリー名

ソースDDSファイルが入れられるライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

DDSを受け取るメンバー (DDSMBR)

DDS仕様が入れられるメンバーを指定します。

*CRTDFT

指定されたソース・メンバー名(SRCMBR)の終わりに'A'を追加して使用します。

DDSメンバー名

DDS仕様が入れられるメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

コンソール形式の生成 (GEN)

CONSOLEファイル用の画面様式が作成されることを指定します。

- *YES** 画面様式が生成されることを指定します。
- *NO** 画面様式が生成されないことを指定します。

[トップ](#)

出力メンバーの置き換え (REPLACE)

指定されたライブラリーの中に同じ名前のファイルがすでに存在している場合に、新しいCONSOLE表示装置ファイルを作成するかどうかを指定します。

- *YES** 新しいCONSOLE表示装置ファイルが作成され、指定したライブラリーの中の同じ名前の既存のCONSOLE表示装置ファイルはすべて削除されることを指定します。
- *NO** 指定したライブラリーに同じ名前のメンバーが存在している場合には、新しいCONSOLE表示装置ファイルが作成されないことを指定します。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このプログラムのために認可する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

作成されたオブジェクトに対する省略時の共通認可は、ターゲット・ライブラリーと対応したCRTAUTキーワードから取り出されます。この値は作成時に決定されます。作成後にライブラリーのCRTAUTキーワードの値が変わっても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

- *ALL** プログラムに対する完全な権限（オブジェクト所有権の移転を除く）が認められます。
- *CHANGE** オブジェクトの存在および管理を取り扱う操作以外のすべての操作が認められます。
- *USE** コンパイル済みプログラムの読み取りまたは実行は認められますが、デバッグまたは変更はできません。
- *EXCLUDE** 権限は認められません。

権限リスト

オブジェクトを保護する権限リストの名前。共通認可は*AUTLになります。

[トップ](#)

例

例1: ソース・プログラムをプログラム・オブジェクトにコンパイル

```
CRTS36RPGR SRCMBR(XMPLE1) SRCFILE(MYLIB/QS36SRC)
            OUTLIB(MYLIB)
            FMTSRCF(*SRCLIB/QS36DDSSRC) FMTMBR(*CRTDFT)
            DDSSRCF(*SRCLIB/QDDSSRC) DDSMBR(*CRTDFT)
            REPLACE(*YES)
```

このコマンドはRPG IIソース・メンバーXMPLE1からCONSOLEファイル用の表示装置ファイルを作成します。ファイルの名前はRPGソースの制御(H)仕様の75桁目の名前の後にFMが続きます。例えば、制御仕様の75-80桁目にXMPLE1が含まれる場合は、表示装置ファイルはXMPLE1FMと名前付けられます。ソース・メンバーXMPLE1FMは、ファイルMYLIB/QS36DDSSRCに作成されて、SYSTEM/36様式SおよびD仕様)を入れます。ソース・メンバーXMPLE1Aは、ファイルMYLIB/QDDSSRCに作成されて、ファイルMYLIB/XMPLE1FMの作成に使用したDSPF DDSを入れます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

S/36 RPG II報告書簡易作成 (CRTS36RPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36互換RPG IIコンパイラーを呼び出すためには、システム/36報告書簡易作成(CRTS36RPT)コマンドを使用します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前, *CTLSPEC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QS36SRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-99, 21	オプション
NEP	非終了プログラム	*NO, *YES	オプション
MRTMAX	最大MRT装置数	0-99, 0	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 10 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *DUMP, *NODUMP, *SECLVL, *NOSECLVL, *CONSOLE, *NOCONSOLE	オプション
GENOPT	生成オプション	値 (最大 10 回の繰り返し): *LIST, *NOLIST, *XREF, *NOXREF, *ATR, *NOATR, *DUMP, *NODUMP, *PATCH, *NOPATCH, *OPTIMIZE, *NOOPTIMIZE	オプション
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSPRT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ICFLIB	ICFファイルのライブラリー	名前	オプション
RPTOPT	報告書簡易作成機能オプション	値 (最大 10 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *FLOW, *NOFLOW, *AST, *NOAST, *DATE, *NODATE, *COMPILE, *NOCOMPILE, *SECLVL, *NOSECLVL	オプション
OUTFILE	報告書簡易作成機能用保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 報告書簡易作成機能用保管ファイル	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	報告書簡易作成機能保管 FILMBR	名前, <u>*NONE</u>	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, <u>*CURRENT</u> , *PRV	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	<u>*USER</u> , *OWNER	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
PHSTRC	フェーズの追跡	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ITDUMP	中間テキスト・ダンプ	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
SNPDUMP	スナップ・ダンプ	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CODELIST	コード・リスト	文字値, <u>*NONE</u> , *ALL	オプション
FIXDECDTA	固定小数点データ	<u>*YES</u> , *NO	オプション

トップ

プログラム (PGM)

コンパイル済みRPGプログラムの認識に使用されるライブラリー名およびプログラム名を指定します。

*CTLSPEC

システムによって使用される制御仕様の75-80桁目のプログラム名を指定します。

プログラム名

プログラム・オブジェクトの認識に使用される名前を入力してください。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、#LIBRARYが使用されることとなります。

ライブラリー名

コンパイル済みプログラムが入られるライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

ソース・プログラムが入っているファイルの名前およびそのファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

QS36SRC

省略時のファイル名を指定します。

ソース・ファイル名

コンパイルされるプログラムが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。

*LIBL ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムがライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、#LIBRARYが使用されることとなります。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

ソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***PGM** プログラム名(PGMパラメーター) に指定された名前を使用します。

ソース・ファイル・メンバー名

ソース・プログラムが入っているメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

見つかったエラーの重大度によって、プログラム・オブジェクトが生成されるかどうかを指定します。

21 エラー・メッセージの重大度レベルが2 1またはこれ以上の場合には、プログラム・オブジェクトを生成しません。

重大度レベル値

0-99の数値を入力してください。RPGメッセージの重大度レベルの値は5 0を超えてはいけません。

[トップ](#)

非終了プログラム (NEP)

現行プログラムを非終了プログラムとするかどうかを指定します。

***NO** このプログラムが非終了プログラムでないことを指定します。

***YES** このプログラムが非終了プログラムであることを指定します。

[トップ](#)

最大MRT装置数 (MRTMAX)

要求元表示装置の最大数を指定します。

0 このプログラムはS R Tプログラムです。

最大端末数

要求元端末の最大数を示す0-99の数値を入力してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

ユーザーはプログラムおよびその機能を記述するテキストを入力することができます。

***SRCMBRTXT**

ソース・プログラム中のテキストを使用します。

***BLANK**

テキストを省略します。

テキスト

50文字以下の記述をアポストロフィで囲んで入力してください。

[トップ](#)

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ソース・プログラムのコンパイル時に使用するオプションを指定します。

SOURCE**またはSRC**

コンパイル時のエラーのついたソース・リストを作成します。

NOSOURCE**またはNOSRC**

ソース・リストを作成しません。

***XREF**

相互参照表およびキー・フィールド情報テーブルを作成します。

***NOXREF**

ソース・リストおよびキー・フィールド情報テーブルは作成されません。*NOSOURCEを指定した時には、これが省略時の値です。

***GEN** 実行可能なプログラムを作成します。

***NOGEN**

実行可能なプログラムを作成しません。

***NODUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷しません。

***DUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷します。

***NOSECLVL**

第2レベル・メッセージを印刷しません。

***SECLVL**

第1レベル・メッセージに続いて第2レベル・メッセージを印刷します。

***CONSOLE**

コンパイル中のプログラムにCONSOLEファイルが含まれている場合に、CONSOLE ファイル用の画面様式を作成します。

***NOCONSOLE**

CONSOLEファイル用の画面様式を作成しません。

[トップ](#)

生成オプション (GENOPT)

プログラム・オブジェクトの作成時に使用するオプションを指定します。

***NOLIST**

プログラムの中間表現(IRP)のリストを作成しません。

***LIST** プログラムの中間表現(IRP)のリストを作成します。

***NOXREF**

IRPの相互参照表を印刷しません。

***XREF**

IRPの相互参照表を印刷します。

***NOATR**

IRPの属性リストを作成しません。

***ATR** IRPの属性リストを作成します。

***NODUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷しません。

***DUMP**

エラーが起こった時にプログラム・テンプレートを印刷します。

***NOPATCH**

コンパイル済みプログラム中にプログラム・パッチ域を予約しません。

***PATCH**

コンパイル済みプログラム中にプログラム・パッチ域を予約します。

***NOOPTIMIZE**

プログラムの処理効率を改善しません。

***OPTIMIZE**

プログラムの処理効率を改善します。

トップ

印刷ファイル (PRTFILE)

コンパイル・リストが入れられるファイルの名前およびそのファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

QSYSPRT

ファイル名を指定しない場合には、コンパイル・リストがQSYSPRTファイルに入れられます。

印刷ファイル名

コンパイル・リストが入れられるファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、#LIBRARYが使用されることになります。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ICFファイルのライブラリー (ICFLIB)

プログラムで使用されるOS/400-ICFレコード様式定義が入っているライブラリーを指定します。

ICFライブラリー名

OS/400-ICFファイルのライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

報告書簡易作成機能オプション (RPTOPT)

報告書簡易作成機能のソース・プログラムのコンパイル時に使用するオプションを指定します。

*NOSOURCEまたは*NOSRC

ソース・リストを作成しません。

*SOURCEまたは*SRC

ソース・リストを作成します。

*NOFLOW

主要ルーチンのフローを書き出しません。

*FLOW

主要ルーチンのフローを書き出します。

*NOAST

合計出力行にアスタリスクを作成しません。

***AST** 合計出力行にアスタリスクを作成します。

*DATE

最初の*AUTOページ見出し行に日付およびページ番号を印刷します。

*NODATE

最初の*AUTOページ見出し行に日付およびページ番号を印刷しません。

*COMPILE

報告書簡易作成機能のソースのコンパイル後にRPGコンパイラーを呼び出します。

*NOCOMPILE

報告書簡易作成機能のソースのコンパイル後にRPGコンパイラーを呼び出しません。

*NOSECLVL

第2レベル・メッセージを印刷しません。

*SECLVL

第1レベル・メッセージに続いて第2レベル・メッセージを印刷します。

[トップ](#)

報告書簡易作成機能用保管ファイル (OUTFILE)

コンパイルされた報告書簡易作成機能プログラムが入れられる出力ファイルの名前およびそのファイルが入れられるライブラリーの名前を指定します。

*NONE

作成されるソース・プログラムをコンパイラーに渡すためにQTEMP中にファイルを作成します。

出力ファイル名

正しいRPG IIソース・プログラムが入っているファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムがライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、**#LIBRARY**が使用されることになります。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

報告書簡易作成機能保管FILMBR (OUTMBR)

報告書簡易作成機能プログラムからの出力が入られるファイルのメンバーの名前を指定します。

***NONE**

メンバー名としてファイル中の最初のメンバーを使用します。

ファイル・メンバー名

報告書簡易作成機能の出力を入れるメンバーの名前を入力してください。

トップ

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定されたライブラリーの中にすでに同じ名前のプログラムが存在している場合に、新しいプログラム・オブジェクトを作成するかどうかを指定します。

***YES** 新しいプログラム・オブジェクトが作成され、指定したライブラリーの中の同じ名前の既存のプログラム・オブジェクトはライブラリーQRPLOBJに移動されます。

***NO** 指定したライブラリーの中に同じ名前のプログラム・オブジェクトがあった場合には、新しいプログラム・オブジェクトは作成されません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成されているオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリースを指定します。

CURRENT**およびPRV**値の説明で示した例、および ターゲット・リリース 値を指定するときのリリースの指定方法は、VXRXXMXの形式です。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V2R3M0は、バージョン2,リリース3,モディフィケーション・レベル0となります。

このパラメーターに対する有効な値はリリースごとに変わります。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

オブジェクトは、ユーザーのシステムで現在実行されているオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、V2R3M5がシステム上で実行されている場合には、*CURRENTは、ユーザーがV2R3M5の導入されているシステムでオブジェクトを使用する予定であることを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上でこのオブジェクトを使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、モディフィケーション・レベルが0であるオペレーティング・システムの前のリリースで使用されます。たとえば、V2R3M5がユーザーのシステムで実行されている場合には、*PRVはオブジェクトをV2R2M0が導入されているシステムで使用する予定であることを意味します。また、オペレーティング・システムの後続のリリースが導入されたシステム上で、このオブジェクトを使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定されたりリリースのシステム、またはオペレーティング・システムの後続のリリースが導入されているシステムで使用することができます。

有効な値は、現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、新しいリリースごとに変わります。このコマンドでサポートされている最も古いリリースよりもっと前のリリース・レベルを指定した場合には、エラー・メッセージが出され、サポートされている最も古いリリースを表示します。

注: プログラムは、作成コマンドに指定したリリースより前のリリース・レベルで復元することができません。プログラムを実行することができる最も古いリリースを判別するためには、DSPPGMを使用してください。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

コンパイル済みRPGプログラムを実行するユーザー・プロファイルを指定します。

***USER**

プログラムの実行時にプログラムの使用者のプロファイルを使用します。

***OWNER**

プログラムの実行時にプログラムの所有者と使用者の両方のユーザー・プロファイルを使用します。プログラムがすでに存在している場合には、USRPRFパラメーターは更新されません。

トップ

権限 (AUT)

このプログラムのために認可する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

作成されたオブジェクトに対する省略時の共通認可は、ターゲット・ライブラリーと対応したCRTAUTキーワードから取り出されます。この値は作成時に決定されます。作成後にライブラリーのCRTAUTキーワードの値が変わっても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***ALL** プログラムに対する完全な権限（オブジェクト所有権の移転を除く）が認められます。

***CHANGE**

オブジェクトの存在および管理を取り扱う操作以外のすべての操作が認められます。

***USE** コンパイル済みプログラムの読み取りまたは実行は認められますが、デバッグまたは変更はできません。

注: プログラムの変数の定様式ダンプを取得するには、プログラムに対して***USE**権限を持っていないければなりません。変数をダンプするには、さらにプログラムが観察可能な情報も持っていません。

一部のユーザーが変数のダンプができることを望まない場合は、ユーザーに***OBJOPR**だけに加えてプログラムに***EXECUTE**権限を与えてください。これはユーザーにプログラムの呼び出しは許可しますが、その変数をダンプすることは許可しません。

すべてのユーザーに変数のダンプができることを望まない場合は、プログラムの変更(**CHGPGM**)を使用して、プログラムの観察可能な情報を除去してください。

***EXCLUDE**

権限は認められません。

権限リスト

オブジェクトを保護する権限リストの名前。共通認可は***AUTL**になります。

トップ

フェーズの追跡 (PHSTRC)

コンパイラー・フェーズの追跡情報をリストに含めるかどうかを指定します。

***NO** コンパイラー・フェーズの情報を含めません。

***YES** コンパイラー・フェーズの情報を含めます。

トップ

中間テキスト・ダンプ (ITDUMP)

指定されたコンパイラー・フェーズの中間テキストの動的リストを作成します。

***NONE**

中間テキスト・ダンプを作成しません。

フェーズ名

1-25個のフェーズ名の4-5桁目を入力してください。

トップ

スナップ・ダンプ (SNPDUMP)

1つまたは複数の指定されたフェーズのコンパイルの後に主要データ域および中間テキストのリストを作成します。

***NONE**

スナップ・ダンプを作成しません。

フェーズ名

1-25個のフェーズ名の4-5桁目を入力してください。

[トップ](#)

コード・リスト (CODELIST)

指定されたコンパイラー・フェーズのプログラムの中間表現(IRP)の動的リストを作成します。

*NONE

IRPリストを作成しません。

***ALL** 各コンパイラー・フェーズのIRPリストを作成します。

フェーズ名

1-25個のフェーズ名の4-5桁目を入力してください。

[トップ](#)

固定小数点データ (FIXDECDA)

正しくない10進数データを訂正するか、あるいはエラーを通知するかを指定します。

***YES** A-Fの範囲の数値をゼロに、正しくない符号をプラスにセットすることによって、正しくないデータが訂正されます。

***NO** 正しくないデータを訂正せずに、プログラムにエラーを通知します。

[トップ](#)

例

例1: ソース・プログラムをプログラム・オブジェクトにコンパイル

```
CRTS36RPT  PGM(MYLIB/XMPLE1)
           SRCFILE(MYLIB/QS36SRC) SRCMBR(XMPLE1)
           OPTION(*SOURCE)
           TEXT('MY RPG II AUTO REPORT PROGRAM')
```

このコマンドはSYSTEM/36互換RPG IIコンパイラーを呼び出して、XMPLE1という名前の自動レポート・プログラムを作成します。ソース・プログラムはライブラリーMYLIB中のソース・ファイルQS36SRCのメンバーXMPLE1にあります。コンパイラー・リストが作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

RPT9001

報告書簡易作成機能が正常に実行されなかった。

QRG9004

TGTRLSオプションに指定されたリリース&1はサポートされていない。

RPT0082

重大エラーが起こったために、報告書簡易作成機能による生成は打ち切られた。

[トップ](#)

RPGソースの変換 (CVTRPGSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPGソースの変換

RPGソース変換(CVTRPGSRC)コマンドは、RPG IIIまたはRPG/400ソース・コードをILE RPGソース・コードに変換します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 2
TOFILE	TOファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: TOファイル	名前, QRPGLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOMBR	TOメンバー	名前, *FROMMBR	オプション, 定位置 4
EXPCPY	コピー・メンバーの拡張	*NO, *YES	オプション
CVTRPT	変更報告書の印刷	*YES, *NO	オプション
SECLVL	第2レベルのテキストの組込	*NO, *YES	オプション
INSRTPL	仕様テンプレートの挿入	*NO, *YES	オプション
LOGFILE	ログ・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ログ・ファイル	名前, QRNCVTLG	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LOGMBR	ログ・ファイル・メンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション

[トップ](#)

FROMファイル (FROMFILE)

変換されるRPG IIIまたはRPG/400ソース・コードが入っているソース・ファイルおよびこのソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。これは必須パラメーターです。省略時のファイル名はありません。

ソース・ファイル名

変換されるソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ソース・ファイルが保管されているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

FROMメンバー (FROMMBR)

変換されるソース・メンバーの名前を指定します。これは必須パラメーターです。省略時のメンバー名はありません。

変換されるソース・メンバーの有効なソース・メンバー・タイプはRPG, RPT, RPG38, RPT38, SQLRPG, およびブランクです。RPGソース変換コマンドはソース・メンバー・タイプがRPG36, RPT36, およびRPG以外のソース・メンバー・タイプ（たとえば, CLPやTXT）をサポートしません。

ソース・ファイル・メンバー名

変換されるソース・メンバーの名前を入力してください。

***ALL** このコマンドは、指定されたソース・ファイル中のすべてのメンバーを変換します。

総称*ソース・ファイル・メンバー名

同じ接頭部で後に'*'（アスタリスク）が続くメンバー名の総称名を入力してください。コマンドは、指定されたソース・ファイル中でこの総称名をもつすべてのメンバーを変換します。たとえば、FROMMBR(PR*)を指定すると、名前が'PR'で始まるすべてのメンバーが変換されます。

[トップ](#)

TOファイル (TOFILE)

変換されたソース・メンバーが入るソース・ファイルおよび変換済みファイルが保管されているライブラリーの名前を指定します。変換済みソース・ファイルは存在していなければならず、112文字のレコード長でなければなりません。12文字は順序番号および日付用で、80文字はコード用、20文字は注記用です。

QRPGLESRC

変換されたソース・メンバーが省略時のソース・ファイルQRPGLESRCに入ります。

*NONE

変換済みソース・メンバーは生成されません。TOMBRパラメーターの値は無視されます。CVTRPT(*YES)も指定しなければなりません。さもないと変換がただちに終了します。

この機能によって、変換済みソース・メンバーを作成しなくても潜在的な問題を見つけることができます。

ソース・ファイル名

変換されたソース・メンバーが入る変換済みソース・ファイルの名前を入力してください。

TOFILEライブラリー名がFROMFILEライブラリー名と同じである場合には、TOFILEソース・ファイル名がFROMFILEソース・ファイル名と異ならなければなりません。

***LIBL** 変換済みソース・ファイルが保管されているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

変換済みソース・ファイルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

ライブラリー名

変換済みソース・ファイルが保管されているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

TOメンバー (TOMBR)

変換済みソース・ファイル中の変換済みソース・メンバーの名前を指定します。FROMMBRパラメーターに指定された値が(*ALL)または総称*である場合には、TOMBR はFROMMBRと等しくなければなりません。

***FROMMBR**

FROMMBRパラメーターに指定されたメンバー名が変換済みソース・メンバー名として使用されます。FROMMBR(*ALL)が指定された場合には、FROMFILE中のすべてのソース・メンバーが変換されます。変換済みソース・メンバーは元のソース・メンバーと同じ名前をもちます。FROMMBRパラメーターに総称名が指定された場合には、その名前に指定された接頭部をもつすべてのソース・メンバーが変換されます。変換済みソース・メンバーは元の総称ソース・メンバーと同じ名前をもちます。

ソース・ファイル・メンバー名

変換済みソース・メンバーの名前を入力してください。このメンバーが存在していない場合には、作成されます。

[トップ](#)

コピー・メンバーの拡張 (EXPCPY)

/COPYメンバーが変換済みソース・メンバーに拡張されるかどうかを指定します。/COPYメンバーに関連する変換上の問題がある場合のみEXPCPY(*YES)を指定してください。

***NO** /COPYファイル・メンバーは変換済みソースに拡張されません。これが省略時の値です。

***YES** /COPYファイル・メンバーは変換済みソースに拡張されます。

注: メンバーのタイプがRPTまたはRPT38の場合には、報告書簡易作成プログラムは常に/COPYメンバーを展開するので、EXPCPY(*YES)またはEXPCPY(*NO)は影響をもちません。

[トップ](#)

変更報告書の印刷 (CVTRPT)

変換報告書を印刷するかしないかを指定します。

***YES** 変換報告書が印刷されます。これが省略時の値です。

***NO** 変換報告書が印刷されません。

トップ

第2レベルのテキストの組込 (SECLVL)

変換報告書に第2レベルのテキストを印刷するかしないかを指定します。

***NO** 変換報告書に第2レベル・メッセージ・テキストは印刷されません。これが省略時の値です。

***YES** 変換報告書に第2レベル・メッセージ・テキストが印刷されます。

トップ

仕様テンプレートの挿入 (INSRTPL)

ILE RPG仕様テンプレート(H-, F-, D-, I-, C-, O-仕様テンプレート)を変換済みソース・メンバーに挿入するかどうかを指定します。

***NO** 仕様テンプレートが変換済みソース・メンバーに挿入されません。これが省略時の値です。

***YES** 仕様テンプレートが変換済みソース・メンバーに挿入されます。各仕様テンプレートは、適切な仕様セクションの先頭に挿入されます。

トップ

ログ・ファイル (LOGFILE)

変換情報を追跡するために使用されるログ・ファイルの名前を指定します。***NONE** を指定しない限り、ログ・ファイルが必要です。ファイルがすでに存在していて、物理データ・ファイルでなければなりません。ライブラリーQRPGLE中の「元オブジェクト」ファイルQRNCVTLGおよびユーザー・ライブラリー中の「新しいオブジェクト」ファイルQRNCVTLGを指定したCPYFコマンドを使用してログ・ファイルを作成してください。

QRNCVTLG

変換情報を入れるために省略時のログ・ファイルQRNCVTLGが使用されます。

*NONE

変換情報はログ・ファイルに書き込まれません。

ログ・ファイル名

変換情報を追跡するために使用されるログ・ファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ログ・ファイルが保管されているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

ライブラリー名

ログ・ファイルが保管されているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ログ・ファイル・メンバー (LOGMBR)

変換情報を追跡するために使用されるログ・ファイル・メンバーの名前を指定します。新しい情報は、指定されたログ・ファイル・メンバーの既存のデータに追加されます。

ログ・ファイルにメンバーが入っていない場合には、ログ・ファイルと同じ名前をもつメンバーが作成されます。

***FIRST**

コマンドは、指定されたログ・ファイル中の最初のメンバーを使用します。これが省略時の値です。

***LAST** コマンドは、指定されたログ・ファイル中の最後のメンバーを使用します。

ログ・ファイル・メンバー名

変換情報を追跡するために使用されるファイル・メンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

例

例1: RPG IIIソースのRPG IVソースへの変換

```
CVTRPGSRC  FROMFILE(MYLIB/QRPGSRC) FROMMBR(XMPLE1)
           TOFILE(MYLIB/QRPGLESRC) TOMBR(*FROMMBR)
           EXPCPY(*NO)
           CVTRPT(*YES) LOGFILE(MYLIB/QRNCVTLG)
```

このコマンドはファイルMYLIB/QRPGSRC中のRPG IIIソース・メンバーXMPLE1を、ファイルMYLIB/QRPGLESRC中の同じ名前のRPG IVソース・メンバーに変換します。RPG IIIプログラムの/COPYステートメントは展開されません。これらは、RPG IVプログラムで/COPYステートメントとして残ります。報告書が印刷されます。それぞれの変換の状況は、ファイルMYLIB/QRNCVTLGに配置されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

RNS9350

変換が終了した。

[トップ](#)

COBOLデバッグ終了 (ENDCBLDBG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

このコマンドは、COBOLプログラムでWITH DEBUGGING MODE文節が使用されている場合に作成されるデバッグ・コードを非活動化します。このコマンドは、デバッグを停止する各COBOLプログラムに対して入力する必要があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

プログラム (PGM)

コンパイル済みCOBOLプログラムの名前およびそれが入っているライブラリーを指定します。これは必須パラメーターです。考えられる値は次の通りです。

プログラム名

コンパイル済みCOBOLプログラムが認識される名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムは、プログラムが入っているライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

作成されたプログラムが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

例

例1: COBOLプログラムのデバッグ・コードを非活動化します

```
ENDCBLDBG PGM(MYLIB/XMPLE1)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに作成されたCOBOLプログラムXMPLE1のデバッグ・コードを非活性化します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CBE7018

プログラム&1が見つからなかった。

CBE7019

ライブラリー&1が見つからなかった。

LBE7018

プログラム&1が見つからない。

LBE7019

ライブラリー&1が見つからない。

[トップ](#)

ISDBの終了 (ENDISDB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IMOD *IREXX
*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

対話型ソース・デバッガーの終了

サービスするジョブの対話型ソース・デバッガー・セッションを終了するためには、このコマンドを使用してください。このコマンドにはパラメーターはありません。

このコマンドを出すと、デバッグしていたすべてのプログラムがデバッグ・モードから除去されます。

デバッグ・セッションで使用したコマンドの記録は、QTEMP/QIXALOGという名前のファイルに保管されます。

ユーザーが新しいセッションを開始するたびに、ISDBはこのログ・ファイルに重ね書きします。コマンドを再度使用するためにログ・ファイルを保持する場合は、ファイルの名前を変更してください。

エラー・メッセージ: ENDISDB

なし

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

PDMを使用したストリングの検索 (FNDSTRPDM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PDMを使用したストリングの検索 (FNDSTRPDM)コマンドによって、ソース物理ファイル・メンバーまたはデータ物理ファイル・メンバー中の文字ストリングまたは16進数ストリングを検索することができます。ストリングに一致がある各メンバーについて、いずれかのプログラム開発管理機能(PDM)オプションまたは独自のユーザー定義オプションの1つを使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
STRING	'ストリング'の検索	文字値	必須, 定位置 1
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値, *ALL	必須, 定位置 3
OPTION	実行する操作	要素リスト	必須, 定位置 4
	要素 1: オプション	文字値, *EDIT, *COPY, *DLT, *DSP, *PRT, *RNM, *DSPD, *SAVE, *CHGT, *CMPR, *CMPL, *MOD, *MRG, *RUNP, *SDA, *DFU, *RLU, *NONE	
	要素 2: プロンプト	*NOPROMPT, *PROMPT	
COL	検索する欄	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始桁	文字値, 1, *RCDLEN	
	要素 2: 終了桁	文字値, *RCDLEN	
CASE	一致の種類	*IGNORE, *MATCH	オプション
PRTMBRLIST	リストの印刷	*NO, *YES	オプション
PRTRCDS	レコードの印刷	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 検索する数	文字値, X'4040404040', *ALL	
	要素 2: 印刷形式	*CHAR, *HEX, *ALTHEX	
	要素 3: マーク・レコード	*MARK, *NOMARK	
	要素 4: レコード・オーバーフロー	*FOLD, *TRUNCATE	
PARM	パラメーター	文字値	オプション

トップ

'STRING'の検索 (STRING)

検索したいSTRINGを入力します。

これは必須パラメーターです。

文字値 検索するSTRINGを単一引用符で囲んで指定してください。このSTRINGは文字または16進数とすることができます。

[トップ](#)

ファイル (FILE)

検索したいメンバーが入っているファイルを指定します。検索するファイルは、ソース物理ファイルまたはデータ物理ファイルとすることができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 検索したいメンバーが入っている物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブ・ライブラリー・リストにあるすべてのライブラリーから指定ファイルを検索します。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーから指定ファイルを検索します。現行ライブラリーが定義されていない場合には、現行ライブラリーにQGPLが使用されます。

名前 指定ファイルを検索するために使用するライブラリー名を指定します。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

検索するメンバーを指定します。このパラメーターを使用して、指定したファイル中のすべてのメンバーまたはメンバーのサブセットを検索することができます。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには値を300個指定することができます。

***ALL** すべてのファイル・メンバーから指定STRINGを検索します。

総称名 検索するファイル・メンバーの総称名を指定します。

総称名は次の形式の1つとすることができます。

ABC* 名前がABCで始まるすべてのメンバーを検索します。たとえば、ABC、ABCD、またはABCTESTなど。

***ABC** 名前がABCで終わるすべてのメンバーを検索します。たとえば、ABC、DABC、またはTESTABCなど。

B メンバー名のどこかに文字Bがあるすべてのメンバーを検索します。たとえば、B、BALL、ABCDなど。

- A*C** 名前がAで始まり、Cで終るすべてのメンバーを検索します。たとえば、AC, ABC, AZZZC など。
- "A*"** 名前が英字Aで始まり、引用符付きであるすべてのメンバーを検索します。たとえば、"A", "AB", "AD"など。
- **ALL** 名前がALLで終わるすべてのメンバーを検索します。たとえば、ALL, BALL,または TESTALLなど。*ALLはオブジェクト属性に関係なくファイルのすべてのメンバーを検索する特殊値として定義されているので、この場合には、2個のアスタリスクが必要です。

名前 検索するメンバーの名前を指定します。

トップ

実行する操作 (OPTION)

ストリングの一致が見つかった各メンバーで実行したいプログラム開発管理機能(PDM)オプションを指定してください。パラメーターは2つの要素から構成され、1つはオプション選択用で、1つはプロンプト用です。オプションは、このタイプのファイルに有効なPDMオプション、または活動オプション・ファイルのユーザー定義オプションとすることができます。有効なオプションは、ソース物理ファイルの場合とデータ物理ファイルの場合では異なります。

これは必須パラメーターです。

要素1: オプション

*NONE

処置がないストリングを含むメンバーに実行されます。メンバーのリストまたはストリングを含むレコードを印刷するときこの値を使用します。

ソース物理ファイル・メンバー・リスト

***EDIT** SEU (原始ステートメント入力ユーティリティー)の編集プログラムを使用して1つまたは複数のメンバーを編集します。

*CHGT

1つまたは複数のメンバーの属性を変更します。

*CMPL

1つまたは複数のメンバーをコンパイルします。システムは、コンパイルするメンバーに基づいてオブジェクトを作成します。メンバーは、省略時の値の変更画面またはPDM省略時の値変更コマンド(CHGPDMDFT)での指定にしたがって、対話モードまたはバッチ・モードでコンパイルされません。

次のメンバー・タイプをコンパイルすることができます。BAS, BAS36, BAS38, C, CBL, CBLLE, CBL36, CBL38, CICSC, CICSCBL, CICSSQLCBL,CLD, CLLE, CLP, CLP38, CMD, CMD38, CPP, DSPF, DSPF36, DSPF38, FTN, ICFE, LF, LF38, MENU, PAS, PF, PF38, PLI, PLI38, PNLGRP, PRTE, PRINT38, QRY38, RMC, RPG, RPGLE, RPG36, RPG38, RPT, RPT36, RPT38, SPADCT, SQLC, SQLCPP, SQLCBL, SQLCBLLE, SQLFTN, SQLPLI, SQLRPG, SQLRPGLE, and TBL.

プログラム開発管理機能が必要な作成コマンドを使用してプログラムをコンパイルする時には、作成するオブジェクト名は常にソース・メンバー名として指定されます。オプションのプロンプトに指示するか、またはコマンド入力行に正しいパラメーターを入力することによって、オブジェクト

名パラメーターを別のオブジェクト名に変更することができます。プログラム開発管理機能は、オブジェクト名がすでに存在しているかどうかをチェックし、存在している場合には、メンバーのコンパイルの確認画面を表示します。この画面には、既存のオブジェクトの削除オプションがありません。

注: 省略時の値の変更画面の**オブジェクトの置き換え**プロンプト(またはCHGPDMDFTコマンド)がY(または*YES)に設定されている場合には、この画面は表示されません。

オブジェクト名パラメーターを特殊値に変更した場合には、PDMは、オブジェクトが存在しているかどうかをチェックし**ません**。たとえば、RPGプログラムをコンパイルし、**プログラム**プロンプトを*CTLSPECに変更した場合には、プログラム開発管理機能はオブジェクトが存在するかどうかをチェックし**ません**。

*CMPR

1つまたは複数のメンバーを比較します。

*COPY

1つまたは複数のメンバーを1つまたは複数の新しいメンバーにコピーします。また、メンバーを別のファイル、別のライブラリー、あるいはその両方にコピーすることもできます。

*DLT ファイルから1つまたは複数のメンバーを削除します。

*DSP SEU (原始ステートメント入力ユーティリティー)を使用して1つまたは複数のメンバーを表示します。

*DSPD

1つまたは複数のメンバーに関する情報を表示します。

*MOD ILEソース・タイプのモジュール・オブジェクトを作成します。

*MRG ターゲット・メンバーを他のメンバーと組み合わせます。

*PRT SEU (原始ステートメント入力ユーティリティー)を使用して1つまたは複数のメンバーを印刷します。

*RNM 1つまたは複数のメンバーを名前変更します。

*RUNP

REXX, OCL36, BASP, またはBASP38のメンバー・タイプのソース・メンバーを実行します。実行できないタイプのメンバーを実行しようとした場合には、エラー・メッセージが表示されます。OCL36プロシージャーを実行するためには、ファイル名はQS36PRCでなければなりません。省略時の値の変更画面の**バッチで実行**プロンプトまたはCHGPDMDFTコマンドの指定にしたがって、メンバーをバッチ・モードまたは対話モードで実行することができます。

*SAVE

メンバーをディスクまたはテープに保管します。

*SDA SDA (画面設計機能)を使用して選択したメンバーを処理します。

- メンバーのタイプがDSPFまたはDSPF38の場合には、画面を処理するためにSDA が呼び出されます。
- メンバーのタイプがMNU, MNUDDS,またはMNUCMDの場合には、メニューを処理するためにSDAが呼び出されます。
- メンバーのタイプがDSPF36またはMNU36の場合には、システム/36のSDAメイン・メニューが表示されます。
- メンバーの前のタイプMNUを入力すると、SDAはこれをMNUDDSに変更します。

- PDMのメニュー・メンバーのタイプはイメージ・メンバーの場合にはタイプMNUDDSで、コマンド・ソース・メンバーの場合にはタイプMNUCMDであることに注意してください。この2つは一緒に関係されてグループを構成しているので、一方のタイプを指定することは同時に関係されたメンバーでも操作することを意味しています。

***RLU** RLU (報告書設計ユーティリティー)を使用して選択したメンバーを処理します。

データ物理ファイル・メンバー・リスト・オプション

***CHGT**

物理ファイルの1つまたは複数のメンバーの属性を変更します。

***CMPR**

1つまたは複数のメンバーを比較します。

***COPY**

1つまたは複数のメンバーを1つまたは複数の新しいメンバーにコピーします。また、メンバーを別のファイル、別のライブラリー、あるいはその両方にコピーすることもできます。

***DFU** DFU (データ・ファイル・ユーティリティー)を呼び出して選択したメンバーを変更します。

***DLT** ファイルから1つまたは複数のメンバーを削除します。

***DSP** 1つまたは複数のメンバーを表示します。

***DSPD**

1つまたは複数のメンバーに関する情報を表示します。

***RNM** 1つまたは複数のメンバーを名前変更します。

***SAVE**

メンバーをディスクまたはテープに保管します。

ユーザー定義メンバー・オプション

文字値 活動オプション・ファイルに定義しているオプションの名前を指定してください。

要素2: プロンプト

このパラメーターのプロンプト部分は、オプションのコマンドが実行されるごとにプロンプトを表示するかどうかを指定します。

***NOPROMPT**

ストリングと一致した各メンバーごとに実行するコマンドのプロンプトを表示しません。

***PROMPT**

ストリングと一致した各メンバーごとに実行するコマンドのプロンプトを表示します。

トップ

検索する欄 (COL)

検索する各ファイル・レコードの部分の開始および終了列番号を指定します。これにより各レコードの開始、終了または中間を検索することができます。

開始列番号はレコード長より長くはなりません。

要素1: 開始桁

1 各レコードの1列目から検索を開始します。

***RCDLEN**

各レコードの最終列のみを検索します。

番号 検索する各レコードの部分の最初の列を指定します。

要素2: 終了桁

***RCDLEN**

各レコードの検索対象はレコードの指定された開始列から最終列までです。

番号 検索する各レコードの部分の最終の列を指定します。

[トップ](#)

一致の種類 (CASE)

検索で大文字・小文字を区別するかどうかを指定します。

***IGNORE**

大文字／小文字の区別なしで指定ストリングを検索します。

***MATCH**

指定したストリングとの正確な一致を検索します。

[トップ](#)

リストの印刷 (PRTMBRLIST)

一致したメンバーのリストを印刷するかどうかを指定します。

***NO** ストリングとの一致があったメンバーのリストを印刷しません。

***YES** ストリングとの一致があったメンバーのリストを印刷します。

[トップ](#)

レコードの印刷 (PRTRCDS)

ストリングを含むレコードのうちどのレコードを印刷するかを指定します。

単一値

***NONE**

指定したストリングを含むどのレコードも印刷しません。

要素1: 検索する数

***ALL** 指定した文字列を含むすべてのレコードを印刷します。

1-99999

指定した文字列を含むレコードのうち印刷するレコードの数を指定します。

要素2: 印刷形式

***CHAR**

文字形式でレコードを印刷します。

***HEX** 16進数の上/下形式でレコードを印刷します。これは、文字値の下に16進数が印刷されることを意味します。

***ALTHEX**

16進数の横並び形式でレコードを印刷します。

要素3: マーク・レコード

印刷レコードで文字列にマークを付けることができます。文字列自身は、高速認識のための文字検索用マーカーとして使用されます。16進数検索の場合には、文字列にアスタリスク(*)でマークが付けられます。

***MARK**

レコード中の文字列をマークします。

***NOMARK**

レコード中の文字列をマークしません。

要素4: レコード・オーバーフロー

レコードが、印刷行の長さより大きい場合に、折り返すかまたは切り捨てるかを指定することができます。

***FOLD**

複数の印刷行にわたってレコード全体を印刷します。

***TRUNCATE**

1つの印刷行に収まるレコードの部分だけを印刷します。***ALTHEX**を使用した場合には1-32桁だけが印刷され、***CHAR**または***HEX**を使用した場合には1-100桁が印刷されます。

トップ

パラメーター (PARM)

実行する操作 (**OPTION**)パラメーターの要素1として指定された値の結果として実行されるコマンドに付加したいパラメーターを指定してください。

文字値 **OPTION**パラメーターに指定された値に関連したコマンドに受け渡すパラメーターを指定します。このパラメーターの省略時の値はブランクで、パラメーターを受け渡しません。

トップ

例

例1: 1つのメンバー中の文字列を検索

```
FNDSTRPDM  STRING('Ms') FILE(*LIBL/CUST)
           MBR('NEW') CASE(*MATCH)
           OPTION(*NONE) PRTRCDS(*ALL *CHAR)
```

このコマンドはファイルCUSTのメンバーNEWからストリングMsを含むすべてのレコードを検索します。このファイルはジョブ・リストを使用して探し出します。検索は大文字／小文字を区別します。検索ストリングを含む各レコードをリストしたスプール・ファイルが作成されます。

例2:メンバーのセットからストリングを検索

```
FNDSTRPDM  STRING('*TEST*') FILE(MYLIB/MYFILE)
           MBR('*APP') CASE(*IGNORE)
           OPTION(FIX)
```

このコマンドを使用して、MYLIBライブラリーのMYFILEファイルのうちメンバー名が英文字APPで終わるメンバーからストリング、*TEST*を検索します。大文字／小文字は区別されないため、*test*または*Test*は検索ストリングが一致するものとみなされます。検索ストリングを含む各メンバーに対してユーザー定義オプション、FIXをアクティブ・オプション・ファイルから実行します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PDM0055

&1コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

C/C++ソースの生成 (GENCSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

C/C++ソース生成(GENCSRC)コマンドは、外部で記述されたファイル情報を、ILE CまたはILE C++プログラムに組み込むことができる同等の構造にマップします。指定されたファイル・オブジェクトから生成された構造は、ソース・ファイル・メンバーかストリーム・ファイルのどちらかに書き込まれます。

エラー・メッセージ: GENCSRC

*ESCAPE メッセージ

CZM2613

GENCSRCが組み込みファイルの生成に失敗しました。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	FROMオブジェクト	パス名	オプション、位置 1
SRCFILE	TOソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: TOソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCMBR	TOソース・メンバー	名前, *OBJ	オプション
SRCSTMF	TOソース・ストリームFILE	パス名	オプション
RCDFMT	レコード様式	単一値: *ALL その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTFLD	フィールドの選択	値 (最大 6 回の繰り返し): *INPUT, *OUTPUT, *BOTH , *KEY, *INDICATOR, *LVLCHK, *NULLFLDS	オプション
PKDDECFLD	バック10進数フィールド	*DECIMAL , *CHAR	オプション
STRUCTURE	構造	*NONPACKED, *PACKED	オプション
ONEBYTE	1バイト文字フィールド	*CHAR, *ARRAY	オプション
UNIONDFN	共用体定義名	文字値, *OBJ , *NONE	オプション
TYPEDEFPPFX	Typedef接頭部	文字値, *OBJ , *NONE	オプション

[トップ](#)

FROMオブジェクト (OBJ)

マップするオブジェクトのパス名を指定します。このパス名は、QSYSファイル・システムの*FILEオブジェクトを識別するものでなければなりません。

[トップ](#)

TOソース・ファイル (SRCFILE)

生成された構造を入れる物理ファイルの名前を指定します。この物理ファイルが存在していなければなりません。

注: 物理ファイルのレコード長がデータの切り捨てを十分に回避できる大きさであることを確認してください。

ファイル名

既存のファイルの名前を指定します。

可能なライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

物理ファイルはジョブの現行ライブラリーから探されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが探されるライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

TOソース・メンバー (SRCMBR)

マップされた構造を入れるファイル・メンバーの名前を指定します。この名前によるメンバーが存在しない場合には、それが自動的に追加されます。この名前による既存のメンバーのレコードは置き換えられます。

***OBJ** OBJパラメーターから派生したオブジェクト名がメンバー名として使用されます。

メンバー名

生成されたC/C++構造のメンバー名を指定します。

[トップ](#)

TOソース・ストリームFILE (SRCSTMF)

生成された構造を入れるストリーム・ファイルの名前を指定します。このストリーム・ファイルのパスのすべてのディレクトリーが存在していなければなりません。この名前によるファイルが存在しない場合には、それが自動的に作成されます。この名前による既存のファイルのデータは置き換えられます。

ファイル名

ストリーム・ファイルの完全パスを指定します。

[トップ](#)

レコード様式 (RCDFMT)

C/C++構造を生成するファイルのレコード様式を指定します。

***ALL** ファイルのすべてのレコード様式の構造が生成されます。

様式名 構造を生成するレコード様式を指定します。最大20個のレコード様式を定義することができます。

[トップ](#)

フィールドの選択 (SLTFLD)

マップされるフィールドの使用タイプを指定します。

***BOTH**

DDSでINPUT, OUTPUT,またはBOTHとして宣言されたフィールドがTYPEDEF構造に組み込まれます。装置ファイルの外部ファイル記述にキーワードINDARAが指定されていないければ、オプションおよび応答標識が両方の構造に組み込まれます。

***INPUT**

INPUTかBOTHとして宣言されたフィールドが、マップされた構造に組み込まれます。装置ファイルの外部ファイル記述にキーワードINDARAが指定されていないければ、応答標識が入力構造に組み込まれます。

***OUTPUT**

OUTPUTかBOTHとして宣言されたフィールドがレコード構造に組み込まれます。装置ファイルの外部ファイル記述にキーワードINDARAが指定されていないければ、オプション標識が出力構造に組み込まれます。

***KEY** 外部ファイル記述でキーとして宣言されたフィールドが組み込まれます。このオプションは、データベース・ファイルおよびDDMファイルにのみ有効です。

***INDICATOR**

標識オプションが指定された時に、標識用の別個の99バイト構造が作成されます。このオプションは装置ファイルにのみ有効です。

***LVLCHK**

_LVLCHK_Tという名前の、STRUCTの配列のTYPEDEFが生成されます。タイプ_LVLCHK_Tのオブジェクトに対するポインターも生成され、それがレベル検査情報（様式名およびレベル識別コード）によって初期設定されます。

***NULLFLDS**

DDSのレコード様式に少なくとも1つのヌル可能フィールドがある場合には、その様式内のすべてのフィールドごとに文字フィールドが含まれるヌル・マップTYPEDEFが生成されます。このTYPEDEFの場合には、ヌルにするフィールドを指定することができます（各ヌル・フィールドの値を'1'に設定し、それ以外の場合は'0'に設定します）。また、*KEYオプションを*NULLFLDSオプションと一緒に使用し、様式に少なくとも1つのヌル可能フィールドがある場合には、その様式内のすべてのキー・フィールドごとに文字フィールドが含まれる追加のTYPEDEFが生成されます。

物理および論理ファイルの場合には、*INPUT, *BOTH, *KEY, *LVLCHK,および*NULLFLDSを指定することができます。装置ファイルの場合には、*INPUT, *OUTPUT, *BOTH, *INDICATORS,および*LVLCHKを指定することができます。

[トップ](#)

パック10進数フィールド (PKDDECFLD)

パック10進数フィールドのマッピングを指定します。

***DECIMAL**

パック10進数フィールドは_DECIMALデータ・タイプとして宣言されます。

***CHAR**

パック10進数フィールドは文字配列として宣言されます。

[トップ](#)

構造 (STRUCTURE)

パック構造が生成されるかどうかを指定します。

***NONPACKED**

パック構造は生成されません。

***PACKED**

パック構造が生成されます。

[トップ](#)

1バイト文字フィールド (ONEBYTE)

1バイト・フィールドの場合に配列と単一文字のどちらが生成されるかを指定します。

***CHAR**

1バイト文字として単一文字フィールドが生成されます。

***ARRAY**

1バイト文字としてCHARの1要素配列が生成されます。

[トップ](#)

共用体定義名 (UNIONDFN)

共用体名が生成されることを指定します。

***OBJ** OBJパラメーターから派生したファイル名を使用します。

***NONE**

共用体は生成されません。

共用体名

UNION-NAME_Tの名前を使用して共用体定義を生成します。最大長は50文字です。

[トップ](#)

Typedef接頭部 (TYPEDEFPRFX)

生成された構造の接頭部を指定します。

***OBJ** OBJパラメーターから派生したファイル名を使用します。

***NONE**

生成された構造に接頭部は使用しません。

接頭部名

構造名の接頭部を指定します。最大長は50文字です。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CZM2613

GENCSRCが組み込みファイルの生成に失敗しました。

[トップ](#)

用紙記述組み合わせ (MRGFORMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

用紙記述組み合わせ(MRGFORMD)コマンドは、スプール出力ファイルを拡張印刷機能(STRAPF)コマンドで設計された用紙記述の入っているデータベース・ファイルと組み合わせます。出力は後から印刷するためにスプールするか、あるいはただちに印刷装置に向けることができます。

用紙記述組み合わせ(MRGFORMD)コマンドは、IBM AS/400プログラム適用業務開発ツール・プログラム(5722-WDS)の一部です。拡張印刷機能(APF)ツールの詳細については、ADVANCED PRINTER FUNCTION GUIDE(SC09-1361)を参照してください。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、アスタリスクを項目の前に置かないでください。

エラー・メッセージ: MRGFORMD

*ESCAPE メッセージ

APF5101

印刷装置ファイル&1をオープンすることができない。

APF5102

スプール・ファイルにアクセスしようとした時にエラーが起こった。

APF5104

用紙記述が使用可能な状態にない。

APF5105

用紙記述が正しくない。

APF5106

要求された機能の実行は許可されていない。

APF5107

装置&3にエラーが起こった。

APF5121

APFユーティリティーの場合、&2のファイル&1は正しくない。

APF9901

APFユーティリティーにエラーが起こった。

APF9910

表示装置ファイル入出力操作を完了することができない。

APF9911

データベース・ファイル入出力操作を完了することができない。

APF9912

拡張印刷機能ファイルをオープンすることができない。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FORMD	用紙記述	名前	必須, 定位置 1
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SPLF	スプール・ファイル	名前, *NONE	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST	オプション
COPIES	コピー枚数	1-255, *FILE	オプション
DEV	装置	名前, *FILE , *JOB, *SYSVAL	オプション
SPOOL	データのスプール	*YES, *NO, *FILE	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *FILE , *JOB, *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
FORMTYPE	用紙タイプ	文字値, *FILE , *STD	オプション
OUTSPLF	出力スプール・ファイル	名前, *FRMD , X'40404040404040404040'	オプション
SCHEDULE	スプール出力のスケジュール	*FILE , *IMMED, *JOBEND, *FILEEND	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: *NONE, QBATCH その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

用紙記述 (FORMD)

用紙の印刷または組み合わせ操作で使用される用紙記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

ファイル (FILE)

用紙記述の入っているファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ライブラリー・リストが、ファイルを検索する場合に使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、ファイルを検索する場合に使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル (SPLF)

用紙記述と組み合わせるデータの入っているスプール出力ファイルの名前を指定します。

指定できる値は次の通りです。

***NONE**

スプールされた出力ファイルは指定されません。

スプール・ファイル名

スプール出力ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

用紙記述と組み合わせるスプール出力ファイルの入っているジョブの名前を指定します。

指定できる値は次の通りです。

***** スプール・ファイルが入っている現行ジョブを指定します。

ジョブ名

組み合わせるスプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定してください。ジョブ名を指定しない場合には、単純ジョブ名システム内に現在あるすべてのジョブの中から検索されます。

ユーザー

ユーザー名は、ジョブがどのユーザー・プロファイルのもとで実行されるかを示します。

番号 システム割り当てジョブ番号。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

用紙記述と組み合わせるスプール出力ファイルの番号を指定します。

指定できる値は次の通りです。

***LAST** 指定した名前の最後のスプール・ファイルが、用紙記述と組み合わせられるということを指定します。

***ONLY**

1つだけのスプール・ファイルが、スプール・ファイルプロンプト (SPLF パラメーター)で指定した名前をもつということを指定します。

スプール・ファイル名

用紙記述と組み合わせるスプール出力ファイルの番号を入力してください。

[トップ](#)

コピー枚数 (COPIES)

印刷される組み合わせスプール出力ファイルのコピー数を指定します。

指定できる値は次の通りです。

***FILE** 印刷するコピーの数は、印刷装置ファイル(QPAPFPRT)に指定したCOPIESの値から選択されます。

コピー数

印刷される組み合わせスプール出力ファイルのコピー数を入力してください。

[トップ](#)

装置 (DEV)

用紙または組み合わせ出力の印刷に使用される印刷装置の名前を指定します。

指定できる値は次の通りです。

***FILE** 印刷装置として用いられる装置は、印刷装置ファイル(QPAPFPRT)のDEVパラメーターで指定されたものと同じものになります。

***SYSVAL**

印刷装置として用いられる装置は、システム値QPRTDEVにより指定されます。

***JOB** 印刷装置として用いられる装置は、ジョブの装置ファイルにより指定されます。

装置名 用紙または組み合わせ出力の印刷に使用される印刷装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

データのスプール (SPOOL)

データをスプールするか否かを指定します。

指定できる値は次の通りです。

- *FILE** スプール・ファイル属性は、印刷装置ファイル(QPAPFPRT)で使用されたものと同じものになります。
- *YES** データがスプールされます。
- *NO** データはスプールされません。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

組み合わせスプール出力ファイルが置かれる出力待ち行列を指定します。

指定できる値は次の通りです。

- *FILE** 出力待ち行列名は、印刷装置ファイル(QPAPFPRT)で指定されたものと同じものになります。
- *DEV** 装置プロンプト (DEVパラメーター) で指定された印刷装置に対応した出力待ち行列の省略時の値を使用してください。
- *JOB** スプール出力のジョブと結び付けられたジョブ記述に指定されている出力待ち行列を使用してください。

出力待ち行列名

スプールされたデータベース出力ファイルを入れる出力待ち行列の名前およびライブラリーを入力してください。指定できるライブラリー名の値は次の通りです。

- *LIBL** ライブラリー・リストが、出力待ち行列の検索に使用されます。

*CURLIB

ジョブ用の現行ライブラリーが、出力待ち行列の検索に使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が置かれるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

用紙タイプ (FORMTYPE)

組み合わせスプール出力ファイルが印刷される用紙のタイプを指定します。

指定できる値は次の通りです。

- *FILE** 組み合わせスプール出力ファイルは、印刷装置ファイル(QPAPFPRT)で指定された用紙タイプの用紙に印刷されます。
- *STD** 組み合わせスプール出力ファイルは、導入システムで使用される標準用紙タイプの用紙に印刷されます。

用紙タイプ

スプール出力ファイルが印刷される用紙の用紙タイプの名前を入力してください。

[トップ](#)

出力スプール・ファイル (OUTSPLF)

出力待ち行列上の組み合わせスプール出力ファイルの名前を指定します。

指定できる値は次の通りです。

***FRMD**

用紙記述名が、出力待ち行列上の組み合わせスプール出力ファイルの名前として使用されます。

出力スプール・ファイル名

出力待ち行列上の組み合わせスプール出力ファイルの名前（最大10文字）を入力してください。

[トップ](#)

スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)

組み合わせスプール出力ファイルが、スプール書き出しプログラムにとって使用可能となる時点を指定します。

指定できる値は次の通りです。

***FILE** 組み合わせスプール出力ファイルは、印刷装置ファイル(QPAPFPRT)のスプール出力のスケジュールプロンプト (SCHEDULEパラメーター) で指定された通りに、スプール書き出しプログラムで使用可能となります。

***IMMED**

組み合わせスプール出力ファイルは、スプール書き出しプログラムでただちに使用可能となります。

***JOBEND**

組み合わせスプール出力ファイルは、現行ジョブが終了した時点で、スプール書き出しプログラムで使用可能となります。

***FILEEND**

組み合わせスプール出力ファイルは、現行ファイルの終わりになった時点で、スプール書き出しプログラムで使用可能となります。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

ジョブの投入に使用するジョブ記述の名前を指定します。

指定できる値は次の通りです。

***NONE**

印刷は、現行ジョブ記述のもとで行なわれます。

ジョブ記述名

ジョブの投入に使用するジョブ記述の名前およびライブラリーを指定してください。指定できるライブラリー名の値は次の通りです。

***LIBL** ライブラリー・リストが、ジョブ記述を見つけるために使用されます。

*CURLIB

ジョブ用の現行ライブラリーが、ジョブ記述を見つけるために使用します。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述が置かれるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

APF5101

印刷装置ファイル&1をオープンすることができない。

APF5102

スプール・ファイルにアクセスしようとした時にエラーが起こった。

APF5104

用紙記述が使用可能な状態にない。

APF5105

用紙記述が正しくない。

APF5106

要求された機能の実行は許可されていない。

APF5107

装置&3にエラーが起こった。

APF5121

APFユーティリティーの場合、&2のファイル&1は正しくない。

APF9901

APFユーティリティーにエラーが起こった。

APF9910

表示装置ファイル入出力操作を完了することができない。

APF9911

データベース・ファイル入出力操作を完了することができない。

APF9912

拡張印刷機能ファイルをオープンすることができない。

[トップ](#)

ソースの組み合わせ (MRGSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ソース物理ファイルのマージヘルプ

MRGSRCコマンドに次のソース・ファイルの名前を指定します。

ルート 更新の基礎となったソース・ファイルの元のバージョン

保守 宛先ファイルにマージする更新が入っているソース・ファイル

宛先 保守ファイルからの更新がマージされるソース・ファイル

MRGSRCコマンドは、それぞれの宛先メンバーおよび保守メンバーを対応するルートのメンバーと比較します。この比較の結果は、行なわれた更新の判別に使用されます。

エラー・メッセージ: MRGSRC

なし

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TGTFILE	ターゲット・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ターゲット・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TGTMBR	ターゲット・メンバー	名前, *ALL	必須, 定位置 2
MAINTFILE	ファイルの保守	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ファイルの保守	名前, *TARGET	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAINTMBR	メンバーの保守	名前, *TARGET	オプション, 定位置 4
ROOTFILE	ルート・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 5
	修飾子 1: ルート・ファイル	名前, *MAINT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ROOTMBR	ルート・メンバー	名前, *MAINT	オプション, 定位置 6
SELECT	更新の選択	*YES, *NO	オプション
RPTONLY	報告専用	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

ターゲット・ファイル (TGTFILE)

保守更新がマージされるソース物理ファイルを指定します。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用します。

ライブラリー名

指定したライブラリーを使用します。

ファイル名

指定したファイルを使用します。

[トップ](#)

ターゲット・メンバー (TGTMBR)

保守更新がマージされるメンバーを指定します。

***ALL** すべてのメンバーを選択します。

メンバー名

指定したメンバーを選択します。

[トップ](#)

ファイルの保守 (MAINTFILE)

マージする更新が入っているソース物理ファイルを指定します。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用します。

ライブラリー名

指定したライブラリーを使用します。

***TARGET**

宛先ファイルに指定したファイルを使用します。

ファイル名

指定したファイルを使用します。

[トップ](#)

メンバーの保守 (MAINTMBR)

マージする更新が入っているメンバーを指定します。

***TARGET**

TGTMBRキーワードに指定したものと同一メンバーを選択します。

メンバー名

指定したメンバーを選択します。

[トップ](#)

ルート・ファイル (ROOTFILE)

マージ処理の基礎となるソース・ファイルを指定します。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用します。

ライブラリー名

指定したライブラリーを使用します。

***MAINT**

保守ファイルに指定したファイルを使用します。

ファイル名

指定したファイルを使用します。

[トップ](#)

ルート・メンバー (ROOTMBR)

マージ処理の基礎となるソース・ファイル・メンバーを指定します。

***MAINT**

MAINTMBRパラメーターに指定したものと同一メンバーを選択します。TGTMBR(*ALL)が指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

メンバー名

指定したメンバーを選択します。

[トップ](#)

更新の選択 (SELECT)

保守更新の選択に分割マージ画面を表示するかどうかを指定します。

***YES** 保守更新を選択して宛先メンバーにマージすることができるように分割マージ画面を表示します。報告書は生成されません。

***NO** 分割マージ画面を表示しないで、マージ要約報告書を印刷します。

[トップ](#)

報告専用 (RPTONLY)

保守更新を宛先メンバーにマージするか、マージ要約報告書を印刷して更新の範囲を表示するかを指示します。

***NO** マージを実行してマージ要約報告書を印刷します。

***YES** マージを実行しないでマージ要約報告書を印刷します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

CODEバッチ・ジョブの投入 (SBMCODEJOB)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

CLコマンドSBMCODEJOBは、バッチで実行されるコマンドを投入し、任意選択で、ジョブが完了した時点でワークステーションに通知し、特定のコンパイル・コマンドからのエラー・フィードバック情報をワークステーションに戻します。

このコマンドは、“IBM適用業務開発ツールセット・クライアント/サーバー/400” (ADTS CS/400)プログラム・プロダクトの“連携開発環境プログラム/400”および“VRPGクライアント/2”機能によって使用されることが前提となっています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	実行するコマンド	コマンド・ストリング	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, *USRPRF	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前, *JOB	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
NOTIFY	通知メッセージ	*YES, *NO	オプション, 定位置 4
SERVER	ホスト・サーバー名	文字値, OS400	オプション, 定位置 5
ADDPARMS	追加のSBMJOBパラメーター	文字値, *NONE	オプション, 定位置 6

[トップ](#)

実行するコマンド (CMD)

バッチで実行されるCLコマンドを指定します。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブがシステムによって処理される時に、そのジョブと関連づけられる名前を指定します。

使用できる値は、次の通りです。

***USRPRF**

投入済みジョブが実行されるユーザー・プロファイル中のジョブ記述が、その投入済みジョブのジョブ記述として使用されます。

ジョブ記述名

ジョブに使用されるジョブ記述の名前（ライブラリー名/ジョブ記述名）を指定してください。

使用できる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブが入られるジョブ待ち行列の名前を指定します。

使用できる値は、次の通りです。

***JOBDD**

投入済みジョブは、指定されたジョブ記述に名前が指定されているジョブ待ち行列に入れられません。

ジョブ待ち行列名

投入済みジョブが入られるジョブ待ち行列の名前（ライブラリー名/ジョブ待ち行列名）を指定してください。

使用できる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

通知メッセージ (NOTIFY)

バッチ・ジョブに、投入されたコマンドの完了をワークステーションに通知させるためには、YESを指定してください。

このオプションを使用するためには、EVFCICFFという名前のICFファイルがバッチ・ジョブのライブラリー・リスト中で見つからなければなりません。これは、ワークステーションの位置を識別します。ICFファイルのセットアップの詳細については、CODE/400の導入の手引きを参照してください。

[トップ](#)

ホスト・サーバー名 (SERVER)

CODE開始(STRCODE)コマンドによってすでに開始されているCODE/400またはVRPG/2 サーバーの名前を指定します。

このパラメーターは、投入されているコマンドがCODE/400ワークステーション編集プログラムで使用されるエラー・フィードバック情報を生成する場合にのみ使用されます。パラメーターOPTION(*SRCDBG), OPTION(*LSTDBG),およびOPTION(*EVENTF)の指定されたコマンドだけがこのようなエラー・フィードバックを生成します。

[トップ](#)

追加のSBMJOBパラメーター (ADDPARMS)

ジョブ投入(SBMJOB)コマンドで使用されるパラメーターを指定します。

SBMJOBコマンドはSBMJOBを呼び出します。これには、CMD, JOB,およびJOBQを除き、すべてのSBMJOBパラメーターにシステムの省略時の値が使用されます。このパラメーターによって、SBMJOBコマンドに追加のパラメーターを指定して、システムの省略時の値を一時変更することができます。たとえば、バッチ・ジョブのジョブ記述のライブラリー・リストを使用するためには、このパラメーターに'INLLIBL(*JOB)'を指定してください。

複数のSBMJOBパラメーターを指定することができますが、それぞれを1つ以上のブランクで区切る必要があります。

'INLLIBL(*JOB)'を指定する場合には、ジョブ記述のライブラリー・リストにEVFCICFF ICFファイルをもつライブラリーが組み込まれていなければなりません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

拡張印刷機能 (STRAPF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張印刷機能(STRAPF)コマンドにより、カスタマイズ用紙の設計用のオプションを表示するメニューが呼び出されます。このメニューにより、特殊な記号、用紙のレイアウト（用紙記述と呼ばれる）の設計、用紙記述のコピー印刷、またはスプール・ファイルと用紙記述の組み合わせ、および結果の印刷を行なうことができます。

拡張印刷機能(APF)ツールには、IBM 5224および5225ワークステーション印刷装置の特殊な印刷機能が使用されます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

エラー・メッセージ: STRAPF

なし

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

COBOLデバッグ開始 (STRCBLDBG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

このコマンドは、COBOLプログラムでWITH DEBUGGING MODE文節が使用されている場合に作成するデバッグ・コードを活動化します。このコマンドは、各COBOL RUN UNITでデバッグされる各COBOLプログラムに対して入力する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

プログラム (PGM)

コンパイル済みCOBOLプログラムの名前およびそれが入っているライブラリーを指定します。これは必須パラメーターです。考えられる値は次の通りです。

プログラム名

コンパイル済みCOBOLプログラムが認識される名前を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムは、プログラムが入っているライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

作成されたプログラムが記憶されているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

例

例1: COBOLプログラムのデバッグ・コードを活動化します

```
STRCBLDBG PGM(MYLIB/XMPLE1)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに作成されたCOBOLプログラムXMPLE1のデバッグ・コードを活性化します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

LBE7018

プログラム&1が見つからない。

LBE7019

ライブラリー&1が見つからない。

[トップ](#)

CGU開始 (STRCGU)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

STRCGU (CGU開始) コマンドは、文字作成ユーティリティ(CGU)を開始します。

エラー・メッセージ: STRCGU

なし

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	CGUオプション	<u>*SELECT</u> , 1, 2, 3, 4, 5, 6	オプション, 位置 1

[トップ](#)

CGUオプション (OPTION)

直接アクセスする"AS/400" (IBM社の商標) 文字作成ユーティリティ(CGU) メニューからオプションを指定します。

指定できる値は次のとおりです。

*SELECT

AS/400文字作成ユーティリティ(CGU)メニューを表示します。

メイン・メニュー・オプション番号

CGUメニューでオプションと対応する1-6の数を入力します。このパラメーター値を選択した場合には、CGUメニューは現れません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

CODEの開始 (STRCODE)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLコマンドSTRCODEは、連携開発環境/400プロダクトのホスト・サーバーを実行するジョブを開始します。このコマンドは、OS/400 の固有環境で呼び出さなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	ホスト・サーバー名	文字値, OS400	オプション, 位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	文字値, *RESOLVE, *PRV	オプション, 位置 2
CMNTYPE	通信タイプ	*PRV , *APPC, *TCPIP	オプション, 位置 3
PARMS	追加のパラメーター	文字値, *NONE	オプション, 位置 7
PORT	TCP/IPポート番号	1-65534, *PRV , *DFT	オプション, 位置 4
USERID	ユーザー識別コード	文字値, *NONE	オプション, 位置 5
PASSWORD	パスワード	文字値	オプション, 位置 6

トップ

ホスト・サーバー名 (SERVER)

システムによって処理されるジョブと関連した名前を指定します。

使用できる値は、次の通りです。

OS400

これが省略時の値です。

サーバー名

システムによって処理されるジョブの識別に使用する名前を指定します。

注: 次のサーバー名は、予約されているので使用することはできません。

- LOCAL
- REMOTE

[トップ](#)

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

ホスト・サーバーが通信するリモート・ワークステーションの名前を指定します。TCP/IP 接続の場合には、これは、ユーザーのPCのIP名またはIPアドレスです。APPC接続の場合には、この名前は、リモート・ワークステーションの論理装置(LU)またはユーザーの通信プログラムのSNA基本プロファイルに指定されたPCローカル名です。

使用できる値は、次の通りです。

***PRV** このコマンドの最後の呼び出しで使用された値が省略時の値となります。

***RESOLVE**

CODE/400通信にリモート・ロケーション名を解決させます。TCP/IP DHCPユーザーには、この値をお勧めします。バッチ・ジョブでは、この値は機能しません。

PCローカル名

ホスト・サーバーが通信するリモート・ワークステーションを識別する名前を入力してください。

[トップ](#)

通信タイプ (CMNTYPE)

ホスト・サーバーが通信するプロトコルのタイプの名前を指定します。

使用できる値は、次の通りです。

***PRV** このコマンドの最後の呼び出しで使用された値が省略時の値となります。

***APPC**

ホスト・サーバーはAPPCプロトコルを使用してワークステーションと通信します。

***TCPIP**

ホスト・サーバーはTCP/IPプロトコルを使用してワークステーションと通信します。

[トップ](#)

[トップ](#)

TCP/IPポート番号 (PORT)

ホスト・サーバーによって処理されるTCP/IPプロトコルと関連したポートの名前を指定します。

使用できる値は、次の通りです。

***PRV** このコマンドの最後の呼び出しで使用された値が省略時の値となります。

***DFT** システムとの通信に使用された値が省略時のCODE/400 TCP/IPポートとなります。ポートを変更したい場合には、新しいTCP/IPポートの値を入力してください。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USERID)

ワークステーションが「通信プロパティ」ウィンドウを介して会話機密保護を使用可能にした時に、通信の確立に使用するユーザーIDを指定します。

「通信プロパティ」ウィンドウで会話機密保護がセットアップされている場合には、このフィールドと「パスワード」フィールドの両方が必要です。使用できる値は、次の通りです。

***NONE**

省略時の値は*NONEです。

ユーザーID

ワークステーションの「通信プロパティ」ウィンドウのSTRCODEユーザーIDフィールドに指定されたユーザーIDを入力してください。

[トップ](#)

パスワード (PASSWORD)

「ユーザー識別コード」フィールドに指定されたユーザーIDのパスワードを指定します。このパスワードは、「通信プロパティ」ウィンドウのSTRCODEパスワード・フィールドに指定されたものと同じでなければなりません。

「通信プロパティ」ウィンドウで会話機密保護プロファイルがセットアップされている場合には、このフィールドと「ユーザー識別コード」フィールドの両方が必要です。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

CODE開始コマンド (STRCODECMD)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLコマンドSTRCODECMDは、ワークステーションで実行されるコマンドを投入します。

このコマンドを使用するためには、ワークステーションに連携開発環境/400 (CODE/400)プロダクトが導入されていないとなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	ワークステーション・コマンド	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ワークステーション・コマンド (CMD)

実行されるワークステーション・コマンドを指定します。ユーザーのワークステーションを見つけるために、STRCODE *USRSPCオブジェクト中の値が使用されます。この値は一般的にはCODE開始(STRCODE)コマンドに最後に指定するものです。このオブジェクトがライブラリー・リストに見つからない場合には、CODE通信は自動的にリモート・ロケーションを解決しようとします。このコマンドがバッチ・ジョブで実行された時には、CODE通信はリモート・ロケーションを自動的に解決できません。さらに、APPC通信では、システム間通信機能(ICF)ファイルが必要になります。このコマンドは、ライブラリー・リストでICFファイルEVFCICFFを検索し、これを使用してユーザーのワークステーションに情報を送信します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ISDBの開始 (STRISDB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IMOD *IREXX
*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

対話型ソース・デバッガーの開始

対話型ソース・デバッガー(ISDB)ツールは、CL, COBOL,またはRPGプログラムに対する対話式デバッグ環境を提供します。

注: ISDBを実行するためには、ライブラリーQTEMPが必要です。ISDBは、ライブラリーQTEMPを使用して、ログ・ファイルなどのファイルにアクセスします。

これを開始するためには：

1. ユーザー・プログラムに必要なSTRISDBパラメーターを指定してください。
2. 実行キーを押してください。ISDBが開始します。

プログラムのソースはISDBソース画面に表示され、その画面に提供されている機能を使用してプログラムをデバッグすることができます。

エラー・メッセージ： STRISDB

なし

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
UPDPROD	実動ファイルの更新	*YES, *NO	オプション, 定位置 2
INVPGM	プログラムの呼び出し	*YES, *NO, *CMD	オプション, 定位置 3
PARM	呼び出しのパラメーター	値 (最大 40 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 4
CMD	コマンドの呼び出し	コマンド・ストリング	オプション, 定位置 5
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 6
SRCF	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 7
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	

キーワード	記述	選択項目	注
SRVJOB	サービスするジョブ	*, *SELECT _	オプションル、定位置 8

トップ

プログラム

デバッグするプログラムの名前およびライブラリーを指定するためには、このパラメーターを使用してください。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。ライブラリー名が指定されていない場合には、これが省略時の値となります。

*CURLIB

プログラムを見つけるためにライブラリー・リスト中の現行ライブラリーが使用されます。(現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLと見なされます。)

ライブラリー名

デバッグするプログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: ISDBでCOBOLプログラムをデバッグするためには、*SRCDBGオプション付きでコンパイルされていることを確認してください。

トップ

実動ファイルの更新(UPDPROD)

実行用ライブラリーの中のファイルがデバッグ・モードになっている時に、それらを変更することができるかどうかを指定するためには、このパラメーターを使用してください。

使用できる値は次の通りです。

***NO** ファイルがデバッグ・モードになっている時は、それを更新することはできません。

***YES** ファイルがデバッグ・モードになっている時にも、それを更新することができます。

ソース画面から実動ファイルの更新値を変更することができることに注意してください。そうするためには、次のようにしてください。

1. ソース画面からデバッグ・メニュー・バー選択項目を選択してください。
2. 「デバッグ」プルダウン・ウィンドウでオプション1 (デバッグ変更) を選択してください。「デバッグ・オプションの設定」ウィンドウが現れます。
3. オプション1 (実動ファイルの更新) またはオプション2 (実動ファイルを更新しない) のいずれかを選択して、実行キーを押してください。

トップ

プログラムの呼び出し

プログラムを呼び出すためにISDBが必要であるかどうかを指定するこのパラメーターを使用するか、プログラムを呼び出す前に他の準備を実行するか、あるいはプログラムを呼び出すためのコマンドを使用します。

使用できる値は次の通りです。

***YES** ISDBは、PARMフィールドに指定したパラメーターでプログラムを呼び出します。

注：サービス・ジョブの場合には、このパラメーターを使用することができません。

***NO** プログラムを開始するためのコマンドは出されません。プログラムを開始するためのコマンドを出す前に必要な準備を実行できるように、コマンド入力画面(QCMD)が提供されます。

コマンド入力画面(QCMD)からプログラムを開始した場合には、プログラムが実行を完了した時に、制御はこの画面に戻ります。ISDBを終了するかまたは再始動するためには、最初にこのコマンド入力画面を終了しなければなりません(F3またはF12)。次にISDBの終了または再始動を選択できるプログラムの終了画面が表示されます。

注：他のジョブのサービス中の場合には、これは使用できるただ1つのオプションですが、QCMDパネルは呼び出されません。

***CMD** ISDBは、CMDパラメーターに指定されたコマンドを実行します。(このコマンドはユーザー・プログラムを呼び出す必要があります。)

トップ

パラメーター

プログラムを呼び出すために必要なパラメーターを指定するためには、このパラメーターを使用します。

このパラメーターは、INVPGM(*NO)およびINVPGM(*CMD)呼び出しコマンド用のものではありません。

注：このフィールドには空値(X'00')文字の入っている数値リテラル(500など)およびストリングは使用できません。代わりにINVPGM(*CMD)パラメーターを使用してCMDパラメーターに適切なCALLコマンドを指定してください。たとえば、次のコマンドを入力するかわりに

```
STRISDB PGM(MYPGM) INVPGM(*YES) PARM(123 X'00')
```

次のコマンドを使用してください。

```
STRISDB PGM(MYPGM) INVPGM(*CMD) CMD(CALL PGM(MYPGM) PARM(123 X'00'))
```

トップ

呼び出しコマンド

プログラムを呼び出すために使用したいコマンドを指定するためには、このパラメーターを使用します。

このパラメーターは、INVPGM(*NO)およびINVPGM(*YES)呼び出しコマンド用のものではありません。

トップ

ソース・メンバー

このパラメーターは任意指定です。ソース・メンバーを指定する必要があるのは、それがプログラムのオブジェクト記述に指定されているものと異なる場合だけです。指定したこのメンバーのソースは、プログラムを呼び出した時に、ソース画面に表示されます。

次の場合には、このパラメーターを使用する必要があります。

- プログラムが最後にコンパイルされた以降に、ソースのライブラリー、ファイル、またはメンバー名が変更された場合。(メンバーに正しいプログラム・ソースが入っていることを確認してください。そうでないと、予測できない結果となります。)
- プログラムがRPG報告書簡易作成プログラムである場合。CRTRPTPGMコマンドには、展開ソースをソース物理ファイルに入れるためのパラメーターがあります。
- ソースが別のAS/400マシン上にあつて、そのプログラムがDDMファイルを使用して作成されたものでない場合。

使用できる値は次の通りです。

***PGM** DSPOBJDコマンドを使用して、オブジェクト記述からソース情報が検索されます。

メンバー名

表示したいソース・メンバーの名前を指定して、そのファイルおよびライブラリー名を、示されたパラメーターに入力してください。

トップ

ソース・ファイルおよびライブラリー

ソース・メンバー・プロンプトで指定したソース・メンバーのファイルおよびライブラリー名を指定するためには、これらのパラメーターを使用してください。ファイルおよびライブラリーのいずれかの名前がプログラムのオブジェクト記述に指定されている名前と異なる場合には、両方の名前を指定しなければなりません。

ソース・ファイル名として指定できる値は次の通りです。

ファイル名

表示したいソース・メンバーが入っているファイルの名前を指定してください。

ソース・ライブラリー名として指定できる値は次の通りです。

***LIBL** ライブラリー・リストでソース・ファイルを探します。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。(現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLと見なされます。)

ライブラリー名

表示したいソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

サービスするジョブ(SRVJOB)

サイン・オンしているジョブとは異なるジョブで実行されているプログラムをデバッグするためには、このパラメーターを使用してください。これは、バッチ・ジョブまたは他の対話式ジョブをデバッグする場合に有用です。

指定できる値は次の通りです。

* 現行ジョブでデバッグします。

*SELECT

活動ジョブのリストからジョブを選択することのできる「サービスするジョブの選択」画面が表示されます。これらのジョブの1つを選択すると、STRSRVJOBコマンドが出されて、そのジョブがデバッグ・モードになります。

注: SRVJOB(*SELECT)はINVPGM(*YES)またはINVPGM(*CMD)と一緒にでは正しくありません。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

PDM開始 (STRPDM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PDM開始(STRPDM)コマンドは、プログラム開発管理機能(PDM)ユーティリティを呼び出します。メニューが表示され、このメニューで、ライブラリー、オブジェクト、メンバー、およびユーザー定義オプションを処理するためのオプションを選択します。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

STRPDM

このコマンドは、プログラム開発管理機能(PDM)を開始し、PDM初期メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

PDM0055

&1コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

報告書設計ユーティリティー開始 (STRRLU)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御言語(CL)コマンドSTRRLUは、報告書設計ユーティリティー(RLU)を開始するために使用されるコマンドです。

報告書設計ユーティリティーを開始するためのパラメーター値を指定するためには、この画面を使用してください。

エラー・メッセージ: STRRLU

なし

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRCFILE	ソース・ファイル	単一値: <u>*PRV</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *PRV	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>*PRV</u>	オプション, 位置 2
OPTION	オプション	<u>2</u> , 6	オプション, 位置 3
PAGWIDTH	ページ幅	1-378, <u>*SAME</u>	オプション, 位置 4
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

前のセッションで変更または作成したメンバーが入っているソース物理ファイル、あるいは新しいメンバーを記憶したいソース物理ファイルの修飾名を指定します。使用できる値は、次の通りです。

*PRV 最後に使用したソース物理ファイルの修飾名を指定します。

名前 既存のソース・ファイル名を指定します。

Warning: Temporary Level 3 Header

ライブラリー(LIB)

前のセッションで変更または作成したメンバーが入っているライブラリー、あるいはソース・ファイルを記憶したいライブラリーの修飾名を指定します。使用できる値は、次の通りです。

***LIBL** ライブラリー・リストが表示され、ここでソース・ファイルを含むライブラリー、またはソース・ファイルを記憶したいライブラリーを選択することができます。

*CURLIB

ソース・ファイルを記憶するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、ユーザーのソース・ファイルはQGPLに入れます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

変更または作成されたメンバーの名前を指定します。SRCFILEパラメーターを使用する場合には、このパラメーターの省略時の値が変更されます。使用できる値は、次の通りです。

***PRV** 前に使用したソース・メンバー名を選択します。

名前 前のセッションで変更または作成したメンバーの名前、あるいは新しいメンバーを作成している場合には、必要な名前を指定します。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

報告書进行处理するためには、オプションを指定します。使用できる値は、次の通りです。

- 2 報告書の変更
- 6 プロトタイプ報告書の印刷

[トップ](#)

ページ幅 (PAGWIDTH)

ページ幅を行当たりの桁数で指定します。省略時の値は*SAMEです。RLUを最初に使用する時に、他の値を指定しない場合は、ページ幅は132にセットされます。メンバーがRLUによって前に編集されている場合には、ページ幅はそのメンバーの前の編集セッションから取り出されます。

*SAME

報告書を最後に作成または変更した時に使用した幅と同じ報告書の幅を指定します。

1 - 378

ページの幅を決定するためには、1 - 378の範囲の値を入力してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

記述を指定して、メンバーのテキスト・プロンプトに記憶します。使用できる値は、次の通りです。

*BLANK

新しいメンバーの場合には、RLUはそのメンバーの テキスト プロンプトに空白を指定します。既存のメンバーの場合には、この省略時の値によってメンバーの テキスト プロンプトは変更されません。

'記述' 50桁以内のテキストを指定します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

SDAの開始 (STRSDA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLコマンドSTRSDAは、IBM AS/400画面設計援助 (SDA) ユーティリティの基本コマンドです。このコマンドは、AS/400システムの3つの環境のいずれでも呼び出すことができます。

エラー・メッセージ: STRSDA

*ESCAPE メッセージ

SDA0001

SDAは&1ワークステーションをサポートしていない。

SDA0002

SDAはその表示装置ファイルをアクセスすることができない。

SDA0003

重大なエラーのためにSDAが終了した。

SDA0004

STRSDAコマンドの処理中にエラーが起こった。

SDA0005

SDAはそのパネル・グループをアクセスすることができない。

SDA0601

SDAはすでに活動中である。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	SDAオプション	<u>*SELECT</u> , 1, 2, 3	オプション, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>*PRV</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*PRV</u> , *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>*PRV</u> , *SELECT	オプション, 定位置 3
OBJLIB	オブジェクト・ライブラリー	名前, <u>*PRV</u> , *CURLIB	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>*PRV</u> , *USRPRF	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*PRV</u> , *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
TSTFILE	テスト・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: テスト・ファイル	名前, *PRV	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *PRV, *LIBL, *CURLIB	
MODE	モード	*STD, *S38, *S36	オプション

トップ

SDAオプション (OPTION)

SDAメイン・メニューの値として使用するオプションを指定します。MODE (*S36) が指定されている場合は、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

*SELECT

SDAメイン・メニューを表示します。

メイン・メニュー・オプション番号

SDAメイン・メニュー上のオプションに対応する1~3の範囲の数字を入力してください。このパラメーター値を選択した場合は、SDAメイン・メニューは現れません。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

更新されるソース・メンバーが入っているか、または新しいソース・メンバーの追加が行なわれるソース・ファイルの名前を指定します。MODE (*S36)が指定されている場合は、ライブラリー修飾名だけが使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***PRV** SDAで、AS/400システムの最後のSDAセッションで使用されたソース・ファイルおよびライブラリーの名前を使用する (MODEが(*STD)の時だけ) ことを指定します。

修飾ソース・ファイル名

SDAによって使用される既存のソース・ファイルの修飾名を入力してください。*CURLIBがライブラリー修飾名として指定された場合は、ライブラリー・リストの現行ライブラリー項目が検索されます。現行ライブラリーがライブラリー・リストに存在しない場合は、ライブラリーQGPLが検索されます。*LIBLがライブラリー修飾名として指定された場合は、ファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

トップ

ソース・メンバー (SRCMBR)

SDAによって更新または作成される画面またはメニューのソースが現在入っているか、または今後入ることになる既存または新しいソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

次の値を指定することができます

***PRV** SDAで、AS/400システムの最後のSDAセッションで使用されたソース・メンバーの名前を使用する（MODEが(*STD)の時だけ）ことを指定します。

***SELECT**

SDAは画面設計画面を表示します。この画面から、メンバー・フィールドでF4キーを押して、そこから選択するソース・メンバーのリストを表示することができます。

ソース・メンバー名

作成または更新されるソース・メンバーの名前を入力してください。

トップ

オブジェクト・ライブラリー (OBJLIB)

SDAが作成するプログラムまたは表示装置ファイルが記憶されるライブラリーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***PRV** SDAで、AS/400システムの最後のSDAセッションで使用されたオブジェクト・ライブラリーの名前を使用する（MODEが(*STD)の時だけ）ことを指定します。

***CURLIB**

SDAで、ライブラリー・リストの現行ライブラリー項目を使用することを指定します。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合は、ライブラリーQGPLが使用されます。

オブジェクト・ライブラリー名

SDAによって作成されたオブジェクトが記憶されるライブラリーの名前を入力してください。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

SDAによって投入されたバッチ・ジョブで使用されるジョブ記述の修飾名を指定します。MODE (*S36)が使用されている場合は、このパラメーターは使用されません。

考えられる値は次の通りです。

***PRV** SDAで、AS/400システムの最後のSDAセッションで使用されたジョブ記述およびライブラリーの名前を使用する（MODEが(*STD)の時だけ）ことを指定します。

ジョブ記述名

投入されたジョブで使用されるジョブ記述の修飾名を入力してください。*CURLIBがライブラリー修飾名として指定された場合は、ライブラリー・リストの現行ライブラリー項目が検索されます。現行ライブラリーがライブラリー・リストに存在しない場合は、ライブラリーQGPLが検索されます。*LIBLがライブラリー修飾名として指定された場合は、ファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***USRPRF**

SDAで、ユーザー・プロファイルの中で定義されているジョブ記述の名前を使用することを指定します。

トップ

テスト・ファイル (TSTFILE)

テストのために使用される表示装置ファイルの修飾名を指定します。MODE (*S36) が指定されている場合は、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***PRV** SDAで、AS/400システムの最後のSDAセッションで使用された表示装置ファイルおよびライブラリーの名前を使用する (MODEが(*STD)の時だけ) ことを指定します。

テスト・ファイル名

テストのために使用される表示装置ファイルの修飾名を入力してください。*CURLIBがライブラリー修飾名として指定された場合は、ライブラリー・リストの現行ライブラリー項目が検索されません。現行ライブラリーがライブラリー・リストに存在しない場合は、ライブラリーQGPLが検索されます。*LIBLがライブラリー修飾名として指定された場合は、ファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

[トップ](#)

モード (MODE)

AS/400 SDAのどのバージョンを使用するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***STD** AS/400 SDAを指定し、AS/400 SDAメイン・メニューを表示します。OPTIONパラメーターが指定された場合は、メイン・メニューは表示されません。

***S36** SDAのシステム/36環境を指定し、システム/36のSDAメイン・メニューを表示します。

***S38** SDAのシステム/38ビューを指定し、システム/38のSDAメイン・メニューを表示します。OPTIONパラメーターが指定された場合は、メイン・メニューは表示されません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

SDA0001

SDAは&1ワークステーションをサポートしていない。

SDA0002

SDAはその表示装置ファイルにアクセスすることができない。

SDA0003

重大なエラーのためにSDAが終了した。

SDA0004

STRSDAコマンドの処理中にエラーが起こった。

SDA0005

SDAはそのパネル・グループをアクセスすることができない。

SDA0601

SDAはすでに活動中である。

[トップ](#)

SEU開始 (STRSEU)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

STRSEU (原始ステートメント入力ユーティリティー開始) コマンドによって、ソース・メンバーを作成、変更、表示、または印刷することができます。

エラー・メッセージ: STRSEU

*ESCAPE メッセージ

EDT9007

&1コマンドでエラーが見つかった。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRCFILE	ソース・ファイル	単一値: *PRV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *PRV	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PRV , *SELECT	オプション, 定位置 2
TYPE	ソース仕様タイプ	単純名, *SAME , BAS, BASP, BND, C, CBL, CBLLE, CICSC, CICSCBL, CICSCBLLE, CICSMA, CICSSQLCBL, CL, CLD, CLP, CLLE, CMD, CPP, DFU, DSPF, FTN, ICF, LF, MENU, MNU, MNUCMD, MNUDDS, PAS, PF, PLI, PNLGRP, PRTF, QRY, REXX, RMC, RPG, RPGLE, RPT, SPADCT, SQLC, SQLCBL, SQLCBLLE, SQLFTN, SQLPLI, SQLRPG, SQLRPGLE, SRT, TBL, TXT, BAS38, BASP38, BSCF38, CBL38, CL38, CLP38, CMD38, CMNF38, DFU38, DSPF38, LF38, MXDF38, PF38, PLI38, PRTF38, QRY38, RPG38, RPT38, SRT38, TXT38, ARS36, ASM36, BAS36, BASP36, BGC36, BGD36, BGF36, CBL36, DFU36, DTA36, DSPF36, FOR36, MNU36, MSGF36, OCL36, PHL36, RPG36, RPT36, SRT36, TXT36, UNS36, WSU36	オプション, 定位置 3
OPTION	オプション	*BLANK , X'40', 2, 5, 6	オプション, 定位置 4
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

編集または作成するメンバーが入っているソース物理ファイルおよびライブラリーの名前を入力してください。

使用できる値は、次の通りです。

***PRV** SEUが最後のSEUセッションで使用されたソース・ファイルおよびライブラリーの名前を使用することを指定します。ソース・ファイル・パラメーターに*PRVを指定する場合には、ライブラリーを指定する必要はありません。

ソース・ファイル名

使用する既存のソース・ファイルの名前を入力してください。ソース・ファイル名およびライブラリー名を指定した場合には、SEUは指定したライブラリーでソース・ファイルを検索します。ライブラリー名とともにソース・ファイル名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

ライブラリー名

使用される既存のライブラリーの名前を入力します。ライブラリーとして*CURLIB を使用した場合には、SEUはライブラリー・リストの**現行ライブラリー**を検索します。ライブラリーとして*LIBLを使用した場合には、SEUはファイルをライブラリー・リスト内のライブラリーで検索します。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

編集または作成するソース物理ファイル・メンバー名を指定します。このパラメーターの省略時の値は、SRCFILEパラメーターを指定したかどうかによって決まります。

使用できる値は、次の通りです。

*SELECT

これはSRCFILEパラメーターを指定した場合の省略時の値です。*SELECTを選択した場合には、指定したファイルおよびライブラリーのすべてのメンバーのリストが表示されます。ここから編集、走査検索、印刷、または削除するメンバーを選択してください。

***PRV** これは、SRCFILEパラメーターを指定しない場合の省略時の値です。*PRVは前のソース物理ファイル・メンバー名かまたはメンバー処理画面です。

ソース・ファイル・メンバー名

作成または編集するソース物理ファイル・メンバー名を入力してください。

[トップ](#)

ソース仕様タイプ (TYPE)

編集または作成するソース・メンバーのタイプを指定します。使用できる値は、次の通りです。

*SAME

省略時の値は、このメンバーを最後に編集した時に使用されたものと同じタイプです。新しいメンバーの場合には、省略時の値はTXTです。

タイプ この値によって、使用するソース仕様のタイプを指定できます。最大10桁の任意の文字を指定するか、あるいはSEUでサポートしているタイプを指定することができます。

メンバーは、意味のある任意のタイプにすることができます。SEUは、次のメンバー・タイプをサポートしています。

AS/400タイプ

BAS, BASP, BND, C, CBLLE, CBL, CICSC, CICSCBLLE, CICSCBL, CICSMAP, CICSSQLCBL, CL, CLD, CLLE, CLP, CMD, CPP, DFU, DSPF, FTN, ICF, LF, MENU, MNU, MNUCMD, MNUDDS, PAS, PF, PLI, PNLGRP, PRTF, QRY, REXX, RMC, RPG, RPGLE, RPT, SPADCT, SQLC, SQLCLE, SQLCBL, SQLCBLLE, SQLFTN, SQLPLI, SQLRPG, SQLRPGLE, SRT, TBL,およびTXT。

1994年9月現在、このリストには、まだ使用可能になっていないメンバー・タイプが入っています。これらはこのリリースで後から使用可能になります。

システム/38タイプ

BAS38, BASP38, BSCF38, CBL38, CL38, CLP38, CMD38, CMNF38, DFU38, DSPF38, LF38, MXDF38, PF38, PLI38, PRTF38, QRY38, RPG38, RPT38, SRT38,およびTXT38

システム/36タイプ

ARS36, ASM36, BAS36, BASP36, BGC36, BGD36, BGF36, CBL36, DFU36, DSPF36, DTA36, FOR36, MNU36, MSGF36, OCL36, PHL36, RPG36, RPT36, SRT36, TXT36, UNS36, およびWSU36

上記のタイプの他に、ユーザーが独自のメンバー・タイプ名を選択することもできます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

選択したメンバーで実行する機能を指定します。省略時の値はメンバー名を指定するかどうかで決まります。メンバー名を指定しない場合の省略時の値は*BLANKで、処置を行なわないことを示します。メンバー名を指定した場合の省略時の値は2（編集）です。これはメンバーの編集セッションを行なうことを示します。

使用できる値は次の通りです。

*BLANKまたは' '

これはメンバー名を指定しない場合の省略時の値です。*BLANKは、処置が行なわれないことを示します。

2=メンバーの編集

編集画面に進むためには、オプション・パラメーターを選択した後に2を入力します。

5=メンバーの走査検索

走査検索画面に進むためには、オプション・パラメーターを選択した後に5を入力します。

6=メンバーの印刷

指定したメンバーを印刷するためには、6を入力してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

メンバー用のテキスト・フィールドでメンバーを記述する文字ストリングを指定してください。

使用できる値は、次の通りです。

***BLANK**

SEUが新しいメンバーのテキスト・フィールドに空白を入力することを指定します。この省略時の値は既存のメンバーのテキスト・フィールドを変更しません。

記述 メンバーを記述する最大50桁までの文字ストリングを指定してください。先行または後書きの空白を使用するためには、ストリングをアポストロフィで囲んでください。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

EDT9007

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

PDM使用のライブラリーの処理 (WRKLIBPDM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PDM使用のライブラリーの処理 (WRKLIBPDM)コマンドを使用すると単一または複数ライブラリーを処理することができます。このコマンドを使用すると、プログラム開発管理機能(PDM)メニューおよび処理ライブラリー指定画面をバイパスすることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	文字値, *PRV, *LIBL, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR, *CURLIB	オプション, 位置 1
ASP	ASP番号	1-32, *ALL	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

処理するライブラリーを指定します。

***PRV** 同じライブラリーまたは前のWRKLIBPDMセッションで処理したライブラリーを処理します。

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストにあるすべてのライブラリーを処理します。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるすべてのライブラリーを処理します。

***ALL** QSYSおよびQTEMPを含めシステムにあるすべてのライブラリーを処理します。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーを含めすべての非システム・ライブラリーを処理します。ライブラリーはライブラリー名のアルファベット順でリストされます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを処理します。ジョブの現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLと見なされます。

総称名 処理するライブラリーの総称名を指定します。

総称名は、次の形式の1つとすることができます。

ABC* 文字ABCで始まるすべてのライブラリーのリストを表示します。たとえば、ABC, ABCD, またはABCTESTなど。

- *ABC** 文字ABCで終るすべてのライブラリーのリストを表示します。たとえば、ABC, DABC, またはTESTABCなど。
- *B*** 名前の中に文字Bを含むすべてのライブラリーのリストを表示します。たとえば、B, BALL, ABCDなど。
- A*C** 文字Aで始まり、文字Cで終わるすべてのライブラリーのリストを表示します。たとえば、AC, ABC, AZZZCなど。
- "A"** 名前が英字Aで始まり、引用符付きであるすべてのライブラリーのリストを表示します。たとえば、"A", "AB", "AD"など。
- **ALL** ALLで終わるすべてのライブラリーのリストを表示します。たとえば、ALL, BALL,またはTESTALLなど。*ALLはすべてのライブラリーのリストを表示する特殊値として定義されているので、この場合には、2個のアスタリスクが必要です。

名前 処理する単一ライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ASP番号 (LIB)

「ライブラリーの処理」で表示するライブラリーの補助記憶域プール(ASP)を指定します。

*LIBL, *CURLIBまたは*USRLIBLの値がライブラリー・パラメーターに入力された場合、このパラメーターは無視されます。このパラメーターに数値が指定された場合、ASP装置(ASPDEV)のパラメーター値は*でなければなりません。

***ALL** ASP装置(ASPDEV)のパラメーター値で定義されたすべてのASPが検索されます。

1-32 検索するシステムまたは基本ユーザーASPの番号を指定します。ASP 1はシステムASPで、常時構成されています。基本ユーザーASPは2-32です。システム上で構成されているASPを指定する必要があります。ASPの構成については、BACKUP AND RECOVERY BOOK, SC41-5304を参照してください。

[トップ](#)

ASP装置 (LIB)

表示されたライブラリーの記憶域が割り振られた補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。スレッドのライブラリー・ネーム・スペースにないASPにライブラリーがある場合、正しいライブラリーが表示されるようにこのパラメーターを指定する必要があります。ASP番号(ASP)パラメーターに数値が指定された場合、ASPDEVパラメーター値は*でなければなりません。

* 現在スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部であるASPがライブラリー検出のために検索されます。これはシステムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)、および、スレッドにASPグループがある場合にはスレッドのASPグループの1次および2次ASPを含みます。

***SYSBAS**

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)がライブラリー検出のために検索されます。スレッドがASPグループを持つ場合でも1次および2次ASPは検索されません。

*CURASPGRP

スレッドがASPグループを持つ場合、スレッドのASPグループにある1次および2次ASPがライブラリー検出のために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。スレッドに関連するASPグループがない場合エラーが発生します。

名前 検索する1次または2次ASPの装置名を指定します。1次または2次ASPは(ASP装置をオンに変更して)アクティブにし、使用可能の状態である必要があります。システムASP (ASP 1)および構成済み基本ユーザーASP (ASP 2-32) は検索されません。

[トップ](#)

例

例1: ジョブ・ライブラリー・リストにあるライブラリーの処理

```
WRKLIBPDM LIB('*LIBL')
```

このコマンドを使用すると、現行ジョブのライブラリー・リストにあるすべてのライブラリーを処理することができます。ライブラリーは、ライブラリー・リストと同じ順序でリストされます。

例2: 一般ライブラリーの処理

```
WRKLIBPDM LIB('*PAY*')
```

このコマンドを使用すると、ライブラリー名に文字**PAY**を含むライブラリーのサブセットを処理することができます。ライブラリーはアルファベット順でリストされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PDM0055

&1コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

PDM使用のメンバーの処理 (WRKMBRPDM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PDM使用のメンバーの処理 (WRKMBRPDM)コマンドを使用すると1つのデータベース・ファイルにあるメンバーを処理することができます。このコマンドを使用すると、プログラム開発管理機能(PDM)メニューおよび処理メンバー指定画面をバイパスすることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	単一値: *PRV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *PRV, *LIBL , *CURLIB	
MBR	メンバー	文字値, *ALL , *PRV	オプション、位置 2
MBRTYPE	メンバー・タイプ	文字値, *ALL , *PRV, *BLANK, BAS, BAS36, BAS38, BASP, BASP38, C, CBL, CBLLE, CBL36, CBL38, CICSC, CICSCBL, CICSCBLLE, CICSMAP, CICSSQLCBL, CLD, CLLE, CLP, CLP38, CMD, CMD38, CPP, DSPF, DSPF36, DSPF38, FTN, ICFE, LF, LF38, MENU, MNU, MNUCMD, MNUDDS, MNU36, MSGF36, OCL36, PAS, PF, PF38, PLI, PLI38, PNLGRP, PRTF, PRTF38, QRY38, REXX, RMC, RPG, RPGLE, RPG36, RPG38, RPT, RPT36, RPT38, SPADCT, SQLC, SQLCPP, SQLCBL, SQLCBLLE, SQLFTN, SQLPLI, SQLRPG, SQLRPGLE, TBL, TXT	オプション、位置 3

[トップ](#)

ファイル (FILE)

処理したいメンバーが入っているデータベースを指定します。ファイルは、ソース物理ファイルでも、データ物理ファイルでもかまいません。

単一値

***PRV** 前のWRKMBRPDMセッションで使用したものと同一ファイルのメンバーを処理します。

修飾子1: ファイル

名前 処理したいメンバーが入っている物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 処理したいファイルを探すために現行ライブラリー・リストを検索するためには、*LIBLを入力して、その後ファイル名を続けてください。WRKMBRPDM FILE(ファイル名)というコマンドを使用した場合には、PDMは指定されたファイルを見つけるためにライブラリー・リストを検索します。

***PRV** 前のWRKMBRPDMセッションで使用したものと同一ライブラリーにある物理ファイル进行处理します。次の形式を使用することによって、前のライブラリーの別のファイルを指定することができます: FILE(*PRV/QRPGSRC)

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーにある物理ファイル进行处理します。現行ライブラリーが定義されていない場合には、QGPLが省略時の値です。

名前 処理したいファイルおよびメンバーを含むライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

処理したいメンバーを指定します。このパラメーターを使用して、指定したファイル中のすべてのメンバーまたはメンバーのサブセットを処理することができます。

***ALL** 指定したファイルのすべてのメンバーを処理します。

***PRV** 前のWRKMBRPDMセッションで使用したものと同一メンバーを処理します。

総称名 処理したいファイル・メンバーの総称名を指定してください。

総称名は次の形式の1つとすることができます。

ABC* 文字ABCで始まるすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、ABC、ABCD、またはABCTESTなど。

***ABC** 文字ABCで終わるすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、ABC、DABC、またはTESTABCなど。

B 名前の中に文字Bが入っているすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、B、BALL、ABCDなど。

A*C 文字Aで始まり、文字Cで終わるすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、AC、ABC、AZZZCなど。

"A*" 名前が英字Aで始まり、引用符付きであるすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、"A"、"AB"、"AD"など。

****ALL** ALLで終わるすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、ALL、BALL、またはTESTALLなど。*ALLはすべてのメンバーのリストを表示する特殊値として定義されているので、この場合には、2個のアスタリスクが必要です。

名前 処理したい1つのファイル・メンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

メンバー・タイプ (MBRTYPE)

処理したいメンバーのメンバー・タイプを指定します。このパラメーターを使用して、指定したファイルにあるすべてのメンバー・タイプ、または、特定または総称メンバー・タイプに一致するメンバーのサブセットを処理することができます。

***ALL** すべてのメンバー・タイプのファイル・メンバー(タイプなしのものを含む)を処理します。

***PRV** 前のWRKMBRPDMセッションで使用したものと同一メンバー・タイプのメンバーを処理します。

***BLANK**

メンバー・タイプ値のないメンバーを処理します。

メンバー・タイプ

特定のタイプのすべてのメンバーのリストを表示するためにメンバー・タイプを指定してください。

作成したメンバー・タイプを使用するか、あるいはPDMコマンドによって使用される次の標準メンバー・タイプの1つを使用することができます。

BAS BASIC

BAS36

システム/36 BASIC

BAS38

システム/38 BASIC

BASP 固有モードのBASICプロシージャー

BASP38

システム/38固有モードのBASICプロシージャー

C C言語

CBL COBOL

CBLL

統合化言語環境* COBOL/400

CBL36

システム/36 COBOL

CBL38

システム/38 COBOL

CICSC

CICS C

CICSCBL

CICS* COBOL

CICSMAP

CICSマップ

CICSSQLCBL

CICS DB2/400 QUERY管理機能COBOL

CLD Cロケール記述

CLLE 制御言語の統合化言語環境*

CLP 制御言語

CLP38 システム/38制御言語

CMD コマンド

CMD38 システム/38コマンド

CPP C++ AS/400用

DSPF 表示装置ファイル

DSPF36 システム/36表示装置ファイル

DSPF38 システム/38表示装置ファイル

FTN FORTRAN/400

ICFF システム間通信機能ファイル

LF 論理ファイル

LF38 システム/38論理ファイル

MENU UIM MENU

MNU メニュー

MNUCMD メニュー・コマンド

MNUDDS メニュー・データ記述仕様

MNU36 システム/36メニュー

MSGF36 システム/36メッセージ・ファイル

OCL36 システム/36操作員制御言語

PAS PASCAL

PF 物理ファイル

PF38 システム/38物理ファイル

PLI PL/I

PLI38 システム/38 PL/I

PNLGRP パネル・グループ

PRTF 印刷装置ファイル

PRTF38 システム/38印刷装置ファイル

QRY38 S/38 QUERY

REXX 再構造化拡張実行言語
RMC RM/COBOL-85**
RPG RPG/400
RPGLE
INTEGRATED LANGUAGE ENVIRONMENT RPG/400
RPG36
システム/36 RPG
RPG38
システム/38 RPG
RPT RPG報告書簡易作成機能
RPT36
システム/36 RPG報告書簡易作成機能
RPT38
システム/38 RPG報告書簡易作成機能
SPADCT
スペル援助辞書
SQLC DB2/400 QUERY管理機能C
SQLCPP
DB2/400 QUERY管理機能C++
SQLCBL
DB2/400 QUERY管理機能COBOL
SQLCBLLE
DB2/400 QUERY管理機能統合化言語環境COBOL/400
SQLCLE
DB2/400 QUERY管理機能のC/400統合化言語環境
SQLFTN
DB2/400 QUERY管理機能FORTRAN
SQLPLI
DB2/400 QUERY管理機能PL/I
SQLRPG
DB2/400 QUERY管理機能RPG
SQLRPGLE
DB2/400 QUERY管理機能統合化言語環境RPG/400
TBL テーブル
TXT テキスト

総称メンバー・タイプ

処理したいファイル・メンバーの総称メンバー・タイプを指定してください。

総称メンバー・タイプは次の代表的な形式の1つとすることができます。

- RPG*** メンバー・タイプが文字RPGで始まるすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、RPG, RPG36,およびRPG38など。
- *C** メンバー・タイプが文字Cで終わるすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、CおよびSQLCなど。
- *I*** メンバー・タイプの中に文字Iが入っているすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、ICFF, PLI, PLI38,およびSQLPLIなど。
- R*36** メンバー・タイプが文字Rで始まり、文字36で終わるすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、RPG36およびRPT36などです。
- "A*"** 名前が英字Aで始まり、引用符付きであるメンバー・タイプのすべてのメンバーを表示します。たとえば、"A", "AB", "AD"など。
- **ALL** メンバー・タイプが文字ALLで終わるすべてのメンバーのリストを表示します。たとえば、ALL, BALL,またはTESTALLなど。*ALLはすべてのメンバー・タイプのメンバーのリストを表示する特殊値として定義されているので、この場合には、2個のアスタリスクが必要です。

トップ

例

例1: ファイルにあるすべてのメンバーの処理

```
WRKMBRPDM FILE(*PRV) MBR('*ALL')
```

このコマンドを使用すると、前のWRKMBRPDMセッションで処理したものと同一ファイルにあるすべてのメンバーを処理することができます。

例2: 1つのタイプのメンバーの処理

```
WRKMBRPDM FILE(*LIBL/MYSRCFILE) MBRTYPE('CLP')
```

このコマンドを使用すると、CLP(CONTROL LANGUAGE PROGRAM)のメンバー・タイプを持つソース・ファイルMYSRCFILEのすべてのメンバーを処理することができます。ソース・ファイルはジョブ・ライブラリー・リストを使用して配置されます。

例3: 総称名でメンバーを処理

```
WRKMBRPDM FILE(MYLIB/MYSRCFILE) MBR('PAY*')
```

このコマンドを使用するとMYLIBライブラリーのソース・ファイル、MYSRCFILEにあるメンバー名が**PAY**で始まるすべてのメンバーを処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PDM0055

&1コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

PDM使用のオブジェクトの処理 (WRKOBJPDM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PDM使用のオブジェクトの処理 (WRKOBJPDM)コマンドを使用すると1つのライブラリー内にあるオブジェクトを処理することができます。このコマンドを使用すると、プログラム開発管理機能(PDM)メニューおよび処理オブジェクト指定画面をバイパスすることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, *PRV, *CURLIB	オプション, 位置 1
OBJ	オブジェクト	文字値, *ALL, *PRV	オプション, 位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *PRV, *ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション, 位置 3
OBJATR	オブジェクト属性	文字値, *ALL, *PRV, *BLANK, BAS, BAS36, BAS38, BSCF38, C, CBL, CBL36, CBL38, CLE, CLP, CLP38, CMD, CMD38, CMNF38, CSPAE, DDMF, DFU, DFUEXEC, DFUNOTEXC, DKTF, DSPF, DSPF36, DSPF38, FTN, ICF, LF, LF38, MXDF38, PAS, PF-DTA, PF-SRC, PF38, PLI, PLI38, PRTF, PRTF38, QRY38, RMC, RPG, RPG36, RPG38, RPT, RPT36, RPT38, SAVF, SPADCT, SQLC, SQLCBL, SQLCLE, SQLFTN, SQLPLI, SQLRPG, TAPF, TBL	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

処理したいオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

***PRV** 前のWRKOBJPDMセッションで使用したライブラリーが使用されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが定義されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 処理したいオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

処理したいオブジェクトを指定します。このパラメーターを使用して、指定したライブラリー中のすべてのオブジェクトまたはオブジェクトのサブセットを処理することができます。

***ALL** **ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定したライブラリーにあるすべてのオブジェクトを処理します。オブジェクト・タイプ (**OBJTYPE**)およびオブジェクト属性 (**OBJATR**)パラメーターに*ALL以外の値を指定することによってオブジェクトのリストをサブセットすることができます。

***PRV** 同じオブジェクトまたは前のWRKOBJPDMセッションで処理したオブジェクトを処理します。

総称名 処理するオブジェクトの総称名を指定します。

総称名は、次の形式の1つとすることができます。

ABC* 文字ABCで始まるすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、ABC、ABCD、またはABCTESTなど。

***ABC** 文字ABCで終るすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、ABC、DABC、またはTESTABCなど。

B 名前の中に文字Bが入っているすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、B、BALL、ABCDなど。

A*C 文字Aで始まり、文字Cで終わるすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、AC、ABC、AZZZCなど。

"A*" 名前が英字Aで始まり、引用符付きであるすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、"A"、"AB"、"AD"など。

****ALL** ALLで終わるすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、ALL、BALL、またはTESTALLなど。*ALLはすべてのオブジェクトのリストを表示する特殊値として定義されているので、この場合には、2個のアスタリスクが必要です。

名前 処理するオブジェクト名(単数複数可)を指定します。同じ名前異なるオブジェクト・タイプのオブジェクトがある場合には複数のオブジェクトがリストされ、OBJTYPEパラメーターには*ALLが指定されます。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

処理したいオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。このパラメーターを使用して、すべてのオブジェクト・タイプまたはオブジェクトのサブセットを処理することができます。

***ALL** オブジェクト (OBJ)パラメーターに指定したオブジェクト名に一致するオブジェクトを処理します。

***PRV** 前のWRKOBJPDMセッションで処理したものと同一オブジェクト・タイプのオブジェクトを処理します。

オブジェクト・タイプ

処理したいオブジェクトのシステム・オブジェクト・タイプを指定します。

次のオブジェクト・タイプから選択してください。:

***ALRTBL**

警報テーブル

***AUTL**

権限リスト

***BNDDIR**

バインド・ディレクトリー

***CFGL**

構成リスト

***CHTFMT**

図表様式

***CLD** Cロケール記述

***CLS** クラス

***CMD** コマンド

***CNL**

接続リスト

***COSD**

サービス・クラスの定義

***CRG** クラスター資源グループ

***CRQD**

変更要求記述

***CSI** 通信側情報

***CSPMAP**

システム共通プロダクトのマップ

***CSPTBL**

システム共通プロダクトのテーブル

***CTL**

制御記述

***DEVD**

装置記述

***DOC** 文書

***DTAARA**
データ域

***DTADCT**
データ・ディクショナリー

***DTAQ**
データ待ち行列

***EDTD**
編集記述

***EXITRG**
出口登録

***FCT** 用紙制御テーブル

***FILE** ファイル

***FNTRSC**
フォント資源

***FNTTBL**
フォント・マッピング・テーブル

***FORMDF**
用紙定義

***FTR** フィルター

***GSS** グラフィックス記号セット

***IGCDCT**
漢字辞書

***IGCSRT**
漢字分類

***IGCTBL**
漢字テーブル

***IMGCLG**
光ディスク・イメージ・カタログ

***IPXD** インターネット・パケット交換記述

***JOB**
ジョブ記述

***JOBQ**
ジョブ待ち行列

***JOBSCD**
ジョブ・スケジュール

***JRN** ジャーナル

***JRNRCV**
ジャーナル・レシーバー

***LIB** ライブラリー

- *LIND 回線記述
- *LOCALE
ロケール空間
- *M36 アドバンスト36マシン
- *M36CFG
アドバンスト36マシン構成
- *MEDDFN
媒体定義
- *MENU
メニュー
- *MGTCOL
管理収集
- *MODD
モード記述
- *MODULE
モジュール
- *MSGF
メッセージ・ファイル
- *MSGQ
メッセージ待ち行列
- *NODGRP
ノード・グループ
- *NODL
ノード・リスト
- *NTBD
NETBIOS構成データ
- *NWID
ネットワーク・インターフェース記述
- *NWSD
ネットワーク・サーバー記述
- *OUTQ
出力
- *OVL オーバーレイ
- *PAGDFN
ページ定義
- *PAGSEG
ページ・セグメント
- *PDFMAP
PDFマップ
- *PDG 印刷管理機能CPI: 論理印刷記述子

- *PGM** プログラム
- *PNLGRP**
パネル・グループ
- *PRDAVL**
プロダクト使用可能性
- *PRDDFN**
プロダクト定義
- *PRDLOD**
プロダクト・ロード
- *PSFCFG**
印刷サービス機能構成
- *QMFORM**
QUERY管理機能書式
- *QMQRV**
QUERY管理機能プログラム
- *QRYDFN**
QUERY定義
- *RCT** リモート制御テーブル
- *SBSD**
サブシステム記述
- *SCHIDX**
検索見出し
- *SPADCT**
スペル援助辞書
- *SQLPKG**
DB2/400 QUERY管理機能パッケージ
- *SQLUDT**
SQLユーザー定義タイプ
- *SRVPGM**
サービス・プログラム
- *SSND**
セッション記述
- *SVRSTG**
サーバー記憶域スペース
- *S36** システム/36マシン記述
- *TBL** テーブル
- *TIMZON**
タイムゾーン記述
- *USRIDX**
ユーザー見出し

- *USRPRF**
ユーザー・プロファイル
- *USRQ**
ユーザー待ち行列
- *USRSPC**
ユーザー・スペース
- *VLDL** 妥当性検査リスト
- *WSCST**
ワークステーション・ユーザー・カスタマイズ

トップ

オブジェクト属性 (OBJATR)

処理したいオブジェクトのオブジェクト属性を指定します。このパラメーターを使用して、**オブジェクト (OBJ)**および**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定したオブジェクト名およびオブジェクト・タイプに一致するオブジェクトのサブセットを処理することができます。

- *ALL** OBJおよびOBJTYPEパラメーターに指定した値と一致するすべてのオブジェクトを処理します。
- *PRV** 前のWRKOBJPDMセッションで処理したものと同一オブジェクト属性を持つオブジェクトを処理します。
- *BLANK**

属性値なしのすべてのオブジェクトを処理します。

値 処理したいオブジェクトのオブジェクト属性を指定します。オブジェクト属性を指定する場合には、オブジェクト・タイプを指定する必要はありません。

次のオブジェクト属性値から選択してください。:

- BAS** BASIC
- BAS36**
システム/36 BASIC
- BAS38**
システム/38 BASIC
- BSCF38**
システム/38 2進データ同期通信ファイル
- C** C言語
- CBL** COBOL
- CBLE**
INTEGRATED LANGUAGE ENVIRONMENT COBOL/400
- CBL36**
システム/36 COBOL
- CBL38**
システム/38 COBOL

CLLE 制御言語の統合化言語環境

CLP 制御言語

CLP38
システム/38制御言語

CMD コマンド

CMD38
システム/38コマンド

CMNF38
通信ファイル

CSPAЕ
システム共通プロダクト適用業務の実行

DDMF 分散データ管理機能(DDM)

DFU データ・ファイル・ユーティリティー

DFUEXEC
データ・ファイル・ユーティリティー実行可能ファイル

DFUNOTEXC
データ・ファイル・ユーティリティー実行不能ファイル

DKTF ディスケット・ファイル

DSPF 表示装置ファイル

DSPF36
システム/36表示装置ファイル

DSPF38
システム/38表示装置ファイル

FTN FORTRAN/400

ICFF システム間通信機能ファイル

LF 論理ファイル

LF38 システム/38論理ファイル

MXDF38
システム/38混合ファイル

PAS PASCAL

PF-DTA
物理ファイル-データ

PF-SRC
物理ファイル-ソース

PF38 システム/38物理ファイル

PLI PL/I

PLI38 システム/38 PL/I

PRTF 印刷装置ファイル

PRTF38 システム/38印刷装置ファイル

QRY38 システム/38 QUERY

RMC RM/COBOL-85**

RPG RPG/400

RPGLE INTEGRATED LANGUAGE ENVIRONMENT RPG/400

RPG36 システム/36 RPG

RPG38 システム/38 RPG

RPT RPG報告書簡易作成機能

RPT36 システム/36 RPG報告書簡易作成機能

RPT38 システム/38 RPG報告書簡易作成機能

SAVF 保管ファイル

SPADCT スペル援助辞書

SQLC DB2/400 QUERY管理機能C

SQLCBL DB2/400 QUERY管理機能COBOL

SQLCBLLE DB2/400 QUERY管理機能統合化言語環境COBOL/400

SQLFTN DB2/400 QUERY管理機能FORTRAN

SQLPLI DB2/400 QUERY管理機能PL/I

SQLRPG DB2/400 QUERY管理機能RPG

SQLRPGLE DB2/400 QUERY管理機能統合化言語環境RPG/400

TAPF テープ・ファイル

TBL テーブル

総称値 処理するオブジェクトの総称属性を指定します。
総称値は、次の形式の1つとすることができます。

- RPG*** 属性タイプが文字RPGで始まっているすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、RPG、RPG36,およびRPG38など。
- *C** 属性タイプが文字Cで終わっているすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、CおよびSQLCなど。
- *I*** 属性タイプの中に文字Iが入っているすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、ICFF、PLI、PLI38,およびSQLPLIなど。
- P*38** 属性タイプが文字Pで始まり、文字38で終わるすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、PLI38およびPRTF38など。
- "A*"** 属性タイプが引用符内に文字aを含むすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、"A"、"AB"、"AD"など。
- **ALL** 属性タイプがALLで終わるすべてのオブジェクトのリストを表示します。たとえば、ALL、BALL,またはTESTALLなど。*ALLはオブジェクト属性に関係なくオブジェクトを表示する特殊値として定義されているので、この場合には、2個のアスタリスクが必要です。

トップ

例

例1: ライブラリーにあるすべてのオブジェクトの処理

```
WRKOBJPDM LIB(MYLIB) OBJ('*ALL')
```

このコマンドを使用するとMYLIBライブラリーにあるすべてのオブジェクトを処理することができます。

例 2: 1つのタイプのオブジェクトを処理する

```
WRKOBJPDM LIB(*PRV) OBJ('*ALL') OBJTYPE(*CMD)
```

このコマンドを使用すると、前のWRKOBJPDMセッションで処理したものと同一ライブラリーにあるすべてのコマンド(*CMD)オブジェクトを処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PDM0055

&1コマンドの処理中にエラーが起こった。

トップ

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow
iSeries
LPDA
OfficeVision
OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan